

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

# 宮後遺跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋蔵文化財調査報告書Ⅳ

下 巻

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

みや うしろ  
宮 後 遺 跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う  
埋 蔵 文 化 財 調 査 報 告 書Ⅳ

下 卷

平成 17 年 3 月

茨 城 県  
財団法人 茨城県教育財団

# 目 次

## — 下 卷 —

### 第3章 調査の成果

第5節 奈良・平安時代の遺構と遺物	
3 掘立柱建物跡	425
4 溝	517
5 土坑	518
6 粘土採掘坑	549
7 ビット群	556
8 遺物包含層	572
第6節 中世の遺構と遺物	576
1 竪穴状遺構	576
2 地下式墳	585
3 堀	604
4 井戸跡	608
5 粘土貼土坑	614
6 土坑墓	615
7 道路状遺構	616
第7節 時期不明の遺構と遺物	617
1 竪穴住居跡	617
2 掘立柱建物跡	621
3 屋外炉	625
4 火葬土坑	628
5 井戸跡	633
6 溝	636
7 土坑・土坑墓	642
第8節 遺構外出土遺物	652
第9節 まとめ	659
付章 宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器片及び 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について	687
宮後遺跡第127号住居跡覆土及び第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び 鉱物組成等について	692

写真図版

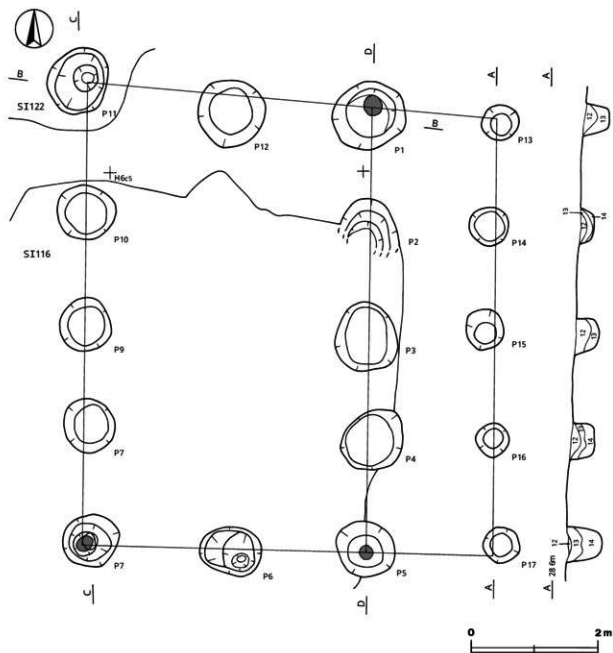
### 3 掘立柱建物跡

当跡から調査5区を中心に、奈良・平安時代の掘立柱建物跡63棟が検出されている。以下、検出された掘立柱建物跡の特徴及び出土した遺物について解説する。

#### 第1号掘立柱建物跡（第368～370図）

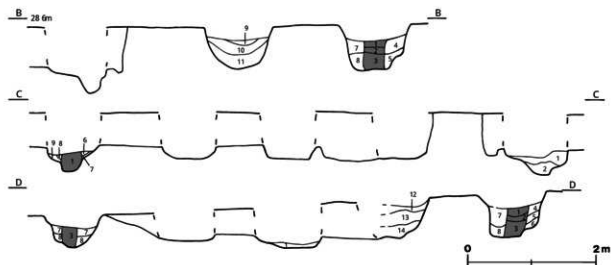
位置 調査5区の南東部，H6c5区。

重複関係 第116号住居跡の床面を掘り込んでいる。第122号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第 368図 第1号掘立柱建物跡実測図





第 369 図 第 1 号掘立柱建物跡実測図 ( 2 )

規模 桁行 4 間，梁行 2 間で，東側に庇を持つ南北棟の側柱建物跡である。身舎の柱穴は P 1～P 12，庇の柱穴は P 13～P 17 である。桁行は東側柱列で 7.12m，西側柱列で 7.42m，梁行は南側柱列で 4.55m，北側柱列で 4.50m である。庇の出は 2.0m である。柱間寸法は桁行が 1.60～2.20m，梁行が 2.00～2.50m である。身舎の柱穴は，平面形が長径 85～115cm，短径 75～104cm の楕円形，深さは 48～75cm である。庇の柱穴は，平面形が径 50～60cm の円形，深さは 29～58cm である。

桁行方向 N-1°-E

覆土 第 1～3 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及び粒子を含み締まりのない褐色土・暗褐色土である。第 4～8 層は締まりのある埋土，第 9～14 層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	10 暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
4 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	13 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量	14 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量
6 暗褐色	ローム粒子多量，ローム大ブロック中量		
7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量		
8 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・粘土粒子微量		
9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子微量		

遺物 土師器片 12 点，須恵器片 24 点が出土している。第 370 図 1 の土師器坏は，P 11 の覆土中から出土している。

所見 9 世紀後葉に位置づけられる第 122 号住居跡との新旧関係は不明であり，時期は，出土した遺物の下限の時期から，9 世紀中葉以降と考えられる。



第 370 図 第 1 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

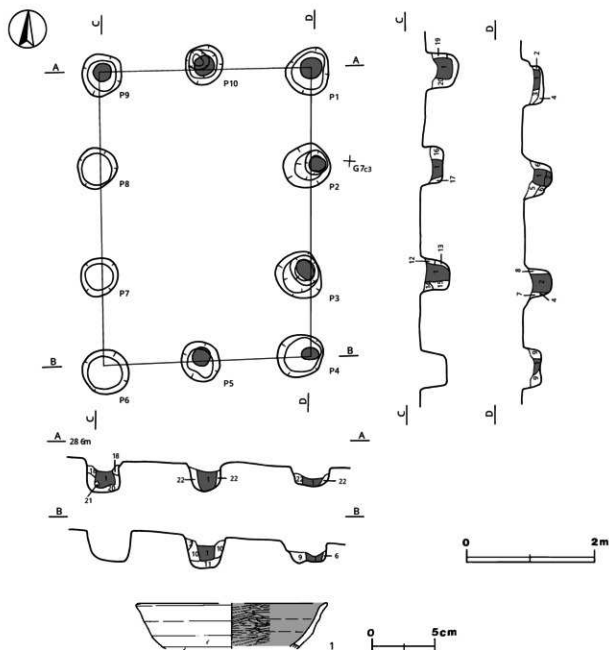
第1号掘立柱建物跡出土物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第37図 1	坏 土器	A 140 B 43 C 59	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は内彎気味に外傾して 立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面へラ磨き、外面口ウナ ズ。体部下縁及び底部回転へラ削 り。内面黒色処理。	胎土・色調・焼成 長石・石英・白色粒 子 浅黄褐色、普通	P 2502 204

第2号掘立柱建物跡（第371図）

位置 調査5区の北東部、G7c2区。

規模 桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行4.65m、梁行3.35mである。柱間寸法は桁行が1.30～1.70m、梁行が1.50～1.70mである。柱穴は、平面形が長径60～70cm、短径65～75cmの橢円形及び円形、深さは30～50cmである。



第371図 第2号掘立柱建物跡・出土物実測図

桁行方向 N-3°-W

覆土 第1・2層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土である。第3～22層は締まりのある埋土である。

土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	11	褐色	ローム大ブロック中量
2	黒褐色	ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	12	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
4	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	14	黒褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
5	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	15	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物微量
6	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	16	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子・ローム中ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック少量、焼土粒子微量	17	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量
8	褐色	ローム大ブロック少量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	18	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック少量	19	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
10	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	20	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量
			21	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック中量
			22	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

遺物 土師器片5点が出土している。第371図1の土師器杯は、P7の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

第2号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第371図1	土師器杯	A 151 B 36	体部から口縁部片。体部は内帯炭味に外縁して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口口ロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・針状鉱物、にふい黄褐色、黄透	P 2503 10%

第3号掘立柱建物跡（第372図）

位置 調査5区の北東部、G6a9区。

重複関係 第126号竪穴住居跡を掘り込んでいる。

規模 桁行が南側柱列で3間、北側柱列で2間、梁行が東西柱列とも2間であり、東西棟の側柱建物跡である。南側柱列の桁行は3.55m、北側柱列の桁行は3.75m、西側柱列の梁行は3.10m、東側柱列の梁行は2.95mである。柱間寸法は、桁行が1.00～1.95m、梁行が1.45～1.60mである。柱穴は、平面形が長径45～60cm、短径40～50cmの楕円形及び円形、深さが26～55cmである。

桁行方向 N-11°-E

覆土 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第4～20層は締まりのある埋土である。

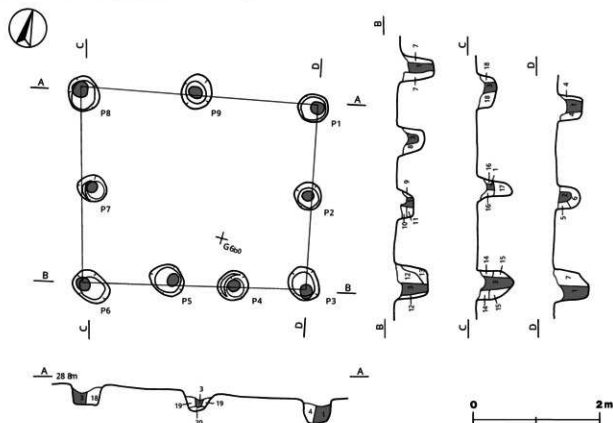
土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量	8	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	9	褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック中量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	10	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	11	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量
5	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量	12	暗褐色	ローム小ブロック中量、炭化粒子少量
6	暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	13	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
7	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	14	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
			15	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

- 16 暗褐色 ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 17 暗褐色 ローム大粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック  
 18 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量  
 19 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 20 黒褐色 ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 本跡は出土遺物がなく、正確な時期は不明である。9世紀中葉以降に位置づけられる第10号掘立柱建物跡の桁行方向及び第105・111号竪穴住居跡の主軸の傾きが、本跡の桁行方向とほぼ同じであること、覆土や規模などから、9世紀中葉以降と類推される。



第372図 第3号掘立柱建物跡実測図

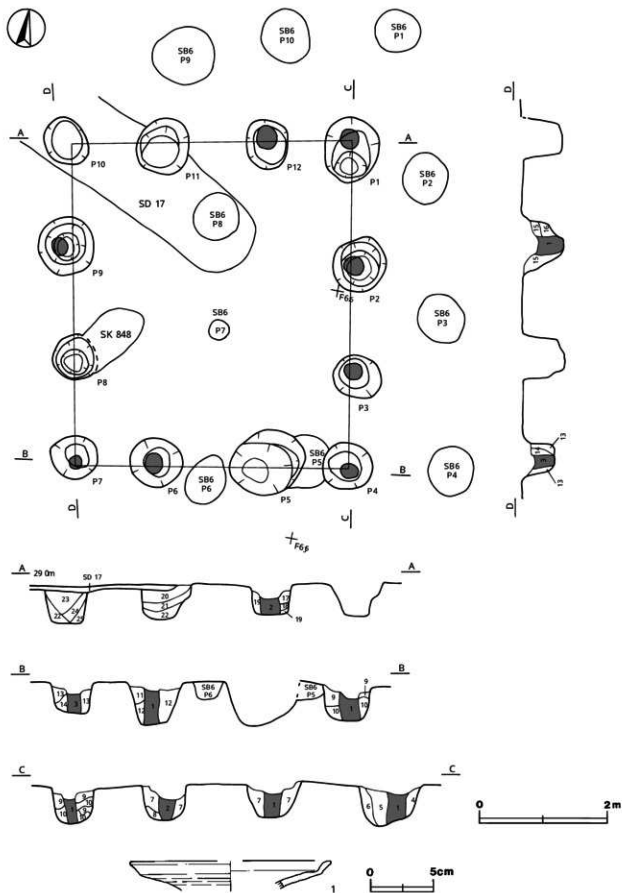
#### 第4号掘立柱建物跡（第373図）

位置 調査5区の北西部，F6h5区。

重複関係 第17号溝に掘り込まれている。また、第6号掘立柱建物跡及び第848号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間で南北棟の側柱建物跡である。桁行は、東側柱列で5.20m，西側柱列で5.10m，梁行は、北側柱列で4.50m，南側柱列で4.40mである。柱間寸法は桁行が1.50～2.00m，梁行が1.30～1.90mである。柱穴は、平面形が長径75～125cm，短径65～100cmの楕円形，及び径70～95cmの円形，深さが50～70cmである。

桁行方向 N-21° - E



第 373 图 第 4 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**覆土** 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第4～19層は締まりのある埋土である。P11の第20・21層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。P10の第22～25層は三角形を呈する堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土であり、第22層が締まりのない極暗褐色土、第23～25層が中程度に締まった褐色土・黒褐色土である。

**土層解説**

1	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量	14	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
2	黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子・焼土粒子少量、ローム中ブロック微量	15	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量	16	褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・ローム大ブロック微量
4	褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	17	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム大ブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量	18	黒褐色	ローム小ブロック少量
6	暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	19	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、焼土粒子・ローム大ブロック微量
7	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	20	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
8	褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	21	黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック微量	22	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子微量
10	暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量	23	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
11	褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量	24	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
12	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・ローム大ブロック微量	25	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量
13	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量			

**遺物** 土師器細片4点、須恵器片1点が出土している。第373図1の須恵器蓋は覆土中から出土している。

**所見** 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀前葉以降と考えられるが、9世紀中葉以降に位置づけられる第10号掘立柱建物跡と桁行方向に近いことから、それ以降の可能性も考えられる。

**第4号掘立柱建物跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第373図1	蓋 須恵器	A 160 B 22	体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内外面口ロナ子。	長石 灰黄褐色 黄透	P 2504 10%

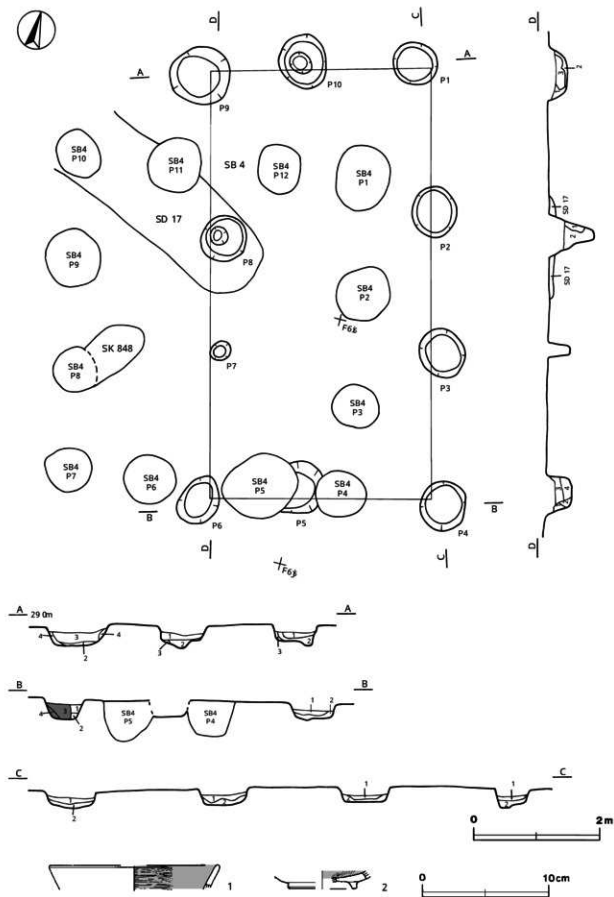
**第6号掘立柱建物跡 (第374図)**

**位置** 調査5区の西北部、F6h5区。

**重複関係** 第17号溝に掘り込まれている。第4号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行6.80m、梁行3.50mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.60m、梁行が1.50～2.10mである。柱穴は、平面形が長径70～100cm、短径65～90cmの楕円形、また、P7が径35cmの円形、深さが25～70cmである。

**桁行方向** N-14° - W



第 374 图 第 6 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

**覆土** P 6の第3・4層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色・黒褐色土である。P 6の第1・2層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

- P 1 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量  
 P 2 1 暗褐色 ローム粒子少量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量  
 P 3 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量  
 P 4 1 暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量  
 P 6 1 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量  
 3 黒褐色 ローム粒子微量  
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量  
 P 8 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量  
 P 9 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック微量  
 2 黒褐色 ローム粒子少量  
 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 P 10 1 黒色 ローム粒子微量  
 2 暗褐色 ローム粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

**遺物** 土師器片2点が出土している。第374図1の土師器杯はP 1から、2の土師器高台付杯はP 9からそれぞれ出土している。

**所見** 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

**第6号掘立柱建物跡出土遺物観察表**

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第374図 1	土師器 杯	A 134	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内・外面口コナデ、内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 黒色、普通	P 2505 5%
		B 19				
2	高台付土師器 杯	B 14	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ垂下する。	内面へら磨き、黒色処理。底部回転へら切り。高台貼り付け後ナデ。	長石 にぶい黄褐色 普通	P 2506 10%
		D 54				
		E 05				

**第5号掘立柱建物跡（第375図）**

**位置** 調査5区の北西部，F6j3区。

**重複関係** 第121号住居跡を掘り込んでいる。また、第8号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 南東隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行2間、梁行1間で南北棟の掘立柱建物跡と考えられる。西側柱列で桁行7.25m、北側柱列で梁行2.85mである。柱間寸法は桁行が西側柱列で北から3.50・3.75m、東側柱列で北側が4.00m、梁行が北側柱列で2.85mである。柱穴は、平面形が長径95～115cm、短径85～90cmの楕円形及び径115cmの円形、深さが25～36cmである。

**桁行方向** N-14° - E

**覆土** 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない褐色土・黒褐色土である。第9～13層は締まりのある埋土、第4～8層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土



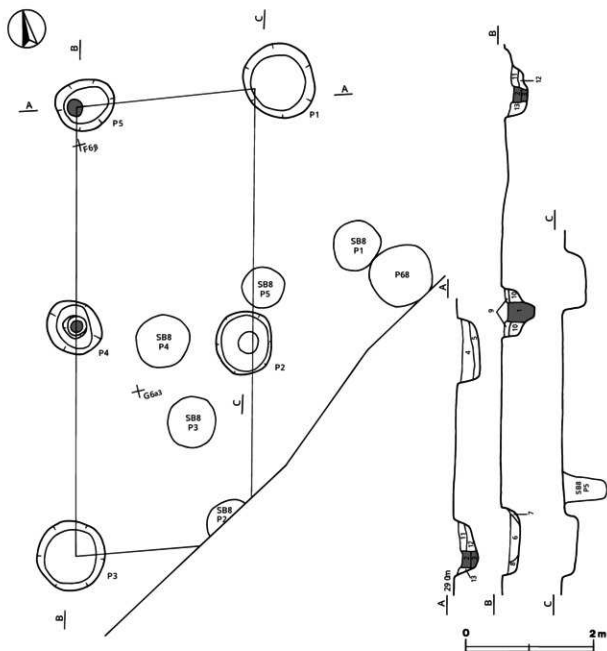
である。

土層解説

1 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	8 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量,
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	9 褐色	ローム大ブロック・焼土粒子微量
3 褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	10 褐色	ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	11 褐色	ローム大ブロック少量
5 黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	12 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック少量
6 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子微量	13 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量		

遺物 出土していない。

所見 時期は、弥生時代末～古墳時代初頭に位置づけられる第121号住居跡を掘り込んでいることからそれ以降と考えられるが、出土遺物がなく正確な時期は不明である。航行方向や覆土などから、他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と類推される。



第 375 図 第 5 号掘立柱建物跡実測図

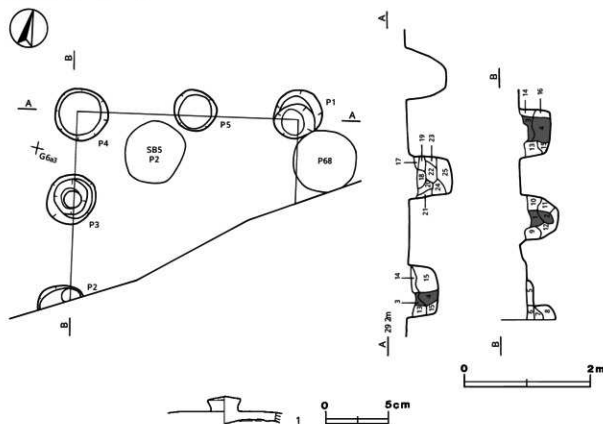
### 第 8 号掘立柱建物跡 (第376図)

位置 調査5区の北西部, G6a3区。

重複関係 第121号住居跡を掘り込んでいる。第68号ピット及び第5号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 本跡の南部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが、北側柱列が2間(3.50m)、西側柱列で2間以上(3.00m)の側柱建物跡である。柱間寸法は北側柱列で東から1.60m・1.90m、西側柱列で北から1.40m・1.60mである。柱穴は、平面形が長径75~95cm、短径65~77cmの楕円形及び径85cmの円形、深さが50~65cmである。

桁行方向 N-11°-W



第 376図 第 8 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第1~4層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土である。第9~16層は締まりのある埋土、第5~8層及び第17~25層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック中量	12 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	13 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	14 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
5 黒褐色	ローム粒子多量	15 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
6 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量	16 暗褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
7 暗褐色	ローム粒子少量	17 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
8 暗褐色	ローム粒子中量		
9 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		
10 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量		

18 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック 微量	22 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
19 黒褐色	ローム粒子・焼土粒子微量	23 極暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック 微量
20 黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロッ ク・ローム小ブロック微量	24 黒褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
21 暗褐色	ローム粒子少量	25 極暗褐色	ローム粒子微量

**遺物** 弥生土器片1点、土師器片2点、須恵器片4点が出土している。第376図1の須恵器蓋はP2の覆土中から出土している。

**所見** 図示し得る下限の時期の遺物は、8世紀末葉～9世紀初頭の須恵器蓋である。時期はこれ以降と考えられるが、第10号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであることなどから、9世紀中葉以降の可能性も考えられる。

#### 第8号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第376図 1	蓋 須恵器	B 22 F 26 G 12	平片。雙宝珠状のつまみが付く。	天井部回転ヘラ削り後、つまみ貼り付け。	長石・石英 灰色 普通	P 2508 15%

#### 第27号掘立柱建物跡（第377図）

**位置** 調査5区の南西部、H6a5区。

**重複関係** 第269号ピット及び第9号掘立柱建物に掘り込まれており、第122号住居跡の北壁を掘り込んでいる。第207・253・254・258～260・262～269号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行2間で東西棟の側建物跡である。桁行は南側柱列で6.15m、北側柱列で5.70m、梁行は3.50mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.25m、梁行が1.70～1.80mである。柱穴は、平面形が長径66～84cm、短径62～72cmの楕円形及び円形、深さが28～70cmである。

**桁行方向** N-3°-E

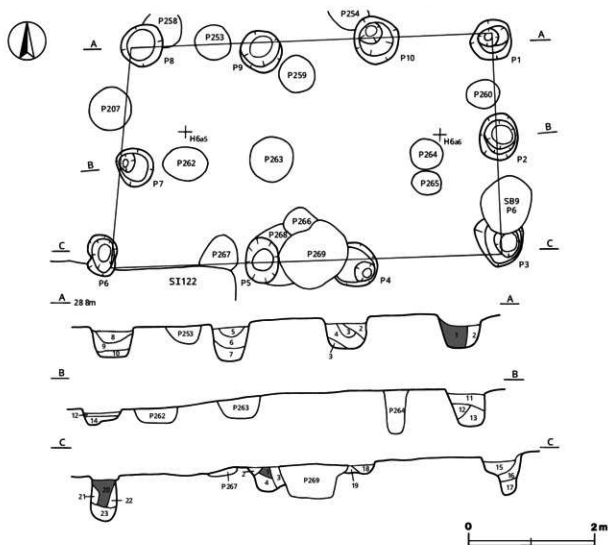
**覆土** 第1・20層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層は、ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロックを含む締まりのない暗褐色土である。第2層及び第21～23層は締まりのある埋土、その他は、中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、 ローム中ブロック微量	12 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブ ック・ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ ローム中ブロック微量
3 褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量	14 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
4 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	15 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・ 炭化粒子微量	16 暗褐色	ローム粒子中量
6 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	17 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
7 暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量	18 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8 暗褐色	炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ ローム粒子・焼土小ブロック微量	19 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
9 暗褐色	ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ ローム粒子・焼土小ブロック微量	20 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム中ブロッ ク・ローム粒子微量
10 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量	21 暗褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量、ローム 粒子微量
11 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブ ック・ローム粒子微量	22 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・ 焼土小ブロック・炭化粒子微量
		23 褐色	ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム粒子・焼 土大ブロック微量

**遺物** 土師器10点、須恵器3点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、本跡が9世紀中葉に位置づけられる第122号住居跡を掘り込んでいることから、それ以降と考えられる。なお、9世紀後葉に位置づけられる第2・17号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ同じであることから、それ以降の可能性も考えられる。



第 377図 第 27号掘立柱建物跡実測図

第 9号掘立柱建物跡 (第378図)

位置 調査 5区の南部, H6a6区。

重複関係 第27号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第869土坑及び第270・271号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行が2間、梁行は東側柱列で2間、西側柱列で1間であり、東西棟の側柱建物跡である。桁行は北側柱列で4.10m、南側柱列で4.05m、梁行は東側柱列で2.85m、西側柱列で2.65mである。柱間寸法は桁行が1.80~2.15m、梁行が東側柱列で北から1.25m・1.60mである。柱穴は、平面形が長径65~100cm、短径60~80cmの楕円形及び径52~57cmの円形、深さが27~70cmである。

桁行方向 N-81°-W

覆土 第1~4層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はローム粒子・焼土粒子を含む締まりのない褐色・暗褐色土である。第5・6層は締まりのある埋土, 第7~13層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

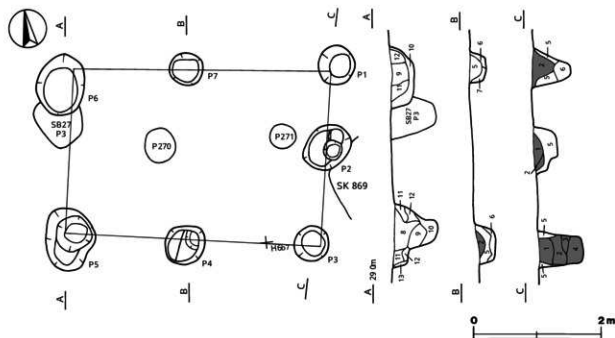
土層解説

- |       |              |       |                          |
|-------|--------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | 焼土粒子少量       | 5 暗褐色 | 焼土粒子少量                   |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子少量 | 6 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量         |
| 3 褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量 | 7 褐色  | ローム小ブロック少量               |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量      | 8 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量 |

- |        |                            |       |                  |
|--------|----------------------------|-------|------------------|
| 9 褐色   | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、炭化粒子微量 | 12 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 10 暗褐色 | ローム粒子中量                    | 13 褐色 | ローム小ブロック少量       |
| 11 褐色  | ローム粒子中量                    |       |                  |

遺物 土師器片5点、須恵器片6点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、9世紀後葉以降の可能性が考えられる第27号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、それ以降とも類推される。



第 378 図 第 9 号掘立柱建物跡実測図

#### 第10号掘立柱建物跡 (第379・380図)

位置 調査5区の北西部、F5i0区。

重複関係 第132・135号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 北西隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行4間、梁行3間の東西棟であり、側建物跡と考えられる。

桁行は7.65m、梁行は4.65m、柱間寸法は桁行が1.75~2.25m、梁行が1.40~1.65mである。柱穴は、平面形が長径75~138cm、短径75~122cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが41~64cmである。

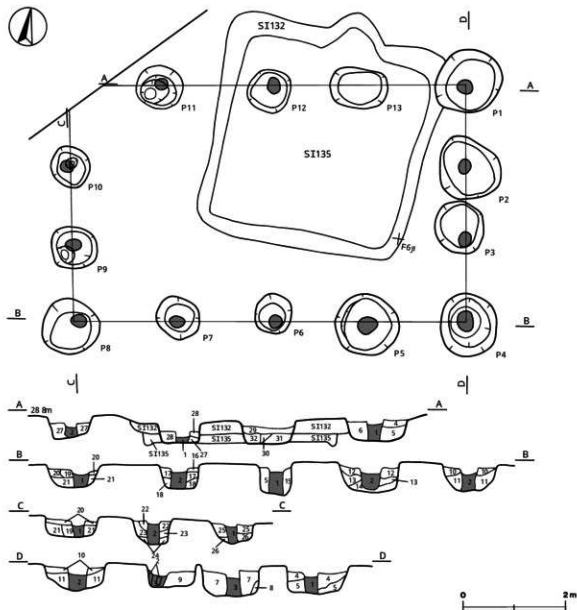
桁行方向 N-8°-E

覆土 第1~3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土・黒褐色土・極暗褐色土である。第4~28層は締まりのある埋土、第29~32層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |        |   |         |   |
|--------|---|---------|---|
| 1 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量、ローム大ブロック微量 | 7 暗褐色   | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量        |
| 2 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                     | 8 褐色    | ローム粒子少量、ローム小ブロック中量                          |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量                | 9 褐色    | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量            | 10 極暗褐色 | ローム粒子・炭化粒子微量                                |
| 5 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量          | 11 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量        |
| 6 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                     | 12 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量                     |
|        |   | 13 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                 |
|        |   | 14 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                            |

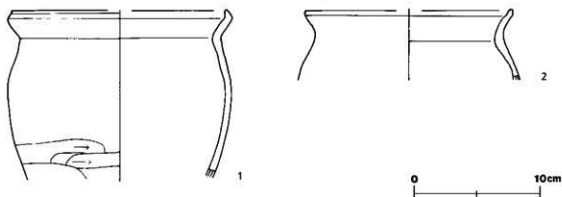
- |         |   |           |   |
|---------|---|-----------|---|
| 15 黒褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 25 暗褐色    | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量              |
| 16 暗褐色  | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                  | 26 褐色     | ローム小ブロック・ローム粒子中量                                      |
| 17 極暗褐色 | ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量         | 27 褐色     | ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量              |
| 18 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量         | 28 暗褐色    | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 機土小ブロック・機土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 19 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量                      | 29 暗褐色    | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量                     |
| 20 黒褐色  | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量                           | 30 暗褐色    | ローム大ブロック・ローム中ブロック微量                                   |
| 21 暗褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量          | 31 褐色     | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量                 |
| 22 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子微量                              | 32 にぶい赤褐色 | 炭化物・炭化粒子少量  |
| 23 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量                  |           |   |
| 24 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量                  |           |   |



第 379 図 第 10 号 孤立柱建物跡実測図

遺物 土師器片 2 点, 須恵器片 12 点が出土している。第 380 図 1・2 の土師器小形壺の口縁部片は, とともに P 13 の覆土中から出土している。

所見 出土した下限の時期の遺物は9世紀中葉の土師器甕の口縁部片である。重複する第132・135号住居跡との新旧関係は不明であり、時期は9世紀中葉以降と考えられる。



第 380 図 第 10 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 10 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 38 図 1	小形甕 土師器	A 172 B 133	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面下溝横位のヘラ削り。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 2509 10%
2	小形甕 土師器	A 164 B 55	口縁部片。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・雲母 明赤褐色 普通	P 2510 5%

第11号掘立柱建物跡（第381図）

位置 調査5区の西南部，H6c3区。

重複関係 第116号住居跡を掘り込んでいる。また、第234号ピットを本跡のP1が掘り込んでいる。第38号掘立柱建物跡及び第886号土坑・第235・236・237号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 南西部が調査区域外になるが、桁行5間、梁行3間の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は北側柱列で7.55m、梁行は東側柱列で5.60m、柱間寸法は桁行が1.40～1.80m、梁行が1.60～2.20mである。柱穴は、平面形が長径65～118cm、短径53～105cmの楕円形及び円形、深さが65～95cmである。

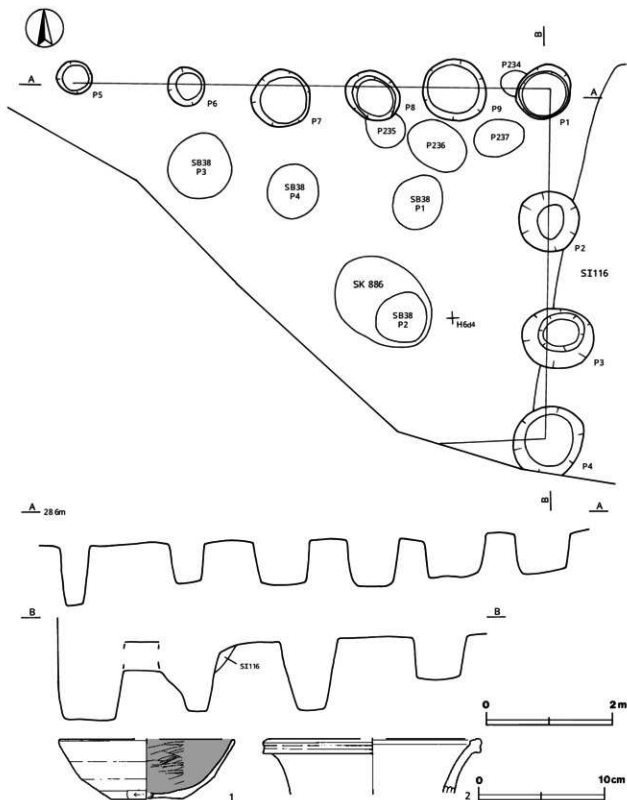
桁行方向 N-87°-W

遺物 土師器片3点、須恵器片12点が出土している。第81図1の土師器杯はP7、2の須恵器甕の口縁部は、P5の覆土中から出土している。その他の土師器片及び須恵器片は混入と考えられる。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。

第 11 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 38 図 1	坏 土師器	A 138 B 48 C 56	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面口口ロナデ。体部下溝回転へラ削り，内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子 橙色，普通	P 2512 40%
2	甕 須恵器	A 170 B 44	口縁部片。口縁部は外反し、端部は下溝が突出する。	口縁部内・外面口口ロナデ。	長石・雲母 ぶい黄褐色 普通	P 2511 5%



第 381 図 第 11 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

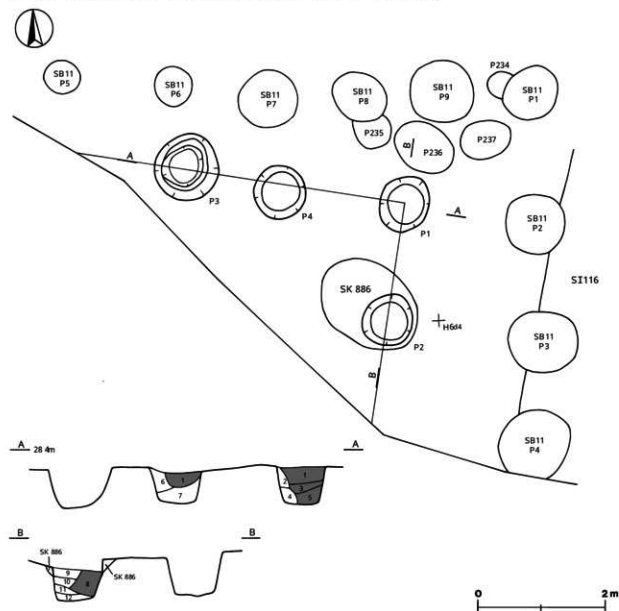
第38号掘立柱建物跡（第382図）

位置 調査5区の南西部，H6c3区。

重複関係 第886号土坑を掘り込んでいる。第11号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。



規模 南西部が調査区域外になるが、桁行2間以上、梁行1間以上の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は5.25m、梁行は3.60m、柱間寸法は桁行が東から2.00cm・1.60cm、梁行が2.00cmである。柱穴は、平面形が長径85~108cm、短径70~103cmの楕円形及び円形、深さが58~65cmである。



第 382図 第 38号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N-80°-W

覆土 第1・3・5・8層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及び粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色・黒褐色・極暗褐色土である。第2・4・6・7・9~12層は締まりのある埋土である。

土層解説

- |        |  |         |  |
|--------|--|---------|--|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 7 暗褐色   | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子微量                |
| 2 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                    | 8 暗褐色   | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                            | 9 極暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量           |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                             | 10 暗褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック少量                       |
| 5 極暗褐色 | ローム中ブロック少量                                     | 11 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック              |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量             | 12 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                     |

遺物 土師器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、平安時代（9世紀中葉）と考えられる第886号土坑を掘り込んでいることから、それ以降と推定される。

### 第7号掘立柱建物跡（第383図）

位置 調査5区の南西部，G6i5区。

重複関係 第248号ピットに掘り込まれており，第240・243号ピットを掘り込んでいる。第130・241・242・244・245・246・247・250・251・252号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行5.40m，梁行は南側柱列で4.05m，北側柱列で3.60mである。柱間寸法は桁行が1.40～2.20m，梁行が1.80～2.05mである。柱穴は，平面形が長径80～132cm，短径80～100cmの楕円形及び円形，深さが63～85cmである。

桁行方向 東側柱列でN-6°-Wである。

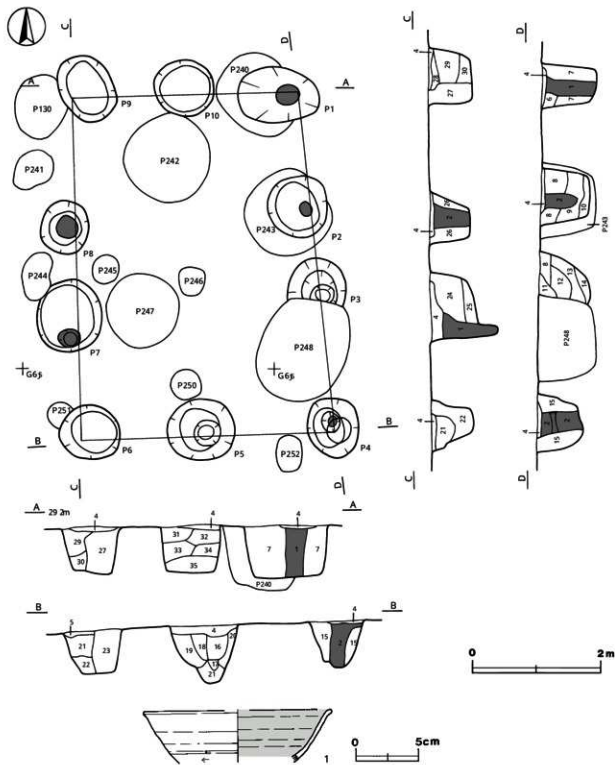
覆土 第1～3層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色・黒褐色土である。第6～10層及び第15層，第24～26層は締まりのある埋土である。その他は，中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土大ブロック・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量	19	暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
3	黒褐色	焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子中量，ローム小ブロック・ローム粒子少量	20	褐色	ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	21	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土大ブロック微量
5	にぶい赤褐色	焼土粒子中量，焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量	22	暗褐色	焼土小ブロック・焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
6	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	23	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	24	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
8	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，焼土粒子・炭化材微量	25	暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物微量	26	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化材・炭化粒子微量
10	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	27	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子・炭化粒子少量，炭化物微量
11	暗褐色	ローム小ブロック・焼土大ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	28	暗褐色	ローム小ブロック少量
12	暗褐色	ローム小ブロック・焼土粒子少量，ローム粒子・炭化物微量	29	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子・ローム粒子少量，炭化物・炭化粒子・ローム小ブロック微量
13	暗褐色	ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子微量	30	暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
14	暗褐色	焼土粒子微量	31	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
15	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	32	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量
16	暗褐色	焼土小ブロック・炭化物中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子微量	33	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
17	暗褐色	焼土粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	34	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量，炭化粒子微量
			35	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器片63点，須恵器片78点，灰釉陶器片1点が出土している。第383図1は灰釉陶器碗の口縁部片で，P6の覆土中から出土している。

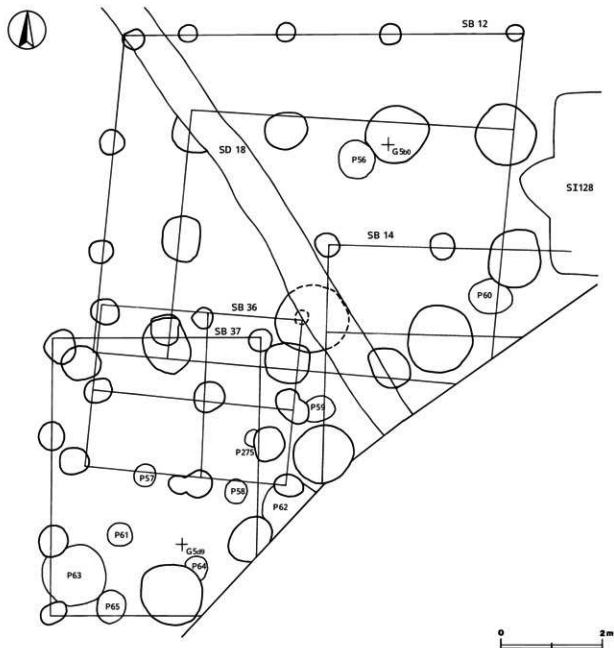
所見 時期は，出土した遺物の下限の時期から9世紀後半以降と考えられる。



第 383 図 第 7 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 7 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 383 図 1	椀 灰釉陶器	A 148 B 41	口縁部から体部片。体部は内甍しながら外傾して立ち上がる。口縁部はやや外反する。	口縁部内・外面口コナデ、外面下半回転ヘラ削り。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰黄色 灰矽	P 2507 5 % 黒笹 14号扇様式期



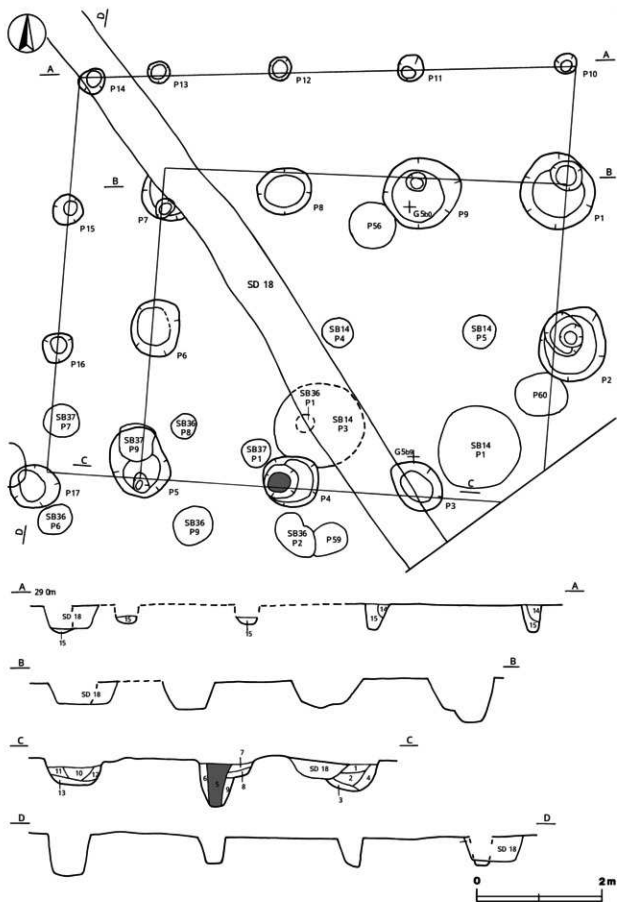
第 384 図 第 12・14・36・37号掘立柱建物跡実測図

第12号掘立柱建物跡（第384～386図）

位置 調査5区の北西部，G5b9区。

重複関係 第129号住居跡を掘り込んでおり，第18号溝に掘り込まれている。第56・60号ピット及び第14・36・37号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東部隅の柱穴が調査区域外になるが，桁行3間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。北側及び西側に底を持っている。身舎の柱穴はP1～9，庇の柱穴はP10～17である。桁行は北側柱列で6.35m，梁行は東側柱列で5.00mである。庇の出は，北側，東側ともに1.50mである。柱間寸法は，桁行が1.90～2.35m，梁行が2.40m及び2.50mである。身舎の柱穴は，平面形が長径85～125cm，短径73～112cmの楕円形及び円形，深さが35～75cmである。庇の柱穴は，平面形が長径34～78cm，短径32～75cmの楕円形及び円形，深さが12～70cmである。



第 385 图 第 12 号掘立柱建物跡実測図

桁行方向 N-86°-W

覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロックを含む締まりのない暗褐色土である。第6～9層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量	11 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	12 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	13 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	15 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
8 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量		

遺物 土師器片8点、須恵器片30点が出土している。第386図1は須恵器杯の口縁部から体部片でP6から、2は須恵器杯の体部から底部片でP9から、3は須恵器杯の体部から底部片でP1から、いずれも覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。



第386図 第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第386図 1	杯 須恵器	A 140 B 53 C 80	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物、灰オリブ色、普通	P 2513 20%
2	杯 須恵器	B 16 C 65	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、ナデ。	長石・石英・針状鉱物、にぶい橙褐色、普通	P 2514 10%
3	杯 須恵器	B 27 C 68	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	長石・石英・針状鉱物・白色粒子、灰オリブ色、普通	P 2515 10%

第14号掘立柱建物跡（第384・387図）

位置 調査5区の西北部、G5c0区。

重複関係 第18号溝に掘り込まれている。第128号住居跡及び第12・36号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北及び西側柱列ともに1間以上を確認したが、南東部が調査区域外になるため、正確な規模は不明である。北側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1～3、庇の柱穴はP4及びP5である。柱間寸法は北側柱列で2.20m、西側柱列で2.40mである。庇の出は1.70mである。身舎の柱穴は、平面形が長径123～137cm、短径112～130cmの楕円形及び円形、深さが36～42cmである。庇の柱穴は、平面形が径51cm及び径50cmの円形、深さが55cm及び52cmである。

桁行方向 N-89°-W

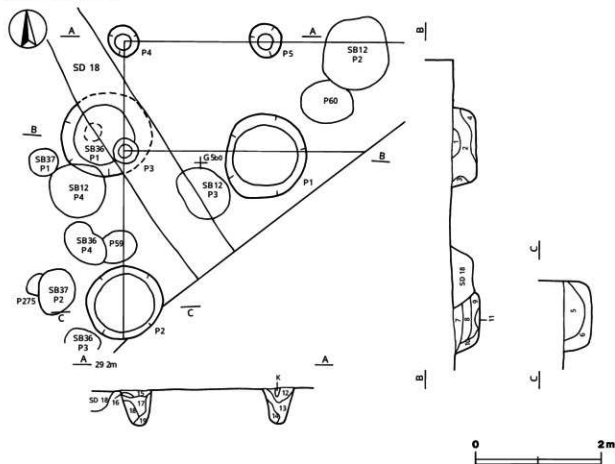
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	12 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック微量	13 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	14 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
4 黒褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	15 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック少量	16 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	17 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	18 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
8 暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム粒子微量	19 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量
9 暗褐色	ローム粒子微量		
10 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量		
11 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量		

遺物 土師器片9点、須恵器片10点が出土している。いずれも細片のため図示できなかった。

所見 細片のため図示できなかったが、P2から内面黒色処理の土師器が出土していることから、9世紀中葉以降と考えられる。



第387図 第14号掘立柱建物跡実測図

第36号掘立柱建物跡（第388図）

位置 調査5区の北西部、G5c9区。

重複関係 第59号ピットを掘り込み、第18号溝に掘り込まれている。第57・58・62号ピット及び第12・14・37号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間、梁行2間で東西棟の総柱建物跡である。桁行は3.95m、梁行は3.30mである。柱間寸法は、桁行が1.70～2.25m、梁行が1.50～1.80mである。柱穴は、平面形が長径40～66cm、短径35～60cmの橢円形及び円形、深さが20～69cmである。

桁行方向 N-85°-W

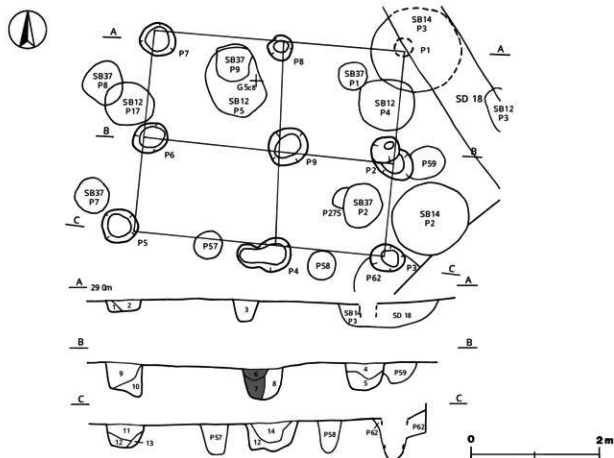
覆土 第6・7層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない黒褐色・極暗褐色土である。第8層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |        |  |         |  |
|--------|--|---------|--|
| 1 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                     | 8 黒褐色   | ローム粒子微量                                |
| 2 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量          | 9 暗褐色   | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |
| 3 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量                | 10 暗褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量                     |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 | 11 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量            |
| 5 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量                     | 12 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量                       |
| 6 黒褐色  | ローム粒子少量                                | 13 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量                     |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量            | 14 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量       |

遺物 土師器2点、須恵器2点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土・規模などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と考えられる。



第 388 図 第 36 号掘立柱建物跡実測図



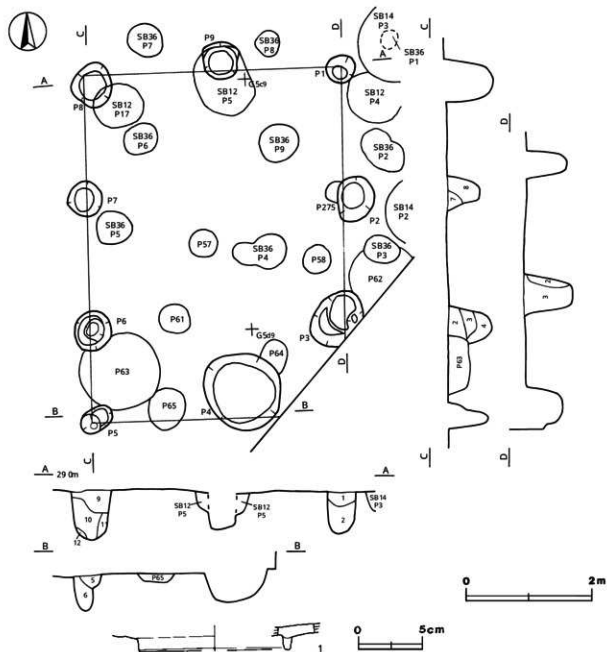
第37号掘立柱建物跡 (第389図)

位置 調査5区の北西部, G5c9区。

重複関係 第63号ピットを掘り込んでいる。第57・58・61・62・64・65・275号ピット及び第12・14・36号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東部が調査区域外になるが, 桁行3間, 梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行は西側柱列で5.55m, 梁行は北側柱列で4.10mである。柱間寸法は, 桁行が1.50~2.10m, 梁行が1.85~2.20mである。柱穴は, 平面形が長径45~95cm, 短径45~60cmの楕円形及び円形, 深さが50~78cmである。

桁行方向 N-1°-E



第 389図 第 37号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は, ロームブロック・ローム粒子・炭化粒子・焼土粒子を含む中程度に締まった褐色・暗褐色・極暗褐色・黒褐色土である。

土層解説

1	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	8	極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子微量
2	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量			
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	10	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
5	黒褐色	ローム粒子少量	11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
6	黒褐色	炭化粒子少量, ローム粒子微量			
7	黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	12	褐色	ローム大ブロック少量

遺物 土師器片4点, 須恵器片5点が出土している。第389図1は須恵器盤の底部片であり, P3の覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土した図示し得る遺物の下限の時期から, 奈良時代から8世紀末葉～9世紀初頭以降と考えられる。

第 37号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第389図 1	盤 須恵器	B 20 D 118 E 11	底部片。高台は短く窪下する。	体部及び底部内・外面口クロナデ, 底部回転ヘラ切り後, 高台貼り付け。	長石 灰黄褐色 兼通	P 2533 5%

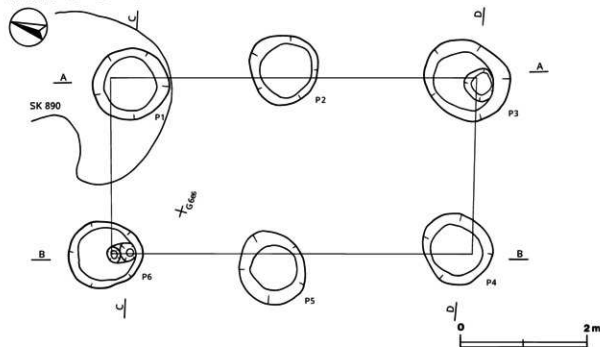
第13号掘立柱建物跡 (第390・391図)

位置 調査5区の中央部, G6e6区。

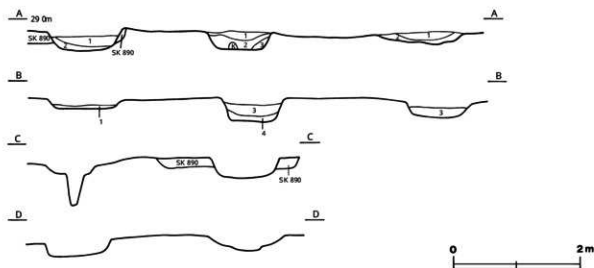
重複関係 第890号土坑を掘り込んでいる。

規模 桁行2間, 梁行1間で, 南北棟の側柱建物跡である。桁行は5.80m, 梁行は2.80mである。柱間寸法は, 桁行が2.70～3.10m, 梁行が2.80mである。柱穴は, 平面形が長径115～140cm, 短径100～120cmの楕円形及び円形, 深さが16～74cmである。

桁行方向 N-16°-W



第 390図 第 13号掘立柱建物跡実測図 ( 1 )



第 391 図 第 13号掘立柱建物跡実測図(2)

**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック及びローム粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

**土層解説**

- |       |                             |       |                               |
|-------|-----------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量            |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量          | 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |

**遺物** 縄文土器片1点、弥生土器片12点、土師器片67点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と考えられる。

**第15号掘立柱建物跡(第392図)**

**位置** 調査5区の北西部、G6c3区。

**重複関係** 第71・72号ピット及び第16号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

**規模** 北東部が調査区域外になるため、正確な規模は不明である。東側及び西側に庇を持っている。身舎の柱穴はP1～3、庇の柱穴はP4～9である。庇の出は、東側で1.60m、南側で1.90mである。柱間寸法は東側柱列で1.75m、南側柱列で2.50mである。身舎の柱穴は、平面形が径70～80cmの円形、深さが20～52cmである。庇の柱穴は、平面形が長径34～44cm、短径32～36cmの楕円形及び円形、深さが34～48cmである。

**桁行方向** N-85°-W

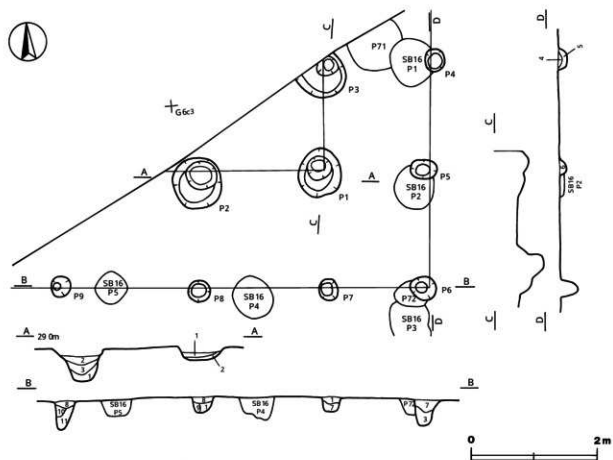
**覆土** 身舎・庇ともに柱痕跡及び埋土は確認されなかった。身舎の柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子を含む暗褐色土であり、レンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。P6の第3層は締まりのない覆土、第7・9層は締まりのある覆土である。その他は中程度に締まった覆土である。

**土層解説**

- |       |                             |        |                               |
|-------|-----------------------------|--------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量            | 7 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子微量              |
| 2 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量   | 8 暗褐色  | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量            |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量       | 9 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子微量              |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量       | 10 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量   |
| 5 暗褐色 | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 11 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 |
| 6 褐色  | ローム大ブロック・ローム小ブロック微量         |        |                               |

遺物 土師器片3点、須恵器片4点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、P1から内面黒色処理された土師器片が出土している。

所見 出土した下限の時期の遺物は、内面黒色処理の土師器片である。時期は、9世紀中葉以降と考えられる。



第392図 第15号掘立柱建物跡実測図

#### 第16号掘立柱建物跡（第393図）

位置 調査5区の北西部，G6c3区。

重複関係 第71号ピットを掘り込み，第72号ピット及び第15号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模 本跡の北東部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが，東側及び南側柱列ともに2間以上で，東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は2.00～2.35mである。柱穴掘り方は，平面形が長径50～92cm，短径48～65cmの楕円形及び円形，深さが20～38cmである。

桁行方向 N-80° -W

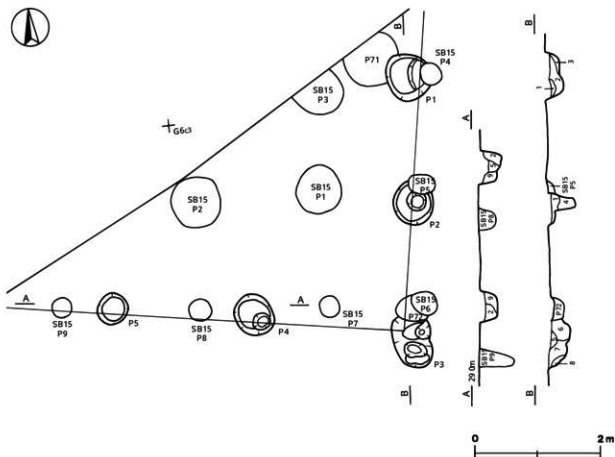
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は，ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり，柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |       |                               |       |                                  |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量                       | 6 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック・炭化物微量      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量            | 8 暗褐色 | ローム粒子少量                          |
| 4 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量   | 9 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量               |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量                       |       |                                  |

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と類推される。



第 393図 第 16号掘立柱建物跡実測図

#### 第17号掘立柱建物跡（第394図）

位置 調査5区の北西部，G5b7区。

重複関係 第906号土坑・第8～10号ピットと重複しているが，新旧関係は不明である。

規模 北西部が調査区域外になるため，正確な規模は不明であるが，東側及び南側柱列ともに2間以上で，東西棟の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は東側柱列で北から1.85m，2.15m，南側柱列で東から2.25m，2.30mである。柱穴は，平面形が長径94～112cm，短径82～95cmの楕円形及び円形，深さが48～66cmである。

桁行方向 N-5°-W

覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第6～10層は締まりのある埋土である。第1～4・11～13層は締まりのある覆土，第14～16層は中程度に締まった覆土である。

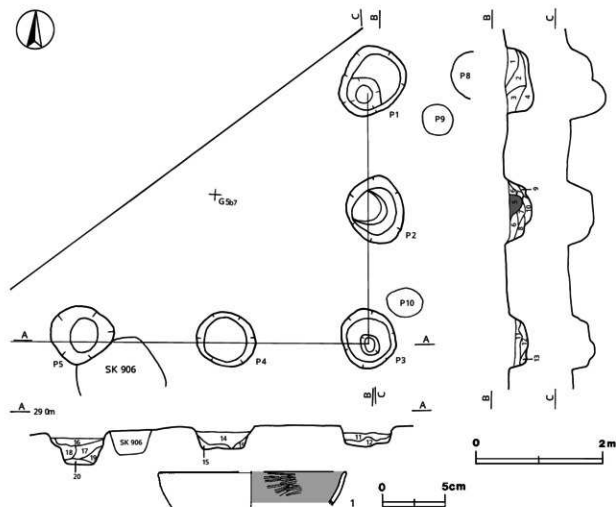
#### 土層解説

- |       |                                      |       |                             |
|-------|--------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量                           | 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量   |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子少量          | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量，ローム粒子少量                   | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量                  |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック少量 | 8 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子少量 |

- |        |                                      |        |                                      |
|--------|--------------------------------------|--------|--------------------------------------|
| 9 褐色   | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 15 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 10 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 16 黒褐色 | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量                |
| 11 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量                   | 17 暗褐色 | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子微量        |
| 12 褐色  | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量 | 18 褐色  | ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量、ローム粒子微量        |
| 13 褐色  | ローム大ブロック多量、ローム粒子少量                   | 19 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量          |
| 14 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 20 黒褐色 | ローム大ブロック多量、ローム小ブロック・ローム粒子少量          |

遺物 土師器片 4 点、須恵器片 3 点が出土している。第394図1の土師器環は、P4 覆土中から出土している。

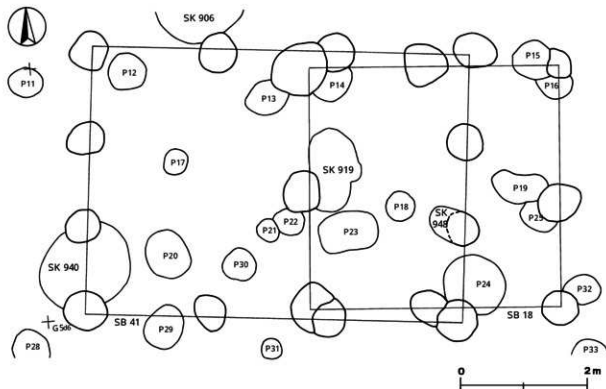
所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀後葉以降と考えられる。



第 394図 第 17号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 17号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 394図 1	環 土師器	A 150 B 27	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へラ磨き，外面口口ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 褐色，普通	P 2516 5%



第 395 図 第 18・41号独立柱建物跡実測図

第18号独立柱建物跡（第395・396図）

位置 調査5区の北西部，G5c7区。

重複関係 第919号土坑，第15号ピット及び第41号独立柱建物跡を掘り込んでいる。第948号土坑及び第13・14・16・18・19・21・22・23・24・25・30～32号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間，梁行2間の側柱建物跡である。桁行は3.95m，梁行は3.90mである。柱間寸法は，桁行が，南及び北側柱列ともに東から1.90m・2.05m，梁行が東側柱列で北から2.30m・1.60m，西側柱列で北から2.00m・1.90mである。柱穴は，平面形が長径50～95cm，短径40～80cmの楕円形及び円形，深さが50～60cmである。

桁行方向 N-86°-W

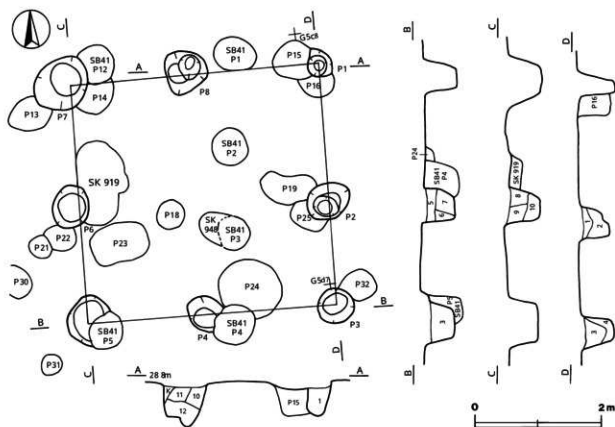
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含み中程度に篩まった暗褐色・黒褐色・極暗褐色土であり，柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量	8 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2 暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム小ブロック微量	10 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量
4 極暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量
5 暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量	12 暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量		
7 暗褐色	ローム粒子・ローム小ブロック微量		

遺物 須臾器片2点が出土しているが，いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明である。しかし，桁行方向及び規模が第36・39・40号独立柱建物跡とはほぼ同じであり，それとの重複関係や配列状況などから，9世紀後葉以降と推定される。



第 396 図 第 18 号掘立柱建物跡実測図

第41号掘立柱建物跡（第395・397・398図）

位置 調査5区の北西部，G5c6区。

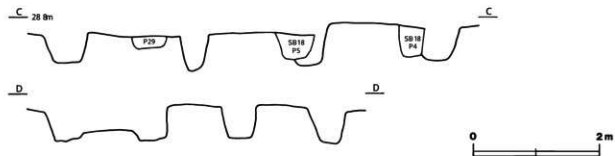
重複関係 第18号掘立柱建物に掘り込まれている。第906・919・940・948号土坑及び第11～15・17～25・29～31号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間の側柱建物跡である。桁行は5.95m，梁行は4.30mである。柱間寸法は，桁行が1.90～2.50m，梁行が1.40～1.50mである。柱穴は，平面形が長径54～84cm，短径45～65cmの楕円形及び円形，深さが55～110cmである。

桁行方向 N-84°-W

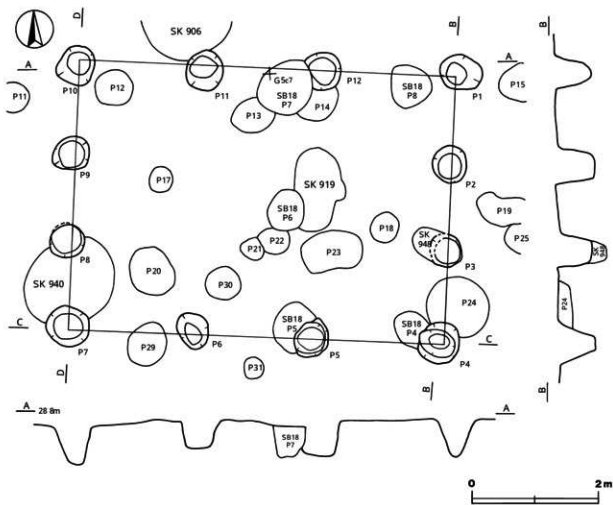
遺物 縄文土器片6点，土師器片1点，須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期は不明であるが，桁行方向などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と推定される。

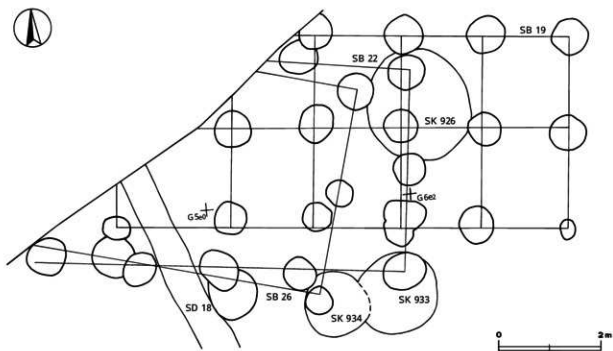


第 397 図 第 41 号掘立柱建物跡実測図（1）





第 398 图 第 41 号掘立柱建物跡実測図 ( 2 )



第 399 图 第 26·22·19 号掘立柱建物跡実測図

## 第26号掘立柱建物跡（第399・400図）

位置 調査5区の西北部，G6d1区。

重複関係 第22号掘立柱建物に掘り込まれている。第926・934号土坑及び第19号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 西部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが，南側柱列が2間以上，東側柱列が2間の側柱建物跡である。柱間寸法は南側柱列で東から1.70m・2.40m，東側柱列で北から2.10m・2.05mである。柱穴は，平面形が長径70～105cm，短径70～95cmの楕円形及び円形，深さが20～43cmである。

桁行方向 N-75°-W

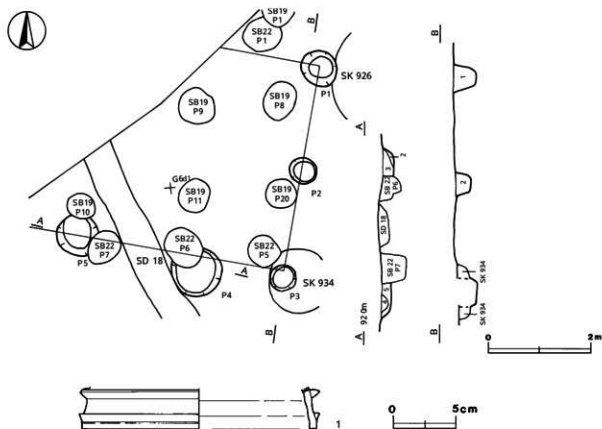
覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子を含み中程度に締まった暗褐色土であり，柱抜き取り後の覆土である。

### 土層解説

- |       |                                      |       |                             |
|-------|--------------------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・<br>焼土粒子微量 | 4 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量       |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                     | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量       |       |                             |

遺物 土師器片1点，須恵器片6点が出土している。第400図1の須恵器円面視脚部片は，P2の覆土中から出土している。

所見 時期は，下限の時期の遺物から，8世紀以降と考えられる。



第400図 第26号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

### 第26号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第400図 1	円面視 須恵器	B 33 D 184	脚部断面。脚台の下位に隆帯が巡る。	脚部内面ナデ。	白色粒子・針状植物 黄灰色，普通	P 25Z 5%

第22号掘立柱建物跡 (第399・401図)

位置 調査5区の西北部, G6d1区。

重複関係 第926・933号土坑及び第26号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第934号土坑及び第19号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 西部が調査区域外になるため正確な規模は不明であるが, 南側柱列が4間以上, 東側柱列が2間の側柱建物跡である。柱間寸法は桁行が1.50~2.05m, 梁行が北から2.00m・2.05mである。柱穴は, 平面形が長径65~85cm, 短径65~74cmの楕円形及び円形, 深さが25~54cmである。

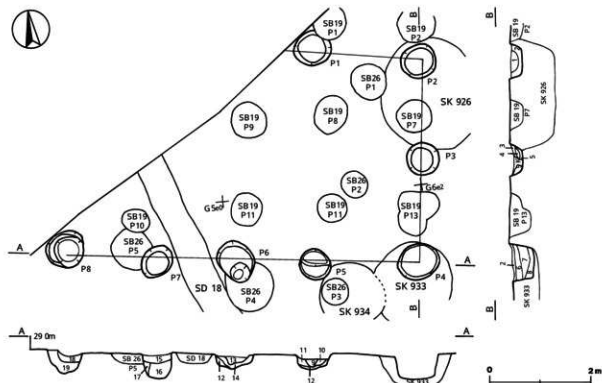
桁行方向 N-82°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む褐色土・暗褐色土・黒褐色土である。第1~5・9~19は中程度に締まった覆土, 第6~8層は締まりのある覆土であり, いずれも柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量	10 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子微量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	12 暗褐色	ローム大ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
4 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	14 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
6 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量	15 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック・ローム大ブロック微量
7 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム粒子微量	16 暗褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子・焼土粒子微量
8 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量	17 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量
9 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量, ローム小ブロック微量	18 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック微量
		19 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片2点, 須恵器片3点が出土している。細片であり図示できなかった。



第401図 第22号掘立柱建物跡実測図

所見 出土遺物が細片であり, 正確な時期は不明であるが, 桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じ

く8～9世紀以降と推定される。

### 第19号掘立柱建物跡 (第399・402・403図)

位置 調査5区の北西部, G6d1区。

重複関係 第926号土坑を掘り込んでいる。第22・26号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

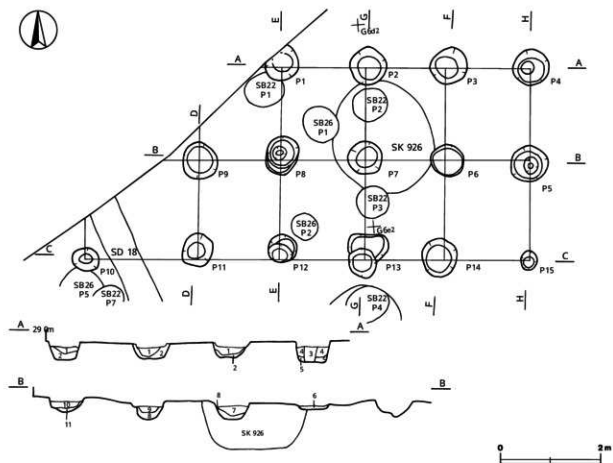
規模 西部が調査区域外になるが, 南側柱列が5間, 東側柱列が2間の総柱建物跡と考えられる。柱間寸法は, 桁行が1.55～2.25m, 梁行が北から1.80m・2.00mである。柱穴は, 平面形が長径45～73cm, 短径38～72cmの楕円形及び円形, 深さが10～48cmである。

桁行方向 N-85°-W

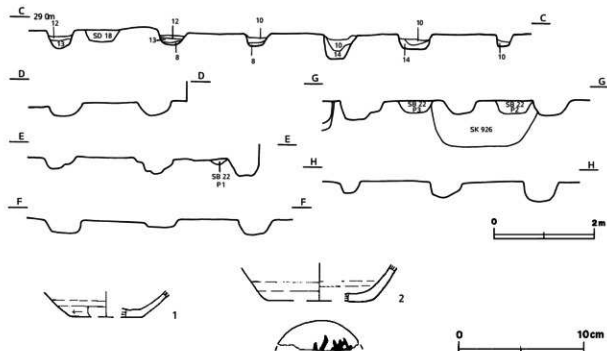
覆土 第3層はローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含む締まりのない柱痕跡である。第4・5層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |       |                                      |         |                                      |
|-------|--------------------------------------|---------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量, 炭化粒子微量                      | 8 暗褐色   | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量                  |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量         | 9 黒褐色   | ローム粒子微量                              |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量                 | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量        |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック中量, ローム中ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 11 黒褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量                  |
| 5 褐色  | ローム粒子中量                              | 12 黒褐色  | ローム粒子少量                              |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量                              | 13 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 7 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量               | 14 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量                     |



第 402図 第 19号掘立柱建物跡実測図



第 403図 第 19号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 土師器片6点，須恵器片11点が出土している。第403図1の須恵器杯の底部から体部片は，P3の覆土中から出土している。また，細片のため図示できなかったが，P5の覆土中から内面黒色処理された土師器高台付杯の底部片が出土している。2は須恵器杯の底部から体部片で墨書土器である。

所見 細片のため図示できなかったが，P5の覆土中から内面黒色処理された土師器片が出土している。第43図1は須恵器杯とともに下限の時期の遺物である。第403図2の須恵器杯は9世紀前葉と考えられる。本跡の時期は，出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。

第 19号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第403図 1	杯 須恵器	B 21	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	長石・石英 灰褐色 普通	P 2517 10%
		C 56				
2	杯 須恵器	B 30	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部一方方向の手持ちへら削り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 2518 10% PL70 体部外面墨書 「大在」
		C 82				

#### 第20号掘立柱建物跡（第404・405図）

位置 調査5区の北西部，G6e3区。

重複関係 第123号住居跡を掘り込んでおり，第110号ピットに掘り込まれている。第101・103・104・105・106・107・109・111・113号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.45m，梁行は4.40mである。柱間寸法は桁行が1.70～2.00m，梁行が2.05～2.35mである。柱穴は，平面形が長径52～100cm，短径45～88cmの楕円形・隅丸方形及び円形，深さが21～57cmである。

桁行方向 N-84°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土は，ロームブロック及びローム粒子・焼土

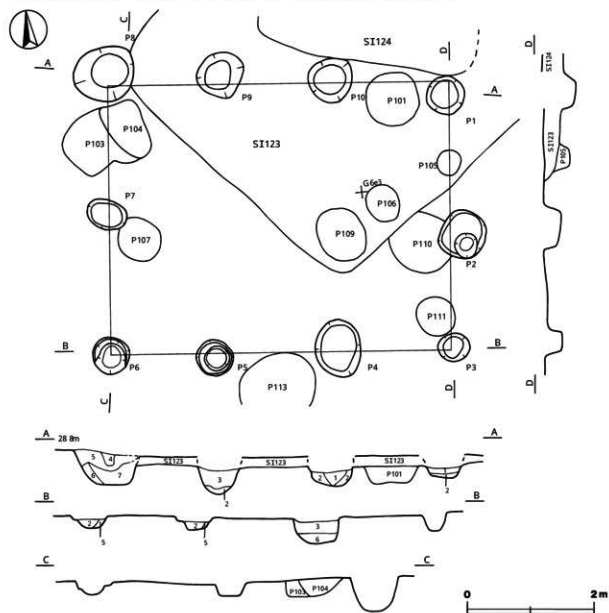
粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子を含む中程度に締まった黒色・黒褐色・極暗褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

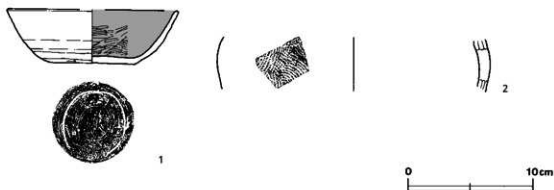
- |        |                                |        |  |
|--------|--------------------------------|--------|--|
| 1 黒色   | ローム粒子少量・ローム小ブロック微量             | 5 暗褐色  | ローム粒子中量・ローム小ブロック少量・ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 2 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量      | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量・ローム小ブロック微量                       |
| 3 黒褐色  | 炭化粒子・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 7 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量・焼土粒子・炭化粒子微量    |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量               |        |  |

遺物 土師器片38点、須恵器片13点が出土している。第405図1の土師器坏は、P 5からの覆土中から出土している。また、2の須恵器甕は、P 8の覆土中から出土している。

所見 9世紀中葉に位置づけられる第123号住居跡を掘り込んでいる。また、出土している上限の遺物の時期は、第405図2の8世紀前葉の須恵器甕体部片、下限の遺物の時期は、第405図1の9世紀後葉の土師器坏であり、時期は出土している遺物の下限の時期から、9世紀後葉以降と考えられる。



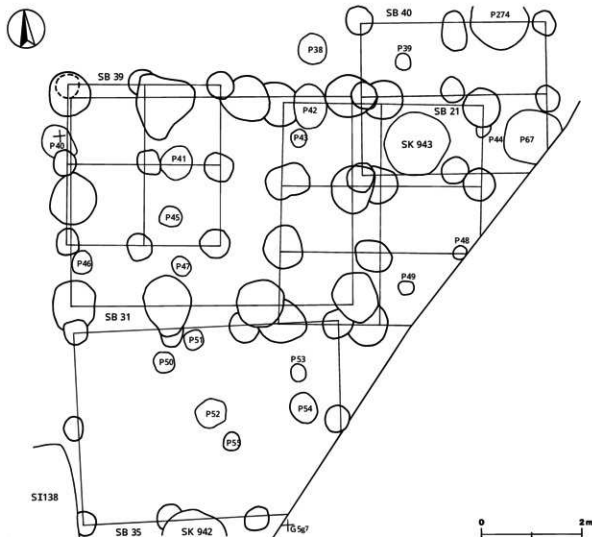
第 404 図 第 20 号 掘立柱建物跡実測図



第 405 図 第 20 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 20 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 405 図 1	坏 土 器	A 135 B 43	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へうろ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へうろ磨き。内面黒色処理。	長石・石英・雲母にふり貫橙色普通	P 2519 60%
2	須 恵 器	C 64 B 41	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部外面同心円状の叩き。	長石・石英・雲母灰色普通	P 2520 5%



第 406 図 第 21・31・35・39・40 号掘立柱建物跡実測図

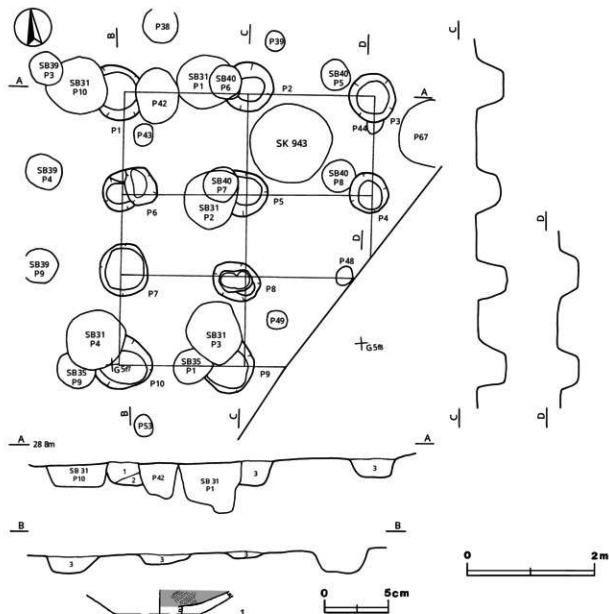
第21号掘立柱建物跡 (第406・407図)

位置 調査5区の北西部, G5e7区。

重複関係 第40号掘立柱建物跡を掘り込んでおり, 第42号ピット及び第31号掘立柱建物に掘り込まれている。第38・39・43・48・49・53・67号ピット及び第35号掘立柱建物跡と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模 桁行3間, 梁行2間で南北棟の総柱建物跡である。桁行は4.35m, 梁行は4.00mである。柱間寸法は桁行が1.30~1.65m, 梁行が1.60~2.40mである。柱穴は, 平面形が長径83~95cm, 短径62~82cmの楕円形及び円形, 深さが10~47cmである。

桁行方向 N-6°-E



第 407図 第 21号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土はロームブロック及びローム粒子を含む中程度に締まった暗褐色・黒褐色土であり, 柱抜き取り後の覆土であり, 柱抜き取り後の覆土である。



## 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量  
 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 土師器片 2点、須恵器片 3点が出土している。第407図1の土師器片は、P10の覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉以降と考えられる。

## 第21号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第407図 1	土師器	B 18 C 66	底部から体部下端の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へうろつき、体部下端回転へうろけ。底部調整不規則。内面黒色処理。	石英・赤色粒子・針状鉱物 にぶい褐色 普通	P 2521 106

## 第31号掘立柱建物跡（第406・408図）

位置 調査5区の北西部、G5e6区。

重複関係 第21・35・40号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第39号掘立柱建物に掘り込まれている。第38・40～43・第45～47・51号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.60m、梁行は4.10mである。柱間寸法は桁行が1.80～2.00m、梁行が1.90～2.20mである。柱穴は、平面形が長径75～105cm、短径65～92cmの楕円形及び円形、深さが41～80cmである。

桁行方向 N-85°-W

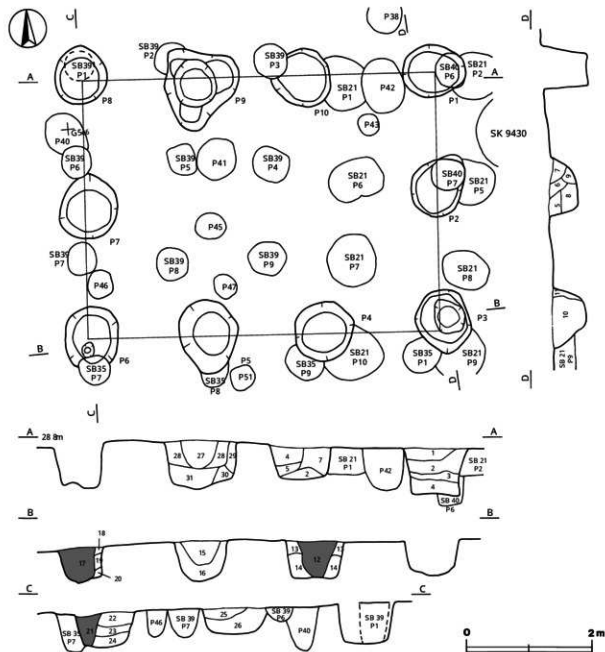
覆土 第12・17・21層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第13・14・18～20・22～24層は締まりのある埋土で暗褐色・極暗褐色の互層をなしている。第1～11・15・16・25～31層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

## 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 16 暗褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック少量  
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 17 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、粘土粒子微量  
 3 極暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量 18 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量  
 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 19 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム大ブロック微量  
 5 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量 20 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 6 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子少量、焼土粒子微量 21 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量  
 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 22 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化物微量  
 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・炭化粒子微量 23 極暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム大ブロック微量  
 9 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 24 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 10 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量 25 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム小ブロック微量  
 11 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 26 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土粒子少量  
 12 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 27 暗褐色 ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム大ブロック・焼土粒子微量  
 13 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 28 暗褐色 ローム粒子・粘土粒子少量  
 14 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量 29 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量  
 15 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、ローム中ブロック微量 30 極暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック微量  
 31 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量

遺物 土師器片2点、須恵器片7点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、P4の覆土中から内面黒色処理され、ヘラ削り調整が施された土師器坏底部片が出土している。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、P4から出土した下限の遺物の時期から9世紀後葉以降と推定される。



第408図 第31号掘立柱建物跡実測図

第39号掘立柱建物跡 (第406・409図)

位置 調査5区の北西部, G5e6区。

重複関係 第40号ピット及び第31号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。第41・45～47号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間、梁行2間の総柱建物跡である。桁行は3.15m、梁行は3.10mである。柱間寸法は桁行が1.55m・1.60m、梁行が1.55mである。柱穴は、平面形が長径50～60cm、短径45～52cmの楕円形及び円形、深さが

40~70cmである。

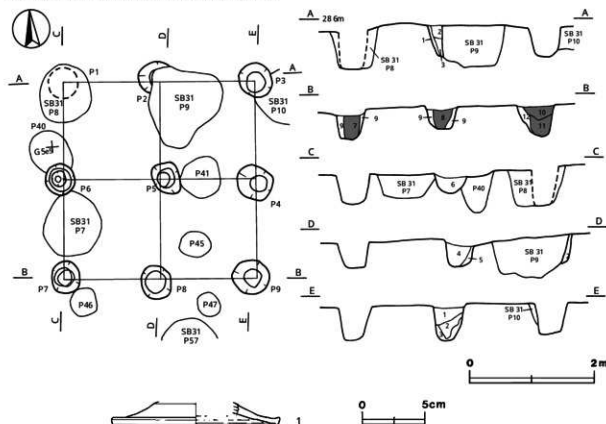
桁行方向 N-85°-W

覆土 第7・8・10・11層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色・黒褐色・極暗褐色土である。第9・12層は締まりのある埋土である。第1~6層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |        |  |         |                                       |
|--------|--|---------|---------------------------------------|
| 1 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量                 | 7 黒褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量             | 8 黒褐色   | ローム粒子少量, 焼土粒子・炭化粒子微量                  |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 9 暗褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子少量                      |
| 4 黒褐色  | ローム粒子少量                                  | 10 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量             |
| 5 暗褐色  | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック微量             | 11 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量          |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量                                  | 12 暗褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量                   |

遺物 土師器片4点, 須恵器片3点が出土している。第409図1の須恵器蓋は, P7の覆土中から出土している。所見 本跡から出土している下限の時期の遺物は, 8世紀末~9世紀初頭の須恵器蓋であるが, 本跡は9世紀後葉に位置づけられる第31号掘立柱建物跡より新しいため, これ以降と考えられる。なお, 本跡の近くにまともって検出された第18・36・40号掘立柱建物跡と桁行方向及び規模がほぼ同じであり, 配列状況などから, 本跡とそれらはほぼ同時期の可能性も推定される。



第409図 第39号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第39号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第409図 1	蓋 須恵器	A 130 B 19	口縁部から天井部片。天井部は低く扁平である。	天井部回転ヘラ削り。	長石・石英・雲母・礫, 灰オリブ色, 普通	P 2534 5%

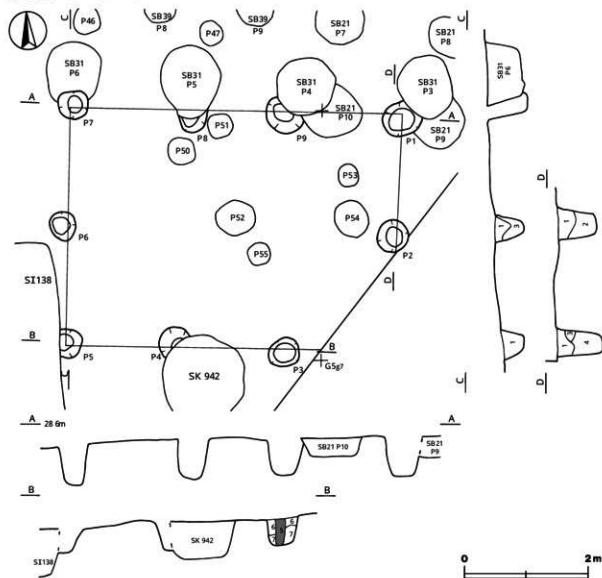
### 第35号掘立柱建物跡 (第406・410図)

位置 調査5区の西北部, G5f6区。

重複関係 第31号掘立柱建物に掘り込まれている。第942号土坑, 第46・47・50~55号ピット及び第138号住居跡, 第21号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 南東隅の柱穴が調査区域外になるが, 桁行3間, 梁行2間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は5.30m, 梁行は3.80mである。柱間寸法は桁行が1.50~1.90m, 梁行が1.90~1.95mである。柱穴は, 平面形が長径46~70cm, 短径40~48cmの楕円形及び円形, 深さが45~74cmである。

桁行方向 N-88°-W



第410図 第35号掘立柱建物跡実測図

覆土 第5層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含む締まりのない暗褐色土である。第6・7層は締まりのある埋土である。第1~4層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |       |                              |       |                                   |
|-------|------------------------------|-------|-----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 3 黒褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック微量               |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量             | 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量 | 7 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化物微量  |
| 6 暗褐色 | ローム粒子中量・ローム小ブロック少量           |       |                                   |

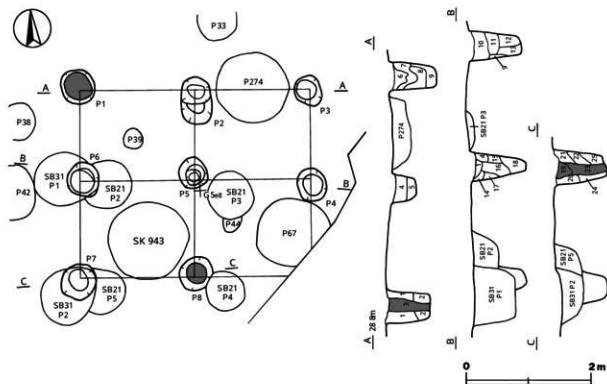
遺物 土師器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と推定される。

#### 第40号掘立柱建物跡（第406・411図）

位置 調査5区の北西部、G5e8区。

重複関係 第21・31号掘立柱建物に掘り込まれている。第943号土坑及び第33・38・39・42・44・67・274号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第 411 図 第 40 号掘立柱建物跡実測図

規模 南東隅の柱穴が調査区域外になるが、桁行2間、梁行2間で東西棟の総柱建物跡である。桁行は3.70m、梁行は2.95mである。柱間寸法は桁行が1.85m、梁行が1.40～1.50mである。柱穴は、平面形が長径50～78cm、短径45～52cmの楕円形、深さが45～91cmである。

桁行方向 N-85°-W

覆土 第3・19・23層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色・黒褐色土である。第1・2・20～22・24・25層は締まりのある埋土である。

第4～18層は中程度に締まった柱抜き取り痕の覆土である。

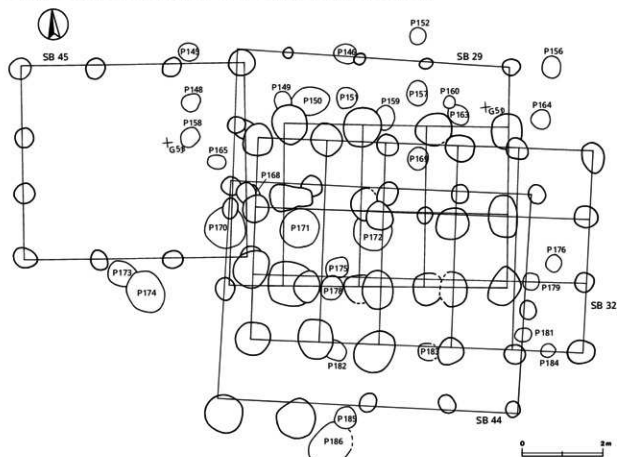
#### 土層解説

- |       |                                       |       |                               |
|-------|---------------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量                    | 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量            |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量  | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量     |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                      | 8 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量   |

- |         |                                      |         |                             |
|---------|--------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 9 暗褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 18 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量          |
| 10 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量          | 19 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量          |
| 11 暗褐色  | ローム粒子少量                              | 20 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 12 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量                     | 21 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 13 極暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量   | 22 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量     |
| 14 褐色   | ローム大ブロック中量                           | 23 黒褐色  | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量          |
| 15 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量                   | 24 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 |
| 16 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量 | 25 黒褐色  | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量 |
| 17 暗褐色  | ローム粒子・焼土粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量     |         |                             |

遺物 須恵器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、正確な時期は不明であるが、桁行方向及び規模が第18・36・39号掘立柱建物跡とはほぼ同じであることや配列状況などから、9世紀後葉以降と推定される。



第412図 第29・32・44・45号掘立柱建物跡実測図

#### 第45号掘立柱建物跡（第412・413図）

位置 調査5区の南西部，G5j7区。

重複関係 第32号掘立柱建物に掘り込まれている。第148・158・165・170・173・174号ピット及び第29・44号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

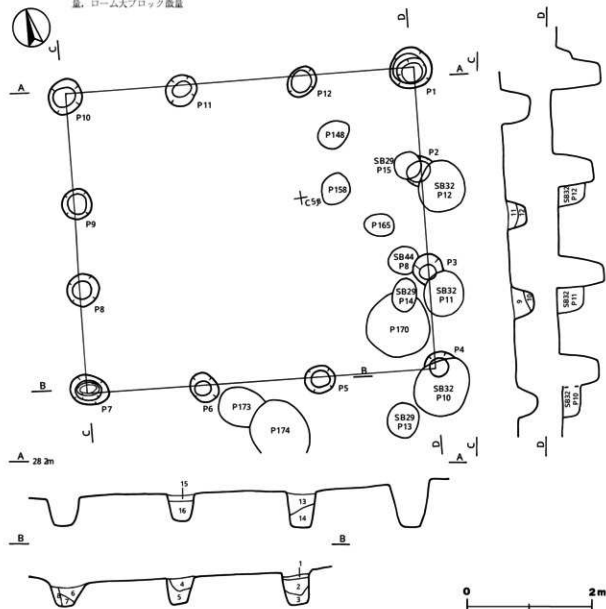
規模 桁行3間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.60m，梁行は4.80mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m，梁行が1.40～1.80mである。柱穴は，平面形が長径48～63cm，短径43～54cmの楕円形及び円形，深さが36～68cmである。

桁行方向 N-85° - W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色・灰褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |       |  |        |   |
|-------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物少量、ローム中ブロック微量        | 10 褐色  | ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量          |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量       | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                       | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・炭化物微量          |
| 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量       | 13 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量                 |
| 5 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量       | 14 灰褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量     |
| 6 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量                     | 15 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量              |
| 7 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 | 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                   |
| 8 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量     |        |   |
| 9 褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量 |        |   |



第 413 図 第 45 号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、正確な時期は不明であるが、桁行方向や覆土などから他の掘立柱建物跡と同じく8～9世紀以降と思われ、また、本跡より新しい第32号掘立柱建物跡が9世紀中葉に位置づけられるため、8～9世紀中葉の時期と類推される。

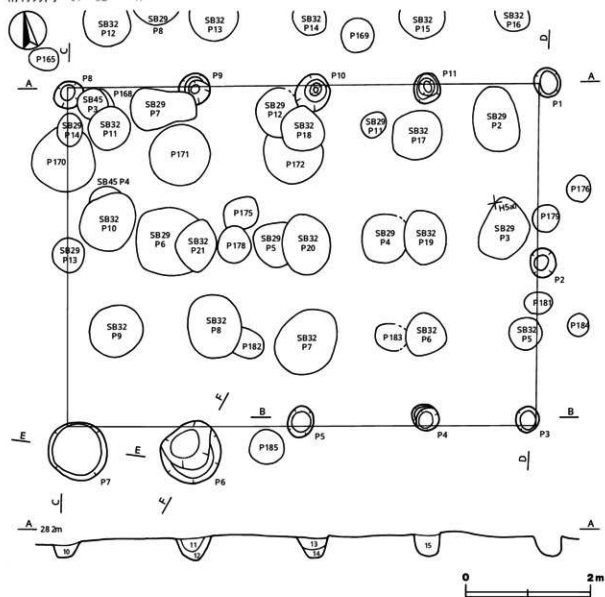
#### 第44号掘立柱建物跡 (第412・414・415図)

位置 調査5区の南西部、G5j9区。

重複関係 第165・169・170～172・175・176・178・179・181～185号ピット及び第29・32・45号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

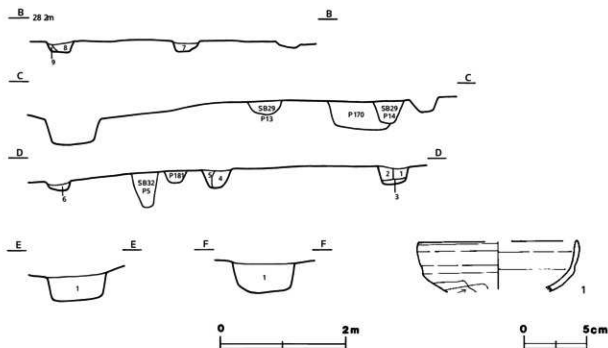
規模 桁行4間、梁行は東側柱列で2間、西側柱列で1間の東西棟の側柱建物跡である。桁行は7.55m、梁行は5.14mである。柱間寸法は桁行が1.75～2.00m、梁行が2.60～2.80mである。柱穴は、平面形が長径40～100cm、短径40～50cmの楕円形及び円形、深さが24～46cmである。

桁行方向 N-82°-W



第 414 図 第 44 号 掘 立 柱 建 物 跡 実 測 図





第 415 図 第 4 号独立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子を含む中程度に締まった暗褐色・極暗褐色・黒褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |        |                                      |         |                                  |
|--------|--------------------------------------|---------|----------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量                | 10 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量                     |
| 2 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 11 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 3 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量                   | 12 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量                 |
| 4 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量                   | 13 暗褐色  | 炭化粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量          |
| 5 暗褐色  | ローム粒子多量                              | 14 黒褐色  | ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量      |
| 6 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量        | 15 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量               |         |                                  |
| 8 暗褐色  | ローム粒子・炭化物少量、ローム小ブロック微量               |         |                                  |
| 9 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量          |         |                                  |

遺物 土師器片 5 点が出土している。第415図1の土師器杯口縁部片は、P 2 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した遺物の下限の時期から、8 世紀前葉以降と考えられる。

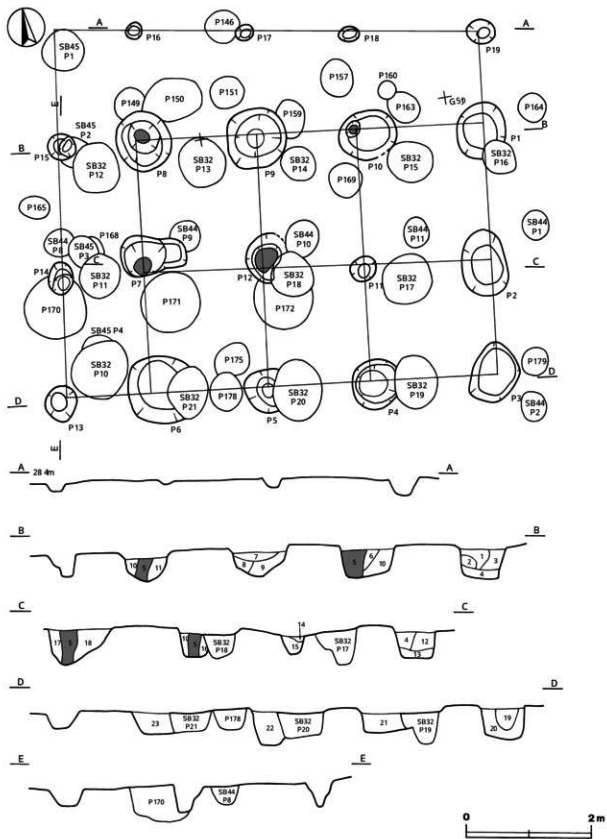
第 44 号独立柱建物跡出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 41 図 1	土師器 杯 器	A 128 B 39	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は直立する。	口縁部内・外面ロクナデ。体部外面へラ削り。	長石・石英・雲母・白色粒子、にぶい褐色、普通	P 2537 10%

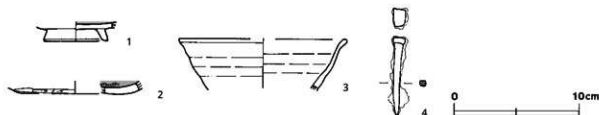
第29号独立柱建物跡 (第412・416・417図)

位置 調査 5 区の南西部, G5j9区。

重複関係 第32号独立柱建物に掘り込まれている。第146・149～151・157・159・160～171・163～165・168・169・175・178・179号ピット及び第44・45号独立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第 416 图 第 29 号 掘立柱建物跡実測图



第 417 図 第 29 号掘立柱建物跡出土遺物実測図

規模 桁行 3 間，梁行 2 間で東西棟の総柱建物跡である。北側及び西側に底を持っている。身舎の柱穴は P 1～12，底の柱穴は P 13～19 である。北西隅の底の柱穴は確認できなかったが，配列から第 45 号掘立柱建物跡の P 1 が底の柱穴と重複していた可能性が考えられる。第 45 号掘立柱建物跡の P 1 は，本跡の底の柱穴よりも深いことから，第 45 号掘立柱建物跡が本跡より新しいと仮定した場合，これに掘り込まれた可能性もある。桁行は 5.35m，梁行は 4.05m である。底の出は北側で 1.45～1.70m，西側で 1.15～1.35m と考えられる。柱間寸法は桁行が 1.60～2.10m，梁行が 1.90～2.15m である。身舎の柱穴は，平面形が長径 46～115cm，短径 38～95cm の楕円形及び円形，深さが 42～55cm である。底の柱穴は，平面形が長径 30～55cm，短径 25～41cm の楕円形及び円形，深さが 7～28cm である。

桁行方向 N-84°-W

覆土 第 5 層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第 6・10・11・16～18 層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	褐色	ローム大ブロック少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13	褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量
2	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量，ローム小ブロック・黒色土中ブロック微量	14	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
3	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック微量	15	黒褐色	ローム粒子微量
4	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	16	褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	17	褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
6	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	18	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・黒色土粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量	19	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
8	褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子微量	20	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	21	褐色	ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	22	褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・黒色土粒子，ローム中ブロック少量
11	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，ローム粒子少量	23	褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
12	褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量			

遺物 土師器片 20 点，須恵器片 9 点が出土している。第 417 図 1 の土師器高台付杯底部片は P 8 から，2 の土師器杯底部片，3 の須恵器杯口縁底部片はともに P 6 から出土している。

所見 時期は，出土した遺物の下限の時期から 9 世紀中葉以降と考えられる。しかし，9 世紀後葉に位置づけられる第 127 号住居跡と遺構の傾きが同じこと及びその平面的な位置関係から，本跡も同時期の可能性も考えられる。

第 29 号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 417 図 1	高台付杯土師器	B 16 D 50 E 10	高台部から底部の破片。高台は短くハの字状に開く。	底部内面へラ磨き。底部回転へラ切り。高台貼り付け後ナ。内面黒色処理。	灰石・石英・曹母・白色粒子。にぶい黄褐色，普通	P 2527 20%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 2	坏 土 師 器	B 10 C 83	底部から体部下端の破片。平底。 体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面へう磨き、体部 下端及び底部回転へう磨り。内面 黒色処理。	長石・石英・雲母・ 針状鉱物 明黄褐色普通	P 2528 5%
3	坏 恵 器	A 134 B 40	体部から口縁部片。体部は直線的 に外傾して立ち上がり、口縁部に 至る。	口縁部及び体部内・外面口ロコ ナデ。	石英・白色粒子 灰色 普通	P 2529 5%

図版番号	器種	計 測 値				材 質	特 徴	備 考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第41図4	釘	51	09	04	71	鉄	断面形は方形	M 2501

### 第32号据立柱建物跡（第412・418図）

位置 調査5区の南西部，G5j9区。

重複関係 第183号ピット及び第29・45号据立柱建物跡を掘り込んでいる。第168・169・171・172・175・176・178・179・181・182・184号ピット及び第44号据立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行5間，梁行3間の東西棟であり，総柱建物跡と考えられる。桁行は8.35m，梁行は5.00mである。柱間寸法は桁行が1.45～1.85m，梁行が1.60～1.70mである。柱穴は，平面形が長径50～115cm，短径50～92cmの楕円形及び円形，深さが20～70cmである。

桁行方向 N-82°-W

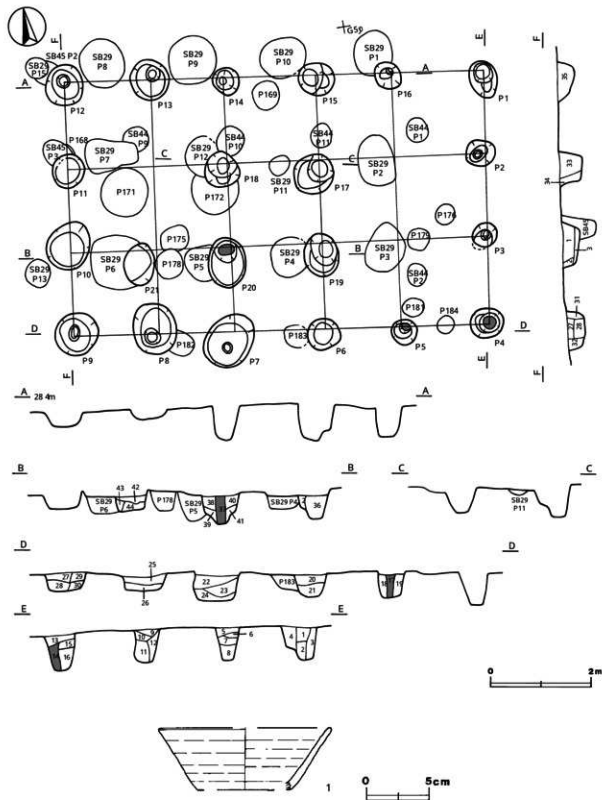
覆土 第14・17・37層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み締まりのない暗褐色土である。第15・16・18・19・38～41層は締まりのある埋土である。その他は，中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量	24 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量， ローム小ブロック少量
2 褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック微量	25 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブ ロック・ローム粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・粘土粒子 微量	26 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
4 褐色	ローム粒子中量	27 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，粘土小ブロック微量	28 褐色	ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	29 褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
7 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブ ロック微量	30 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
8 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量	31 褐色	ローム中ブロック中量，ローム粒子少量
9 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	32 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子微量
10 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	33 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子・ 焼土粒子微量
11 暗褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック微量	34 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
12 暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	35 暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム大ブロック・ローム小ブ ロック少量，ローム粒子微量
13 暗褐色	ローム大ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微 量	36 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微 量
14 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム粒子微 量	37 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子・ 焼土粒子・炭化粒子微量
15 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量	38 暗褐色	ローム中ブロック中量，ローム小ブロック少量，ローム粒 子・焼土粒子微量
16 褐色	ローム小ブロック中量，ローム大ブロック・ローム粒子少 量	39 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム粒 子微量
17 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	40 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微 量
18 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	41 暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム粒子微量
19 暗褐色	ローム小ブロック少量，炭化粒子微量	42 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・ 炭化粒子微量
20 暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	43 暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
21 褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子 微量	44 褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
22 褐色	ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・ローム小ブ ロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量		
23 暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子・ 焼土粒子微量		

遺物 土師器片12点、須恵器片11点が出土している。第418図1の須恵器坏片は、P10の覆土中から出土している。

所見 本跡から出土した下限の遺物の時期は9世紀中葉と考えられる。本跡より古い第29号掘立柱建物跡は9世紀後葉以降の可能性が考えられることから、本跡の時期はそれ以降と考えられる。



第 418 図 第 32 号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 32号掘立柱建物跡出土遺物観察表

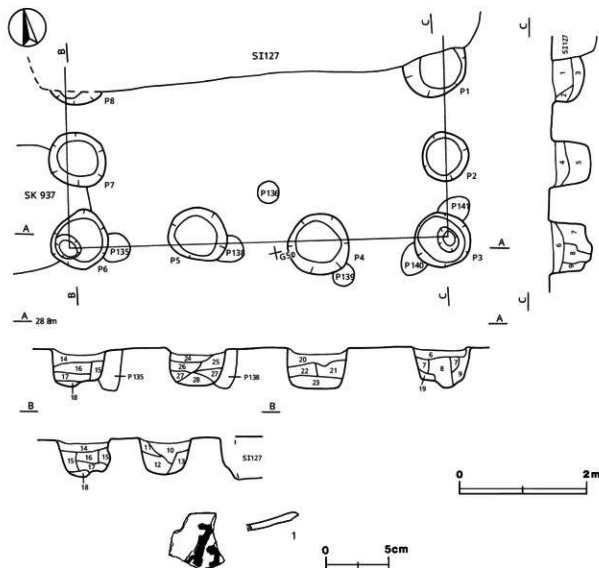
図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第41図 1	坏 須 器	A 138 B 49 C 76	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ウロナズ。	長石・石英 灰白色 普通	P 2530 15%

第23号掘立柱建物跡（第419図）

位置 調査5区の南西部，G5h0区。

重複関係 第135号ピットを掘り込んでおり，第127号住居に掘り込まれている。第937号土坑及び第136・138～141号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 東及び西側柱列の一部と北側柱列が第127号住居に掘り込まれており，正確な規模は不明であるが，南及び北側柱列が3間，東及び西柱列が2間以上の側柱建物跡である。桁行は6.35m，現存する梁行は3.20mである。柱間寸法は桁行が1.90～2.05m，梁行が1.30～1.45mである。柱穴は，平面形が長径80～102cm，短径75～100cmの楕円形及び円形，深さが55～66cmである。



第 419図 第 23号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

桁行方向 南側柱列でN-80° - W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色・黒褐色・極暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1	極暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量	15	黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
2	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	16	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
3	暗褐色	ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	17	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
4	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
5	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	19	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
6	極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	20	黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
7	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量	21	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	22	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	23	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
10	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量	24	黒褐色	焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量
11	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	25	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック微量
12	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量	26	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量
13	暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	27	暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
14	暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	28	暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片 6点、須恵器片 4点が出土している。第419図1の土師器高台付皿は、P1の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した遺物の下限の時期から9世紀中葉～後葉と考えられる。

第23号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第419図1	高台付皿 土師器	B 15	体部から口縁部の破片。体部は大きく開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、体部下端回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・雲母に富み黄褐色製造	P 2522 5% PL72 体部外面黒書「在」

第28号掘立柱建物跡 (第420・421図)

位置 調査5区の南西部、G6j3区。

重複関係 本跡が第939号土坑を掘り込んでいる。また、西側柱列南隅から2か所の柱穴が、規模・覆土及び配列状況から第43号掘立柱建物跡のP1・P2に掘り込まれている可能性がある。第194・195・199・201～204号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

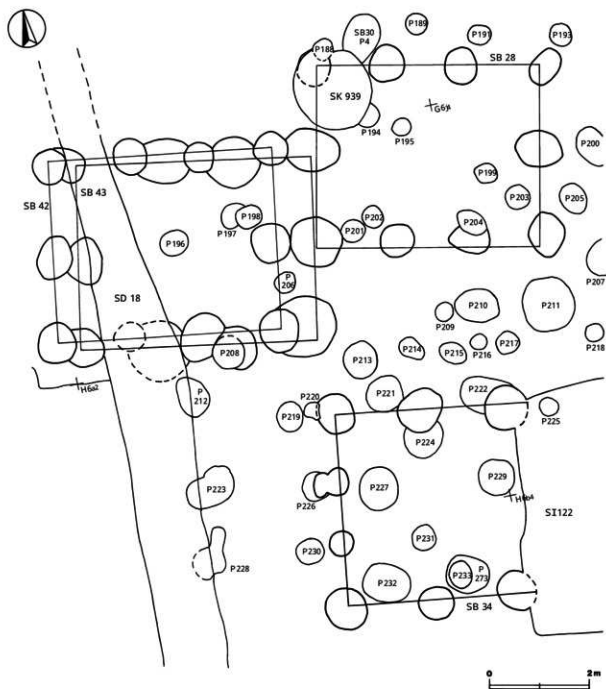
規模 桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.45m、梁行3.60mである。柱間寸法は桁行1.30～1.60m、梁行が1.60・1.70mである。柱穴掘り方は、平面形が長径70～95cm、短径55～75cmの楕円形及び円形、深さが40～62cmである。

桁行方向 N-79° - W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・粘土ブロック・粘土粒子・黒色土ブロックを含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。







第 421 図 第 28・34・42・43号掘立柱建物跡実測図

第43号掘立柱建物跡（第421・422図）

位置 調査5区の南西部，G6j2区。

重複関係 柱穴の規模・覆土及び配列状況からP1・P2がそれぞれ第28号掘立柱建物跡の柱穴を掘り込んでいる可能性がある。また，第18号溝，第208号ピット及び第42号掘立柱建物に掘り込まれている。第196～198・201・206・208号土坑と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間の，東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.70m，梁行は3.70mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m，梁行が1.50～1.80mである。柱穴は，平面形が長径80～115cm，短径62～100cmの楕円形及び円形，深さが16～45cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	8 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	9 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック微量
3 暗褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	10 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	11 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	12 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量	13 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
7 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 土師器片4点、須恵器片6点が出土している。第422図1の土師器杯は、P4の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土した遺物の下限の時期などから9世紀中葉以降と考えられる。

第42号掘立柱建物跡(第421・422図)

位置 調査5区の南西部、G6j2区。

重複関係 第43号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝に掘り込まれている。第196～198・206・208号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.45m、梁行は3.60mである。柱間寸法は桁行が1.30～1.70m、梁行が1.70～1.90mである。柱穴は、平面形が長径60～105cm、短径60～80cmの楕円形及び円形、深さが23～50cmである。

桁行方向 N-81°-W

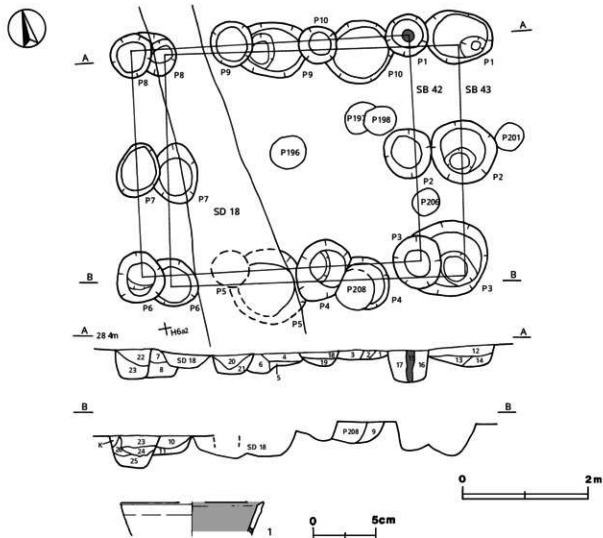
覆土 第15層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子、炭化物及び炭化粒子を含む締まりのない極暗褐色土である。第2・3層は締まりのある埋土である。第4～12層は中程度に締まったレンズ状の堆積状況を示す柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

15 極暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量	22 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
16 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	23 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子微量
17 褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量	24 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、炭化物微量
18 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	25 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
19 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量	26 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
20 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量		
21 褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		

遺物 土師器片2点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物が細片であるため明確ではないが、9世紀中葉以降に位置付けられる第43号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、それ以降と考えられる。



第 42 図 第 42・43号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

第 43号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 42 図 1	環 土 器	A 113 B 27	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面へラ磨き，外面口ロ ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱 物，に3A黄褐色， 普通	P 2535 5%

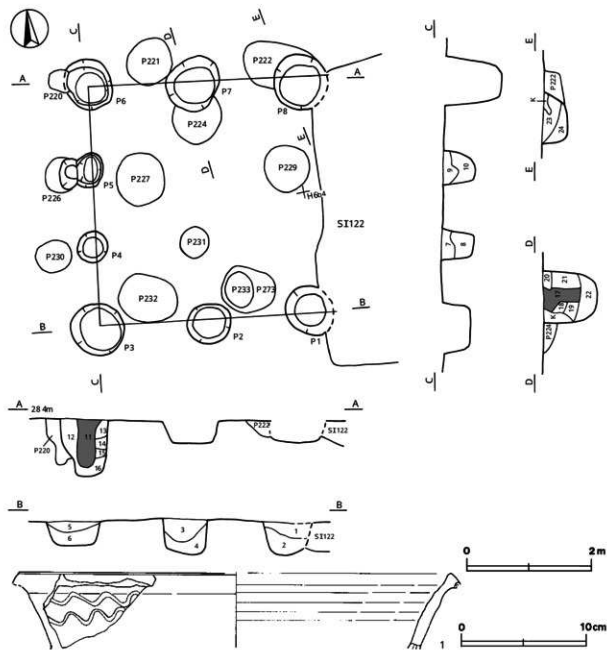
### 第34号掘立柱建物跡（第421・423図）

位置 調査5区の南西部，H6a3区。

重複関係 第220・222号ピットを掘り込んでいる。第122号住居跡及び第221・224・226・227・229～233・273号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 東側は第122号住居跡と重複しており，住居跡の確認面において本跡の柱穴を検出することができなかったため，本跡の正確な規模は不明である。西側柱列で3間，北及び南側柱列では2間が検出されており，北及び南側柱列が2間以上の側柱建物跡と考えられる。柱間寸法は西側柱列が1.30～1.25m，北及び南側柱列が1.70～1.80mである。柱穴は，平面形が長径55～90cm，短径43～88cmの楕円形及び円形，深さが38～87cmである。

桁行方向 N-82°-W



第 423図 第 3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

覆土 第11・17層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない褐色土である。第12～16層及び第18～22層は締まりのある埋土である。その他は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

1 褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量	9 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・粘土粒子微量
2 褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量	10 褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
3 褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	11 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量
4 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	12 褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	13 褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量
6 褐色	ローム小ブロック少量	14 褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微量
7 褐色	ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量		
8 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量		

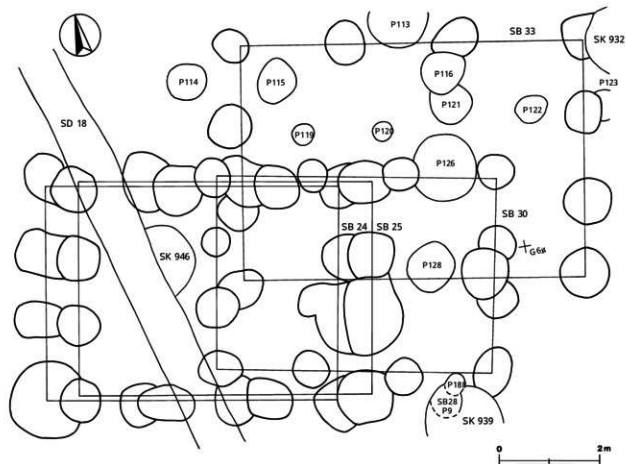
15	褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量	20	褐色	ローム粒子微量
16	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量	21	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
17	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	22	褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
18	褐色	ローム粒子少量	23	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
19	褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	24	褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 須恵器片5点が出土している。第423図1の須恵器甕口縁部片は、P2の覆土中から出土している。細片であり図示できなかったが、P8から井ヶ谷78号窯式と考えられる灰陶陶器片が出土している。

所見 出土した図示し得る下限の遺物の時期は、8世紀末～9世紀初頭と考えられる。9世紀後葉に位置づけられる第122号住居跡と重複しているが、新旧関係は不明であり、時期は、8世紀末～9世紀初頭以降と考えられる。

第 34号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第423図1	須恵器	A 344 B 60	口縁部片。口縁部は外反する。肩部下端が突出する。	口縁部内・外面口クロナデ、外面櫛歯状工具による波状文施文。	長石・石英 灰色 普通	P 2532 5%

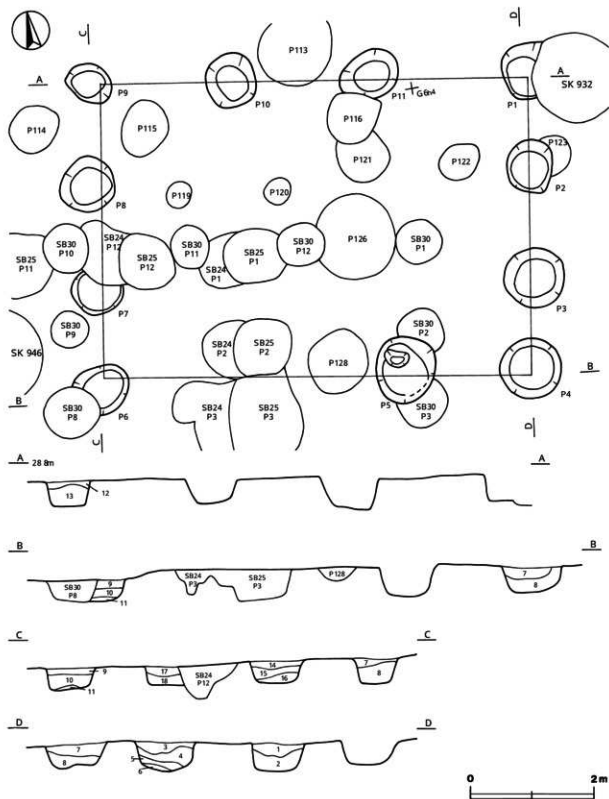


第 424図 第 24・25・30・33号掘立柱建物跡実測図

第33号掘立柱建物跡 (第424・425図)

位置 調査5区の南西部、G6h3区。

重複関係 第24号掘立柱建物に掘り込まれている。また、土層の切り合い関係から、第25・30号掘立柱建物跡よりも本跡が古い。第113～115・116・119～123・126・128号ピットと重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第 425図 第 33号掘立柱建物跡実測図

規模 第24号掘立柱建物跡のP2と同一位置に、本跡の柱穴があった可能性が配列から考えられる。検出された

柱穴のいずれもが第24号掘立柱建物跡の柱穴の深さより浅いため、想定される本跡の柱穴は第24号掘立柱建物跡のP2に掘り込まれたものと判断した。桁行は北側柱列で3間、南側柱列で2間、梁行は3間であるが、南側柱列に柱穴を想定し、3間×3間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行は6.80m、梁行は4.70mである。柱間寸法は桁行が北柱列で2.10~2.50m、南側柱列で東から3.10m及び3.70m、梁行が1.40~1.80mである。柱穴は、平面形が長径76~104cm、短径63~98cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが32~52cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴の覆土はロームブロック及びローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を含み中程度に締まった褐色・暗褐色土であり、柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子少量	10 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
2 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子少量	11 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、焼土粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子少量	12 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、ローム粒子少量	13 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量
5 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子少量	14 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子少量
6 褐色	ローム大ブロック中量、ローム粒子少量	15 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量
7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子少量	16 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
8 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子少量	17 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量
9 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量	18 暗褐色	ローム大ブロック中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片3点、須恵器片3点が出土している。細片のため図示できないが内面黒色処理された土師器皿がP9から出土している。

所見 時期は、出土した下限の遺物の時期などから9世紀後半以降と考えられる。

### 第25号掘立柱建物（第424・426・427図）

位置 調査5区の南西部、G6h2区。

重複関係 第24・33号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝及び第30号掘立柱建物に掘り込まれている。第946号土坑及び第119・120・126・128号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.85m、梁行は4.25mである。柱間寸法は桁行が1.85~2.00m、梁行が1.30~1.50mである。柱穴は、平面形が長径83~115cm、短径70~118cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが58~72cmである。

桁行方向 N-80°-W

覆土 第6・36層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子を含み締まりのない暗褐色である。第4・5・7層及び第31~35層は締まりのある埋土である。第14層は締まりのある、第1~5・7~13・15~30・36~45層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量	5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
2 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量	6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック少量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量	7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
4 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量	8 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量

9 暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量	28 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量
10 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子少量	29 暗褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子少量
11 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子少量	30 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
12 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量	31 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量	32 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック少量
14 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	33 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
15 黒褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	34 暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
16 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック・炭化物少量	35 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量
17 極暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子少量	36 黒褐色	炭化物・炭化粒子少量, ローム小ブロック・ローム粒子少量
18 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量	37 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子少量
19 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量	38 黒褐色	ローム粒子少量
20 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	39 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
21 暗褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量	40 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック少量
22 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子少量	41 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量, 焼土粒子少量
23 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック少量	42 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック少量
24 極暗褐色	ローム粒子・炭化粒子少量	43 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
25 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量, ローム中ブロック少量	44 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック少量
26 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭化粒子少量	45 褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量
27 黒褐色	ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		

**遺物** 第24号掘立柱建物跡と合わせて、土師器片12点、須恵器片17点が出土している。第427図1の土師器高台付坏は、本跡・第24号掘立柱建物跡P4の覆土中から、2の須恵器坏は、本跡・第24号掘立柱建物跡P9の覆土中からそれぞれ出土している。

**所見** 図示する遺物が本跡と第24号掘立柱建物跡のどちらのものであるか判断はできないが、出土した下限の時期の遺物は9世紀中葉以降のものと考えられる。しかし、本跡より古い第33号掘立柱建物跡が、その下限の時期の遺物から9世紀後葉と考えられるため、本跡の時期はそれ以降と考えらる。また、本跡と第24号掘立柱建物跡は、建て替えの可能性が考えられるため、本跡及び第24号掘立柱建物跡の時期は9世紀後葉以降を中心に想定される。

#### 第24号掘立柱建物跡 (第424・426・427図)

**位置** 調査5区の南西部, G6h2区。

**重複関係** 第33号掘立柱建物跡を掘り込んでおり、第18号溝及び第25・30号掘立柱建物に掘り込まれている。第946号土坑及び第119・120・126・128号ピットと重複しているが、新旧関係は不明である。

**規模** 桁行3間、梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.85m、梁行は4.25mである。柱間寸法は桁行が1.85~2.00m、梁行が1.30~1.50mである。柱穴は、平面形が長径90~140cm、短径74~95cmの楕円形・円形及び隅丸方形、深さが55~82cmである。

**桁行方向** N-80°-W

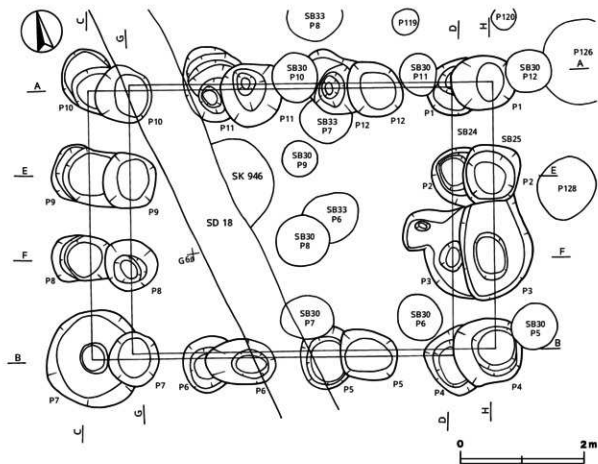
**覆土** 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は、ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土粒子を含む程度に締まった褐色・暗褐色・極暗褐色・黒褐色土である。

#### 土層解説

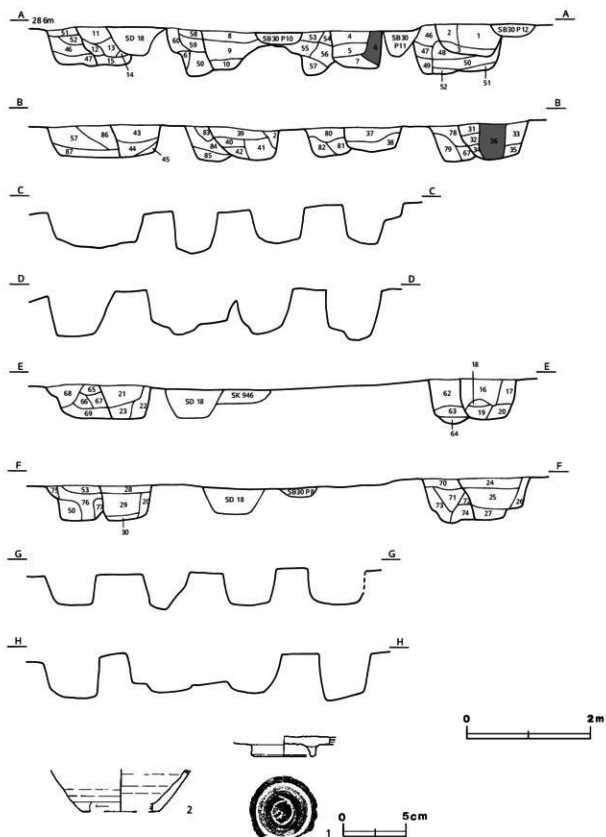
46 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック少量	49 極暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
47 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量	50 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
48 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量		



- |         |   |         |   |
|---------|---|---------|---|
| 51 褐色   | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量                           | 69 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量        |
| 52 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                             | 70 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量                            |
| 53 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量                      | 71 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量        |
| 54 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子微量                  | 72 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量            |
| 55 黒褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム小ブロック微量                      | 73 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量                          |
| 56 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量                           | 74 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量      |
| 57 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                           | 75 褐色   | ローム粒子多量、ローム小ブロック微量                          |
| 58 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量  | 76 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 59 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 77 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量        |
| 60 暗褐色  | ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物微量                  | 78 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量      |
| 61 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量                                 | 79 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量 |
| 62 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                             | 80 暗褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック微量              |
| 63 暗褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量                    | 81 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                 |
| 64 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量                   | 82 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                 |
| 65 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                           | 83 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量                          |
| 66 褐色   | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量                                    | 84 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量            |
| 67 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量                           | 85 極暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量                |
| 68 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量                           | 86 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量            |
|         |   | 87 黒褐色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量                     |



第 426 図 第 24・25号掘立柱建物跡実測図



第 427 図 第 24・25号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

遺物 すべての柱穴が第25号掘立柱建物跡の柱穴とそれぞれ重複しており、遺物は、本跡と第25号掘立柱建物跡と区別できなかった。よって第25号掘立柱建物跡と合わせて、土師器片12点、須恵器片17点が出土している。

所見 本跡と第25号掘立柱建物跡の遺物を分けられなかったため、その帰属は不明である。本跡と第25号掘立柱建物跡は、ほぼ同じ場所にあり、規模や桁行方向が同じことから、建て替えの可能性が考えられる。時期は、本跡より古い第33号掘立柱建物跡が9世紀後葉に位置づけられるため、それ以降と考えられる。

第 24号・第 25号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 cm	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第42図 1	高台付 土 師 器	B 16 D 50 E 09	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ垂下する。	底部内面へう磨き。底部回転へう切り。高台貼り付け後ナデ。内面黒色処理。	長石・石英・雲母・白色粒子。にぶい褐色、普通	P 2523 20
2	環 須 恵 器	B 33 C 62	底部から体部片。平底。体部は重線的外輪して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	長石・雲母 灰黄褐色 普通	P 2524 10%

### 第30号掘立柱建物跡（第424・428図）

位置 調査5区の南西部，G6i3区。

重複関係 第24・25号掘立柱建物跡を掘り込んでおり，第18号溝に掘り込こまれている。第939号土坑及び第126・128・188号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は5.55m，梁行は3.90mである。柱間寸法は桁行が1.80～1.90m，梁行が1.30mである。柱穴は，平面形が長径72～100cm，短径62～82cmの楕円形及び円形，深さが16～48cmである。

桁行方向 N-80°-W

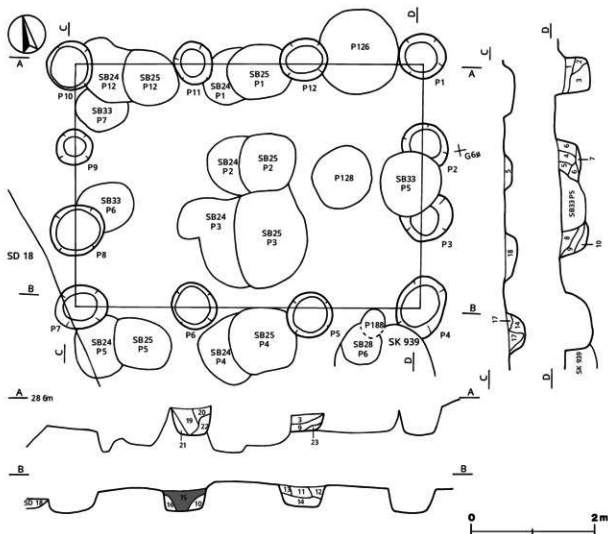
覆土 第15層は柱痕跡に相当する。柱痕跡の土層はロームブロック及びローム粒子・炭化粒子を含む締まりのない暗褐色土である。第10・16層は締まりのある埋土である。第5・14層は締まりのある，第1～4・6～13・17～23層は中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

1	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量	12	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
2	暗褐色	ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	13	褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック微量
3	暗褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	14	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子中量
4	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量	15	暗褐色	炭化粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，ローム粒子・黒色土小ブロック微量	16	褐色	ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
6	暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	17	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
7	暗褐色	ローム大ブロック中量，ローム粒子少量	18	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
8	褐色	ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム小ブロック微量	19	暗褐色	ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量
9	暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，ローム粒子微量	20	暗褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子微量
10	暗褐色	ローム大ブロック・ローム粒子少量	21	褐色	ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量
11	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子微量	22	褐色	ローム小ブロック中量，ローム粒子少量
			23	褐色	ローム中ブロック・ローム粒子，ローム小ブロック少量

遺物 土師器片8点，須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 本跡及び第24・25・33号掘立柱建物跡は，近接して検出され，いずれも桁行3間，梁行3間で，同じ桁行方向を示す東西棟の側柱建物であることから，これら4棟は，比較的近い時期に建て替えが行われた可能性が考えられる。本跡の時期は，出土遺物が細片であり不明であるが，第24・25・33号掘立柱建物跡が9世紀後葉以降に位置づけられることから，それ以後の近い時期を想定することが可能と思われる。



第 428 図 第 30 号掘立柱建物跡実測図

第47号掘立柱建物跡（第429図）

位置 調査3区南西部，G2i7区。

重複関係 第291～294号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行が7.00m，梁行が3.70mである。柱間寸法は桁行が2.20～2.50m，梁行が1.60～2.10mである。柱穴掘り方は，平面形が長径76～69cm，短径47～54cmの楕円形及び円形，深さが20～65cmである。

桁行方向 N-5°-E

覆土 柱痕跡及び埋土は確認されなかった。確認された柱穴覆土は，ロームブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・焼土ブロック・焼土粒子を含む締まりのない褐色・暗褐色・黒褐色土あり，柱抜き取り後の覆土である。

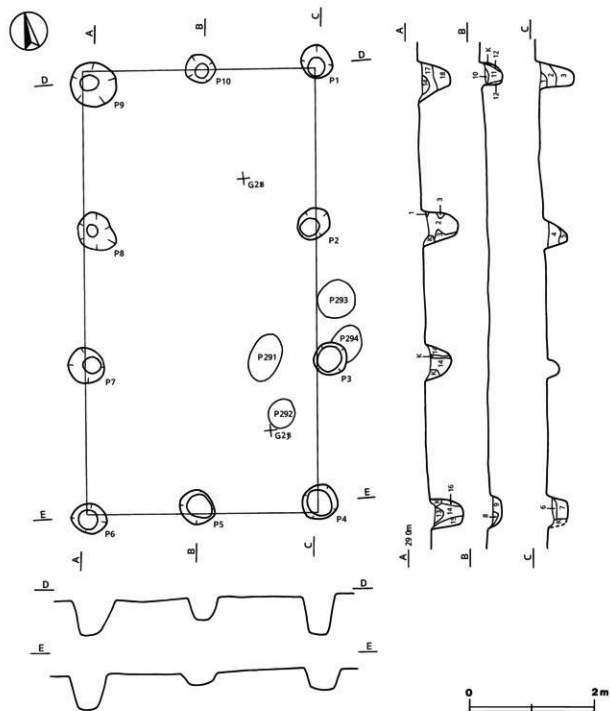
土層解説

- |       |                                     |        |                                  |
|-------|-------------------------------------|--------|----------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック中量，ローム粒子少量，炭化物微量            | 6 暗褐色  | ローム大ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化物少量     | 7 褐色   | 焼土小ブロック微量                        |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 8 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量            |
| 4 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量         | 9 暗褐色  | ローム粒子少量，ローム中ブロック目炭化粒子微量          |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック少量                          | 10 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     |

- |        |                                  |        |   |
|--------|----------------------------------|--------|---|
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量 | 15 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量                   |
| 12 褐色  | ローム中ブロック少量、炭化物微量                 | 16 褐色  | ローム小ブロック少量                                |
| 13 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量     | 17 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |
| 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量     | 18 黒褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化粒子微量        |

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は、遺物が出土していないため不明である。



第 429 図 第 47 号掘立柱建物跡実測図

第46号掘立柱建物跡（第430図）

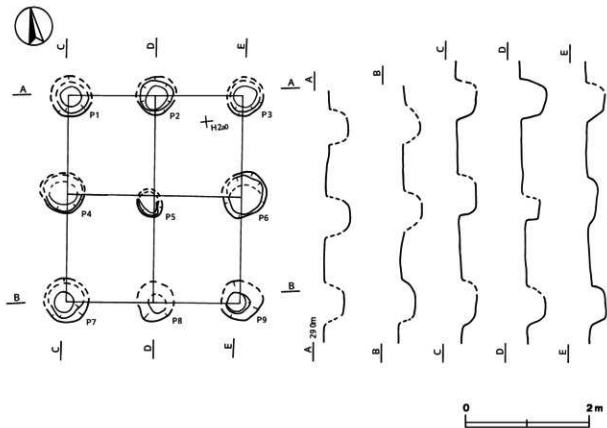
位置 調査3区部，H2a9区。

規模 桁行2間，梁行2間で南北棟の総柱建物跡である。桁行が3.30m，梁行が2.80mである。柱間寸法は桁行が南及び北柱列で北から，1.60m・1.80m，梁行が東及び西柱列で東から，1.30m・1.50mである。柱穴掘り方は，平面形が長径47～72cm，短径39～60cmの楕円形及び円形，深さが16～40cmである。

桁行方向 N-8°-E

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は，遺物が出土していないため不明である。



第 430図 第 46号掘立柱建物跡実測図

第48号掘立柱建物跡（第431図）

位置 調査3区南西部，H2a8区。

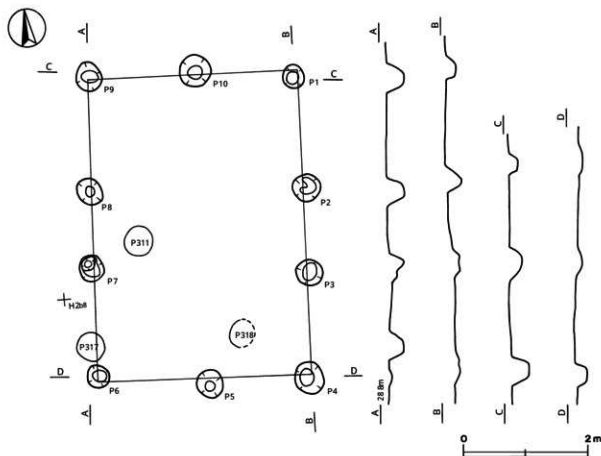
重複関係 第311・317・318号ピットと重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行2間で南北棟の側柱建物跡である。桁行が4.80m，梁行が3.40mである。柱間寸法は桁行が1.20～1.80m，梁行が1.60～1.80mである。柱穴掘り方は，平面形が長径52～55cm，短径35～39cmの楕円形及び円形，深さが7～30cmである。

桁行方向 N-3°-E

遺物 出土していない。

所見 本跡の詳細な時期は，遺物が出土していないため不明である。



第 431 図 第 48 号掘立柱建物跡実測図

第49号掘立柱建物跡（第432図）

位置 調査4区北西部，F3j7区。

重複関係 第790・791・795号土坑と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡である。桁行が6.25m，梁行が4.60mである。柱間寸法は桁行が2.05～2.20m，梁行が1.50～1.60mである。柱穴掘り方は，平面形が長径62～102cm，短径48～70cmの楕円形及び円形，深さが36～73cmである。

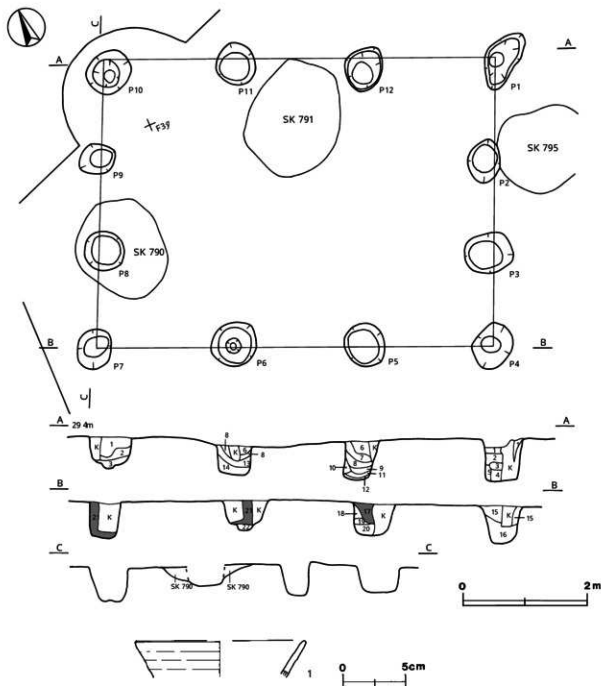
桁行方向 N-67°-W

覆土 第17・21層は柱痕跡に相当する。第18～20・22層は締まりのある埋土である。また，攪乱のため柱痕跡は確認されなかったが，第7～14層は埋土と考えられ，ロームブロック・ローム粒子・焼土ブロック・焼土粒子・炭化粒子及び粘土ブロックを含む，締まりのある暗褐色・黒褐色土の互層をなしている。

土層解説

- |       |  |        |   |
|-------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量        | 6 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量，粘土小ブロック微量                  |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，炭化物少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量   | 7 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量，炭化粒子微量                       | 8 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量                 |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・焼土小ブロック微量 | 9 黒褐色  | ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量，粘土小ブロック微量                   |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック微量                      | 10 暗褐色 | ローム小ブロック多量，ローム粒子中量                                      |

- |        |   |        |  |
|--------|---|--------|--|
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量                               | 17 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, 粘土粒子・炭化粒子微量      |
| 12 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量, ローム粒子少量                              | 18 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量               |
| 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土小ブロック少量, 粘土小ブロック微量           | 19 暗褐色 | ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量 |
| 14 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子微量                         | 20 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量                  |
| 15 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム中ブロック・粘土中ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量 | 21 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック・炭化粒子微量        |
| 16 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量                  | 22 黒褐色 | ローム小ブロック中量, ローム粒子・粘土小ブロック少量                |



第 432 図 第 49 号 掘立柱建物跡・出土遺物実測図



遺物 縄文土器片 2点，土師器13点，須恵器片 6点が出土している。第432図1は須恵器の坏でピットの覆土中から出土している。

所見 本跡の時期は，出土遺物から平安時代（9世紀）と考えられる。

第 49号掘立柱建物跡出土土物観察表

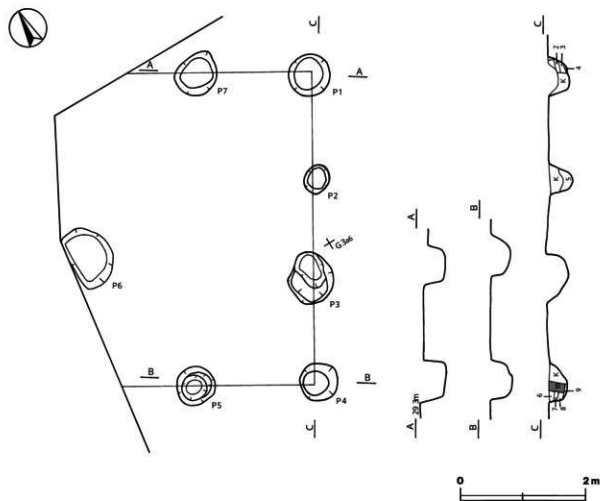
図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第432図 1	坏 須恵器	A 136 B 29	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石 橙色 普通	P 2501 5%

第50号掘立柱建物跡（第433図）

位置 調査4区北西部，F3j6区。

規模 本跡の北西部が調査区外になるため正確な規模は不明であるが，南東側柱列が3間（5.00m），北東側及び南西側柱列が2間以上の側柱建物跡である。柱間寸法は南東側柱列で1.40～1.70m，北東側柱列で1.90m，南東側柱列で1.80mである。柱穴は，平面形が長径47～73cm，短径40～65cmの楕円形及び円形，深さが29～37cmである。

桁行方向 N-59° -W



第 433図 第 50号掘立柱建物跡実測図

**覆土** 第10層は柱痕跡に相当する。第6～9層は締まりのある埋土である。また、P1では攪乱のため柱痕・柱抜き取り痕は確認されなかったが、第1～4層が埋土と考えられ、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子を含む、締まりのある暗褐色土の互層をなしている

**土層解説**

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
3 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	9 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子少量
4 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック中量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土小ブロック・焼土粒子微量
5 暗褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量		
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量		

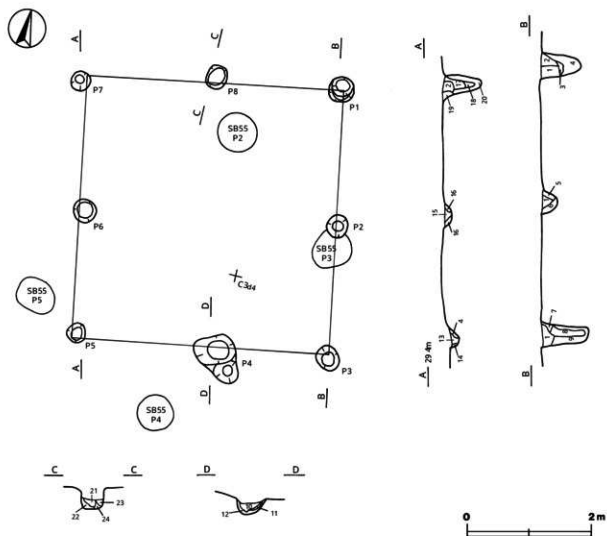
**遺物** 縄文土器片2点、土師器片10点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

**所見** 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明である。

**第53号掘立柱建物跡 (第434・435図)**

**位置** 調査2区の北部、C3c3区。

**重複関係** 第55号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。



第434図 第53号掘立柱建物跡実測図

規模 桁行2間，梁行2間であり，南北棟の側柱建物跡である。桁行は4.19m，梁行は4.13mである。柱間寸法は，桁行が2.03～2.15m，梁行が，2.03～2.10mである。柱穴は，平面形が長径31～78cm，短径28～50cmの楕円形及び円形，深さは10～76cmである。

桁行方向 N-11° -W

覆土 第1～11，13～21，23・24層は不規則な堆積状況を示し，中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。第12・22層は締まりのある埋土である。

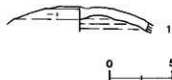
土層解説

- |        |                              |         |                              |
|--------|------------------------------|---------|------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量             | 13 暗褐色  | ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子少量      |
| 2 暗褐色  | ローム小ブロック少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量 | 14 褐色   | ローム大ブロック・ローム粒子少量             |
| 3 暗褐色  | ローム小ブロック中量，ローム粒子少量           | 15 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量             |
| 4 暗褐色  | ローム粒子少量，炭化粒子少量               | 16 褐色   | ローム粒子中量，ローム中ブロック少量           |
| 5 暗褐色  | ローム粒子少量                      | 17 暗褐色  | ローム粒子少量，炭化粒子少量               |
| 6 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子少量 | 18 褐色   | ローム粒子少量                      |
| 7 褐色   | ローム粒子多量，ローム小ブロック少量           | 19 暗褐色  | ローム粒子中量，ローム中ブロック・炭化粒子少量      |
| 8 暗褐色  | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子少量      | 20 暗褐色  | ローム粒子少量                      |
| 9 暗褐色  | ローム粒子中量                      | 21 黒褐色  | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 10 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量                 | 22 極暗褐色 | ローム小ブロック少量                   |
| 11 暗褐色 | ローム粒子少量                      | 23 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量             |
| 12 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子少量      | 24 暗褐色  | ローム粒子中量                      |

遺物 須恵器1点が出土している。第435図1の須恵器蓋

はP7の覆土中から出土している。

所見 時期は，出土土器から8世紀代と考えられる。



第435図 第53号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第53号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第435図1	須恵器蓋	B 19	天井部片。天井部は伏せ皿状。	天井部回転ヘリ削り。	緑・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P7161 19%

第54号掘立柱建物跡 (第436・437図)

位置 調査2区の北部，C3i3区。

重複関係 第158号住居跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間，梁行2間で東西棟の側柱建物跡である。桁行は，3.70m，梁行は，3.65mである。柱間寸法は桁行が1.73～1.97m，梁行が1.76～1.86mである。柱穴は，平面形が長径28～54cm，短径12～32cmの楕円形及び円形，深さが18～54cmである。

桁行方向 N-79° -W

覆土 第1・6・9～11層は柱抜き取り後の覆土である。第2～5，7・8層は締まりのある埋土である。

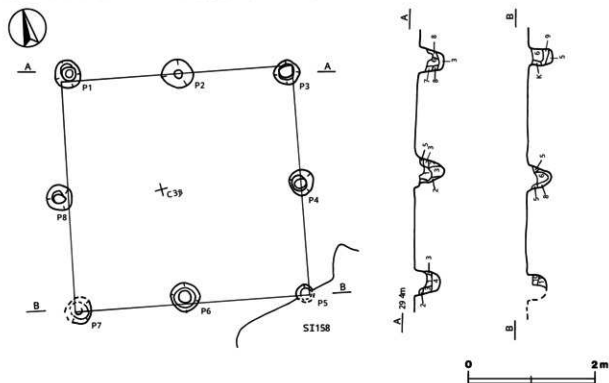
土層解説

- |       |                    |        |                  |
|-------|--------------------|--------|------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子少量     | 7 黒褐色  | ローム粒子・ローム小ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量 | 8 黒褐色  | ローム粒子少量          |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量            | 9 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量   | 10 黒褐色 | ローム粒子少量，炭化粒子少量   |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック少量 | 11 黒褐色 | ローム粒子・炭化粒子少量     |
| 6 黒褐色 | ローム粒子・ローム小ブロック少量   |        |                  |

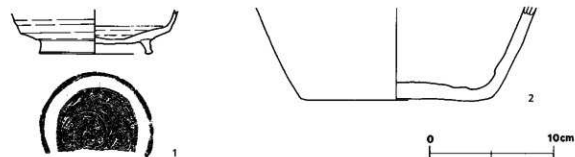
遺物 須恵器片2点が出土している。第437図1の須恵器蓋はP2，2の須恵器蓋はP4のそれぞれ覆土中か

ら出土している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後葉と考えられる。



第 436図 第 54号掘立柱建物跡実測図



第 437図 第 54号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 54号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 43 図 1	高台付環須恵器	B 34	高台部から体部にかけての破片。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	磯・長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 7162 40% PL67
		D 89	高台はふんばる。体部は下位に接			
		E 11	を有し、外傾して立ち上がる。			
2	須恵器	B 73	底部から体部下端にかけての破片。	体部下端横位のヘラ削り、内面ナデ。底部調整不明。	磯・長石・石英・雲母 灰色、普通	P 7163 10%
		C 152	平底。体部は外傾して立ち上がる。			

第56号掘立柱建物跡（第438・439図）

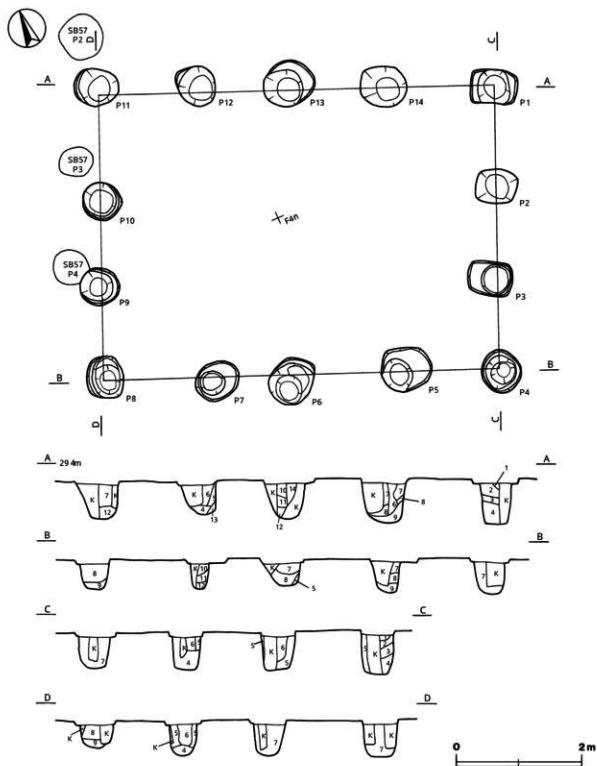
位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F3e0区。

重複関係 第57号掘立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行4間，梁行3間で東西棟の側柱建物跡と考えられる。桁行6.33m，梁行4.50mである。桁行は，P

6・P7間が1.40m、P12・P13間が1.43mとやや狭く、また、梁行においてP10・P11間が1.78mとやや広くなっている。それ以外の柱間寸法は、桁行が1.60～1.82m、梁行が1.36～1.57mである。柱穴は、平面形が長径62～84cm、短径52～80cmの楕円形及び円形、深さが50～70cmである。

桁行方向 N-68°-W



第 438 図 第 56 号 独立柱建物跡実測図

覆土 P8の8・9層は、レンズ状の堆積状況を示し、しまりがない柱抜き取り後の覆土である。他の柱穴においては、擾乱のため堆積状況の全容は不明であるが、第1～3、14層は中程度のしまりがある、第4～8、

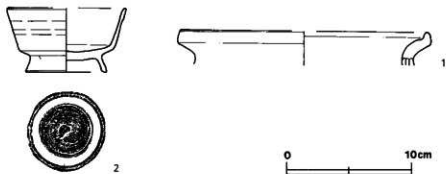
10～13層はしまりがなく柱抜き取り後の覆土と考えられる。

土層解説

- |       |  |        |   |
|-------|--|--------|---|
| 1 黒褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック少量              | 8 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量       |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量、堆土粒子・炭化粒子少量 | 9 黒褐色  | ローム大ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・粘土小ブロック少量       |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量                  | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量      |
| 4 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土粒子少量     | 11 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量               |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土粒子少量            | 12 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量               |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量     | 13 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量             |
| 7 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土粒子少量                     | 14 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量、粘土大ブロック少量 |

遺物 土師器1点、須恵器1点が出土している。第439図1の土師器甕はP11、2の須恵器高台付杯はP13のそれぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から9世紀前葉と考えられる。



第439図 第56号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第56号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第439図 1	土師器 甕	A 197 B 26	口縁部片。口縁部は上方につまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	礫・長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色、普通	P 7164 5%
2	高台付杯 須恵器	A 94 B 50 D 64 E 13	高台部から口縁部にかけての破片。高台は八の字状に開く。体部は下部に横を有し、外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。	礫・長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P 7165 4% PL67

第57号掘立柱建物跡 (第440図)

位置 調査2区、台地の南部縁辺部、F3d0区。

重複関係 第56・60号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行3間、梁行2間で南北棟の側柱建物跡と考えられる。桁行5.62m、梁行3.60mである。柱間寸法は桁行が1.74～1.95m、梁行が1.65～1.95mである。柱穴は、平面形が長径25～72cm、短径25～66cmの楕円形及び円形、深さが7～37cmである。

桁行方向 N-27° - E

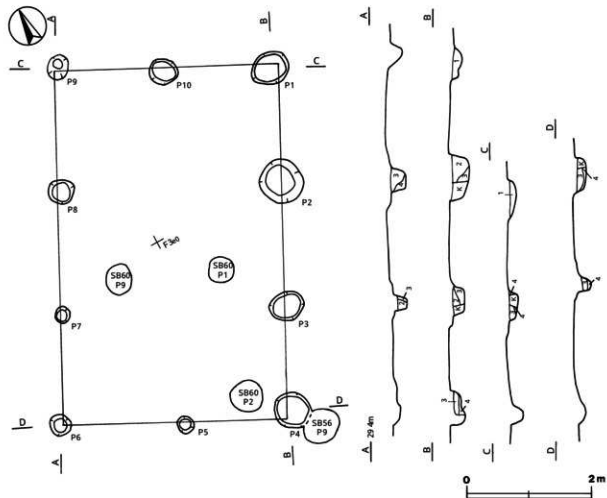
覆土 すべてレンズ状及び不規則な堆積状況を示し、しまりのない柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |       |                                |       |                               |
|-------|--------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量             | 3 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子少量 | 4 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量     |

遺物 土師器片1点、須恵器片1点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明であるが、土師器片及び須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第 440 図 第 57号掘立柱建物跡実測図

第58号掘立柱建物跡（第441図）

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F3f7区。

重複関係 第24号溝と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行は南側柱列で3間，北側柱列で3間，梁行は東側柱列で2間，西側柱列で1間であり，東西棟の掘立柱建物跡と考えられる。桁行は5.13m，梁行は4.08mである。柱間寸法は桁行が2.03～2.05m，梁行が1.56～1.81mである。柱穴は，平面形が長径28～72cm，短径32～74cmの楕円形，深さが8～34cmである。

桁行方向 N-68°-W

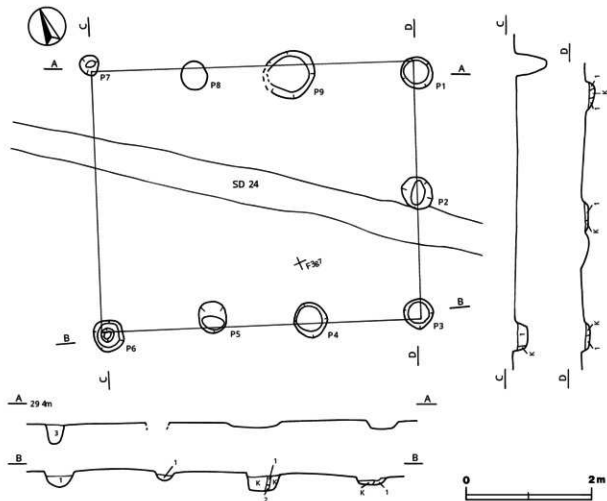
覆土 すべてしまりのない柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |       |                             |       |                           |
|-------|-----------------------------|-------|---------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量          | 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック中量，ローム中ブロック・ローム粒子少量 |       |                           |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。しかし、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向が、本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとはほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。



第 441 図 第 58 号掘立柱建物跡実測図

第59号掘立柱建物跡（第442図）

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F3d7区。

規模 桁行3間、梁行2間であり、東西棟の側柱建物跡である。桁行は4.95m、梁行は3.97mである。桁行はP4・P5間が1.47m、P1・P10間が1.35mとやや狭くなっている。それ以外の柱間寸法は、桁行きが1.68～1.82m、梁行きが1.86～2.09mである。柱穴は、平面形が長径37～86cm、短径31～48cmの楕円形及び長楕円形、深さが22～52cmである。

桁行方向 N-69° -W

覆土 第5・16層は締まりのある埋土、第4・9・12・15・17層は中程度にしまり、第1～3、6～8、10・11、13・14層はしまりのない不規則な堆積状況を示していることから柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

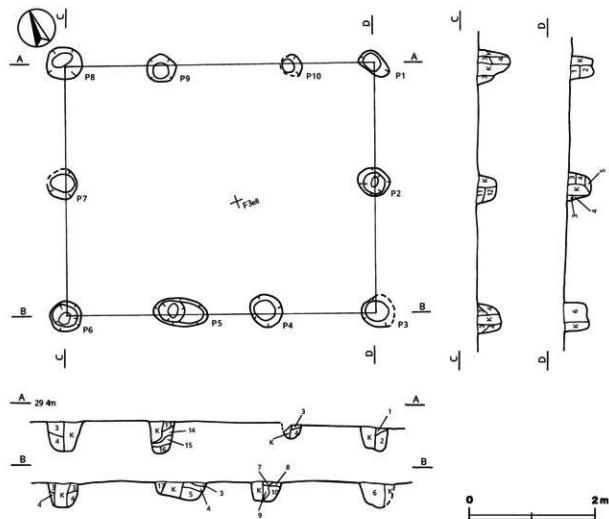
- |   |     |  |   |     |                               |
|---|-----|--|---|-----|-------------------------------|
| 1 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子少量 | 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量、粘土小ブロック少量、ローム中ブロック少量 | 4 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量            |



- |        |   |        |                                      |
|--------|---|--------|--------------------------------------|
| 5 黒褐色  | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量                | 12 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量, ローム中ブロック少量 |
| 6 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量, 粘土小ブロック少量            | 13 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量         |
| 7 黒褐色  | ローム粒子・粘土粒子少量                                | 14 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化粒子少量             |
| 8 黒褐色  | ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量   | 15 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土粒子少量, ローム大ブロック少量 |
| 9 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量                            | 16 暗褐色 | ローム大ブロック中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量      |
| 10 黒褐色 | 粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム粒子少量, ローム小ブロック・粘土中ブロック少量 | 17 暗褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量         |
| 11 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 粘土粒子少量                 |        |                                      |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 詳細な時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとはほぼ同じであることから, 本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。



第 442図 第 59号掘立柱建物跡実測図

#### 第60号掘立柱建物跡 (第443図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, F3e9区。

重複関係 第57号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 南側柱列で南西コーナーの柱穴1か所, 北側柱列の柱穴1か所が確認されなかったが, 配列から, 桁行3間, 梁行2間の東西棟で, 側柱建物跡と考えられる。桁行は5.12m, 梁行は4.11m, 柱間寸法は桁行が1.64

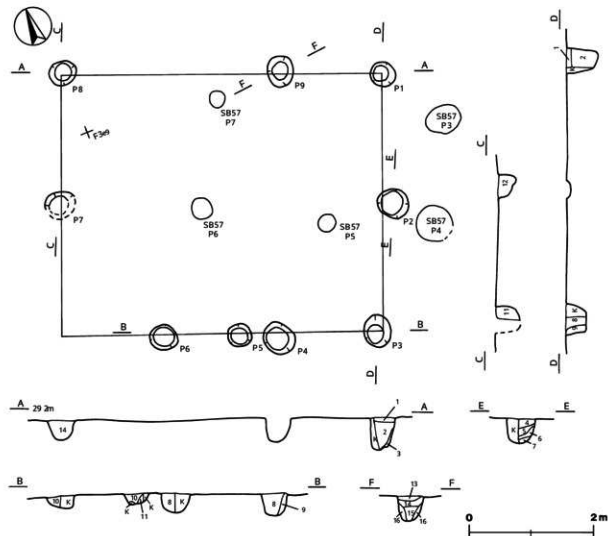
～1.80m, 梁行が2.00～2.11mである。柱穴は、平面形が長径38～55cm, 短径36～46cmの楕円形及び円形, 深さが17～50cmである。

桁行方向 N-69°-W

覆土 第7層は締まりのある埋土, 第1～6, 8～16層は柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |       |  |        |   |
|-------|--|--------|---|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量              | 9 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土小ブロック少量              |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土小ブロック少量     | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量                                  |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 | 11 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子中量, ローム中ブロック少量      |
| 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量          | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子少量, ローム中ブロック・炭土粒子微量 |
| 5 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック少量    | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 炭化物微量                           |
| 6 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量             | 14 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック微量                      |
| 7 黒褐色 | ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量                   | 15 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック微量                               |
| 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子少量, 炭化物微量     | 16 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量                      |



第 443図 第 60号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 詳細な時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立

柱建物跡らのそれとはほぼ同じであることから、本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。

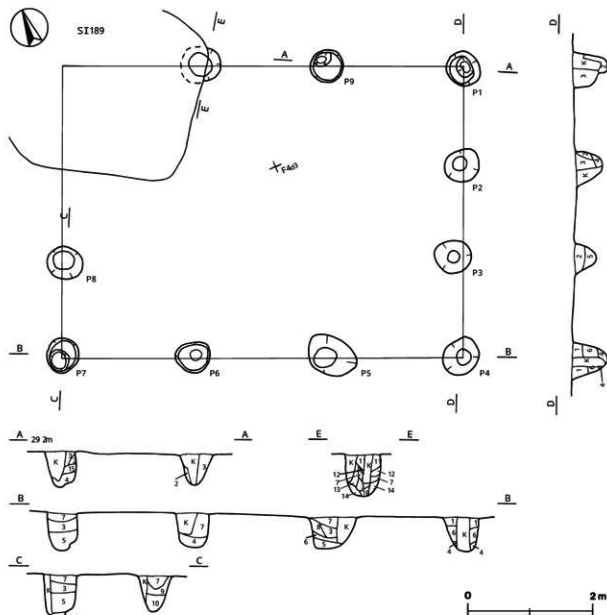
#### 第61号掘立柱建物跡 (第444図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, F4c2区。

重複関係 第189号住居跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北側柱列で北西コーナーの柱穴1か所が確認されなかったが、配列から、桁行3間、梁行3間の東西棟で、側柱建物跡と考えられる。桁行は6.42m、梁行は4.62m、柱間寸法は桁行が2.02~2.19m、梁行が1.50~1.56mである。柱穴は、平面形が長径50~80cm、短径49~60cmの橢円形及び円形、深さが36~68cmである。

桁行方向 N-68°-W



第444図 第61号掘立柱建物跡実測図

覆土 第4・5層は締まりのある埋土, 第1~3, 6~15層は柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

- |   |     |   |    |     |                                      |
|---|-----|---|----|-----|--------------------------------------|
| 3 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘土粒子少量、焼土粒子微量                  | 10 | 黒褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量   |
| 4 | 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量                               | 11 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、粘土粒子少量、焼土小ブロック微量    |
| 5 | 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量                                     | 12 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量          |
| 6 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量  | 13 | 黒褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土粒子少量   |
| 7 | 黒褐色 | 粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・粘土小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子微量 | 14 | 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量                |
| 8 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量、粘土小ブロック微量                         | 15 | 黒褐色 | ローム小ブロック・粘土粒子中量、ローム中ブロック少量、粘土中ブロック微量 |
| 9 | 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・粘土粒子少量                     |    |     |                                      |

遺物 土師器片 5点、須恵器片 3点が出土している。いずれも細片であり、図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向がそれらとほぼ同じであること、土師器片及び須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。

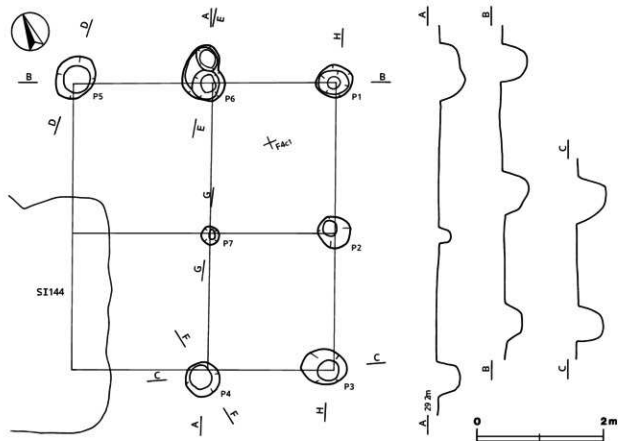
### 第62号掘立柱建物跡（第445・446図）

位置 調査2区、台地南部の縁辺部、F3c0区。

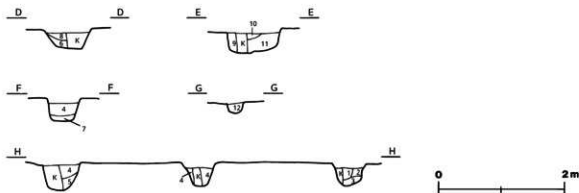
重複関係 第144号住居と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 西側柱列で柱穴2か所が確認されなかったが、配列から、桁行2間、梁行2間の南北棟で、総柱建物跡と考えられる。桁行は4.57m、梁行は4.17m、柱間寸法は桁行が2.27～2.29m、梁行が2.04～2.12mである。柱穴は、平面形が長径30～85cm、短径27～69cmの不整楕円形、楕円形及び円形で、深さが19～45cmである。

桁行方向 N-23°-E



第 445 図 第 62 号掘立柱建物跡実測図（1）



第 446 図 第 62 号掘立柱建物跡実測図 ( 2 )

覆土 第 1～7, 9～12 層は柱抜き取り後の覆土である。第 8 層は締まりのある埋土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量	7 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
2 暗褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック少量	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子少量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量	9 黒褐色	ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, ローム中ブロック微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, ローム中ブロック微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	11 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	12 黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム中ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 詳細な時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと, また, 梁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとはほぼ同じであることから, 本跡も奈良・平安時代の可能性が考えられる。

第 63 号掘立柱建物跡 ( 第 447 図 )

位置 調査 2 区, 台地南部の縁辺部, E319 区。

規模 桁行 4 間, 梁行 3 間の東西棟で, 側柱建物跡である。桁行は 6.48m, 梁行は 4.74m, 柱間寸法は桁行が 1.49～1.76cm, 梁行が 1.51～1.60cm である。柱穴は, 平面形が長径 41～63cm, 短径 34～57cm の楕円形及び円形, 深さが 26～58cm である。

桁行方向 N-74° -W

覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

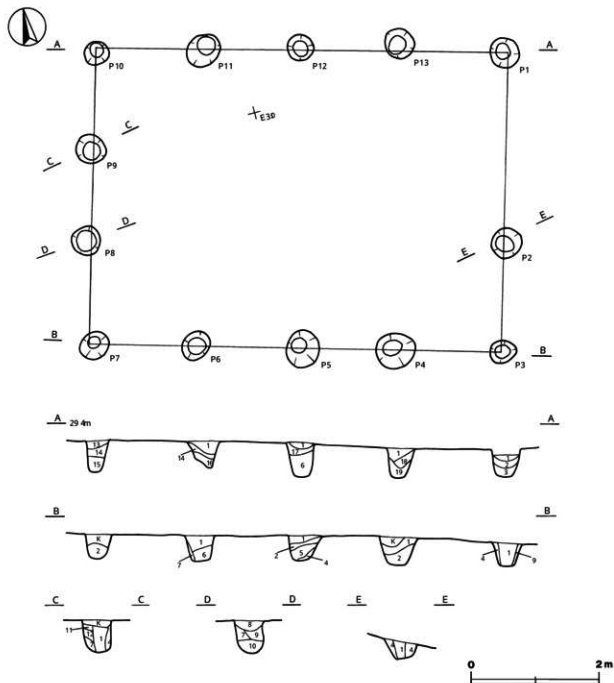
土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子少量, 焼土小ブロック・粘土中ブロック微量	9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量, 粘土大ブロック微量
2 黒褐色	ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・粘土中ブロック微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量
3 黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック・粘土粒子少量, 粘土小ブロック微量	11 黒褐色	ローム粒子多量, ローム小ブロック中量, ローム大ブロック・焼土小ブロック微量
4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土中ブロック微量	12 暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 粘土小ブロック微量	13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック・粘土粒子微量
6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土小ブロック・粘土中ブロック微量	14 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, 焼土小ブロック微量
7 暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム中量, ローム中ブロック少量	15 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量
8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子中量, 粘土小ブロック少量, 粘土中ブロック・粘土大ブロック・粘土中ブロック微量	16 黒褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック少量

- 17 黒褐色 ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、粘土小ブロック・粘土粒子少量、ローム中ブロック・焼土小ブロック微量  
 18 暗褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量  
 19 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム大ブロック微量

遺物 須恵器片1点が出土しているが、細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり、詳細な時期は不明であるが、掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと、また、桁行方向がそれらと近いこと、須恵器片が出土していることから、奈良・平安時代と考えられる。



第 447 図 第 63 号 掘立柱建物跡実測図

第64号据立柱建物跡（第448～450図）

位置 調査2区，台地南部の縁辺部，F4a3区。

重複関係 第65号据立柱建物跡と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

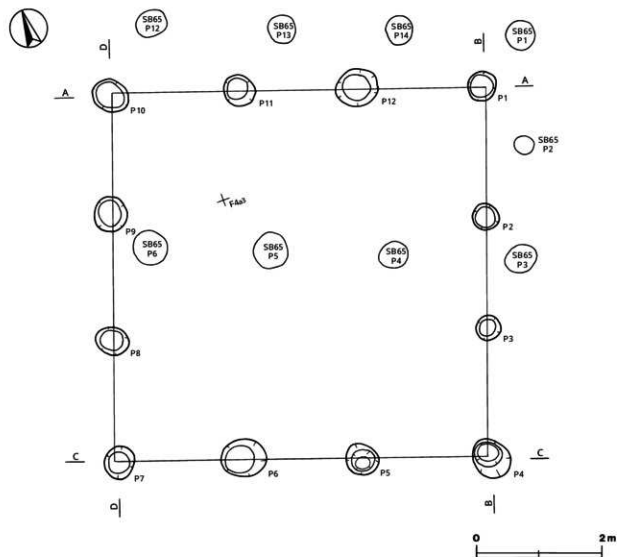
規模 桁行3間，梁行3間の東西棟で，側柱建物跡である。桁行は5.91m，梁行は5.88m，柱間寸法は桁行が1.90～2.03cm，梁行が1.74～2.09cmである。柱穴は，平面形が長径40～70cm，短径38～59cmの楕円形及び円形，深さが9～54cmである。

桁行方向 N-71°-W

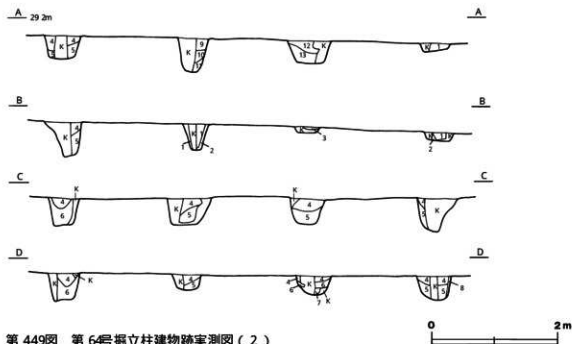
覆土 第1～7，9～13層は柱抜き取り後の覆土である。第8層はしまりのある埋土である。

土層解説

- |       |   |        |                                      |
|-------|---|--------|--------------------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量                        | 8 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量           | 9 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量         |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量             | 10 黒褐色 | ローム粒子中量，焼土粒子微量                       |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土小ブロック微量              | 11 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量          |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量             | 12 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量          |
| 6 褐色  | ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土小ブロック微量 | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，焼土粒子微量   |
| 7 黒褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック少量                      |        |                                      |

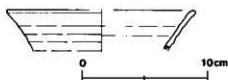


第 448 図 第 64 号 据 立 柱 建 物 跡 実 測 図 ( 1 )



第 449図 第 64号掘立柱建物跡実測図 ( 2 )

遺物 土師器 4, 須恵器片 7 点が出土している。第 449図 1 の須恵器坏は P 11 の覆土中から出土している。  
 所見 時期は, 出土土器から, 9 世紀代と考えられる。



第 450図 第 64号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第 64号掘立柱建物跡出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値 cm	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 450図 1	坏 須 恵 器	A 147 B 32	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり, 口縁 部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナ ズ。	緑・長石 灰オリブ色 普通	P 7166 5%

### 第65号掘立柱建物跡 (第451図)

位置 調査 2 区, 台地南部の縁辺部, E4j2区。

重複関係 第64号掘立柱建物跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行 5 間, 梁行 2 間の東西棟で, 側柱建物跡である。桁行は 9.62m, 梁行は 3.47m, 柱間寸法は桁行が 1.80~2.02cm, 梁行が 1.67~1.80cm である。柱穴は, 平面形が長径 25~50cm, 短径 25~45cm の楕円形及び円形, 深さが 14~44cm である。

桁行方向 N-68°-W

覆土 すべて柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

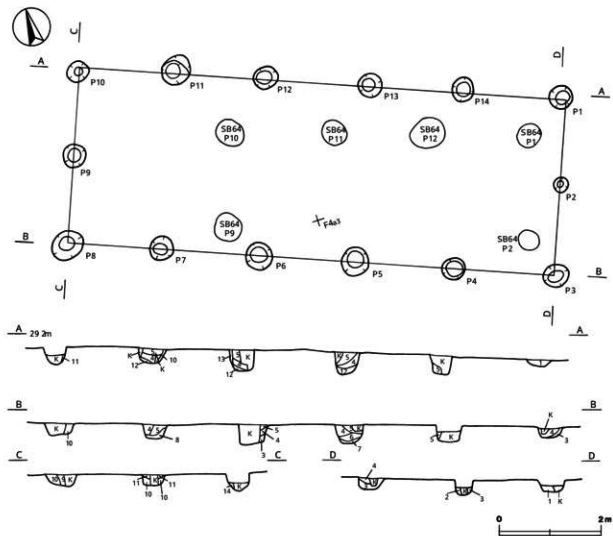
1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量	7	黒褐色	ローム小ブロック少量, ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
2	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	8	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量
3	暗褐色	ローム小ブロック多量, ローム粒子中量, ローム中ブロック少量	9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子微量
4	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微量	10	黒褐色	ローム小ブロック多量, ローム中ブロック・ローム粒子中量, 炭化物微量
5	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土粒子微量	11	暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
6	黒褐色	ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量	12	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量



13 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少 14 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 須恵器片1点が出土しているが, 細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 時期は不明であるが, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査5区に近い調査2区の南部で検出されたこと, また, 桁行方向がそれらとほぼ同じであること, 須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。



第 451図 第 65号掘立柱建物跡実測図

#### 第66号掘立柱建物跡 (第452図)

位置 調査2区, 台地南部の縁辺部, F3c6区。

規模 西側柱列で柱穴1か所が確認できなかったが, 桁行2間, 梁行2間の南北棟で, 側柱建物跡と考えられる。桁行は4.11m, 梁行は3.67m, 柱間寸法は桁行が2.03・2.05cm, 梁行が1.52~1.91cmである。柱穴は, 平面形が長径52~100cm, 短径44~74cmの楕円形及び円形, 深さが15~50cmである。

桁行方向 N-20°-E

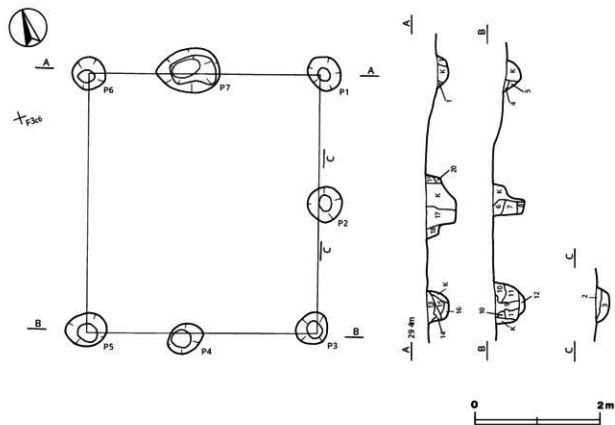
覆土 第1~17, 19・20層は柱抜き取り後の覆土である。第18層はしまりのある埋土である。

土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量,ローム中ブロック少量	11 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量,炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量,焼土粒子・炭化物微量	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量	13 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量,焼土粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子少量,焼土粒子・炭化粒子微量	14 暗褐色	ローム小ブロック多量,ローム粒子中量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量,ローム中ブロック微量	15 暗褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,炭化粒子微量
6 黒褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,焼土粒子微量	16 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量
7 黒褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,焼土粒子・炭化粒子微量	17 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量,焼土粒子・炭化粒子微量
8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量	18 暗褐色	ローム粒子中量,ローム小ブロック少量,焼土粒子微量
9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量,焼土粒子・炭化物微量	19 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量,粘土小ブロック少量,ローム中ブロック・炭化物微量
10 暗褐色	ローム中ブロック多量,ローム小ブロック・ローム粒子中量	20 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量

遺物 土師器片 3 点, 須恵器片 1 点が出土しているが, 細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり, 時期は不明である。しかし, 掘立柱建物跡が集中して検出された調査 5 区に近い調査 2 区の南部で検出されたこと, また, 梁行方向が, 本跡付近の奈良・平安時代と考えられる掘立柱建物跡らのそれとはほぼ同じであること, 須恵器片が出土していることから, 奈良・平安時代と考えられる。



第 452 図 第 66 号掘立柱建物跡実測図

表 3 獨立柱建物跡一覽表

獨立柱 建物跡 番 號	位 置	桁 架 方 向	桁 架 間	規 模 m	構 造	桁行柱間 m	縱行柱間 m	柱 穴 cm				新 旧 間 隔 日 新	亮 照 番 號
								平 面 形	長 徑	短 徑	深 寸		
1	H6c5	N-1-E	4 2	7.42 4.55	南北棟・側柱・ 一層瓦	160-220	200-250	橢圓形・円形	85-115	75-104	48-75	SD16 本跡, SD22 之遺構	SB5001
2	G7c2	N-3-W	3 2	4.65 3.35	南北棟・側柱	130-170	150-170	橢圓形・円形	60-70	65-75	30-50		SB5002
3	G6a9	N-11-E	3 2	3.75 3.10	東西棟・側柱	100-195	145-160	橢圓形・円形	45-60	40-50	26-55	SD26 本跡	SB5003
4	F6h5	N-21-E	3 3	5.20 4.50	南北棟・側柱	150-200	130-190	橢圓形・円形	70-125	65-100	50-70	本跡 SD 17, SB6 之遺構	SB5004
5	F6j5	N-14-W	2 1	7.25 2.85	南北棟・側柱	350-400	285	橢圓形・円形	95-115	85-90	25-36	SD21 本跡, SB8 之遺構	SB5005
6	F6h5	N-14-W	3 2	6.80 3.50	南北棟・側柱	180-260	150-210	橢圓形・円形	35-100	65-90	25-70	本跡 SD 17, SB4 之遺構	SB5006
7	G6E	N-6-W	3 2	5.40 4.05	南北棟・側柱	140-220	180-205	橢圓形・円形	80-132	80-100	63-85		SB5007
8	G6a3	N-11-W	2 2	3.00 3.50	・側柱	160-190	140-160	橢圓形・円形	75-95	65-77	50-65	SD21 本跡, SB5 之遺構	SB5008
9	H6a6	N-81-W	2 2	4.10 2.85	東西棟・側柱	180-215	125-160	橢圓形・円形	52-100	52-80	23-70	SB27 本跡	SB5009
10	F5B	N-8-E	4 3	7.65 4.65	東西棟・側柱	175-225	140-165	橢圓形・円形・ 隅丸方形	75-138	75-122	41-64	SD32・135c之遺構	SB5010
11	H6c3	N-87-W	5 3	7.55 5.60	東西棟・側柱	140-180	160-220	橢圓形・円形	65-118	53-105	65-95	SD16 本跡, SB38 之遺構	SB5011
12	G3b9	N-86-W	3 2	6.35 5.00	東西棟・側柱・ 二層瓦	190-235	240-250	橢圓形・円形	85-125	73-112	35-75	SD29 本跡, SB14・ 36・37c之遺構	SB5012
13	G6e6	N-16-W	2 1	5.80 2.80	南北棟・側柱	270-310	2.80	橢圓形・円形	115-140	100-120	16-74		SB5014
14	G5c0	N-89-W	-	-	・側柱・ 一層瓦	2.40	2.20	橢圓形・円形	123-137	112-130	36-42	SB12・36c之遺構	SB5015
15	G6c3	N-85-W	-	-	東西棟・側柱	2.00	1.75	円形	70-80	-	20-52	SB16 本跡	SB5016
16	G6c3	N-80-W	2 2	-	東西棟・側柱	2.35-2.30	2.05-2.00	橢圓形・円形	50-92	48-65	20-38	本跡 SB15	SB5017
17	G7b7	N-5-E	2 2	-	東西棟・側柱	2.25-2.30	2.15-1.85	橢圓形・円形	94-112	82-95	48-66		SB5018
18	G5c7	N-86-W	2 2	3.95 3.90	東西棟・側柱	190-205	160-230	橢圓形・円形	50-95	40-80	50-60	SB41 本跡	SB5019
19	G6d1	N-85-W	5 2	8.85 3.80	東西棟・側柱	155-225	180-200	橢圓形・円形	45-73	38-72	10-48	SB22・26c之遺構	SB5020
20	G6e2	N-84-W	3 2	5.45 4.40	東西棟・側柱	170-200	205-235	橢圓形・円形・ 隅丸方形	52-100	45-88	21-57	SD23 本跡	SB5021
21	G5e7	N-8-E	3 2	4.35 4.00	南北棟・側柱	130-165	160-240	橢圓形・円形	83-95	62-82	10-47	SD40 本跡, SB31, SB32之遺構	SB5022
22	G6d1	N-62-W	2 2	6.95 4.05	東西棟・側柱	150-205	200-205	橢圓形・円形	65-85	65-74	25-54	SD25 本跡, SB19 之遺構	SB5023
23	G3h0	N-80-W	3 2	6.35 3.20	東西棟・側柱	190-205	130-140	橢圓形・円形	80-102	75-100	50-66	本跡 SD27	SB5024
24	G6h2	N-80-W	3 3	5.85 4.25	東西棟・側柱	185-200	130-150	橢圓形・円形・ 隅丸方形	90-140	74-95	55-82	SB33 本跡, SB25・ 30	SB5025
25	G6h2	N-80-W	3 3	5.85 4.25	東西棟・側柱	185-200	130-150	橢圓形・円形・ 隅丸方形	83-115	70-118	58-72	SB24・33 本跡, S B30	SB5026
26	G6d1	N-75-W	2 2	5.20 4.15	東西棟・側柱	170-240	205-210	橢圓形・円形	70-105	70-95	20-43	本跡 SD22, SB19 之遺構	SB5027
27	H6a5	N-3-E	3 2	6.15 3.50	東西棟・側柱	180-225	170-180	橢圓形・円形	66-84	62-72	28-70	SD22 本跡 SB9	SB5028
28	G6j5	N-79-W	3 2	3.60 4.45	東西棟・側柱	130-160	160-170	橢圓形・円形	70-95	55-75	40-62	本跡 SB43	SB5029
29	G5j5	N-84-W	3 2	5.35 4.05	東西棟・側柱・ 二層瓦	160-210	190-215	橢圓形・円形	46-115	38-95	42-55	本跡 SD32, SB44・ 47之遺構	SB5030
30	G6B	N-80-W	3 3	5.55 3.90	東西棟・側柱	180-190	1.3	橢圓形・円形	72-100	62-82	16-48	SB24・25 本跡	SB5031
31	G5e6	N-85-W	3 2	5.60 4.10	東西棟・側柱	180-200	190-220	橢圓形・円形	75-105	65-92	41-80	SD21・35・40 本 跡, SB39	SB5032
32	G5j5	N-82-W	5 3	8.35 5.00	東西棟・側柱	145-185	160-170	橢圓形・円形	50-115	50-92	20-70	SB29・45 本跡, S B44c之遺構	SB5038
33	G6h3	N-80-W	3 3	6.80 4.70	東西棟・側柱	210-310	140-180	橢圓形・円形・ 隅丸方形	76-104	63-98	32-52	本跡 SD24・25・3 之遺構	SB5039
34	H6a3	N-82-W	2 3	3.40 3.80	東西棟・側柱	170-180	125-130	橢圓形・円形	55-90	43-88	38-87	SD22c之遺構	SB5040
35	G5i6	N-88-W	3 2	5.30 3.80	東西棟・側柱	150-190	190-195	橢圓形・円形	46-70	40-48	45-74	本跡 SD31, SB21, SD31c之遺構	SB5042
36	G5c9	N-85-W	2 2	3.95 3.30	東西棟・側柱	170-225	150-180	橢圓形・円形	40-66	35-60	20-69	SD12・14・37c之遺 構	SB5043
37	G5c9	N-1-E	3 2	5.50 4.10	南北棟・側柱	150-210	185-220	橢圓形・円形	45-95	45-60	50-78	SD12・14・36c之遺 構	SB5044
38	H6c3	N-80-W	2 1	5.25 3.60	東西棟・側柱	160-200	200	橢圓形・円形	85-108	70-103	58-65	SD17c之遺構	SB5045
39	G5e6	N-85-W	2 2	3.15 3.10	東西棟・側柱	155-160	155	橢圓形・円形	50-60	45-52	40-70	SB31 本跡	SB5046
40	G5e8	N-85-W	2 2	3.70 2.95	東西棟・側柱	1.85	140-150	橢圓形	50-78	45-52	45-91	本跡 SB21, 31	SB5047
41	G5c5	N-84-W	3 3	5.95 4.30	東西棟・側柱	190-205	140-150	橢圓形・円形	54-84	45-65	55-110	本跡 SB18	SB5048
42	G6j5	N-81-W	3 2	4.45 3.60	東西棟・側柱	130-170	170-190	橢圓形・円形	60-105	60-80	23-50	SB43 本跡	SB5049
43	G6j5	N-80-W	3 2	4.70 3.70	東西棟・側柱	180-190	150-180	橢圓形・円形	80-115	62-100	16-45	SB28 本跡 SB42	SB5050
44	G5j5	N-82-W	4 2	7.55 5.14	東西棟・側柱	175-200	260-280	橢圓形・円形	40-100	40-50	24-46	SD29・32・45c之遺 構	SB5053

竪立柱 建物跡 番号	位置	桁行方向	桁 間	規模 m	構 造	桁行柱間 m	梁行柱間 m	柱 穴 cm				新 旧 関 係 本跡 SB32, SB29- 44c 覆裡	発露番号		
								平 面 形	長 径	短 径	深 さ				
45	G57	N-85-W	3	3	560	480	東西棟・側柱	180-190	140-180	楕円形・円形	48-63	43-54	36-68		SB5054
46	H2a9	N-8-E	2	2	330	280	南北棟・総柱	160-180	130-150	楕円形・円形	47-72	39-60	16-40		SB3001
47	G22	N-5-E	3	2	700	370	南北棟・側柱	220-250	160-210	楕円形・円形	76-69	47-54	20-65		SB3002
48	H2a8	N-3-E	3	2	480	340	南北棟・側柱	120-180	160-180	楕円形・円形	52-55	35-39	7-30		SB3003
49	F37	N-67-W	3	3	625	460	東西棟・側柱	205-220	150-160	楕円形・円形	62-102	48-70	36-73		SB4001
50	F35	N-59-W	3	2	500	370	南北棟・側柱	140-170	190-180	楕円形・円形	47-73	40-65	29-37		SB4002
53	C3c3	N-11-W	2	2	419	413	南北棟・側柱	203-215	203-210	楕円形・円形	31-78	28-50	10-76	SB55c 覆裡	SB2003
54	C3B	N-79-W	2	2	370	365	東西棟・側柱	173-197	176-186	楕円形・円形	28-54	12-32	18-54	SI15a 覆裡	SB2004
56	F3e0	N-68-W	4	3	633	450	東西棟・側柱	160-182	136-157	楕円形・円形	62-84	52-80	50-70	SB52c 覆裡	SB2006
57	F3d0	N-27-E	3	2	562	360	南北棟・側柱	174-195	165-195	楕円形・円形	25-72	25-66	7-30	SB56-60c 覆裡	SB2007
58	F37	N-68-W	3	2	513	408	東西棟・側柱	203-205	156-181	楕円形	28-72	32-74	8-34	SD24c 覆裡	SB2008
59	F3d7	N-69-W	3	2	495	397	東西棟・側柱	168-182	186-209	楕円形・長楕 円形	37-86	31-48	22-52		SB2009
60	F3e9	N-69-W	3	2	512	411	東西棟・側柱	164-108	200-211	楕円形・円形	38-55	36-46	17-50	SB52c 覆裡	SB2010
61	F4c2	N-68-W	3	3	642	462	東西棟・側柱	220-219	190-156	楕円形・円形	50-85	49-60	36-68	SI18a 覆裡	SB2011
62	F3c0	N-23-E	2	2	457	417	南北棟・総柱	227-229	204-212	不規則円形・ 楕円形・円形	30-85	27-69	19-45	SI14a 覆裡	SB2012
63	E3B	N-74-W	4	3	648	474	東西棟・側柱	149-176	151-160	楕円形・円形	41-63	34-57	26-58		SB2013
64	F4a3	N-71-W	3	3	519	588	東西棟・側柱	190-203	174-209	楕円形・円形	40-70	38-59	9-54	SB65c 覆裡	SB2014
65	E4E	N-68-W	5	2	962	347	東西棟・側柱	180-202	167-180	楕円形・円形	25-50	25-45	14-44	SB64c 覆裡	SB2015
66	F3e5	N-20-E	2	2	411	367	南北棟・側柱	203-205	152-191	楕円形・円形	52-100	44-74	15-50		SB2016

#### 4 溝

調査2区北部から奈良・平安時代と考えられる1条の溝が検出された。以下、この遺構及び遺物について記載する。

#### 第23号溝 (第453・454図)

位置 調査2区北部, C2d5-D2b6区。

形状と規模 北東方向及び南西方向の両端が調査区域外になり、さらに延びるものと思われるが、検出できた長さは32.9mで、上幅66～90cm、下幅20～40cm、深さ34～50cmである。断面形はU字形である。

方向 C2d5区から、南西方向(N-13°-W)にほぼ直線的に延びる。

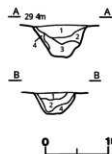
覆土 4層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

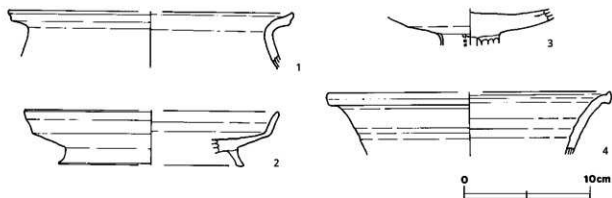
- |   |     |         |
|---|-----|---------|
| 1 | 黒色  | ローム粒子微量 |
| 2 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子少量 |
| 4 | 暗褐色 | ローム粒子中量 |

遺物 土師器片13点、須恵器片11点が出土している。うち土師器1点、須恵器3点を抽出・図示した。第454図1の土師器甕、2の須恵器盤、3の須恵器高盤、4の須恵器甕は、いずれも覆土中から出している。

所見 時期は、出土土器から8世紀後半と考えられる。



第 453 図 第 23 号溝実測図



第 454図 第 23号溝出土遺物実測図

第 23号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 45 図 1	碗 土 器	A 225 B 44	頸部から口縁部にかけての破片。 頸くの字状に屈曲し、口縁部は 外上方につまみ上げられている。	口縁部及び頸部内・外面横ナデ。	磯・長石・石英・菅 母・赤色粒子 に弱 黄褐色、普通	P 7167 5%
2	盤 須 恵 器	A 200 B 42 D 144 E 13	高台部から口縁部にかけての破片。 高台は八の字状に開く。体部は大 きく開き、口縁部との境に稜を持 つ。	口縁部及び体部内・外面口クロナ デ。高台貼り付け。底部調整不明。	磯・長石・石英 灰色 普通	P 7168 20%
3	高 須 恵 器	B 28	脚部上位から環部下位にかけての破 片。脚部には4方向に透かし孔を持 つ。環部は内彎突縁に大きく開く。	環部内・外面口クロナデ。	磯・長石・針状鉱物 褐灰色 普通	P 7169 10%
4	碗 須 恵 器	A 224 B 50	口縁部片。口縁部は外反する。脚 部は上下に突出し、中央に稜を持 つ。	口縁部内・外面口クロナデ。	磯・長石・針状鉱物 灰色 普通	P 7170 5%

## 5 土坑

当遺跡からは、奈良・平安時代と考えられる土坑25基が検出された。以下、それらの土坑について記載する。

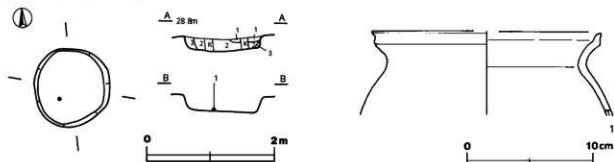
### 第762号土坑（第455図）

位置 調査3区の南部、H2b0区。

規模と平面形 長径1.26m、短径1.22mの円形で、深さは28cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。



第 455図 第 762号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量

- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子  
粒子微量

遺物 土師器片 2点が出土している。うち土師器片 1点を抽出・図示した。第455図1の土師器甕口縁部片は、南西壁寄りの覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。

#### 第762号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第455図 1	甕 土師器	A 180 B 66	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 2538 5%

#### 第773号土坑（第456～458図）

位置 調査4区の南西部，G4Ⅰ区。

規模と平面形 長軸4.74m，短軸3.75mの不定形で，深さは50cmである。

主軸方向 N-40°-W

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 凹凸である。

ピット 2か所。P1は南東壁下に位置し，長径40cm，短径28cmの楕円形で，深さは54cmである。P2は北西壁下に位置し，長径40cm，短径30cmの楕円形で，深さは50cmである。形状から柱穴の可能性も考えられるが，性格は不明である。

覆土 23層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

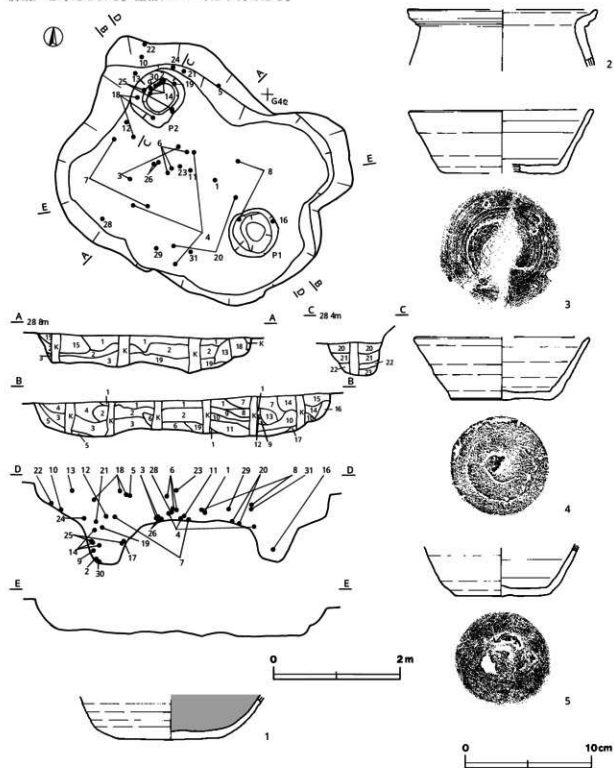
#### 土層解説

- |   |   |
|---|---|
| 1 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物微量         | 12 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・甕沼バミス粒子微量                       |
| 2 暗褐色 ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子・甕沼バミス粒子微量            | 13 褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム中ブロック少量，炭化物微量           |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・甕沼バミス粒子微量                    | 14 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子・粘土粒子微量                            |
| 4 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・炭化粒子・甕沼バミス粒子微量 | 15 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量                            |
| 5 褐色 ローム小ブロック・炭化粒子中量，ローム中ブロック・焼土粒子微量          | 16 褐色 ローム粒子多量                                       |
| 6 暗褐色 甕沼バミス粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量                  | 17 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量                   |
| 7 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量                         | 18 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子・甕沼バミス粒子微量              |
| 8 暗褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量                        | 19 明褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量，甕沼バミス粒子微量 |
| 9 暗褐色 ローム粒子微量                                 | 20 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化物・甕沼バミス粒子微量                     |
| 10 暗褐色 炭化粒子微量                                 | 21 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量                        |
| 11 暗褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量                       | 22 黒褐色 ローム中ブロック・炭化物・甕沼バミス小ブロック微量                    |
|   | 23 黒褐色 ローム小ブロック少量，焼土粒子微量                            |

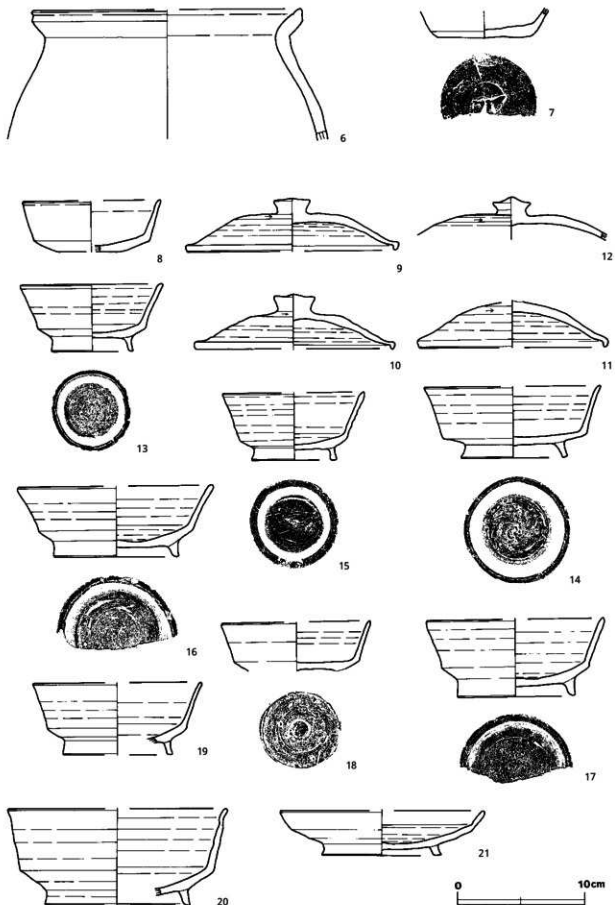
遺物 縄文土器片78点，弥生土器片2点，土師器片496点，須恵器片891点，金属製品（不明鉄製品）3点が出土している。うち，土師器片3点，須恵器片28点を抽出・図示した。第458図30の須恵器甕はP2の底面から，3の土師器甕，24の須恵器蓋は，ともにP2の覆土下層から，12の須恵器高台付坏はP1の覆土下層から，13の須恵器高台付坏はP2の覆土中層，10の須恵器高台付坏はP2の覆土中層及び北西壁寄りの覆土下層から，21の須恵器盤はP2の覆土中層及び覆土中から，15の須恵器高台付坏はP2の覆土上層及び覆土中から，16の須恵器高台付坏は中央部及び南壁際のはほぼ底面と覆土中から，それぞれ出土している。1の土師器坏は中央部，4の須恵器坏は中央部西壁寄り及び南壁際，7の須恵器坏は中央部及び西壁寄り，21の須恵器盤は北壁際，11の須恵器蓋は中央部の，それぞれ覆土下層から出土している。24の須恵器蓋は北壁際，26の須恵器高蓋は中央部，12の須恵器蓋は北西壁寄りの，それぞれ覆土下層及び覆土中から出土している。10の須恵器蓋は北西壁際，29の須恵器甕は南壁際のそれぞれ覆土中層から出土している。6の土師器甕は中央部，8の須恵器坏は中央部及び南東壁寄り，28の須恵器小形鉢は南西壁際，31の須恵器門面硯は南壁際の，それぞれ覆土中層及び覆土中

から出土している。5の須恵器杯は北壁際、13・18の須恵器高台付杯は北壁寄り、22の須恵器盤は北西壁際、23の須恵器盤は中央部のそれぞれ覆土上層から出土している。11の須恵器高台付杯、27の須恵器高盤は、それぞれ覆土中から出土している。

所見 土層の堆積状況が人為堆積であり、多量の遺物が覆土下層から覆土上層にかけて出土していることから、本跡の廃絶後に投棄場所として二次的に利用されたものと考えられる。時期は出土土器から平安時代（9世紀前葉）と考えられる。性格については不明である。

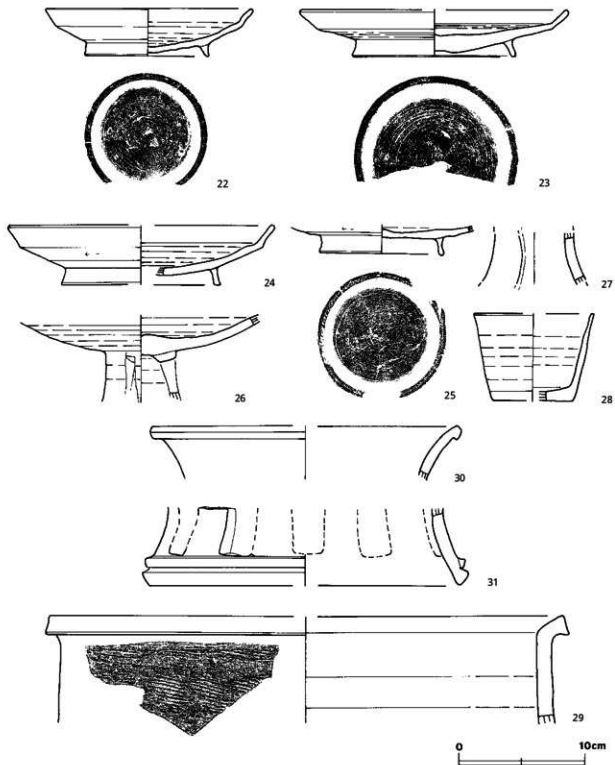


第 456 図 第 77 号土坑・出土遺物実測図



第 457 图 第 773 号土坑出土遗物实测图 (1)





第 458図 第 77号土坑出土遺物実測図(2)

第 773号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 458図 1	坏 土 師 器	B 32 C 42	底部から体部片。平底。体部は内 彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面口クロナ ズ。体部下端及び底部回転へラ削 り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱 物 褐色、黄透	P 2539 60%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 6	甕 土 器 器	A 134	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 褐色、普通	P 2540 10%
		B 102				
第45図 2	甕 土 器 器	A 144	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 明赤褐色、普通	P 2570 5%
		B 44				
3	坏 須 恵 器	A 146	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・礫・針状鉱物 灰色 普通	P 2541 70% PL67
		B 51				
		C 91				
4	坏 須 恵 器	A 139	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・礫・針状鉱物 灰色、普通	P 2542 50% PL67
		B 50				
		C 80				
5	坏 須 恵 器	B 39	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰白色普通	P 2543 40%
		C 73				
第45図 7	坏 須 恵 器	B 42	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り、周縁ナデ。	長石・石英・礫 灰色 普通	P 2544 30%
		C 74				
8	坏 須 恵 器	A 110	底部から口縁部片。平底。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り、周縁手持ちヘラ削り。	長石・石英・礫 黄灰色 普通	P 2545 40% 口縁部外面自然釉
		B 41				
		C 48				
13	高台付 坏 須 恵 器	A 113	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫 灰色 普通	P 2546 70% PL67
		B 53				
		D 64				
		E 13				
14	高台付 坏 須 恵 器	A 140	口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・礫・針状鉱物 灰色 普通	P 2547 70% PL67
		B 56				
		D 84				
		E 13				
15	高台付 坏 須 恵 器	A 110	底部から口縁部一部欠損。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英・礫・針状鉱物 灰オリーブ色普通	P 2548 60% PL67
		B 54				
		D 68				
		E 10				
16	高台付 坏 須 恵 器	A 154	底部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 浅黄色 普通	P 2569 40%
		B 56				
		D 100				
		E 13				
17	高台付 坏 須 恵 器	A 140	底部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 赤灰色 普通	P 2571 40%
		B 61				
		D 92				
		E 14				
18	高台付 坏 須 恵 器	A 118	体部から口縁部一部及び高台部欠損、体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2549 60%
		B 39				
19	高台付 坏 須 恵 器	A 134	底部から口縁部片。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 黄灰褐色 普通	P 2550 40% PL67
		B 57				
		D 86				
		E 11				
20	高台付 坏 須 恵 器	A 174	底部から口縁部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 外面灰赤色 内面 補灰色普通	P 2551 20%
		B 76				
		D 114				
		E 12				
第45図 22	壺 須 恵 器	A 163	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台はハの字状に開く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄色 普通	P 2552 70% PL67
		B 37				
		D 99				
		E 11				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第45図 23	甕 須 恵 器	A 209	体部及び口縁部一部欠損。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 2553 60%
		B 47				
		D 128				
		E 14				
第45図 21	甕 須 恵 器	A 160	体部及び口縁部一部欠損。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰色 普通	P 2554 50%
		B 35				
		D 94				
		E 09				
第45図 24	甕 須 恵 器	A 210	体部及び口縁部の破片。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は大きく開き、屈曲して口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 黄灰色 普通	P 2555 39%
		B 47				
		D 126				
		E 13				
25	甕 須 恵 器	B 24	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 にぶい橙色 普通	P 2564 30%
		D 96				
		E 14				
26	高 甕 須 恵 器	B 69	脚部から皿部にかけての破片。脚部は三方に透かしが入る。皿部は直線的に開く。	脚部及び坯部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物、 外面灰褐色、 内面塩灰黄色 普通	P 2556 50%
		E 40				
27	高 甕 須 恵 器	B 41	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面口ロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 2557 5%
第45図 9	甕 須 恵 器	A 165	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、覆宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 2572 29%
		B 42				
		F 29				
		G 12				
10	甕 須 恵 器	A 156	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、覆宝珠状のつまみが付く。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2558 30%
		B 44				
		F 32				
		G 14				
11	甕 須 恵 器	A 148	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は丸味を持つ。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内面及び天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石 灰色 普通	P 2559 29%
		B 36				
12	甕 須 恵 器	B 35	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、覆宝珠状のつまみが付く。	口縁部内面及び天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 2560 20%
		F 30				
		G 14				
第45図 28	小 形 鉢 須 恵 器	A 95	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2561 20%
		B 79				
		C 59				
29	甕 須 恵 器	A 406	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。体部内面口ロナデ、外面横位の平行叩き。	長石 灰オリーブ色 普通	P 2562 5%
		B 85				
30	甕 須 恵 器	A 240	口縁部片。口縁部は外反し、踵部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	白色粒子 褐灰色 普通	P 2565 5%
		B 43				
31	円 面 碗 須 恵 器	B 62	脚部台片。脚部台に透かし意を持ち、下に隆帯が通る。	脚部内面ナデ。透かし意ヘラ切り。	長石 灰黄色 普通	P 2563 5%
		C 246				

### 第823号土坑（第459図）

位置 調査5区の南東部，H7a2区。

重複関係 第103号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径2.82m，短径2.48mの楕円形で，深さは178cmである。

主軸方向 N-65°-E

壁 ならだかに立ち上がる。

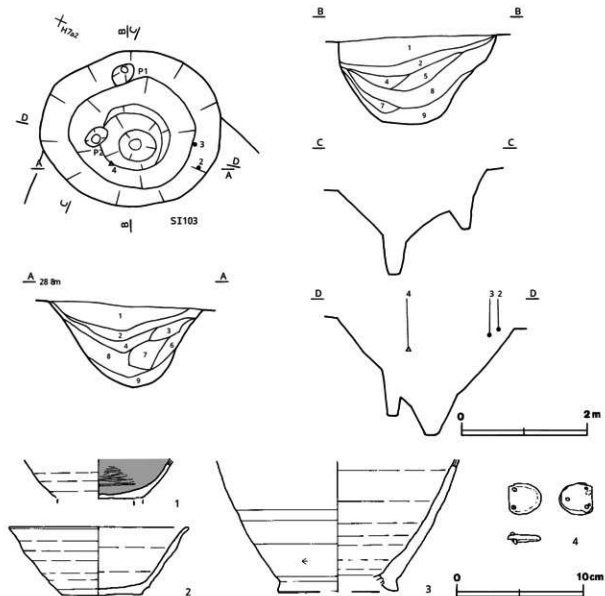
底面 皿状である。

ピット 2か所。P1は北西壁面に位置し、長径40cm、短径30cmの楕円形で、深さは50cmである。P2は南西壁面に位置し、長径40cm、短径28cmの楕円形で、深さは54cmである。形状から柱穴の可能性が考えられるが、性格は不明である。

覆土 9層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |                              |        |  |
|--------|------------------------------|--------|--|
| 1 黒色   | ローム粒子微量                      | 6 極暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子ブロック・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量        |
| 2 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量        | 7 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量              |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子微量               |
| 4 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量  | 9 暗褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
| 5 褐色   | ローム粒子多量、ローム小ブロック・焼土小ブロック微量   |        |  |



第459図 第823号土坑・出土遺物実測図

遺物 縄文土器片13点、土師器片5点、須恵器片12点、金属製品（鉈尾）1点が出土している。うち、土師器片1点、須恵器片2点、鉈尾を1点を抽出・図示した。第459図1の土師器高台付杯は覆土中から出土している。2の須恵器杯、3の須恵器壺はともに東壁際から、4の鉈尾は南壁よりの、それぞれ覆土上層から出土し

ている。

所見 時期は、出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。類例から水室の可能性も考えられるが、その性格については不明である。

第 823号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第45図 1	高台付 土師器	B 31	底部から体部片、体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。高台部剥離。	体部内・外面口ロナデ。体部下縁及び底部回転ヘラ削り。内面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P 2589 30%
	2	環 須恵器	A 142 B 55 C 63	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び口縁内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石 灰色 普通
3	壺 須恵器	B 105	高台部から体部の破片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がる。高台はハの字状に開き、先端部が尖る。	体部内・外面口ロナデ。底部調整不明。	長石 にぶい赤褐色 普通	P 2591 15%
		C 95				

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第45図 4	腰帯具	26	25	10	74	鉄地鋼貼り	総尾。裏金具なし 脚張 3ヶ所 内 1ヶ所欠損。外張 2ヶ所。	

第824号土坑（第460・461図）

位置 調査5区の南東部，G711区。

規模と平面形 長径3.55m，短径3.35mの不定形で，深さは180cmである。

主軸方向 N-59°-E

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 皿状である。

ピット 12か所。P1からP3は北壁面，P4は東壁面，P5からP7は南壁面，P8からP10南西壁面，P11は西壁面，P12は北西壁面に位置する。長径20～40cm，短径15～30cmの楕円形及び不整形で，深さは22～60cmである。

覆土 8層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

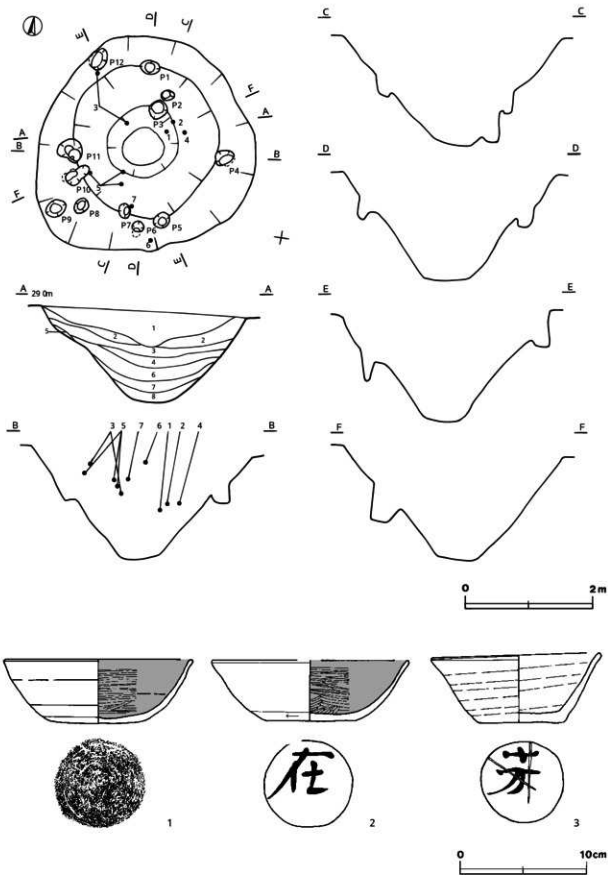
土層解説

1 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量	5 褐色	ローム粒子多量
2 黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量	6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
3 極暗褐色	ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭屑パミス粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭屑パミス粒子微量
4 極暗褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，炭屑パミス粒子微量	8 暗褐色	炭屑パミス粒子少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

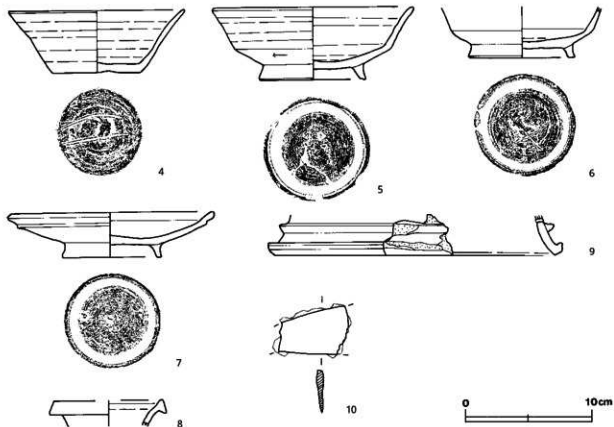
遺物 縄文土器片44点，土師器片14点，須恵器片47点，金属製品1点が出土している。うち土師器片2点，須恵器片7点，金属製品（鎌）1点を抽出・図示した。第461図8の須恵器長頸瓶の口縁部片及び9の須恵器円面硯脚部片，10の鎌は覆土中から出土している。6の須恵器高台付杯は南壁寄りの覆土上層から，7の須恵器盤は南壁際，1・2の内面に黒色処理された土師器杯は，ともに中央部から北東寄りの，それぞれ覆土中層から，3の須恵器杯は中央部から北西寄りの覆土上層から中層にかけて，4の須恵器杯は中央部から北東寄りの覆土中層から，5の須恵器高台付杯は中央部から南寄りの覆土中層から，それぞれ出土している。なお，2の土師器杯は，底部に墨書されている。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。類例から水室の可能性も考えられるが，明

確ではない。



第 460 図 第 82 号土坑・出土遺物実測図



第 461 図 第 824 号土坑出土遺物実測図

第 824 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 46 図 1	環 土 器 器	A 149 B 50 C 71	体部から口縁部の一部欠損。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き、外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物、にぶい褐色、普通	P 2592 80% PL67
	2	A 154 B 48 C 69	体部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き、外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物、にぶい黄褐色普通	P 2593 60% PL67 72 底部外面墨書「在」
	3	A 133 B 56 C 68	体部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部手持ちへラ削り。	長石・石英・針状鉱物、灰色普通	P 2594 70% PL67 73 底部外面墨書「十万」、底部へラ記号
第 46 図 4	環 須 恵 器	A 140 B 49 C 68	体部から口縁部片。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ削り。	長石・石英 灰色普通	P 2595 70% PL67 底部へラ記号
	5	A 158 B 57 D 84 E 13	体部から口縁部一部欠損。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物、赤褐色普通	P 2596 99% PL67
	6	B 40 D 84 E 11	底部から体部片。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英 灰黄色普通	P 2597 40% 底部へラ記号
7	盤 須 恵 器	A 161 B 36 D 76 E 10	体部から口縁部一部欠損。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へラ削り後、高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物、灰色普通	P 2598 70% PL67 底部へラ記号
	8	A 95 B 21	口縁部片。口縁部は外反し、肩部は下方へ突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石 にぶい赤褐色普通	P 2599 5 %

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 9	円面須 恵器	B 32 D 222	脚部片。脚部下に断面三角形を呈する2条の隆帯が付く。	体部内・外面口ロナデ。	長石 灰黄色 普通	P 2600 5%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第46図10	鎌	58	39	05	172	鉄	刃部の一部残存。	M 2503

### 第825号土坑（第462図）

位置 調査5区の北東部，F7e1区。

重複関係 第104号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.8mほどの円形で、深さは78cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

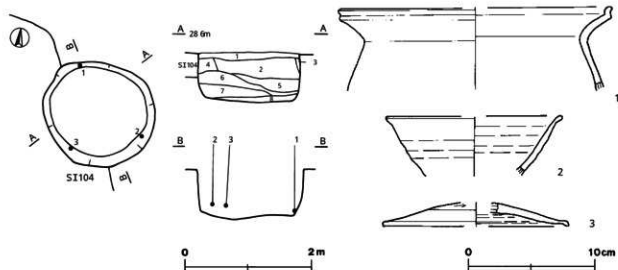
覆土 8層に分層される。不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |      |                             |       |                             |
|------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量            | 5 暗褐色 | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック中量、炭化粒子微量           |
| 3 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量          | 7 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 4 褐色 | ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、焼土粒子微量   | 8 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量       |

遺物 縄文土器片8点，土師器片14点，須恵器片6点が出土している。うち土師器片1点，須恵器片2点を抽出・図示した。第462図1の土師器甕は口縁部片で北西壁際，2の須恵器杯は南東壁際，3の須恵器蓋は南西壁際の，それぞれ覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第462図 第825号土坑・出土遺物実測図

### 第825号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第462図 1	甕 土師器	A 216 B 65	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	石英・雲母 にぶい赤褐色 普通	P 2601 10%



図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 2	須恵器	A 140 B 47	底部から口縁部片、平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内・外面口ロナデ。	石英・針状鉱物 灰黄色 普通	P 2602 20%
3	蓋 須恵器	A 148 B 18	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部内面口ロナデ。外面回転へら刷り。	長石 褐灰 普通	P 2603 20%

### 第851号土坑（第463図）

位置 調査5区の南東部，H6f9区。

規模と平面形 長径1.25m，短径1.06mの楕円形で，深さは43cmである。

主軸方向 N-87°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

覆土 8層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

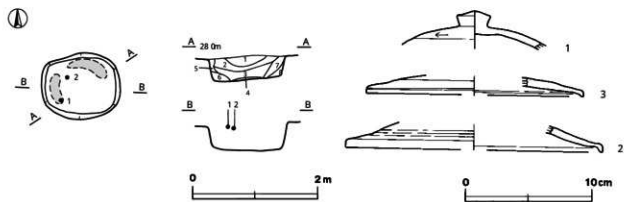
#### 土層解説

- |       |   |       |  |
|-------|---|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・炭化物少量，ローム粒子微量                      | 5 褐色  | ローム粒子多量，焼土粒子・炭化粒子微量                      |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量，炭化物・炭化粒子微量         | 6 褐色  | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量    |
| 3 褐色  | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック微量 | 7 褐色  | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，焼土粒子少量                |
| 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子少量  | 8 暗褐色 | ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子中量，ローム中ブロック・炭化物・炭化粒子少量 |

遺物 縄文土器片23点，土師器片1点，須恵器片12点が出土している。うち須恵器片3点を抽出・図示した。

第463図1～3は須恵器蓋であり，3は覆土中から，1・2はいずれも西壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが，性格については不明である。



第463図 第851号土坑・出土遺物実測図

### 第851号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第463図 1	蓋 須恵器	B 20 F 17 G 12	天井部片。天井部は伏せ皿状で擬宝珠状のつまみが付く。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ，外面回転へら刷り。	長石 灰黄色 普通	P 2604 20%
2	蓋 須恵器	A 202 B 20	天井部から口縁部にかけての破片。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ，外面回転へら刷り。	長石 灰褐色 普通	P 2606 20%
3	蓋 須恵器	A 170 B 14	天井部から口縁部にかけての破片。口縁部は屈曲し，短く垂下する。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ，外面回転へら刷り。	石英 灰白色 普通	P 2605 10%

第852号土坑（第464図）

位置 調査5区の南東部， H6f 8区。

規模と平面形 長径1.43m， 短径1.15mの楕円形で， 深さは40cmである。

主軸方向 N-40° - W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 段状である。北西部の平坦面から約6cmほど下がり， 南東部は平坦面である。

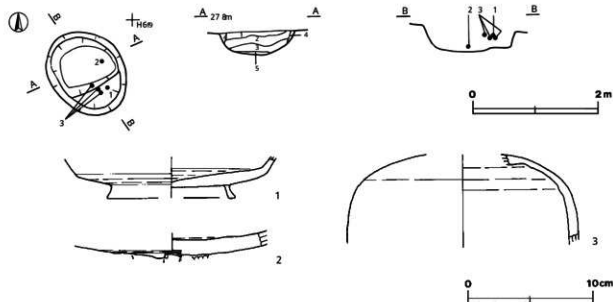
覆土 5層に分層され， 不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                               |       |                            |
|-------|-------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量              | 4 褐色  | ローム粒子多量                    |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック微量    | 5 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，炭化粒子微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子多量，ローム小ブロック中量，ローム大ブロック少量 |       |                            |

遺物 縄文土器片4点，土師器片3点，須恵器片7点が出土している。うち須恵器片3点を抽出・図示した。第464図1の須恵器盤及び3の須恵器長頸瓶は，ともに南東壁寄りの覆土上層から，2の須恵器高盤は北東壁寄りの覆土下層から，それぞれ出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代と考えられるが，性格については不明である。



第464図 第852号土坑・出土遺物実測図

第852号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第464図 1	須恵器 盤	B 32 D 16.2 E 10	底部から体部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口クロナデ。底部回転ヘラ切り後，高台貼り付け。	長石・石英・針状鉱物 灰色，普通	P 2607 30%
2	高須恵器 盤	B 16 E 0.4	脚部から皿部にかけての破片。脚部は四方に透かしが入る。	脚部及び杯部内・外面口クロナデ。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 2608 10%
3	長頸須恵器 瓶	B 73	体部の破片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 2609 10%

### 第853号土坑（第465図）

位置 調査5区の南東部，H68区。

規模と平面形 長径1.50m，短径1.23mの楕円形で，深さは45cmである。

主軸方向 N-71°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

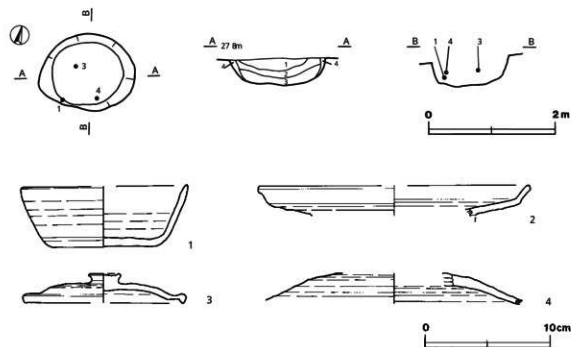
覆土 4層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量，ローム中  
 ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子  
 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，鹿沼バミス微量  
 4 褐色 ローム粒子多量

遺物 縄文土器片27点，土師器片4点，須恵器片23点が出土している。そのうち須恵器片4点を抽出・図示した。第465図2の須恵器蓋は，覆土中から出土している。3の須恵器蓋は，中央部から北西壁寄り，4の須恵器蓋は，南東壁際の，ともに覆土下層から出土している。1の須恵器坏は，南西壁際の覆土下層から出土している。

所見 時期は出土土器から8世紀後葉と考えられるが，性格については不明である。



第465図 第853号土坑・出土遺物実測図

#### 第853号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第465図 1	坏	A 131	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物に富み橙色，普通	P 2610 40%
	須恵器	B 48				
	C 70					
2	蓋	A 214	体部から口縁部の破片。体部は直線的に開き，口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外面口クロナズ。	長石・石英 灰色 普通	P 2611 10%
	須恵器	B 24				

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第46図 3	蓋 須 恵 器	A 125	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状で、腹宝珠状の つまみが付く。口縁部は屈曲し、 短く垂下する。	口縁部及び天井部内面口ロナデ。 外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状結 物、黄灰色 普通	P 2612 30%
		B 24				
		F 26				
		G 08				
4	蓋 須 恵 器	B 24	天井部から口縁部にかけての破片。 天井部は伏せ皿状である。	口縁部内面口ロナデ。天井部内 面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰白色 普通	P 2613 10%

#### 第858号土坑（第466図）

位置 調査5区の南東部，H6d7区。

重複関係 第854号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.49m，短径1.37mの円形で，深さは30cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 3 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量，ローム中ブロック少量

遺物 縄文土器片5点，土師器片2点，須恵器片6点が出土している。いずれも細片であり図示できなかった。

所見 出土遺物が細片であり，正確な時期及びその性格については不明であるが，土師器片及び須恵器片が覆土中から出土していること，9世紀中葉と考えられる第854号土坑に掘り込まれていることから，それ以前の奈良・平安時代の可能性が考えられる。

#### 第854号土坑（第466図）

位置 調査5区の南東部，H6e7区。

重複関係 第858号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.54m，短径1.32mの楕円形で，深さは53cmである。

主軸方向 N-57°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は中央部に位置し，径24cmの円形で，深さは26cmである。

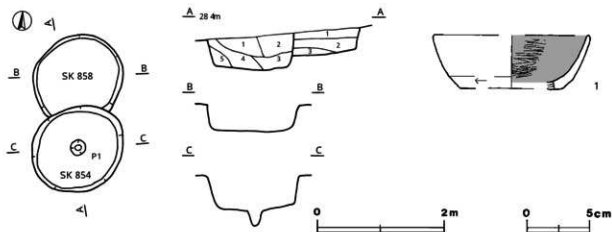
覆土 5層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

##### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子少量 4 暗褐色 ローム小ブロック中量，ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック少量 5 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック・焼土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子少量，ローム大ブロック・焼土中ブロック少量

遺物 縄文土器片356点，土師器片4点，須恵器片23点，金属製品2点（不明鉄製品）が出土している。うち土師器片1点を抽出・図示した。第466図1は内面黒色処理された土師器杯で，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第 466図 第 854・858号土坑・出土遺物実測図

第 854号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 466図 1	土 器 器	A 122 B 42	底部から口縁部部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内面へう磨き、外面口クロナ子。体部下縁及び底部回転へう刷り。内面黒色処理。	長石・石英・赤色粒子・針状鉱物 橙色、普通	P 2615 10%

第857号土坑（第467図）

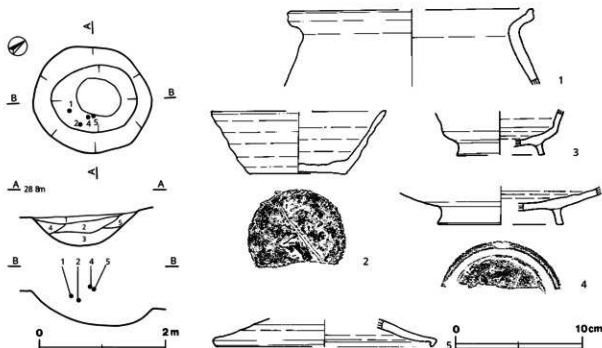
位置 調査5区の南東部、H67区。

規模と平面形 長径1.85m、短径1.65mの楕円形で、深さは37cmである。

主軸方向 N-45° -W

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 皿状である。



第 467図 第 857号土坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |       |  |       |   |
|-------|--|-------|---|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量            | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量                      |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物少量、ローム大ブロック少量 | 5 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土小ブロック少量、ローム大ブロック・焼土中ブロック少量 |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量                 |       |   |

遺物 縄文土器片34点、土師器片15点、須恵器43片点、灰軸陶器片1点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片4点を抽出・図示した。灰軸陶器片は細片であり図示できなかった。第467図3の須恵器高台付坏は、覆土中から出土している。4の須恵器盤及び5の須恵器蓋は中央部の覆土上層から、1の土師器甕の口縁部片は中央部から北西壁寄りの覆土中層から、2の須恵器坏は中央部から南西壁寄りの覆土中層から、それぞれ出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。覆土中に焼土及び炭化物などを比較的多く含んでいるが、性格については不明である。

第 857号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第467図 1	土師器	A 192	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母・赤色粒子 褐色、普通	P 2616 5%
		B 61				
2	須恵器 坏	A 137	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び口縁部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・白色粒子 灰色 普通	P 2617 50% P68 底部ヘラ記号
		B 49				
		C 76				
3	高台付坏 須恵器	B 35	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は内傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	緑・長石・白色粒子、 灰色 普通	P 2618 10%
		C 68				
4	盤 須恵器	B 30	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開く。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	緑・長石・白色粒子、 暗灰黄色 普通	P 2619 20% 底部ヘラ記号
		C 98				
5	蓋 須恵器	A 170	天井部から口縁部にかけての破片。天井部は伏せ皿状で、口縁部は屈曲し、短くやや内側に入る。	口縁部内面口ロナデ。天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 灰黄色 普通	P 2620 5%
		B 21				

第877号土坑（第468図）

位置 調査5区の北部、G6b5区。

規模と平面形 長径1.22m、短径1.12mの円形で、深さは74cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

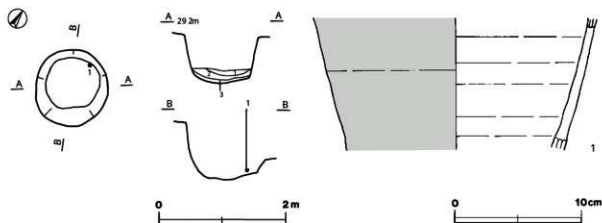
覆土 上層及び中層の記録が取れず下層のみの分層になったが、下層は3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- |       |                  |       |                             |
|-------|------------------|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量 | 3 緑褐色 | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子少量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子少量   |       |                             |

遺物 縄文土器片9点、土師器片5点、須恵器片1点、灰軸陶器片1点が出土している。うち灰軸陶器片1点を抽出・図示した。第468図1の灰軸陶器片は壺の体部片で、北壁際の覆土下層から出土している。

所見 本跡の時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。



第 468 図 第 877 号土坑・出土遺物実測図

第 877 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 468 図 1	壺 灰釉陶器	B 104	体部片。体部は直線的に外傾する。	体部内・外面口クロナデ。体部外面施釉。	長石 外面明赤褐色 内面灰オリーブ色 良好	P 2622 5 % 黒笹 14 号煎式用

第 886 号土坑（第 469 図）

位置 調査 5 区の南部，H6c3 区。

重複関係 第 38 掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と平面形 長径 1.53m，短径 1.30m の楕円形で，深さは 26cm である。

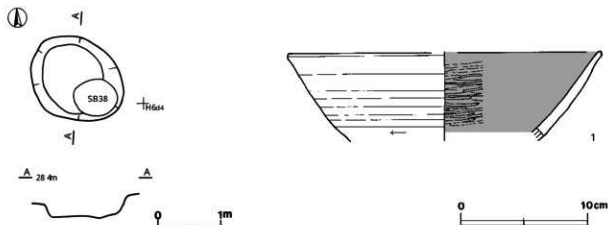
主軸方向 N-53°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

遺物 土師器片 1 点が出土している。第 469 図 1 の内面黒色処理された土師器鉢は，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9 世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第 469 図 第 886 号土坑・出土遺物実測図

第 886号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 46図 1	鉢 須器	A 246 B 70	体部から口縁部片。体部は内彎気球に外腫して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部び体部内面へラ磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 橙色 普通	P 2623 15%

第891号土坑（第470図）

位置 調査5区の南東部、G6d6区。

重複関係 第110号住居跡及び第890号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.14mほどの円形で、深さは38cmである。

壁 なだらかに立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

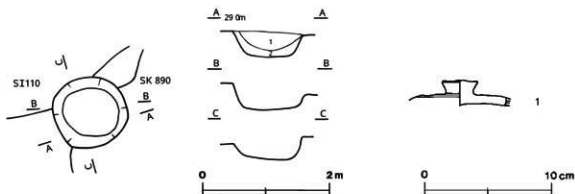
覆土 2層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子微 2 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 縄文土器片2点、須惠器片1点が出土している。うち須惠器片1点を抽出・図示した。第470図1の須惠器蓋は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀）と考えられるが、性格については不明である。



第 470図 第 891号土坑・出土遺物実測図

第 891号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 47図 1	蓋 須器	B 21 F 11 G 29	天井部片。天井部は観宝珠状のつまみが付く。	天井部内面ロクロナデ、外面磨きへラ磨り。	礫・長石・白色粒子 灰色 普通	P 2624 10%

第893号土坑（第471図）

位置 調査5区の西北部、G6f1区。

重複関係 第134号住居跡を掘り込んでいる。

規模と平面形 長径1.34m、短径1.14mの楕円形で、深さは24cmである。

主軸方向 N-39° - E

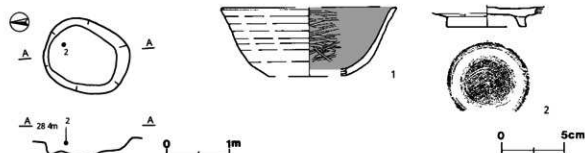
壁 なだらかに立ち上がる。



底面 平坦である。

遺物 縄文土器片7点, 土師器片7点, 須恵器片2点が出土している。第471図2の土師器高台付杯は、北東壁寄りの覆土上層から出土している。1の土師器杯は覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代(9世紀中葉)と考えられるが、性格については不明である。



第471図 第893号土坑・出土遺物実測図

#### 第893号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第47図 1	土師器 杯	A 138 B 54	体部から口縁部片。体部は内彎気味に外傾して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部び体部内面へう磨き、外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・白色粒子、にぶい黄褐色、普通	P 2625 20%
2	高台付杯 土師器	B 16 C 52	高台部から底部の破片。高台は短くほぼ垂下する。	底面内面へう磨き、黒色処理。底部回転へう切り。高台貼り付け後ナデ。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P 2626 10%

#### 第898号土坑(第472図)

位置 調査5区の南東部, H6c7区。

重複関係 第901号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径2.11m, 短径1.89mの楕円形で、深さは32cmである。

主軸方向 N-40°-E

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は北西壁寄りに位置し、長軸129cm, 短軸62cmの不整形で、深さは130cmである。

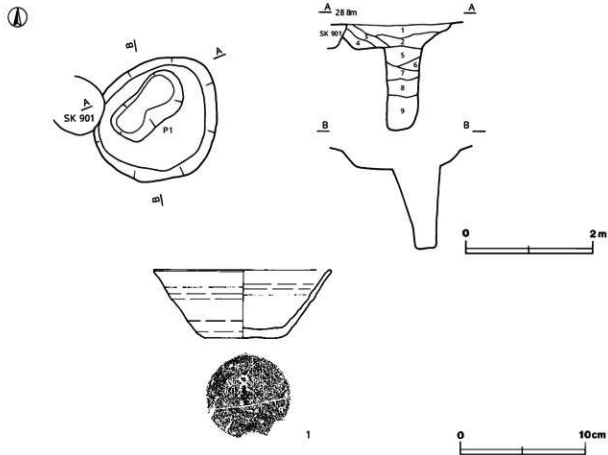
覆土 9層に分層される。第1~4層はレンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。第9層はローム大ブロック及び鹿沼バミス大ブロックを中量含み、また、第5~9層は水平及び三角形の堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

1 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス微量	6 黒褐色	ローム小ブロック少量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	7 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量
3 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
4 褐色	ローム粒子中量	9 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子中量
5 暗褐色	ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量		

遺物 縄文土器片16点, 土師器片16点, 須恵器片6点が出土している。うち須恵器1点を抽出・図示した。第472図1の須恵器杯は、覆土上層及び覆土下層付近から出土した破片が接合したものである。

所見 時期は出土土器から平安時代(9世紀中葉)と考えられるが、性格については不明である。



第 472図 第 898号土坑・出土遺物実測図

第 898号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 472図 1	須恵器	A 141 B 54 C 58	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部回転ヘラ切り後、ナズ。	長石・石英・白色粒子・針状鉱物 灰色、普通	P 2627 60% PL68

第911号土坑（第473図）

位置 調査5区の南東部、G5g5区。

重複関係 第912号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.28mの円形で、深さは37cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

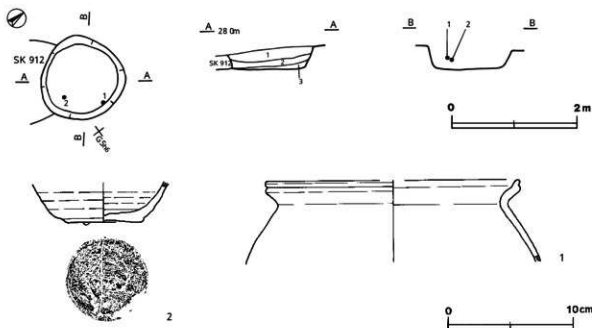
1 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子微量

2 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化粒子微量

3 黒褐色 炭屑パミス粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量

遺物 縄文土器片5点、土師器片7点、須恵器片5点が出土している。うち土師器片1点、須恵器片1点を抽出・図示した。第473図1の土師器片の口縁部片は東壁際、2の須恵器片は南壁寄りの、それぞれ覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第 473図 第 911号土坑・出土遺物実測図

#### 第 911号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備 考
第 473図 1	土 師 器	A 200	体部から口縁部片。体部は内彎しながら立ち上がる。口縁部は外反し、端部がつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英 橙色 普通	P 2628 10%
		B 65				
2	坏 恵 器	B 21	底部から体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 2629 40% 底部ヘラ記号
		C 59				

#### 第920号土坑（第474図）

位置 調査5区の南東部，H7a5区。

重複関係 第922号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.20m，短径0.85mの楕円形と考えられ，深さは57cmである。

主軸方向 N-75° - E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

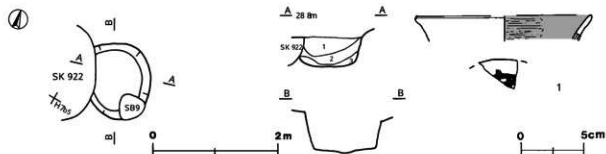
#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック 少量，ローム大ブロック・炭化粒子微量  
 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片5点，土師器片6点，須恵器片2点が出土している。うち土師器片1点を抽出・図示した。

第474図1の土師器坏は，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第 474図 第 920号土坑・出土遺物実測図

第 920号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 474図 1	坏 土 師器	A 140 B 21	口縁部片。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内面へラ磨き，外面口コナデ，内面黒色処理。	胎土・針状鉱物 浅黄色 普通	P 2630 5 % 体部外面墨書「在」

第929号土坑（第475図）

位置 調査5区の北西部，G5c5区。

規模と平面形 長径1.52m，短径1.18mの不定形で，深さは42cmである。

主軸方向 N-50° - E

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 段状である。南西部の平坦面から約8cmほど下がり，北東部に平坦面をなす。

覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

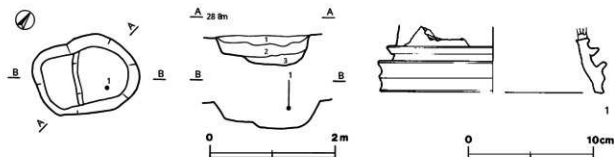
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 棕褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片1点，土師器片9点，須恵器片1点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。

第475図1の須恵器円面碗の脚部片は，北東壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は出土土器から8～9世紀と考えられるが，性格については不明である。



第 475図 第 929号土坑・出土遺物実測図

第 929号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 475図 1	円面碗 須恵器	B 52 D 175	脚台部片。脚台部の下に2条の襷帯が通る。	脚部内面ナデ。	長石・赤色粒子・針状鉱物 にぶい赤褐色，普通	P 2631 5 %

### 第940号土坑（第476図）

位置 調査5区の南東部，G5c6区。

規模と平面形 長径1.50m，短径1.30mの楕円形で，深さは60cmである。

主軸方向 N-60°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

ピット 1か所。P1は南西壁寄りに位置し，径50cmの円形で，深さは22cmである。

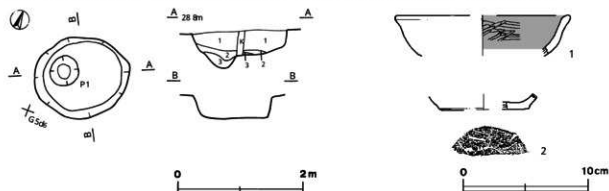
覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量  
 3 暗褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，ローム中ブロック微量

遺物 縄文土器片6点，土師器片8点，須恵器片9点が出土している。うち土師器片1点，須恵器片1点を抽出・図示した。第476図1の土師器杯及び2の須恵器杯は，ともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第476図 第940号土坑・出土遺物実測図

### 第940号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第476図 1	杯 土師器	A 136 B 32	体部から口縁部片。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面ロクロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 暗褐色，普通	P 2632 5%
2	杯 須恵器	B 13 C 70	底部片。平底。	底部回転へラ切り後，ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 2633 5% 底部へラ記号

### 第941号土坑（第477図）

位置 調査5区の南東部，G5c5区。

規模と平面形 南西部の上面が擾乱されているが，長径1.68m，推定の短径1.62mの円形と考えられ，深さは76cmである。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

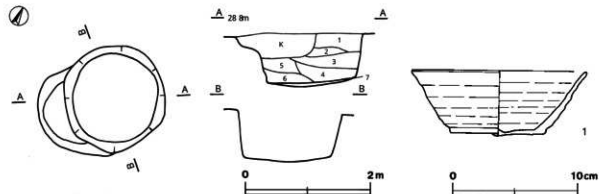
覆土 7層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- |        |  |       |  |
|--------|--|-------|--|
| 1 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・炭化物・鹿沼バミス粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量                    |
| 2 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量            | 5 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
| 3 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量     | 6 暗褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子少量          |
|        |  | 7 黒色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量                                |

遺物 縄文土器片 5点, 土師器片 6点, 須恵器片 9点が出土している。うち須恵器 1点を抽出・図示した。第477図1の須恵器坏は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが、性格については不明である。



第 477図 第 941号土坑・出土遺物実測図

第 941号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第477図 1	須恵器 坏	A 140 B 50 C 77	底部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロクナズ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英・針状鉱物 灰淡黄色、普通	P 2634 596 PL68

第943号土坑（第478・479図）

位置 調査5区の南東部, G5e7区。

規模と平面形 確認面は長径1.30m, 短径1.24mの円形で、北壁が約10cmほど掘り込まれてオーバーハングしている。深さは45cmである。

壁 北壁がオーバーハングしている以外は、外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

覆土 3層に分層される。第2層が厚さの8割近くを占める同一質の暗褐色土層であり、一挙に埋め戻されたものと思われる。

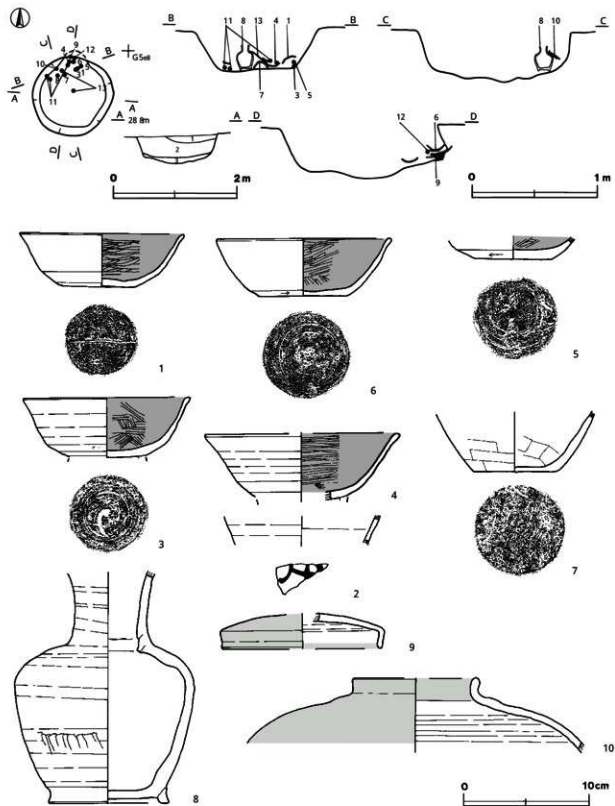
土層解説

- |       |                             |      |         |
|-------|-----------------------------|------|---------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量 | 3 褐色 | ローム粒子多量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量            |      |         |

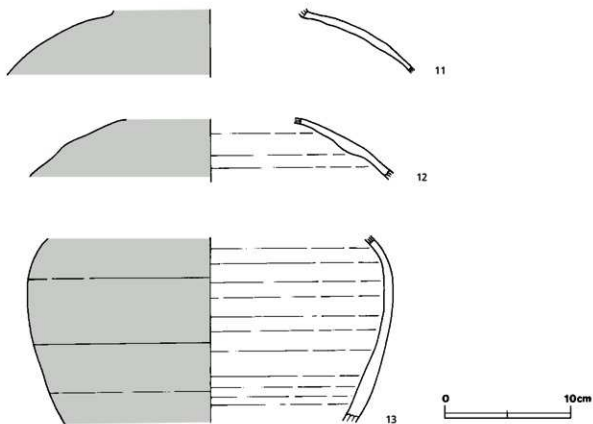
遺物 土師器片 8点, 須恵器片 3点, 灰軸陶器片 5点が出土している。うち土師器 6点, 須恵器 2点, 灰軸陶器片 5点を抽出・図示した。第478図1・2・5・6の土師器坏, 7の土師器甕, 8の須恵器長頸瓶, 9の灰軸陶器蓋, 10~12の灰軸陶器短頸壺の口縁部から体部片は、いずれもオーバーハングしている北壁際及び北壁寄りの覆土中層からまともに出て出土している。8の須恵器長頸瓶は第3層の上面から北西壁寄りに正位で置かれたような状態で、また、北壁際の底面から9の灰軸陶器蓋を一番下に、12の灰軸陶器体部片及び6の土師器坏が重なった状態で出土している。1・2・5・6の土師器坏, 7の土師器甕, 9~12の灰軸陶器片は北壁寄

りから、それぞれ逆位・斜位・正位と流れ込んだ状態で出土している。2の墨書された須恵器坏体部片は、覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられる。遺物の出土状況などから墓壇の可能性も考えられるが、その詳しい性格については不明である。



第 478 図 第 94 号土坑・出土遺物実測図



第 479 図 第 943 号土坑出土遺物実測図

第 943 号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 479 図 1	土 師 器	A 132	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	長石・石英にふい褐色普通	P 2635 63% PL68 底部へラ記号
		B 42				
		C 57				
2	環 須 恵 器	B 24	体部片。体部は直線的に立ち上がる。	体部内・外面口クロナデ。	長石・石英灰色普通	P 2641 9% PL72 体部外面黒書横位「在」力
3	高台付 土 師 器	A 132	底部から口縁部片。平底。高台割離。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端回転へラ磨り。底部回転へラ切り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にふい褐色、普通	P 2636 60% PL68
		B 47				
4	高台付 土 師 器	A 154	底部から口縁部片。平底。高台割離。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	長石・石英・石英・針状鉱物にふい褐色普通	P 2637 19%
		B 58				
5	土 師 器	B 18	底部から体部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にふい褐色、普通	P 2638 40%
		C 60				
6	土 師 器	A 136	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部及び口縁部内面へラ磨き、外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物にふい黄褐色普通	P 2639 100% PL68
		B 46				
		C 70				
7	土 師 器	B 47	底部から体部下端の破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面下端へラナデ。体部外面下端横位のへラ磨り。底部へラ磨り。	長石・石英にふい黄褐色普通	P 2640 20%
		C 67				
8	環 須 恵 器	B 184	口縁部一部欠損。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がり、胴部に至る。胴部はわずかに外反する。	胴部及び体部内面口クロナデ。外面口クロナデ後、体部下位に縦位のへラナデ。底部回転へラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英灰色普通	P 2642 90% PL67
		D 94				
		E 13				



図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第478図 9	蓋 灰釉陶器	A 128	天井部から口縁部片。天井部は丸味を持つ。口縁部は屈曲し、端部は垂下する。	天井部及び口縁部内・外面口ロナデ。天井部外面及び口縁部内・外面施釉	長石 外面浅黄色、内面黄白色、良好	P 2643 40% 黒笹 1号窯式期
		B 28				
10	短頸壺 灰釉陶器	A 58	体部から口縁部片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部に至る。口縁部は短く直立する。	体部及び口縁部内・外面口ロナデ。体部外面及び口縁部内・外面施釉。	長石 外面オリブ黄色 内面灰白色、良好	P 2644 10% PL68 黒笹 90号窯式期
		B 58				
第479図 11	短頸壺 灰釉陶器	B 53	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。体部外面施釉。	長石・石英 外面オリブ黄色 内面灰白色、良好	P 2645 10% 黒笹 90号窯式期
		A 58				
12	短頸壺 灰釉陶器	B 50	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。体部外面施釉。	長石 外面灰オリブ色 内面灰黄色、良好	P 2646 5% 黒笹 90号窯式期
		A 58				
13	短頸壺 灰釉陶器	B 147	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。体部外面施釉。	長石・石英 外面オリブ黄色 内面灰白色、良好	P 2647 19% 黒笹 90号窯式期
		A 147				

### 第945号土坑（第480図）

位置 調査5区の西部，G5f5区。

重複関係 第138号住居に掘り込まれている。

規模と平面形 長径1.83m，短径1.28mの楕円形で，深さは54cmである。

主軸方向 N-28°-W

壁 直立する。

底面 ほぼ平坦である。

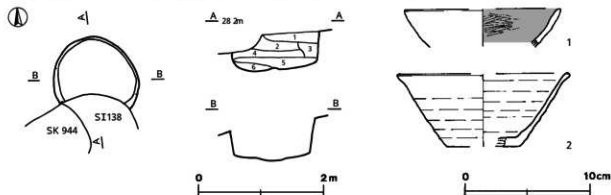
覆土 6層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |        |  |       |                 |
|--------|--|-------|-----------------|
| 1 黒褐色  | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック微量          | 4 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量 |
| 2 黒褐色  | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量，ローム小ブロック微量                   | 5 黒褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量 | 6 黒色  | 鹿沼パミス粒子微量       |

遺物 縄文土器片2点，土師器片5点，須恵器片3点が出土している。うち土師器片1点，須恵器片1点を抽出・図示した。第480図1の土師器杯，2の須恵器杯は，ともに覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から平安時代（9世紀中葉）と考えられるが，性格については不明である。



第480図 第945号土坑・出土遺物実測図

第 945号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 1	坏 土 師 器	A 122	体部から口縁部片。体部はわずかに内傾しながら外傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物、にぶい黄褐色、普通	P 2649 10%
		B 30				
2	坏 須 恵 器	A 135	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面口クロナデ。底部調整不明。	長石・針状鉱物 灰色 普通	P 2650 15%
		B 58				
		C 58				

第1714号土坑（第481図）

位置 調査2区の南部，F3b4区。

規模と平面形 長径2.35m，短径2.12mの楕円形で，深さは22cmである。

主軸方向 N-11°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 平坦である。

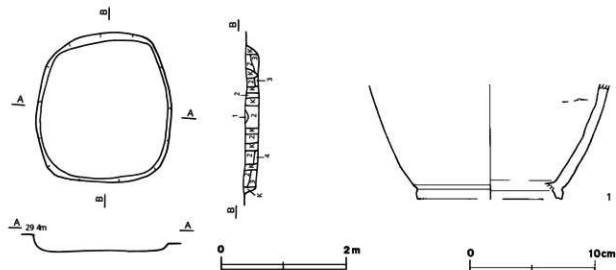
覆土 4層からなる。覆土が薄く，また，攪乱を多く受けているため，堆積状況は明確ではないが，各層にロームブロックを含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子 少量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック少量  
 3 黒褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化物・炭化粒子少量  
 4 暗褐色 ローム粒子多量，ローム小ブロック少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量

遺物 土師器片6点，須恵器片9点が出土している。うち須恵器片1点を抽出・図示した。第481図1の須恵器長頸瓶は，覆土中から出土している。

所見 時期は出土土器から9世紀と考えられるが，性格については不明である。



第 481図 第 1714号土坑・出土遺物実測図

第 1714号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第481図 1	須 恵 器	B 91	高台部から体部下位にかけての破片。高台はふんばる。体部は内傾気味に外傾して立ち上がる。	体部内・外面ナデ。高台貼り付け。底部調整不明。	磯・長石にぶい赤褐色 普通	P 7171 10%
		D 114				
		C 84				

第1894号土坑（第482図）

位置 調査2区の北部，D3c8区。

規模と平面形 長軸2.13m，短軸1.00mの隅丸長方形で，深さは11cmである。

主軸方向 N-40°-W

壁 外傾して立ち上がる。

底面 凹凸である。

覆土 2層からなる。覆土が薄いため堆積状況は不明である。

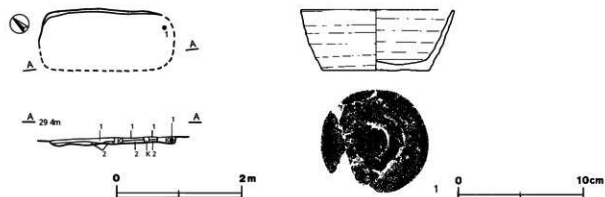
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子微量

2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物 須恵器1点が出土している。第482図1の須恵器坏は，南東コーナー部の覆土中層から出土している。

所見 時期は出土土器から8世紀後葉と考えられる。詳細な性格については不明であるが，遺構の形状と規模から土坑墓の可能性も考えられる。



第482図 第1894号土坑・出土遺物実測図

第1894号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第482図 1	坏 須恵器	A 120 B 48 C 84	底部から口縁部にかけての破片。 平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口クロナズ。底部回転ヘラ切り後，ナデ。	礫・長石・石英 灰白色 普通	P 7172 59% PL68

表4 奈良・平安時代土坑一覧表

土坑番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	
				長径 m	短径 m						
762	H3b0	-	円形	1.26	1.22	28	外傾	平坦	人海	土師器片	
773	G4f1	-	円形	4.74	3.75	50	傾斜	凹凸	人海	土師器片，須恵器片，金属製品	
823	H7a2	N-65-E	横円形	2.82	2.48	178	傾斜	窟状	人海	土師器片，須恵器片，金属製品	SI03 本跡
824	G7j1	N-59-E	不定形	3.55	3.35	180	傾斜	窟状	自然	土師器片，須恵器片，金属製品	
825	F7e1	-	円形	1.8		78	外傾	平坦	人海	土師器片，須恵器片	SI04 本跡
851	H6a9	N-87-W	横円形	1.25	1.06	43	外傾	平坦	人海	土師器片，須恵器片	
852	H6b8	N-40-W	横円形	1.43	1.15	40	外傾	平坦	人海	土師器片，須恵器片	
853	H6b6	N-71-E	横円形	1.50	1.23	45	外傾	平坦	人海	土師器片，須恵器片	
854	H6e7	N-57-E	横円形	1.54	1.32	53	外傾	平坦	人海	土師器片，須恵器片，金属製品	SI07 本跡
857	H6f7	N-45-W	横円形	1.85	1.65	37	傾斜	窟状	人海	土師器片，須恵器片，灰陶器	

土坑 番号	位置	長径方向 短径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	備 考	
				長径 m	短径 cm						
858	H4d7	-	円 形	1.49	1.37	30	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	SI132 本跡
877	G6b5	-	円 形	1.22	1.12	74	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片, 灰輪陶器	
886	G6d6	N-53-W	横 円 形	1.53	1.30	26	外傾	平坦	-	土師器片	SB38c遺構
891	G6d6	-	円 形	1.14		38	緩斜	平坦	自然	須恵器片	SI138 SK690 本跡
893	G6f1	N-39-E	横 円 形	1.34	1.14	24	緩斜	平坦	-	土師器片, 須恵器片	SI134 本跡
898	H6c7	N-40-E	横 円 形	2.11	1.89	32	緩斜	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	本跡 SK901
911	G5g5	-	円 形	1.28		37	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	SK912 本跡
920	H7a5	N-75-E	横 円 形	1.20	0.85	57	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
929	G5c5	N-50-E	不 定 形	1.52	1.18	42	緩斜	段状	自然	土師器片, 須恵器片	
940	G5c5	N-60-E	横 円 形	1.50	1.30	60	外傾	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
941	G5c5	-	円 形	1.68	1.62	76	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
943	G5e7	-	円 形	1.30	1.24	45	外傾	凹凸	人為	土師器片, 須恵器片, 灰輪陶器	
945	G5f5	N-28-W	横 円 形	1.83	1.28	54	直立	平坦	自然	土師器片, 須恵器片	
1714	F3c4	N-11-W	横 円 形	2.35	2.12	22	外傾	平坦	人為	土師器片, 須恵器片	
1894	D3c8	N-40-W	隅丸長方形	2.13	1.00	11	外傾	凹凸	不明	須恵器片	

## 6 粘土探掘坑

今回の調査で、5基の粘土探掘坑が調査4区の南部にまとまって検出されている。いずれも粘土層を掘り込んでいる。以下、検出された粘土探掘坑について記載する。

### 第1号粘土探掘坑（第483図）

位置 調査4区の南部，H4e5区。

規模と平面形 長軸3.44m，短軸2.03mの不整長方形で，深さは37cmである。

主軸方向 N-5°-E

壁 外傾して立ち上がる。

底面 全体的にはほぼ平坦であるが，東壁寄りの一部が凹凸である。

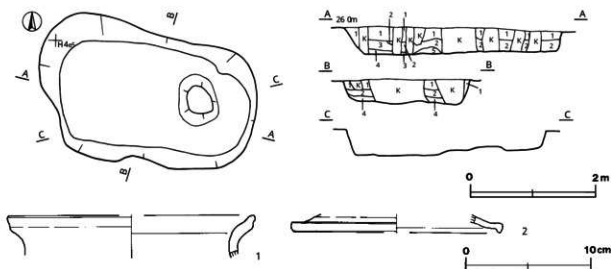
覆土 5層に分層され，不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

#### 土層解説

- |       |  |       |   |
|-------|--|-------|---|
| 1 暗褐色 | ローム粒子多量，焼土粒子少量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量，粘土大ブロック少量，焼土粒子微量       |
| 2 暗褐色 | ローム粒子中量，ローム小ブロック・粘土粒子少量，焼土小ブロック・炭化物・炭化粒子微量           | 5 暗褐色 | 粘土中ブロック・粘土小ブロック中量，ローム粒子少量，焼土小ブロック・炭化物微量 |
| 3 褐色  | ローム粒子中量，ローム小ブロック・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量              |       |   |

遺物 縄文土器片2点，土師器片13点，須恵器片4点が出土している。うち，土師器片1点，須恵器片1点を抽出・図示した。第483図1の土師器甕，2の須恵器蓋は，それぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる土器が出土していることから，その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第 483 図 第 1 号粘土探掘坑・出土遺物実測図

第 1 号粘土探掘坑出土遺物観察表

図原番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 483 図 1	甕 土 師 器	A 194 B 34	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 橙色 普通	P 2566 5%
2	蓋 須 恵 器	A 164 B 14	口縁部片。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口クロナデ。	長石 灰色 普通	P 2567 5%

第 2 号粘土探掘坑 (第 484 図)

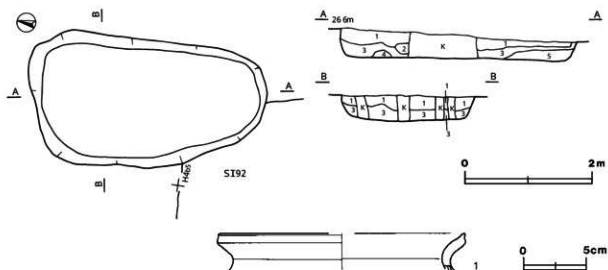
位置 調査 4 区の南部, H4a5 区。

主軸方向 N-8°-W

規模と平面形 長径 3.70m, 短径 2.04m の不整形円形で、深さは 44cm である。

壁 外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。



第 484 図 第 2 号粘土探掘坑・出土遺物実測図

覆土 5層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量  
 2 暗褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量  
 3 黒褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量  
 4 極暗褐色 粘土小ブロック少量、ローム粒子・小石微量  
 5 黒褐色 粘土中ブロック・粘土小ブロック微量

遺物 縄文土器片12点、土師器片34点、須恵器片16点が出土している。うち、土師器片1点を抽出・図示した。第484図1の土師器葉は、覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。

第2号粘土採掘坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第484図 1	葉 土師器	A 194 B 29	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母に富む褐色普通	P 2568 5%

第3号粘土採掘坑（第485図）

位置 調査4区の南部、H4d6区。

規模と平面形 長径3.02m、短径2.62mの楕円形で、深さは46cmである。

主軸方向 N-8°-E

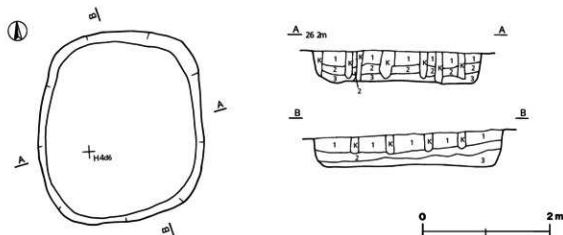
壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され、レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量  
 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化物微量  
 3 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子・粘土中ブロック微量



第485図 第3号粘土採掘坑実測図

遺物 縄文土器片25点、土師器片44点、須恵器片19点が出土している。いずれも細片であり図示できなかったが、内面黒色処理された土師器杯片が出土している。

所見 出土土器が細片であり正確な時期は不明であるが、内面黒色処理された土師器坏片が出土していることから平安時代（9世紀）ごろまでは採掘されていた可能性が考えられる。

#### 第4号粘土採掘坑（第486・487図）

位置 調査4区の南部，H4c3区。

規模と平面形 長径5.68m，短径3.81mの楕円形で，深さは41cmである。

主軸方向 N-4°-E

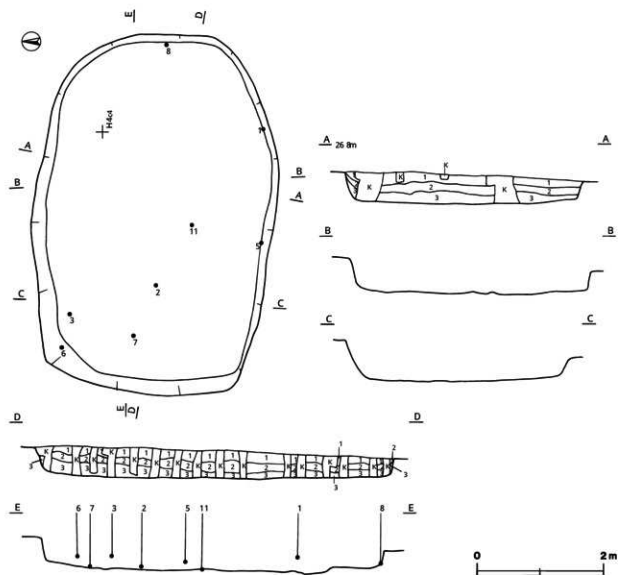
壁 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層に分層され，レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

##### 土層解説

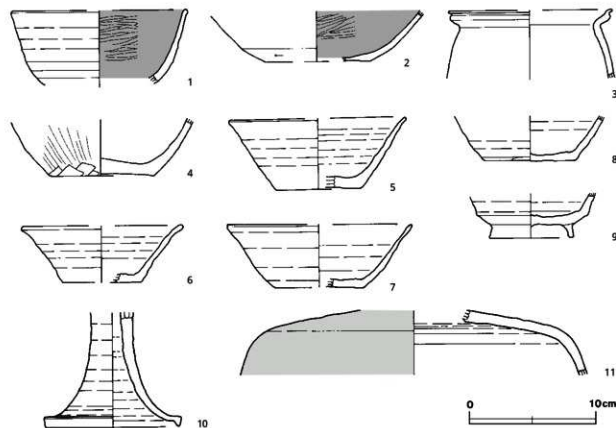
- |       |   |      |                                 |
|-------|---|------|---------------------------------|
| 1 褐色  | ローム小ブロック少量，焼土粒子少量                       | 3 褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック少量，ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量 |      |                                 |



第486図 第4号粘土採掘坑実測図

遺物 縄文土器片4点、土師器片95点、須恵器片64点、灰釉陶器片1点が出土している。うち、土師器4点、須恵器6点、灰釉陶器片1点を抽出・図示した。第487図4の土師器甕、9の須恵器高台付杯、10の須恵器高盤は、それぞれ覆土中から出土している。1の土師器杯は、南東壁際の覆土中層から出土している。2の土師器杯は中央部、3の土師器甕・6の須恵器杯は北西壁際、5の須恵器杯は南壁際、8の須恵器杯は東壁際から、それぞれ覆土下層から出土している。7の須恵器杯は西壁寄り、11の灰釉陶器壺は中央部よりやや南壁寄りの、それぞれほぼ床面から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀中葉）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第487図 第4号粘土探掘坑出土遺物実測図

#### 第4号粘土探掘坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第487図 1	土師器 杯	A 138	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口ロナデ。内面黒色処理。	長石・石英にぶい黄橙色普通	P 2573 15%
		B 58				
2	土師器 杯	B 40	底部から体部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へラ磨き、外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へラ刷り。内面黒色処理。	長石・石英橙色普通	P 2574 20%
		C 84				
3	小形須恵器 土師器 甕	A 128	体部から口縁部片。体部は内傾して頸部に至る。口縁部は外反し、頸部は外上方つまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・曹母にぶい赤褐色普通	P 2575 10%
		B 54				
4	須恵器 土師器 甕	B 45	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部外面縦位のへラナデ、体部下端斜位のへラ刷り。	長石・石英にぶい黄褐色普通	P 2576 10%
		C 82				



図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第488図 5	環 須 恵 器	A 140	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ附り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2577 40%
		B 57				
		C 66				
6	環 須 恵 器	A 126	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部一方向の手持ちヘラ附り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色普通	P 2578 30%
		B 45				
		C 62				
7	環 須 恵 器	A 145	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ附り。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2579 40%
		B 50				
		C 70				
8	環 須 恵 器	B 35	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部一方向の手持ちヘラ附り。	長石・石英・針状鉱物 灰黄色、普通	P 2580 40%
		C 72				
		D 11				
9	高台付環 須 恵 器	B 35	底部から体部片。平底。高台はハの字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 灰黄褐色 普通	P 2581 30% 底部ヘラ記号
		D 66				
		E 11				
10	高 須 恵 器	B 91	脚部片。脚部はラッパ状に開く。	脚部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2582 30%
		D 106				
11	長 須 恵 器	B 50	底部上位の破片。底部上位は内筒筒状に立ち上がり、屈曲してなだらかに内傾する。	体部内・外面口ロナデ。体部外面腫隆。	長石 にがい黄色 良好	P 2583 5% 黒蓋 14号 - 90号窯式期

#### 第5号粘土採掘坑 (第488・489図)

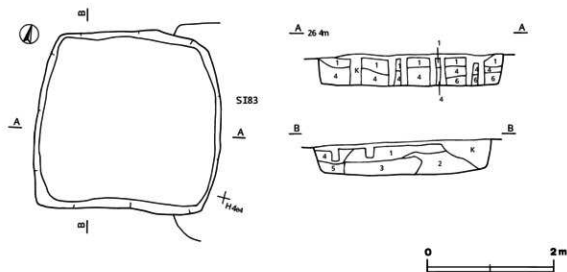
位置 調査4区の南部、H4d3区。

規模と平面形 長軸2.89m、短軸2.71mの方形で、深さは55cmである。

主軸方向 N-9°-W

壁 直立する。

底面 ほぼ平坦である。



第488図 第5号粘土採掘坑実測図

覆土 6層に分層され、不規則な堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

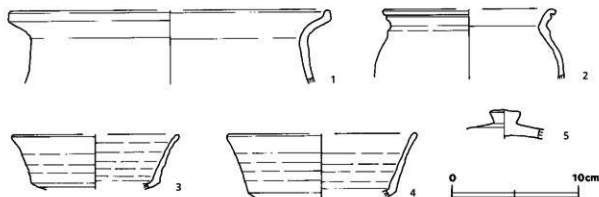
1 概 暗 褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量

2 概 暗 褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量

- 3 黒褐色 焼土粒子・炭化粒子・粘土小ブロック・粘土粒子微量 5 黒褐色 粘土粒子少量、炭化粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック微量  
 4 にぶい黄褐色 粘土粒子多量、粘土中ブロック少量、粘土小ブロック微量 6 暗褐色 粘土粒子中量、粘土小ブロック微量

遺物 縄文土器片45点、土師器片43点、須恵器片58点が出土している。うち、土師器2点、須恵器3点を抽出・図示した。第489図1の土師器甕、2の土師器小形甕、3・4の須恵器高台付杯、5の須恵器蓋は、それぞれ覆土中から出土している。

所見 時期は平安時代（9世紀）と考えられる遺物が出土していることから、その時期以前まで採掘されていたものと考えられる。



第489図 第5号粘土採掘坑実測図

第5号粘土採掘坑出土遺物観察表

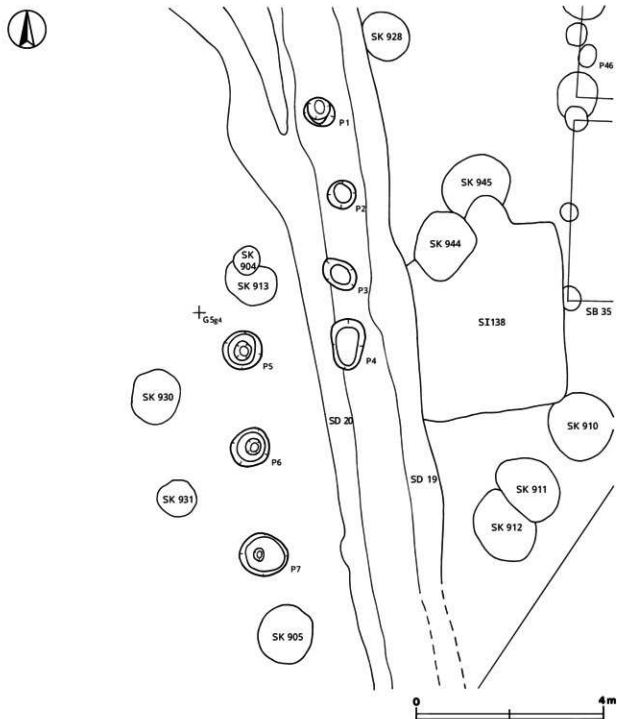
図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第489図 1	甕 土師器	A 250 B 58	口縁部片。口縁部は外反し、端部はつまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・赤色粒子 橙色、普通	P 2584 5%
2	小形甕 土師器	A 133 B 55	体部から口縁部片。体部は内彎気味に立ち上がり、口縁部は外反する。端部は外上方につまみ上げられている。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 明赤褐色 普通	P 2585 5%
3	高台付杯 須恵器	A 132 B 43	体部から口縁部片。体部は外側に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石 灰色 普通	P 2586 15%
4	高台付杯 須恵器	A 148 B 51	体部から口縁部片。体部は外側に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石 灰色 普通	P 2587 10%
5	蓋 須恵器	B 24 F 24 G 12	天井部片。擬宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ刷り。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2588 10%

表5 粘土採掘坑一覽表

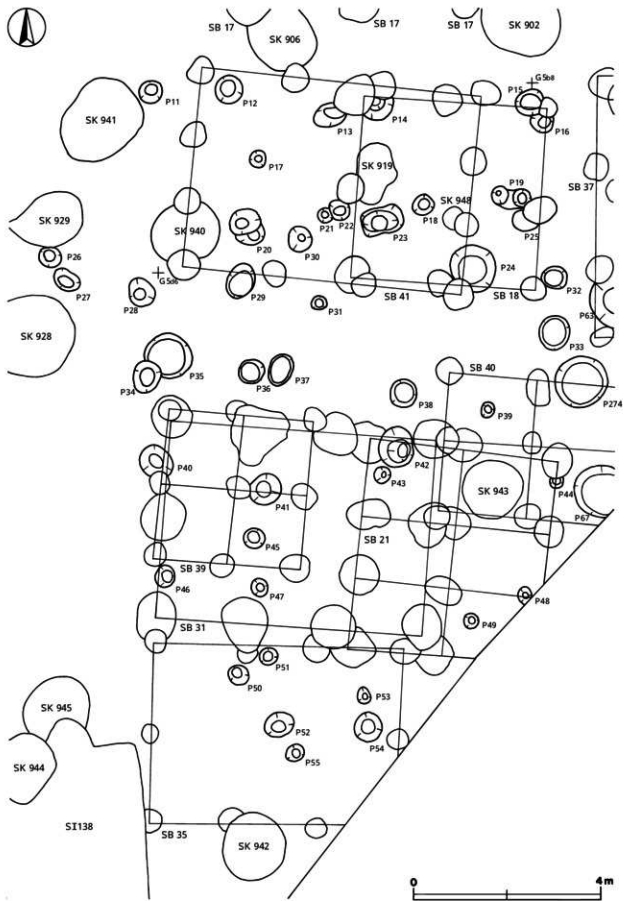
土坑 番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	出土遺物	備考	
				長径 m	短径 深さ cm						
1	H465	N-S-E	不整形方形	3.44	2.03	37	外傾	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK-4006
2	H465	N-S-W	不整形円形	3.70	2.04	44	外傾	平坦	人為	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK-4007
3	H465	N-S-E	楕円形	3.02	2.26	46	外傾	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK-4033
4	H463	N-S-E	楕円形	5.68	3.81	41	外傾	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片、 灰釉陶器片	SK-4065
5	H463	N-S-W	方形	2.71	2.89	55	垂直	平坦	不明	縄文土器片、土師器片、須恵器片	SK-4066

## 7 ビット群

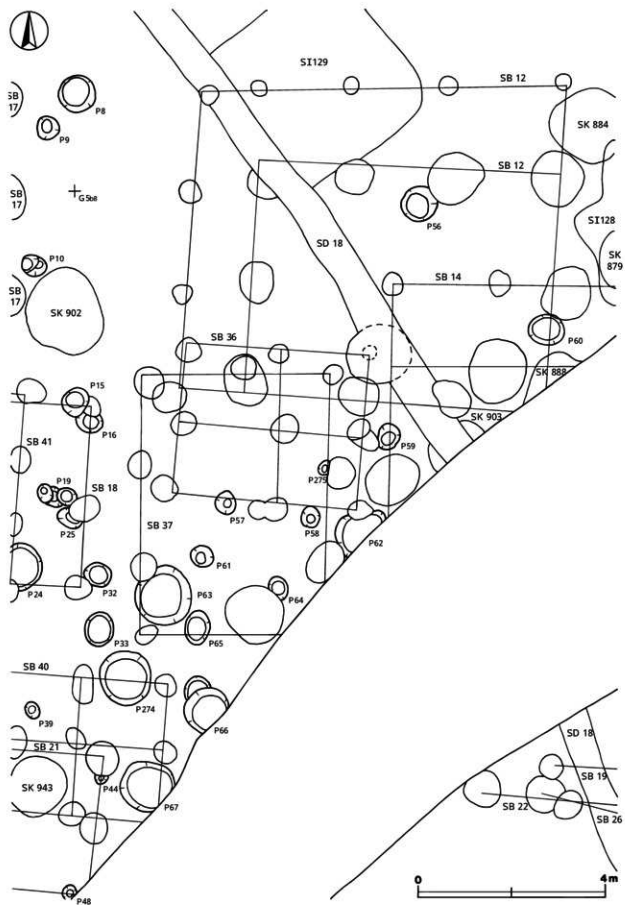
今回の調査で、規模及び形状から柱穴と考えられるビットが346基が検出された。そのうち、3区・5区に集中的に検出され、掘立柱建物跡として復元できなかった322基を、それぞれ、5区を第1号ビット群、3区を第2号ビット群として、一覧表にまとめる。



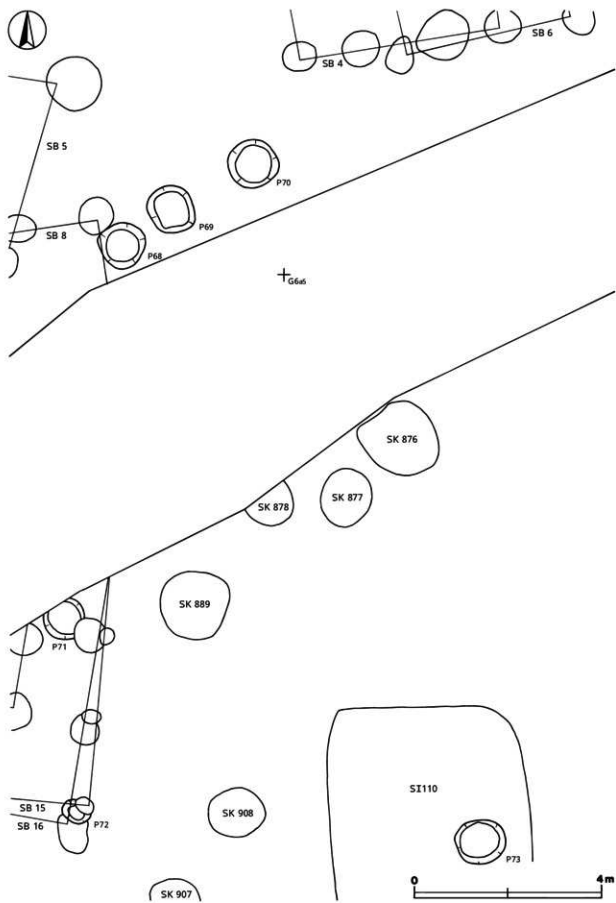
第 490図 第1号ビット群実測図(1)



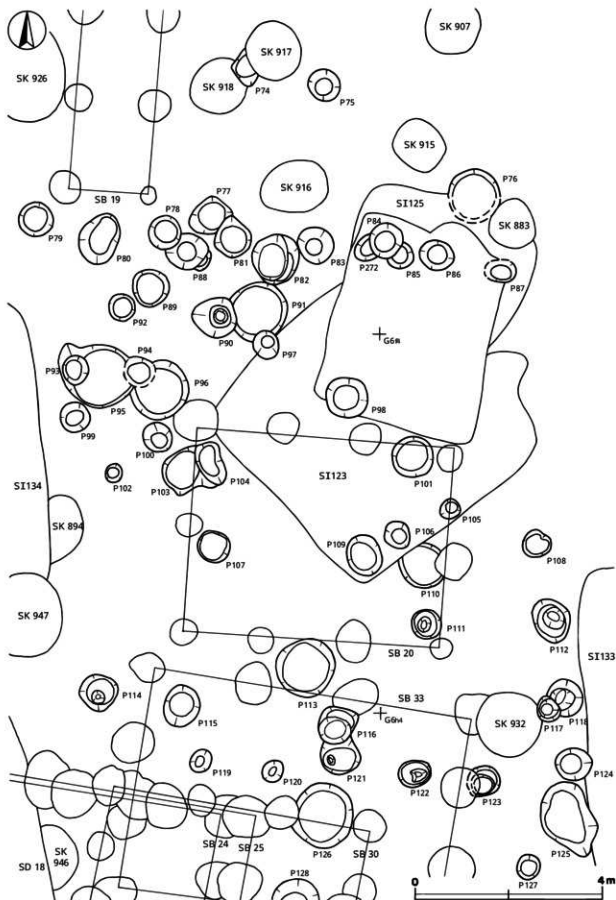
第 491 図 第 1 号ピット群実測図 ( 2 )



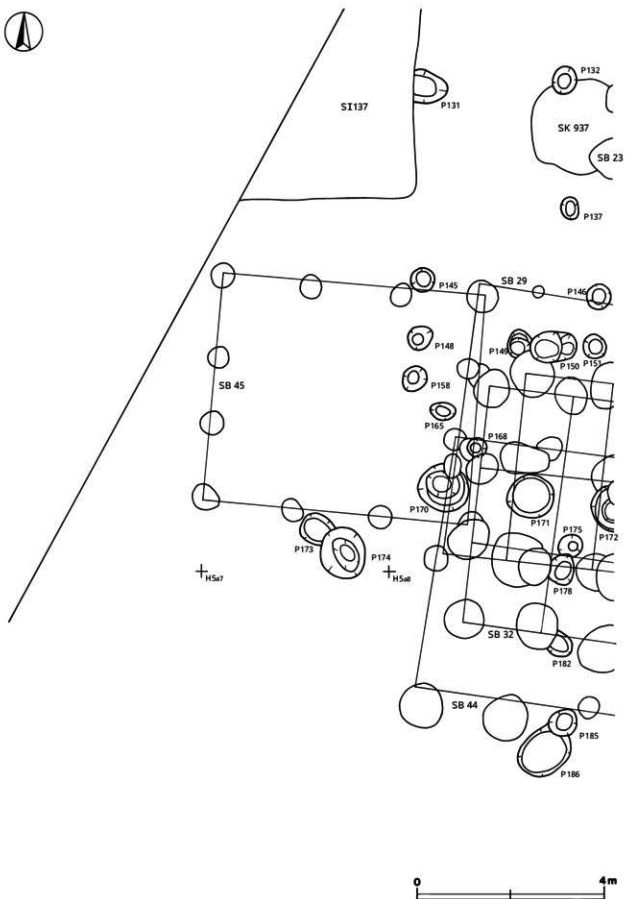
第 492 図 第 1 号ピット群実測図 ( 3 )



第 493 図 第 1 号ピット群実測図 ( 4 )

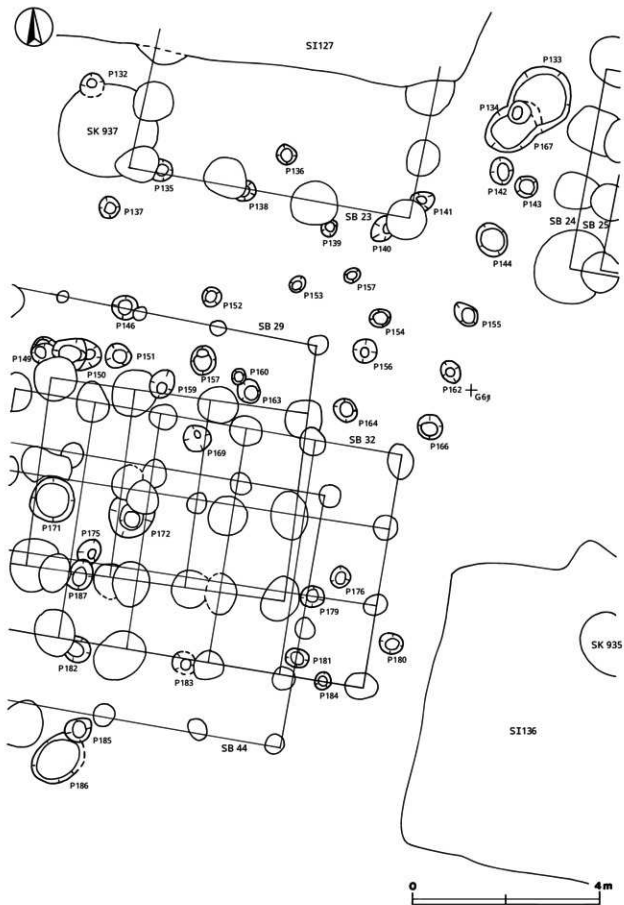


第 494 図 第 1 号ピット群実測図 ( 5 )

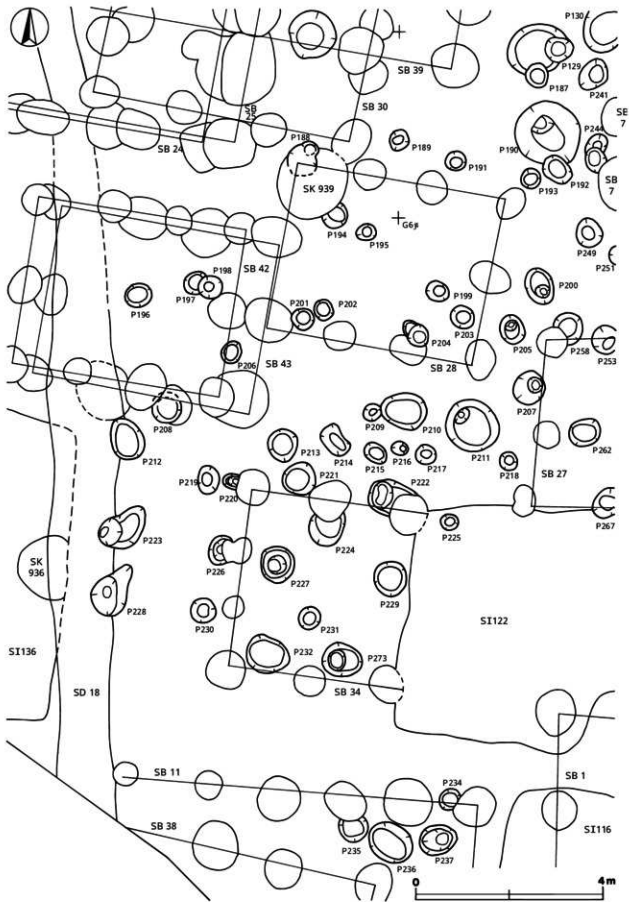


第 495 図 第 1 号ピット群実測図 ( 6 )

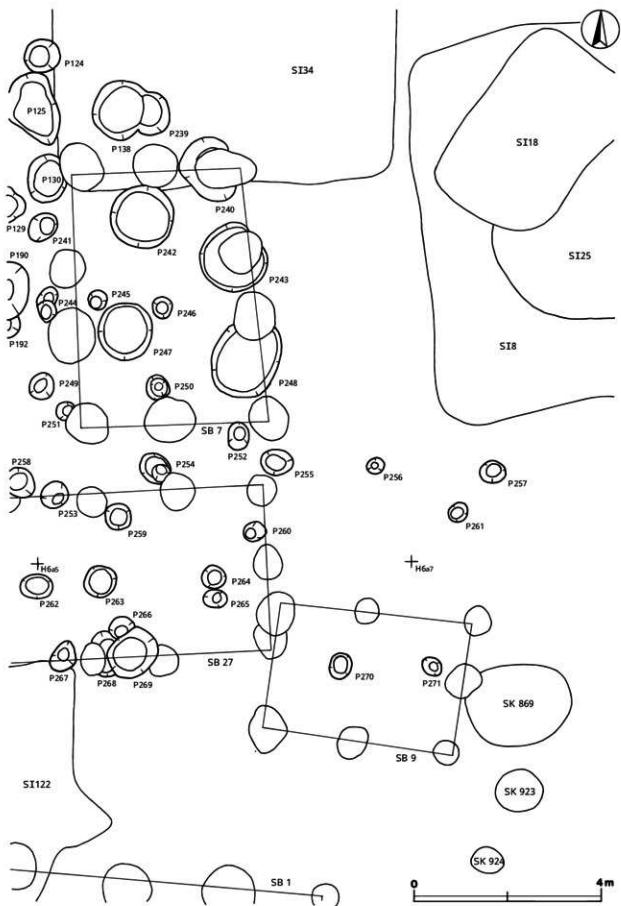




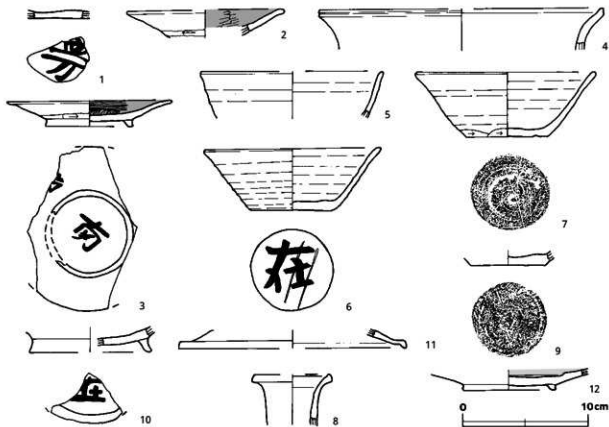
第 496図 第 1号ピット群実測図(7)



第 497 図 第 1 号ピット群実測図 ( 8 )



第 498 図 第 1 号ピット群実測図 ( 9 )



第 499図 第 1号ピット群出土遺物実測図

第 63号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 499図 1	坏 土器	B 06 C 49	底部片。平底。	底部内面へラ磨き，外面へラ削り。 内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 にふい黄褐色 普通	P 2651 5% PL73 底部墨書「益万」

第 237号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 499図 2	皿 土器	A 124 B 21	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら開く。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へラ磨き，外面口クロナデ。内面黒色処理。	石英・針状鉱物 にふい褐色 普通	P 2648 5%

第 76号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 499図 3	高台付皿 土器	A 130 B 21 D 68 E 06	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して大きく開き，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き，外面口クロナデ。体部下端及び底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物 にふい黄褐色 普通	P 2654 60% PL69 74 底部墨書「南」；体部外面墨書「南」力

第 270号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 499図 4	甕 土器	A 222 B 33	口縁部片。口縁部は外反し，肩部はつまみ上げられている。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・石英・雲母 にふい褐色 普通	P 2655 5%

### 第 123号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 5	坏 須恵器	A 142 B 37	体部から口縁部片。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2661 5%

### 第 264号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 6	坏 須恵器	A 138 B 50 C 64	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部及び底部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石 灰黄褐色 普通	P 2652 99% PL68 72 底部墨書「在」 底部ヘラ記号

### 第 67号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 7	坏 須恵器	A 140 B 52 C 62	底部から口縁部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 2659 90% 底部ヘラ記号
8	長頸瓶 須恵器	A 60 B 40	頸部から口縁部片。頸部は直線的に立ち上がり、口縁部は外反する。	頸部及び口縁部内・外面口ロナデ。	長石 灰色 普通	P 2660 5%

### 第 87号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 9	坏 須恵器	B 12 C 60	底部片。平底。	底部内面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	礫・長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 2653 10% 底部ヘラ記号

### 第 38号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 10	高台付 須恵器	B 20 D 96 E 11	底部片。平底。高台は八の字状に開く。	底部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2656 10% PL72 底部墨書「在」

### 第 115号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 11	壺 須恵器	A 180 B 15	口縁部片。口縁端部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2658 5%

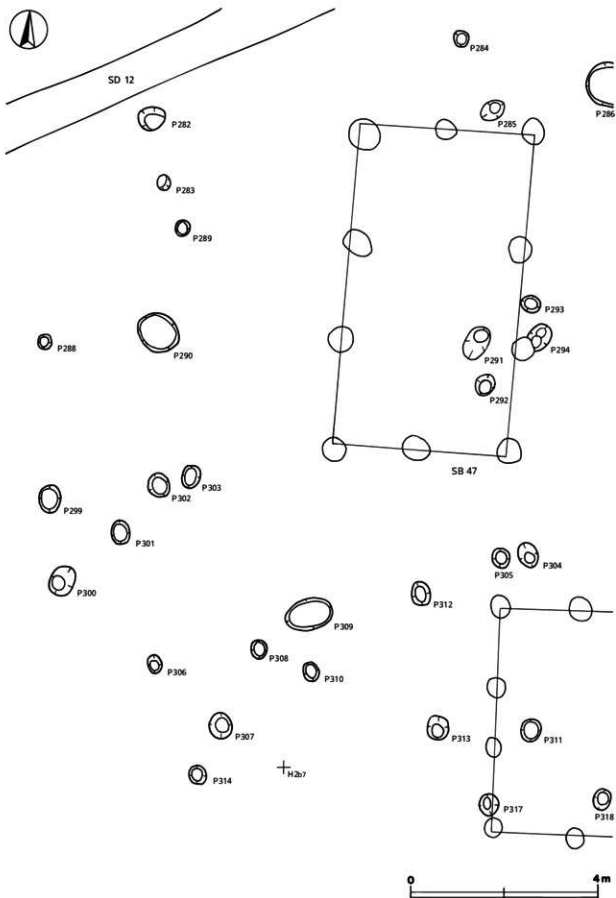
### 第 191号ピット出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第49図 12	段 灰釉陶器	B 17 D 72 E 05	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は直線的に開き、体部内面に段を有する。	底部及び体部内・外面口ロナデ。高台貼り付け。底部及び体部内面施釉。	長石 内面灰オリーブ色 外面灰黄色 普通	P 2657 20% 黒笹 1号窯式刷

表6 第1号ビット群一覧表

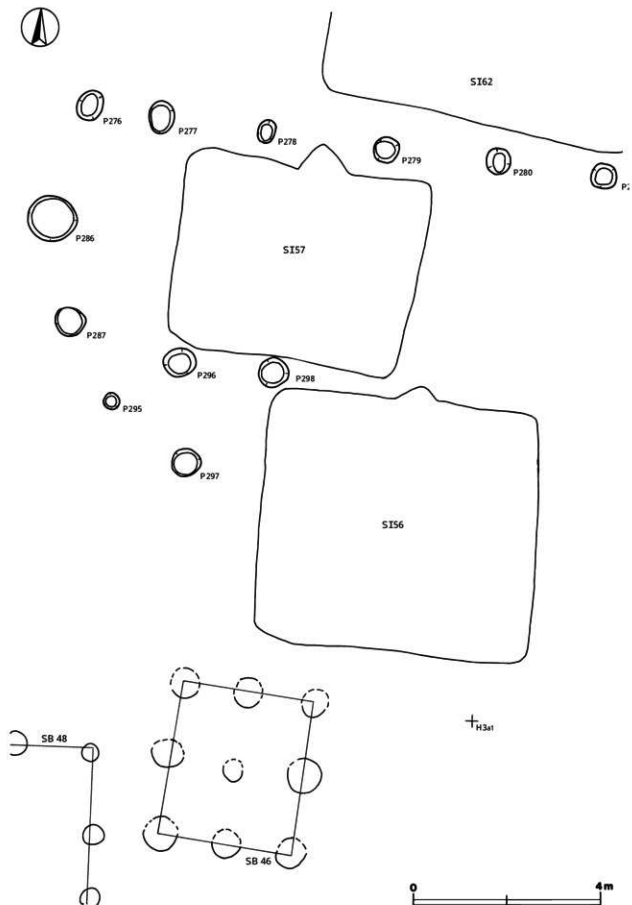
番 号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	番 号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	番 号	長径 cm	短径 cm	深さ cm
P 1	64	58	26	P 47	39	36	56	P 93	90	60	76
P 2	68	59	53	P 48	31	28	44	P 94	72	70	48
P 3	80	62	41	P 49	34	32	52	P 95	108	140	22
P 4	107	71	40	P 50	47	46	19	P 96	127	120	22
P 5	79	78	55	P 51	42	40	30	P 97	62	58	36
P 6	85	76	36	P 52	63	27	20	P 98	93	64	62
P 7	100	90	44	P 53	37	30	42	P 99	67	60	19
P 8	82	78	48	P 54	62	53	22	P 100	62	60	16
P 9	52	48	54	P 55	38	34	21	P 101	84	82	28
P 10	56	48	48	P 56	75	70	27	P 102	38	38	12
P 11	52	48	54	P 57	46	45	47	P 103	86	75	12
P 12	60	60	58	P 58	46	42	57	P 104	92	58	31
P 13	76	55	27	P 59	50	52	30	P 105	40	42	18
P 14	76	70	86	P 60	82	73	55	P 106	60	53	33
P 15	54	60	54	P 61	49	48	27	P 107	72	62	26
P 16	42	50	52	P 62	98	76	48	P 108	60	58	31
P 17	41	38	26	P 63	124	122	34	P 109	94	74	43
P 18	46	45	36	P 64	46	40	40	P 110	96	94	8
P 19	90	44	40	P 65	72	60	12	P 111	64	60	56
P 20	80	64	72	P 66	96	83	33	P 112	95	78	34
P 21	40	32	30	P 67	114	96	46	P 113	123	112	52
P 22	50	44	22	P 68	98	98	39	P 114	78	78	56
P 23	92	60	44	P 69	97	90	50	P 115	88	76	44
P 24	130	73	20	P 70	104	101	45	P 116	85	79	57
P 25	60	24	48	P 71	86	66	24	P 117	54	44	56
P 26	48	46	37	P 72	50	30	24	P 118	76	57	49
P 27	60	48	15	P 73	103	92	43	P 119	42	40	32
P 28	64	58	102	P 74	65	36	30	P 120	44	40	38
P 29	72	60	60	P 75	72	70	30	P 121	84	80	55
P 30	54	52	50	P 76	160	110	24	P 122	65	56	58
P 31	35	33	55	P 77	92	74	30	P 123	66	66	58
P 32	62	47	17	P 78	67	66	70	P 124	72	72	48
P 33	72	63	19	P 79	70	69	34	P 125	160	140	30
P 34	68	54	76	P 80	111	81	54	P 126	134	128	42
P 35	104	98	28	P 81	86	78	72	P 127	50	50	32
P 36	56	54	72	P 82	104	98	44	P 128	100	90	24
P 37	70	58	50	P 83	78	73	58	P 129	140	108	40
P 38	60	57	65	P 84	64	60	34	P 130	100	86	40
P 39	36	32	80	P 85	56	29	16	P 131	68	68	28
P 40	74	62	60	P 86	72	63	43	P 132	45	40	32
P 41	67	63	56	P 87	72	44	24	P 133	126	82	23
P 42	86	66	58	P 88	80	77	56	P 134	50	48	30
P 43	37	34	91	P 89	86	80	18	P 135	45	45	39
P 44	20	26	56	P 90	84	62	64	P 136	35	35	-
P 45	50	43	95	P 91	142	128	34	P 137	46	44	40
P 46	48	42	44	P 92	62	58	17	P 138	46	44	38

番 号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	番 号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	番 号	長径 cm	短径 cm	深さ cm
P 139	35	35	44	P 186	118	90	28	P 231	48	48	42
P 140	48	44	38	P 187	52	46	20	P 232	94	74	60
P 141	44	42	82	P 188	42	42	32	P 233	46	44	30
P 142	51	44	26	P 189	44	38	32	P 234	42	34	46
P 143	50	50	16	P 190	134	130	48	P 235	60	46	-
P 144	70	64	28	P 191	43	38	22	P 236	98	74	24
P 145	50	48	28	P 192	60	50	36	P 237	82	62	60
P 146	48	48	27	P 193	47	40	20	P 238	156	124	36
P 147	34	30	50	P 194	50	30	22	P 239	98	56	36
P 148	52	44	46	P 195	39	35	70	P 241	72	58	56
P 149	60	50	44	P 196	60	52	12	P 242	136	134	54
P 150	96	66	20	P 197	51	32	14	P 243	132	130	52
P 151	50	50	38	P 198	52	46	18	P 244	78	46	44
P 152	42	42	28	P 199	48	41	32	P 245	44	42	12
P 153	56	42	44	P 200	74	60	48	P 246	46	44	8
P 154	44	44	44	P 201	48	44	33	P 247	118	114	60
P 155	56	42	44	P 202	46	42	36	P 248	166	134	60
P 156	60	56	30	P 203	48	48	26	P 249	56	54	32
P 157	64	50	32	P 204	66	42	-	P 250	52	50	26
P 158	52	46	26	P 205	60	54	24	P 251	42	40	40
P 159	54	49	46	P 206	46	43	24	P 252	52	46	72
P 160	34	30	44	P 207	70	64	96	P 253	56	56	30
P 162	46	40	48	P 208	68	62	34	P 254	70	56	32
P 163	50	48	48	P 209	36	32	26	P 255	66	50	26
P 164	54	44	56	P 210	88	62	40	P 256	27	27	86
P 165	48	36	30	P 211	114	106	40	P 257	52	48	62
P 166	54	50	44	P 212	80	60	26	P 258	64	64	60
P 167	130	96	20	P 213	72	64	22	P 259	59	58	20
P 168	42	38	34	P 214	54	38	16	P 260	52	46	92
P 169	58	50	38	P 215	54	40	14	P 261	44	42	32
P 170	104	100	44	P 216	32	30	24	P 262	71	53	24
P 171	100	92	52	P 217	46	44	40	P 263	73	68	34
P 172	96	96	56	P 218	38	34	82	P 264	50	50	70
P 173	60	62	16	P 219	60	52	64	P 265	50	40	56
P 174	104	90	26	P 220	32	30	68	P 266	36	48	30
P 175	56	48	50	P 221	72	72	48	P 267	36	36	34
P 176	44	40	46	P 222	58	74	40	P 268	50	94	-
P 178	58	54	18	P 223	104	68	22	P 269	128	114	54
P 179	42	42	28	P 224	52	76	18	P 270	56	50	28
P 180	50	44	26	P 225	36	36	34	P 271	48	38	48
P 181	44	36	26	P 226	60	52	60	P 272	60	38	26
P 182	42	42	-	P 227	82	78	40	P 273	86	70	28
P 183	52	42	28	P 228	108	60	26	P 274	114	110	32
P 184	36	36	46	P 229	74	72	35	P 275	34	16	-
P 185	56	54	28	P 230	54	52	30				

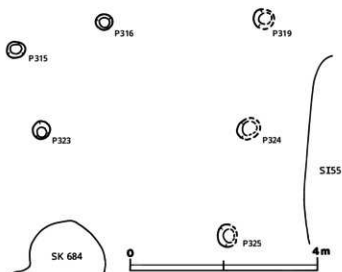
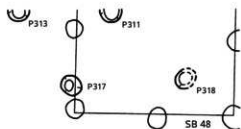


第 500図 第 2 号ピット群実測図 ( 1 )

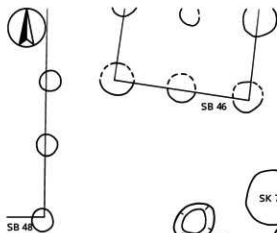




第 501 図 第 2 号ピット群実測図 ( 2 )



第 502 図 第 2 号ピット群実測図 ( 3 )



SB 48

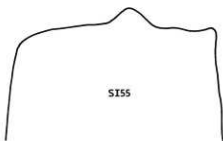
P320

P321

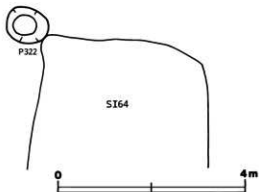
SK 762

P322

H3b1



SI55



SI64

第 503 図 第 2 号ピット群実測図 ( 4 )

表7 第2号ピット群一覧表

番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm	番号	長径 cm	短径 cm	深さ cm
P 276	64	56	28	P 293	46	42	-	P 310	40	34	-
P 277	70	58	30	P 294	62	46	-	P 311	48	42	-
P 278	50	37	28	P 295	33	32	-	P 312	54	40	-
P 279	58	54	19	P 296	70	60	38	P 313	54	52	-
P 280	56	52	42	P 297	60	60	-	P 314	40	39	-
P 281	56	53	36	P 298	62	58	40	P 315	37	36	-
P 282	54	52	-	P 299	58	50	-	P 316	37	36	-
P 283	32	29	-	P 300	68	56	-	P 317	48	46	24
P 284	36	33	-	P 301	52	40	-	P 318	44	40	46
P 285	56	42	-	P 302	54	48	-	P 319	44	42	47
P 286	98	92	-	P 303	52	40	-	P 320	98	92	27
P 287	68	66	15	P 304	54	42	-	P 321	83	78	34
P 288	34	29	-	P 305	44	42	-	P 322	91	85	20
P 289	34	32	-	P 306	36	28	-	P 323	38	37	-
P 290	86	80	-	P 307	54	52	-	P 324	46	42	16
P 291	80	52	-	P 308	38	36	-	P 325	46	40	23
P 292	52	42	-	P 309	102	62	-				

## 8 遺物包含層

調査4区において、遺物包含層1か所を確認した。本跡は、周囲の台地上に調査2・3・5区が分布する埋没谷に堆積している遺物包含層であり、出土遺物の時期は縄文時代中期中葉から平安時代に及んでいる。これらの遺物の多くが、北側に舌状に延びた埋没谷中の暗褐色土から出土しており、調査2・3・5区及び当区の遺構からの流れ込みと考えられる。以下、その状況及び遺物について記載する。

## 第2号遺物包含層（第504～506図）

位置 調査第4区の南東及び南西部、G4区・H4区・H5区

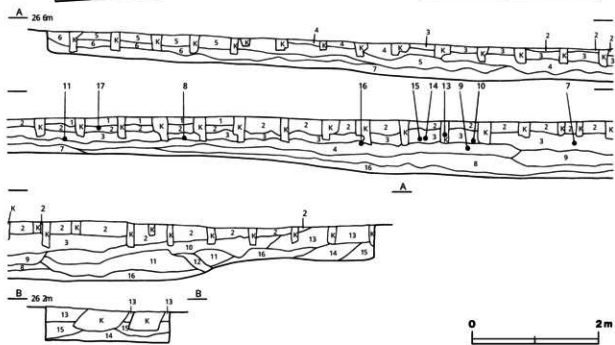
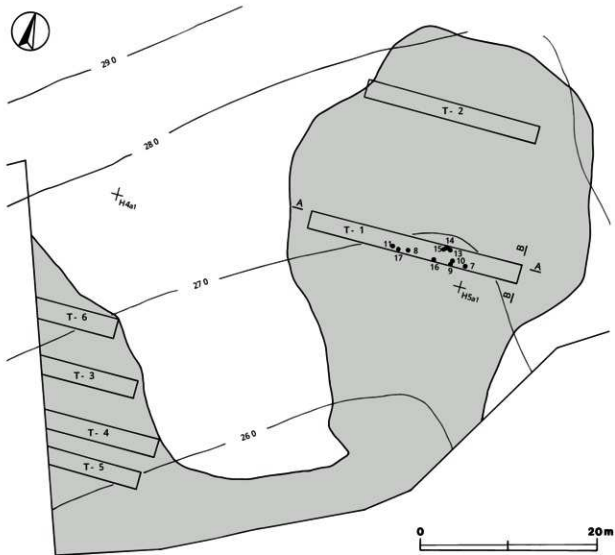
規模 堆積範囲は、調査区内において東西60m、南北68mに及んでいる。厚さは最大で0.95mである。

覆土 16層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と考えられる。

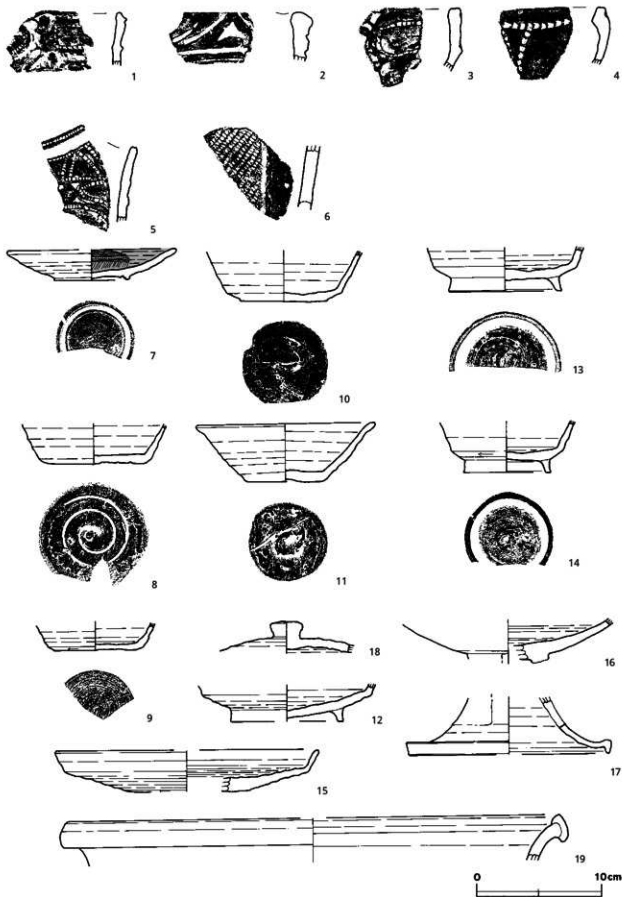
## 土層解説

- |       |                        |        |                    |
|-------|------------------------|--------|--------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      | 9 黒色   | 粘土粒子・白色スコリア微量      |
| 2 黒色  | 炭化粒子微量                 | 10 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 |
| 3 暗褐色 | 炭化粒子微量                 | 11 黒色  | ローム粒子微量            |
| 4 暗褐色 | 炭化物・炭化粒子微量             | 12 黒褐色 | ローム粒子微量            |
| 5 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量       | 13 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量   |
| 6 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子・粘土粒子微量  | 14 褐色  | 粘土粒子中量             |
| 7 暗褐色 | 粘土粒子中量、粘土小ブロック微量       | 15 黒褐色 | ローム粒子・炭化物微量        |
| 8 黒色  | ローム小ブロック・粘土粒子・白色スコリア微量 | 16 暗褐色 | 焼土小ブロック微量          |

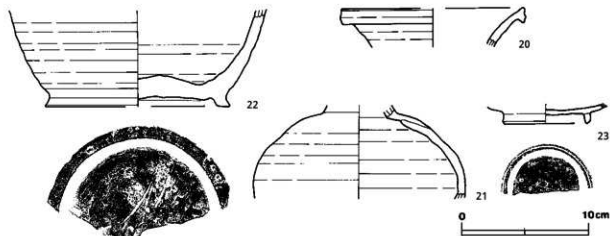
遺物 縄文土器片267点、弥生土器片6点、土師器146点、須恵器220点、灰軸陶器2点、不明鉄製品3点が出土している。うち、縄文土器片6点、土師器1点、須恵器15点、灰軸陶器1点を抽出・図示した。1から5の深鉢の口縁部片は、覆土中から出土しており、縄文時代中期中葉（阿玉台Ⅱ式期）と考えられる。6の深鉢の胴部片は、覆土中から出土しており、縄文時代中期後葉（加曾利EⅡ式期）と考えられる。7の土師器高台付皿、8から11の須恵器杯、13～15の須恵器高台付杯、16の須恵器盤、17・18の須恵器高盤、12の須恵器蓋、19の須恵器甕、20～22の須恵器長頸瓶、23の灰軸陶器皿は、いずれも東部の上層から出土している。



第 504 图 第 2 号遺物包含層实测图



第 505 图 第 2 号遺物包含層出土遺物実測图 ( 1 )



第 506 図 第 2 号遺物包含層出土遺物実測図 ( 2 )

所見 覆土中から縄文土器片が、また、第 3 層を中心とした上層に集中して平安時代 ( 9 世紀 ) の土器が出土していることから、少なくとも縄文時代中期以降から平安時代 ( 9 世紀 ) にかけてほぼ堆積していたものと考えられる。調査時において、雨天時にはかなりぬかるむ状況であり、以前からも同じような状況が想像され、堆積時に遺物が流れ込んだものと考えられる。

第 2 号遺物包含層出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 50 図 1	深鉢 縄文土器	B 41	口縁部片。口縁部はほぼ直立する。口縁部には縄帯とそれに沿った結節沈線文により、区画文を施している。	長石・石英・雲母、 褐色にぶい褐色、普通	TP2 5%
2	深鉢 縄文土器	B 38	突起を有する口縁部片。口縁部は直立する。口縁部には沈線により、文様を彫出している。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子褐色、普通	TP3 5%
3	深鉢 縄文土器	B 50	口縁部片。口縁部は直立する。口縁部には縄帯とそれに沿った結節沈線文により、区画文を施している。	長石・石英・雲母 褐色普通	TP4 5%
4	深鉢 縄文土器	B 54	口縁部片。口縁部はわずかに内彎する。口縁部内面に稜を持つ。口縁部には結節沈線文により文様を彫出している。	長石・石英・雲 褐色普通	TP5 5%
5	深鉢 縄文土器	B 59	口縁部片。口縁部は外傾する。波状口縁を呈する。口縁部には結節沈線文を、口縁部には縄帯とそれに沿った結節沈線文により、文様を彫出している。	長石・石英・雲母・ 赤色粒子褐色、普通	TP6 5%
6	深鉢 縄文土器	B 50	胴部片。胴部は直線的に立ち上がる。胴部には沈線による懸垂文を彫り消している。地文は R L の単節縄文を縦方向に施している。	長石・石英・雲母 にぶい褐色普通	TP7 5%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 50 図 7	高台付皿 土師器	A 134 B 24 C 60	底部から口縁部片。平底。高台は短く八の字状に開く。体部は大きく開き、口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へラ磨き、外面口クロナデ。底部回転へラ削り。内面黒色処理。	長石・石英・針状鉱物、 灰白色普通	P 2662 40%
8	坏須恵器	B 32 C 80	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転へラ切り後、周縁ナデ。	緑・長石・石英 灰白色普通	P 2663 30%
9	坏須恵器	B 21 C 66	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転へラ削り。	長石・石英 褐色灰色普通	P 2665 15%
10	坏須恵器	B 42 C 70	底部から体部片。平底。体部は直線的に立ち上がる。	体部及び底部内面口クロナデ。底部回転へラ切り後、周縁ナデ。	緑・長石・針状鉱物 黄灰色普通	P 2664 40%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第50図	環 須 恵 器	A 142	底部から口縁部一部欠損。平底。体部は直線的に立ち上がり、口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面口ロナデ。底部回転ヘラ切り。	緑・長石・石英 灰色 普通	P 2666 75% PL68 底部ヘラ記号
		B 47				
		C 60				
12	高台付環 須 恵 器	B 29	底部から体部片。丸味のある平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石 褐灰色 普通	P 2669 25%
		D 90				
		E 09				
13	高台付環 須 恵 器	B 35	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口ロナデ。底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・針状鉱物 黄灰色 普通	P 2667 20%
		D 90				
		E 11				
14	高台付環 須 恵 器	B 41	底部から体部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は外傾して立ち上がる。	体部及び底部内面口ロナデ底部回転ヘラ切り後、高台貼り付け。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2668 30%
		D 78				
		E 10				
15	盤 須 恵 器	A 208	体部から口縁部片。体部は直線的に開き、屈曲して口縁に至る。	口縁部及び体部内面口ロナデ。体部下端回転ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2670 20%
		B 32				
16	高盤 須 恵 器	B 34	脚部から皿部にかけての破片。脚部は透かしが入る。皿部は直線的に開く。	脚部及び環部内・外面口ロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2671 10%
		D 158				
17	高盤 須 恵 器	D 45	脚部片。脚部はラッパ状に開く。脚端部は屈曲し短く垂下する。	脚部内・外面口ロナデ。	長石・石英 黄灰色 普通	P 2672 10%
		E 45				
18	蓋 須 恵 器	B 25	天井部片。観宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口ロナデ。外面回転ヘラ削り。	長石・石英・針状鉱物 灰色、普通	P 2674 20%
		F 26				
		G 13				
19	甕 須 恵 器	A 390	口縁部片。口縁部は外反する。口縁端部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 2677 5%
		B 35				
第507図	長頸瓶 須 恵 器	A 145	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石 褐色 普通	P 2673 5%
		B 30				
21	長頸瓶 須 恵 器	B 74	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	長石・石英、外面 暗オリーブ色、内 面暗灰黄色、普通	P 2675 10%
22	長頸瓶力 須 恵 器	B 75	底部から体部片。やや上げ底気味の平底。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部ヘラ切り後、高台貼り付け。周縁ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P 2676 10%
		D 148				
		E 08				
23	皿 灰陶器	B 16	底面片。平底。高台は八の字状にわずかに開く。	底部内面口ロナデ。高台貼り付け。底部内面施釉。	長石 外面灰白色、内面 オリーブ黄色 普通	P 2678 20% PL68 黒笹 14号窯式期 二 川カ 底部ヘラ記号
		D 66				
		E 09				

## 第6節 中世の遺構と遺物

### 1 竪穴状遺構

ここでは、平面形が方形または長方形で、遺構内にピットや突出部等をもつ遺構を竪穴状遺構として扱い、遺構・遺物について記載する。

#### 第1号竪穴状遺構（第507図）

位置 調査1区の南東部、C5f0区。

重複関係 本跡上部を第7号溝に南北に、北西コーナー部を第515号土坑に、それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.59m、短軸2.88mの隅丸長方形で、東壁中央部付近は、半円筒状に突き出ている。

長軸方向 N-22°-W

壁 壁高は48~70cmで、西壁は直立し、他は外傾する。

底面 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。あまり踏み固められていない。

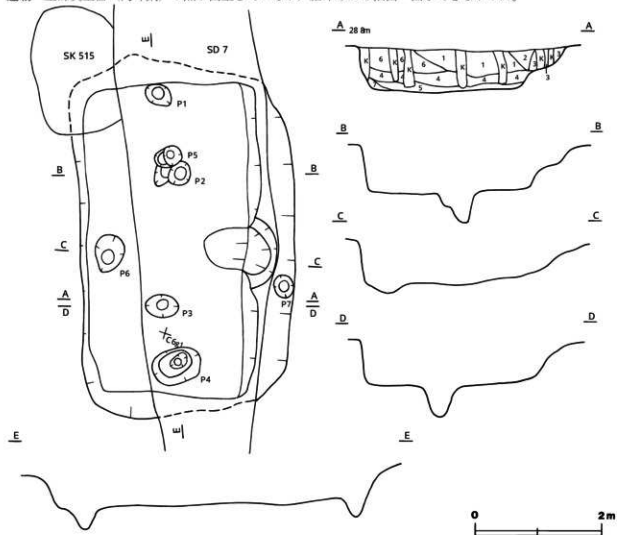
ピット 7か所(P1~P7)。P1~P5は長径40~76cm、短径36~56cmの楕円形で、深さ16~45cmである。P1は北壁際中央、P4は南壁中央寄りに位置する。P2・P3・P5は、P1からP4間にあり、ほぼ一直線に並んでいる。また、東西の壁とはほぼ平行になることから柱穴と思われる。P6は長径60cm、短径44cmの楕円形で、深さ6cmである。突出部と向かい合う西壁中央付近に位置するが、深さがあまりないので性格は不明である。P7は径30cmの円形で、深さ65cmである。東壁中央の突出部の南東に位置する。

覆土 7層からなる。含有物や色調が類似していることから人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
2 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	6 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量		
4 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	7 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量

遺物 土師質土器(内耳鍋)1点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。



第507図 第1号竪穴状遺構実測図

所見 P2は、P5と隣接していることから、柱穴の移動も考えられる。東壁中央部の半楕円状の突出部は、内側方向に傾斜してスロープ状を呈することから出入口に伴う施設と思われる。また、P7はその出入口に伴うピットの可能性も考えられる。内耳鍋の小片だけの出土なので、明確な時期は不明である。しかし、コの字状



を呈する堀の内側に位置することから、堀が存続していた時期（15世紀代）と同じ頃と思われる。

### 第2号竪穴状遺構（第508図）

位置 調査1区の北西部，B3f7区。

規模と平面形 長軸3.60m，短軸2.20mの隅丸長方形で，北西コーナーは，長径1.10m，短径0.70mの半楕円状に突出する。

長軸方向 N-10° - E

壁 壁高は20～30cmで，外傾する。

底面 西壁中央寄り及び北東コーナー付近が高まっている。

ピット 確認できなかった。

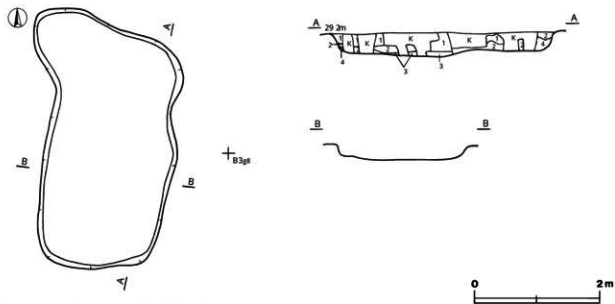
覆土 4層からなるが，攪乱が多いことや覆土が薄いことなどから堆積状況は不明である。

#### 土層解説

- 1 黄褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子中量，ローム小ブロック微量
- 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック少量
- 4 褐色 ローム中ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 竪穴状遺構の特徴の一つであるピットは，確認できなかったが，内耳鍋が出土した第3号竪穴状遺構と近く，平面形が類似していることなどから，竪穴状遺構とした。出土遺物がないことから，明確な時期は不明であるが，第3号竪穴状遺構と同じ頃と思われる。



第508図 第2号竪穴状遺構実測図

### 第3号竪穴状遺構（第509図）

位置 調査1区の西部，B3j8区。

規模と平面形 長軸3.09m，短軸1.34mの隅丸長方形，東コーナーは，長径0.68cm，短径0.45cmの半楕円状に突出する。

長軸方向 N-55° - E

壁 壁高は15~26cmで、外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は長径24cm、短径20cmの楕円形で、深さ27cmである。北コーナー寄りに位置する。

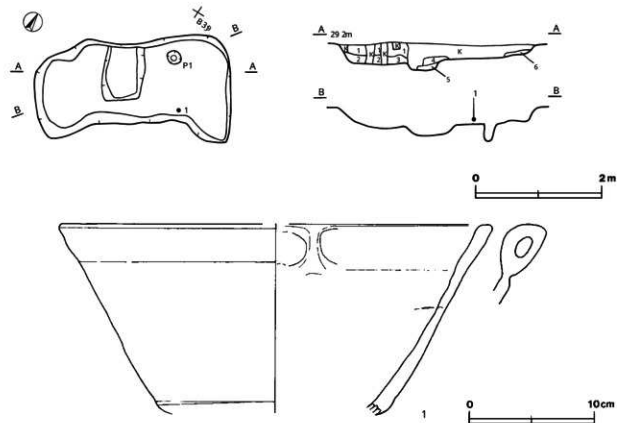
覆土 6層からなるが、攪乱が多いことや覆土が薄いことなどから堆積状況は不明である

土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ 4 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子  
 焼土粒子・炭化粒子微量  
 2 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子 5 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子  
 微量  
 3 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック少量、ローム中ブロッ 6 褐色 ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中  
 ク・焼土粒子・炭化粒子微量 量、炭化粒子微量

遺物 土師質土器1点が出土している。第509図1の土師質土器内耳鍋は、突出部近くの壁際の覆土中層から破片がまとまって出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第 509図 第 3号竪穴状遺構・出土遺物実測図

第 3号竪穴状遺構出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 509図 1	内 耳 鍋 土師質土器	A 350 B 151	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がり、口縁 部との境の内側に線を持つ。口縁 部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。 耳貼り付け後、ナデ。	長石・針状鉱物・雲 母 褐色 普通	P 3910 25% PL67 体部外面入ス付着

第 4号竪穴状遺構 (第510図)

位置 調査1区の東部、B4i8区。

重複関係 第238号土坑を掘り込んでいる。北コーナー部が、第341～343号ピットに掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.28m、短軸1.20mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-70°-W

壁 壁高は48～60cmで、北東壁は直立するが、他は外傾して立ち上る。

底面 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は径18cmの円形で、深さ22cmである。P2は長径24cm、短径21cmの楕円形で、深さ21cmである。P1は北東壁中央部寄り、P2は南壁際中央部にそれぞれ位置する。

覆土 4層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

土層解説

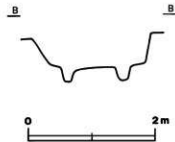
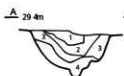
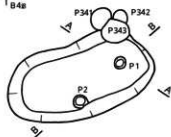
- |       |                              |       |                                    |
|-------|------------------------------|-------|------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・炭化物粒子少量、ローム粒子微量     | 3 暗褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量       |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量 |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀の内側に位置することや遺構の形態から中世と思われる。



B48



第510図 第4号竪穴状遺構実測図

第5号竪穴状遺構 (第511図)

位置 調査1区の東部、C5a0区。

重複関係 東西両側で、第6号竪穴状遺構と第427号土坑と重複している。第427号土坑を掘り込んでいるが、攪乱が多いことなどから第6号竪穴状遺構との新旧関係は不明である。

規模と平面形 東西で重複しているために、長軸4.33m、短軸2.23mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-66°-E

壁 残存する南壁の壁高は30cmで、外傾する。

底面 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 2か所(P1・P2)。P1・P2は長径38～39cm、短径30～35cmの楕円形で、深さ34～44cmである。P1は南東コーナー、P2は中央部の東寄りに、それぞれ位置する。

覆土 3層で薄く、また攪乱が多く入っているために堆積状況は不明である。

土層解説

- |       |  |       |                               |
|-------|--|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                                  | 3 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量 |       |                               |

遺物 出土していない。

所見 耕作による攪乱が多数入っていることや第6号竪穴状遺構と重複しているため、ピットは2か所しか確認されなかった。第1号竪穴状遺構と同様に第1号堀の内側にあるので中世のものと思われる。

第6号竪穴状遺構（第511図）

位置 調査1区の東部，C5a9区。

重複関係 南東部で，第5号竪穴状遺構と重複しているが，本跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形 重複しているが，長軸2.89m，短軸2.02mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-71°-E

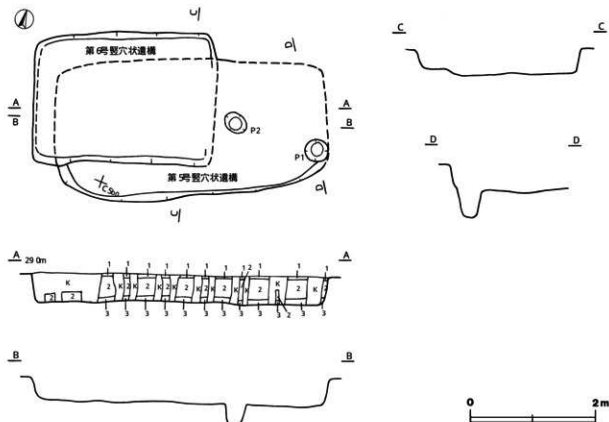
壁 残存する北壁の壁高は40cmで，直立する。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 確認できなかった。

遺物 出土していない。

所見 ピットは検出されなかったが，耕作による攪乱や重複のために検出できなかったことが考えられる。時期は，第1号竪穴状遺構と同じ頃と思われる。



第511図 第5・6号竪穴状遺構実測図

第7号竪穴状遺構（第512図）

位置 調査1区の東部，C5a8区。

規模と平面形 北西コーナーが攪乱されているが，長軸2.32m，短軸1.02mの不整逆台形である。

長軸方向 N-30°-W

壁 壁高は28～30cmで，ほぼ直立する。

底面 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 2か所（P1・P2）。P1は長径35cm，短径30cmの楕円形で，深さ13cmである。北壁中央寄りに位置する。P2は長径30cm，短径20cmの楕円形で，深さ20cmである。南コーナー寄りに位置する。主柱穴と思わ

れる。

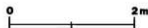
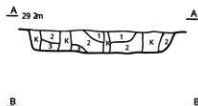
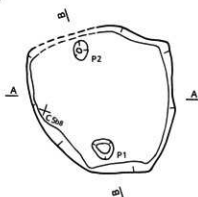
**覆土** 3層と覆土が薄い。含有物が類似していることや同一色調であることなどから人為堆積である。

**土層解説**

- |       |                                   |       |                               |
|-------|-----------------------------------|-------|-------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量          | 3 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化物微量 |       |                               |

**遺物** 出土していない。

**所見** 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第 512図 第 7号 竪穴状遺構実測図

**第 8号 竪穴状遺構 (第513図)**

**位置** 調査1区の東部、C5a6区。

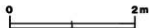
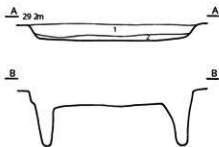
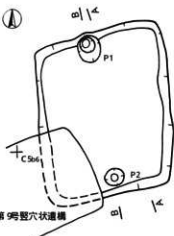
**重複関係** 南西コーナーを第9号竪穴状遺構に掘り込まれている。

**規模と平面形** 長軸2.60m、短軸2.11mの隅丸長方形である。

**長軸方向** N-9°-W

**壁** 壁高は18~20cmで、外傾する。

**底面** 踏み固められて光沢があり、ほぼ平坦である。



第 513図 第 8号 竪穴状遺構実測図

**ピット** 2か所 (P1・P2)。P1は長径41cm、短径37cmの楕円形で、深さ68cmである。P2は径30cmの円

形で、深さ68cmである。P1は北壁中央、P2は南壁際中央にあり、2本を結ぶ線が東西壁とほぼ平行になることから柱穴と思われる。

覆土 2層と覆土が薄いので、堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明である。第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。

### 第9号竪穴状遺構（第514図）

位置 調査1区の東部、C5b5区。

重複関係 第8号竪穴状遺構を掘り込み、西壁を第568号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 長軸2.31m、短軸1.47mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-67°-E

壁 残存する壁高は26~32cmで、外傾する。

底面 小さな凸凹はあるが、ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は長径50cm、短径44cmの楕円形、深さ56cmである。西壁際中央に位置する。

P1土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

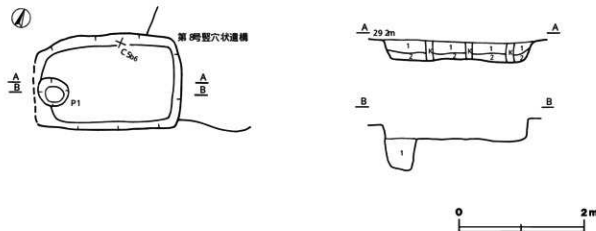
覆土 2層と薄いのが、ピットの覆土の含有物と類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック 2 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので、明確な時期は不明であるが、第1号堀（15世紀代）の内側に位置することなどから、同じ頃と思われる。



第514図 第9号竪穴状遺構実測図

### 第10号竪穴状遺構（第515図）

位置 調査1区の東部、C5b8区。

規模と平面形 長軸1.92m, 短軸1.86mの隅丸方形である。

長軸方向 N-64°-E

壁 壁高は38~40cmで、西壁南部及び東壁中央部は、内傾して立ち上がり、他はほぼ直立する。

底面 中央部に弱い高まりを持つが、各コーナー付近は平坦である。

ピット 2か所 (P1・P2)。P1は長径75cm, 短径54cmの楕円形, 深さ14cmである。P2は径20cmの円形, 深さ36cmである。P1は東壁際中央に, P2は西壁中央部寄りに, それぞれ位置する。

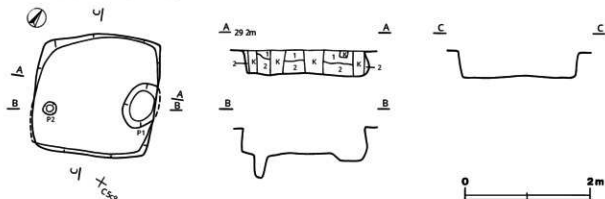
覆土 2層からなる。含有物が類似していることから人為堆積と思われる。

土層解説

1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック微 2 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので, 明確な時期は不明であるが, 第1号堀(15世紀代)の内側に位置することなどから, 同じ頃と思われる。



第 515 図 第 10 号 竪穴状遺構実測図

第11号竪穴状遺構 (第516図)

位置 調査1区の東部, B5h8区。

重複関係 東壁中央付近を第416号土坑に, 中央部南寄りを第439号土坑に, それぞれ掘り込まれている。

規模と平面形 長軸5.75m, 短軸4.18mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-63°-E

壁 壁高は8~10cmで, 外傾する。

底面 ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P1~P3)。P1は径60cmの円形で, 深さ44cm, P2は長径60cm, 短径55cmの円形で, 深さ28cm, P3は長径55cm, 短径45cmの楕円形, 深さ20cmである。P1は中央部北壁寄り, P2は南西コーナー部寄り, P3は西壁中央部寄りにそれぞれ位置する。P2とP3は, 接している。

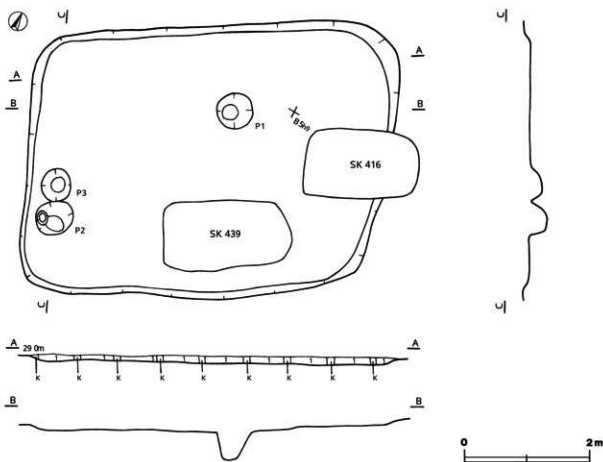
覆土 単一層のため堆積状況は不明である

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないので, 明確な時期は不明であるが, 第1号堀(15世紀代)の内側に位置することなどから, 同じ頃と思われる。



第 516 図 第 11 号竪穴状遺構実測図

表 8 竪穴状遺構一覧表

遺構番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	出 土 遺 物	遺 構 間 係 旧 新	備 考 旧番号	
				長径 m	短径 m							
1	C50	N - 22 - W	隅丸長方形	5.59	2.88	48~70	直立	平坦	人為	土師質土器	本跡 SD 7, SK 515	SK37
2	B37	N - 10 - E	隅丸長方形	1.10	0.70	20~30	外傾	凹凸	不明			SK 147
3	B37	N - 55 - E	隅丸長方形	0.68	0.45	15~26	外傾	平坦	不明	土師質土器		SK 206
4	B48	N - 70 - W	隅丸長方形	2.28	1.20	48~60	直立	平坦	自然		SK 238 本跡 P341・342・343	SK 254
5	C50	N - 66 - E	隅丸長方形	4.33	2.23	30	外傾	平坦	不明		SK 427 本跡, 第 6 号竪穴状遺構と重複	SK 437
6	C50	N - 71 - E	隅丸長方形	2.89	2.02	40	直立	平坦	不明		第 9 号竪穴状遺構と重複	SK 459
7	C50	N - 30 - W	不整形台形	2.32	1.02	28~38	直立	平坦	人為			SK 573
8	C50	N - 9 - W	隅丸長方形	2.60	2.11	18~20	外傾	平坦	不明		本跡 第 9 号竪穴状遺構	SK 575
9	C50	N - 67 - E	隅丸長方形	2.31	1.47	26~32	外傾	平坦	人為		第 9 号竪穴状遺構 本跡 SK 568	SK 615
10	C50	N - 64 - E	隅丸方形	1.92	1.86	38~40	直立	平坦	人為			SK 656
11	B9	N - 63 - E	隅丸長方形	5.75	4.18	8~10	外傾	平坦	不明		本跡 SK 416・439	SK 700

## 2 地下式墳

今回の調査で、18基の地下式墳が検出された。これらの遺構及び遺物について記載する。

### 第 1 号地下式墳 (第 517 図)

位置 調査 1 区の北西部, B5b7 区。

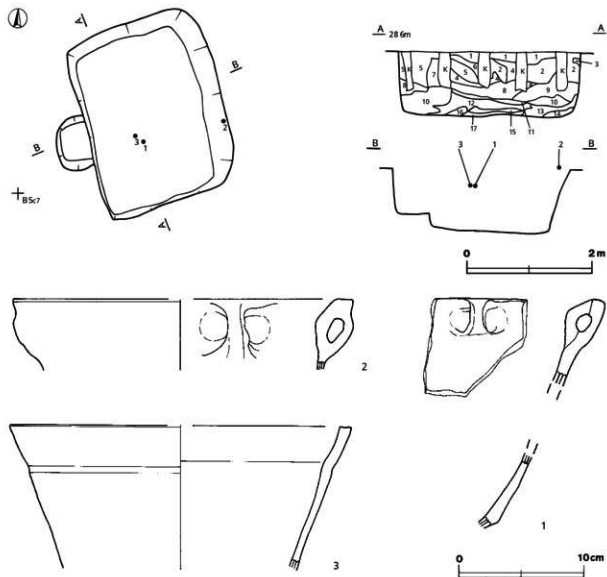


主軸方向 N-71° - E

竪坑 上面は、長径0.84m、短径0.54mの楕円形である。底面は、長軸0.60m、短軸0.50mの長方形で、平坦である。確認面からの深さは0.74mである。

主室 底面は、長軸2.66m、短軸1.80mの長方形で、長軸方向はN-15° - Wである。確認面からの深さは、1.02mほどで、平坦である。

壁 竪坑は、直立する。天井部が崩落しているため主室は、東壁が外傾し、南北壁が直立する。



第 517 図 第 1 号地下式墳・出土遺物実測図

覆土 17層からなる。第 8 層から 16 層がブロック状に堆積しているので天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

- |        |                               |        |  |
|--------|-------------------------------|--------|--|
| 1 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量       | 9 褐色   | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量        |
| 2 暗褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量 | 10 褐色  | ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量           |
| 3 黄褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量            | 11 褐色  | ローム中ブロック中量、ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量 |
| 4 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子微量              | 12 灰褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量                    |
| 5 黒褐色  | ローム粒子中量、ローム小ブロック微量            | 13 褐色  | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量       |
| 6 極暗褐色 | ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量             |        |  |
| 7 極暗褐色 | ローム粒子少量、白色スコリア微量              |        |  |
| 8 暗褐色  | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量   |        |  |

- 14 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 16 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック量  
 15 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量 17 黒褐色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量

遺物 土師質土器13点が出土している。うち土師質土器3点を抽出・図示した。第517図2の土師質土器内耳鍋片は、主室南東コーナー寄りの覆土上層から出土している。1・3の内耳鍋片は、主室中央部の覆土中層から隣り合って出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から15世紀後半と考えられる。

#### 第1号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第517図 1	内耳鍋 土師質土器	B 140	体部下半及び口縁部片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部との境に稜を持つ。口縁部は内彎気味に外反する。耳1か所残存。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・針状鉱物に富み褐色、普通	P 3911 10% 体部外面ス入付着
2	内耳鍋 土師質土器	A 280 B 56	口縁部片。口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。耳1か所残存。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	長石・雲母・針状鉱物に富み褐色、普通	P 3912 5% 体部外面ス入付着
3	内耳鍋 土師質土器	A 276 B 114	体部から口縁部にかけての破片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。口縁部は外反し、内面に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	緑・長石・雲母に富み赤褐色普通	P 3913 5% 体部外面ス入付着

#### 第2号地下式墳（第518図）

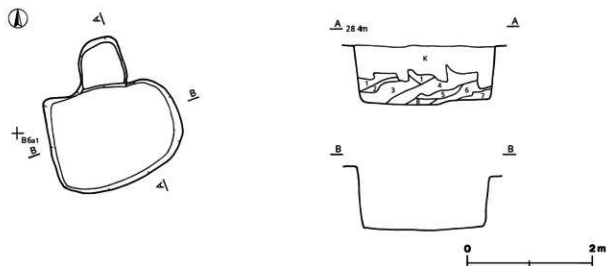
位置 調査1区の北西部、A6j1区。

主軸方向 N-168°-E

竪坑 上面は、長径0.80cm、短径0.62cmの隅丸長方形である。底面は、長軸0.70m、短軸0.66mの方形で、平坦である。確認面からの深さは、0.82mである。

主室 底面は、長軸1.94m、短軸1.46mの隅丸長方形で、長軸方向はN-77°-Eである。確認面からの深さは0.74~0.98mで、平坦である。

壁 竪坑及び主室は、直立する。



第518図 第2号地下式墳・出土遺物実測図

覆土 8層からなる。上層は攪乱が入っている。中〜下層はブロック状に堆積しているので天井部が崩落したものである。

## 土層解説

1 褐色	ローム粒子多量	6 黒褐色	黒色土中量、ローム粒子少量
2 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック微量	7 褐色	ローム粒子多量、甕沼バミス粒子少量
3 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量	8 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量
4 黒色	ローム粒子・黒色土少量、甕沼バミス粒子微量		
5 黒褐色	ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量		

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。

## 第3号地下式墳 (第519図)

位置 調査1区の北部、B6e1区。

主軸方向 N-30°-W

竪坑 上面は長軸1.00m、短軸0.74mの隅丸長方形である。底面は、主室より高くなっている。確認面からの深さは1.42~1.58mで、主室方向に傾斜する。

主室 底面は、長径3.48m、短径1.98mの不整楕円形で、長径方向はN-62°-Eである。確認面からの深さは、1.60~1.70mで、平坦である。東部に天井部の一部が残りの、底面から天井部までは1.24mである。

壁 竪坑は、直立する。主室は、天井部の一部が残る部分はオーバークラフシ、他は直立する。また、北東部壁と南西部壁に、それぞれ1か所の錠状の掘り込みがある。

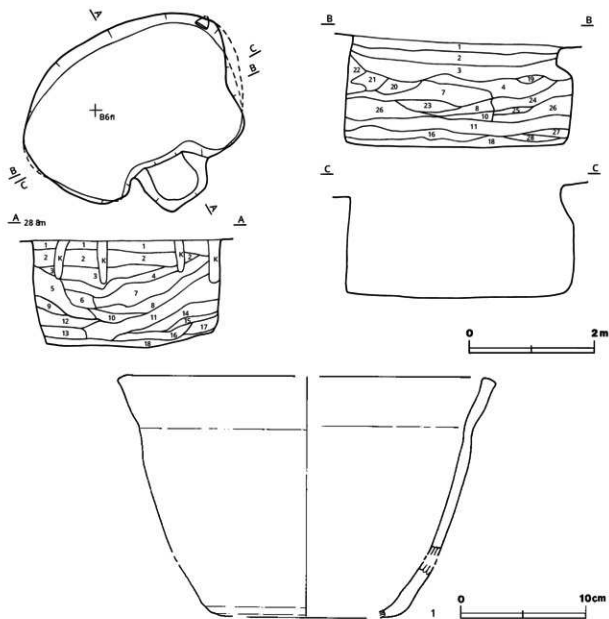
覆土 28層からなる。第5・10・13・14・18層は、ロームブロックを多く含むので、天井部が崩落したものと思われる。覆土上層(第1~3層)は、レンズ状に堆積していることから崩落後に自然堆積したもの、他はブロック状に堆積しているので、天井部が崩落したものと思われる。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子・甕沼バミス粒子少量、ローム小ブロック微量	16 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子・甕沼バミス粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子・甕沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量	17 黒褐色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム粒子・甕沼バミス粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・甕沼バミス小ブロック微量	18 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、甕沼バミス粒子微量
4 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子・甕沼バミス粒子微量	19 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量
5 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量	20 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
6 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	21 緑褐色	ローム粒子中量、甕沼バミス粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
7 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子・甕沼バミス粒子微量	22 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
8 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・甕沼バミス粒子微量	23 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・甕沼バミス粒子微量
9 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・甕沼バミス粒子少量、甕沼バミス中ブロック微量	24 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
10 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量	25 褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、甕沼バミス粒子少量
11 黒色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・粘土小ブロック・甕沼バミス粒子微量	26 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・甕沼バミス粒子微量
12 黒色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・甕沼バミス粒子微量	27 褐色	ローム大ブロック多量、ローム中ブロック少量、甕沼バミス小ブロック微量
13 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック少量	28 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
14 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、甕沼バミス粒子微量		
15 黒褐色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・甕沼バミス粒子微量		

遺物 土師質土器片10点が出土しているが、細片が多い。うち土師質土器1点を抽出・図示した。第519図1の内耳鍋は、覆土から出土している。

所見 時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。



第 519 図 第 3 号地下式墳・出土遺物実測図

第 3 号地下式墳出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 519 図 1	内耳鍋 土師質土器	A 290 B 185 C 140	底部から口縁部にかけての破片。 体部は内彎しながら外傾して立ち 上がり、口縁部との境の内側に稜 を持つ。口縁部は外反する。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物 雲母 橙色 普通	P 3914 5% 体部外面スス付着

第 4 号地下式墳 (第 520 図)

位置 調査 1 区の北西部, B5a9 区。

主軸方向 N-30° - E

竪坑 上面は長径 0.78m, 短径 0.70m の楕円形である。底面は, 主室より高くなっており, 長軸 0.50m, 短軸 0.40m の隅丸長方形である。確認面からの深さは 0.80~1.00m で, 主室方向に傾斜する。

主室 底面は、長径0.78m、短軸0.70mの楕円形で、長径方向はN-51°-Wである。小さな凹凸はあるが、ほぼ平坦である。確認面からの深さは1.16mで、南東部に天井部の一部が残っている。

壁 竪坑は、直立する。主室の南東部はオーバーハングし、他は直立する。北西部に奥行き4~14cmほどの鎧状の掘り込みを持っている。

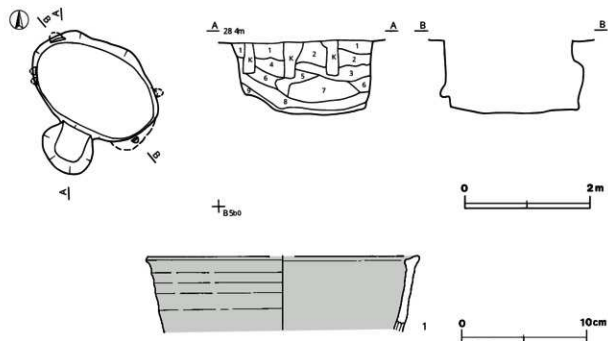
覆土 9層からなる。第4~8層はブロック状に堆積しているので、天井部の崩落と思われる。

土層解説

- |       |                                      |       |  |
|-------|--------------------------------------|-------|--|
| 1 暗褐色 | ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量     | 6 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                      |
| 2 褐色  | ローム小ブロック中層、ローム中ブロック・ローム粒子少量          | 7 褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・ローム粒子微量           |
| 3 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量   | 8 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量                               |
| 4 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量       | 9 暗褐色 | 表沼バミス大ブロック少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・表沼バミス粒子微量 |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量 |       |  |

遺物 陶器片1点が出土しており、それを図示した。第520図1の内・外面に軸のかかった陶器鉢は、覆土中から出土している。

所見 陶器片は瀬戸・美濃系と思われるが、時期は特定できない。遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃に造られたと思われる。



第520図 第4号地下式墳・出土遺物実測図

第4号地下式墳出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第520図 1	鉢 陶器	A 217 B 60	口縁部片。口縁部は内彎気味に外傾する。口縁部は平坦で内外に突出し、断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面口ロナデ後、鉄軸施釉。	礫・長石 浅黄色 普通	P 3915 5%

第5号地下式墳 (第521図)

位置 調査1区の北西部、B5f9区。

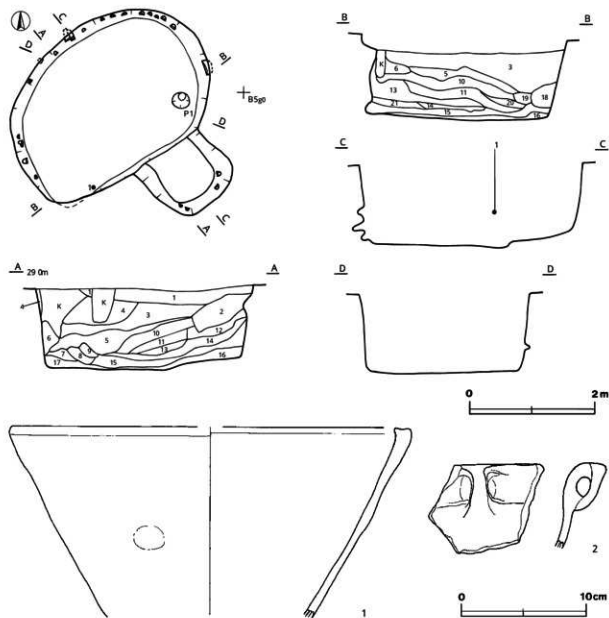
主軸方向 N-37° - W

竪坑 上面は、長軸1.24m、短軸1.06mの隅丸長方形である。底面は、主室より高くなっており、確認面からの深さは1.02~1.10mで、主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は、長径3.00m、短径2.10mの楕円形で、長径方向はN-54° - Eである。確認面からの深さは、1.24~1.30mで、ほぼ平坦である。

壁 竪坑は、南壁上部でオーバーハングするが、他は直立する。主室の北東壁は、内側に立ち上がり、0.5m上で内傾し、天井部に至る。他は、ほぼ直立する。また、壁の下部に、20数か所の奥行き4~24cmの錠状の掘り込みを持つ。

ピット 1か所。P1は長径28cm、短径25cmの楕円形で、深さは25cmで、主室の東部に位置する。性格は不明である。



第 521 図 第 5 号地下式墳・出土遺物実測図

覆土 21層からなる。覆土下層(第14・15・21層)は、ロームのブロックを多く含んでいることから天井部が崩落したものと思われる。他は、ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

## 土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量	12 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量
2 棕褐色	ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	13 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス小ブロック微量
3 黒褐色	ローム粒子少量	14 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・黒色土微量
4 黒色	ローム粒子・炭化粒子微量	15 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、ローム大ブロック微量
5 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量	16 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、ローム中ブロック微量
6 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム中ブロック微量	17 黒色	鹿沼パミス粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
7 黒色	ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量、ローム小ブロック微量	18 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子少量
8 黒色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	19 黒色	ローム粒子・炭化粒子微量
9 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼パミス粒子微量	20 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
10 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	21 褐色	ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
11 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量		

遺物 土師質土器20点、陶器2点が出土している。うち土師質土器2点を抽出・図示した。第521図2の土師質土器内耳銅片は、覆土中から出土している。1の土師質土器内耳銅は、主室の南西コーナー寄りの覆土中層から出土している。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器から15世紀後半から16世紀前半と考えられる。

## 第5号地下式墳 SK 333 出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第521図 1	内耳銅 土師質土器	A 318	体部から口縁部にかけての破片。体部は内輪部外側に傾して立ち上がる。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。体部外面指線圧痕。耳貼り付後、ナデ。	緑・長石・雲母・赤色粒子にふい褐色、普通	P 3916 40% PL68 体部外面スチ付着
		B 152	口縁部は平坦で、内側に突出する。			
2	内耳銅 土師質土器	B 67	口縁部内。口縁部は外反し、端部は平坦である。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付後、ナデ。	長石・雲母 褐色 普通	P 3917 5% 体部外面スチ付着

## 第6号地下式墳（第522図）

位置 調査1区の北部、B5e3区。

主軸方向 N-165° -W

竪坑 上面は長径1.10m、短径0.50mの楕円形である。底面は、長径0.90m、短径0.50mの楕円形で、確認面からの深さは0.90mである。主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は長径2.00m、短径1.12mの楕円形で、北西方向から南東方向にゆるやかな傾斜を持っている。確認面からの深さは1.24mである。長径方向は、N-65° -Wである。

壁 竪坑は、南壁上部でオーバーハングするが、他は直立する。主室の北東壁は、内彎して立ち上がり、0.5m上で内傾し、オーバーハングを呈する。他は、ほぼ直立する。また、壁の下部に、20数か所の奥行き4～20cmの鉤状の掘り込みと南東壁近くに径26cmの円形で、深さ6cmほどのレンズ状の窪みを持つ。

覆土 11層からなる。第5～7層はブロック状に堆積していることなどから天井部の崩落と思われる。

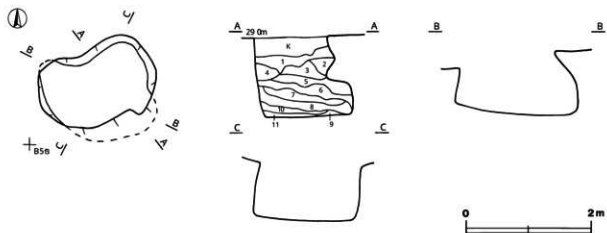
## 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量	5 黒色	ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・粘土大ブロック微量
2 暗褐色	ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子微量	6 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子微量
3 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、炭化粒子微量		
4 黒褐色	粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子微量		

- |       |  |       |  |
|-------|--|-------|--|
| 7 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・<br>鹿沼パミス粒子微量  | 10 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブ<br>ロック微量        |
| 8 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・<br>ローム中ブロック少量 | 11 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・<br>ローム中ブロック少量 |
| 9 黄褐色 | 鹿沼パミス粒子多量                                |       |  |

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第 522図 第 6号地下式墳実測図

第 7号地下式墳 (第523図)

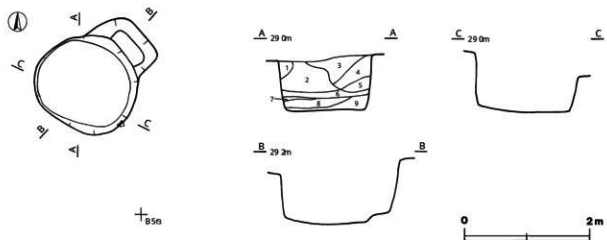
位置 調査1区の北部, B5e2区。

主軸方向 N-48°-E

竪坑 上面は長軸1.00m, 短軸0.58mの隅丸長方形である。底面は, 長軸0.62m, 短軸0.36mの隅丸長方形で, ほぼ平坦である。主室より高くなっており, 確認面からの深さは0.90mほどである。

主室 底面は長径1.50m, 短径1.30mの楕円形で, 長径方向はN-45°-Wである。確認面からの深さは0.90mで, ほぼ平坦である。

壁 竪坑は外傾し, 主室はほぼ直立する。



第 523図 第 7号地下式墳実測図

覆土 9層からなり, 第3~5層はロームブロックを多く含み, またブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。



土層解説

- |        |   |       |                                      |
|--------|---|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・ローム大ブロック・鹿沼バミス粒子微量                       | 6 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック微量         |
| 2 黒褐色  | ローム小ブロック多量、ローム中ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 7 褐色  | ローム粒子多量、鹿沼バミス粒子少量                    |
| 3 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量                   | 8 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス大ブロック微量          |
| 4 黒褐色  | ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミス小ブロック微量                | 9 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム大ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量         |       |                                      |

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。

第8号地下式墳 (第524・525図)

位置 調査1区の西北部、B5f4区。

重複関係 第360号土坑の南東部を掘り込んでいる。

主軸方向 N-148° -W

竪坑 上面は、長径0.68m、短径0.62mの円形である。底面は、長径0.54m、短径0.46mの楕円形で、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは0.78mほどである。

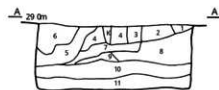
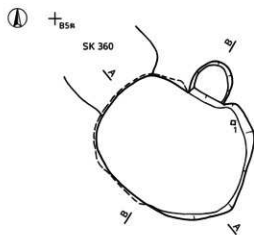
主室 底面は長径2.46m、短径1.82mの楕円形、長径方向はN-57° -Wである。確認面からの深さは1.02mで、ほぼ平坦である。

壁 竪坑は、直立する。主室の南西壁は内傾するが、他は直立する。

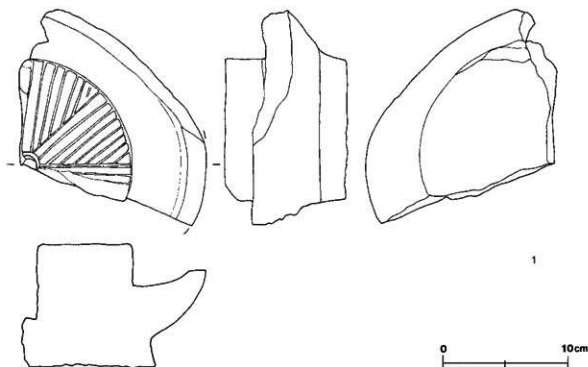
覆土 11層からなる。第7～10層が天井部崩落土層と思われる。

土層解説

- |       |   |        |  |
|-------|---|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量                              | 6 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量              |
| 2 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子少量、鹿沼バミス小ブロック微量 | 7 明黄褐色 | 鹿沼バミス粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック少量 |
| 3 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量  | 8 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子微量                         |
| 4 褐色  | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量        | 9 黒褐色  | ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量                        |
| 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック少量                | 10 黒色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                |
|       |   | 11 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量            |



第524図 第8号地下式墳実測図



第 525 図 第 8 号地下式墳出土遺物実測図

遺物 石製品（石臼）1 点が出土し、図示した。第 525 図 1 の石臼（茶臼）は、主室北東コーナー部の底面の 10cm ほど上から出土している。

所見 茶臼は中世のものと思われるが、明確な時期は分らない。時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。

第 8 号地下式墳出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅径 cm	高さ cm	重量 g			
第 525 図 1	石臼	-	288	98	16043	安山岩	茶臼の下臼。粉漉と思われる。	Q3034 PL78

第 9 号地下式墳（第 526 図）

位置 調査 1 区の北西部、B5g4 区。

主軸方向 N-153°-E

竪坑 上面は長径 1.00m、短径 0.80m の楕円形である。底面は、長径 0.72m、短径 0.54m の楕円形である。確認面からの深さは、0.84~1.00m で、主室方向に傾斜する。

主室 底面は、長径 2.36m、短径 1.68m の不整楕円形で、長径方向は N-67°-E である。確認面からの深さは 1.04m で、ほぼ平坦である。

壁 竪坑は、直立する。主室の西部は、丸味を持ちながら内傾して立ち上がり、オーバーハング状を呈する。他は、直立する。

覆土 11 層からなり、第 4~11 層がブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。



図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第52図 2	漆 土師質土器	A 220 B 49	口縁部片。口縁部は内側下端に稜を持ち、内彎気味に立ち上がる。縁部は断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面横ナデ。	磯・長石・針状鉱物 雲母 にぶい褐色、普通	P 3923 5%
3	漆 陶器	B 29	底部片。平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面襞り目施文、外面口コナデ。	磯・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3925 5% 志戸炉焼の可能性

### 第10号地下式墳 (第527図)

位置 調査1区の南東部, C5i5区。

主軸方向 N-14° - E

竪坑 上面は、長径0.84m、短径0.60mの楕円形である。底面は、主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは、1.10mである。

主室 底面は、長径1.38m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-71° -Wである。確認面からの深さは、1.26~1.34mで、ほぼ平坦である。

壁 竪坑は、ほぼ直立する。主室は、西部の一部分を除き、内傾して立ち上がり、オーバーハング状を呈する。

竪坑及び主室の底面付近に、9か所の奥行き6~24cmの鏡状の掘り込みを持つ。

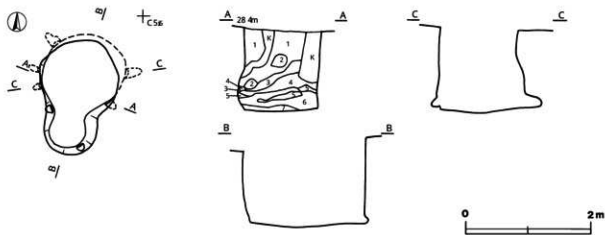
覆土 7層からなる。第4~7層がブロック状に堆積をしていることから天井部が崩落したと思われる。

#### 土層解説

- |  |   |
|--|---|
| 1 黒褐色<br>ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化<br>粒子微量            | 4 黄褐色<br>鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミ<br>ス粒子中量、鹿沼バミス大ブロック少量 |
| 2 褐色<br>ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量、<br>鹿沼バミス粒子微量        | 5 褐色<br>ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量、<br>ローム大ブロック微量          |
| 3 暗褐色<br>ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブ<br>ロック・ローム粒子・炭化粒子微量 | 6 黒褐色<br>ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量                        |
|  | 7 黒褐色<br>ローム小ブロック・ローム粒子微量                                 |

遺物 陶器片2点が出土しているが、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 時期を特定できる土器が出土している同様な遺構や小陶器片から、15世紀後半から16世紀頃と考えられる。



第527図 第10号地下式墳実測図

### 第11号地下式墳 (第528図)

位置 調査1区の中央部, C5a2区。

重複関係 第1号堀と重複しているが、新旧関係は不明である。

主軸方向 N-55°-W

竪坑 上面は長径0.76cm, 短径0.54cmの楕円形で, 底面は, 長径0.76cm, 短径0.54cmの楕円形である。確認面からの深さは, 1.10~1.28mで, 主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は, 長軸1.54m, 短軸1.42mの隅丸方形で, 長軸方向はN-35°-Eである。確認面からの深さは1.50mで, 平坦である。南部を除いて天井部が残る, 底面から天井部までの高さは0.96mである。

壁 竪坑は, 南東部から主室方向に階段状に掘られている。主室の南西部は直立するが, 他は丸味を持って内傾し, オーバーハング状を呈する。

覆土 13層からなる。覆土下層(第12・13層)は, 竪坑からの自然堆積と思われる。上層は, ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

土層解説

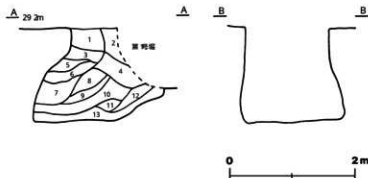
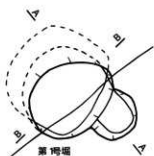
1 黒褐色	ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子	8 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量
2 黒色	ローム粒子・炭化物少量	9 暗褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子少量
3 黒褐色	ローム粒子・黒色土少量, ローム小ブロック・焼土粒子	10 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子少量
4 黒色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・鹿沼バミス	11 暗褐色	ローム粒子多量, ローム中ブロック・ローム小ブロック
5 極暗褐色	ローム粒子中量, ローム中ブロック・ローム小ブロック	12 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス
6 黒褐色	ローム粒子少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック少量	13 黒色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量
7 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量		

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが, 遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



+C5a2



第528図 第11号地下式墳実測図

第12号地下式墳(第529図)

位置 調査1区の中央部, C4c9区。

重複関係 第671号土坑を掘り込んでいる。第1号堀と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 第1号堀と重複しているため, 主室の南部が確認できなかった。N-9°-Eと推定される。

竪坑 上面は長径0.50m, 短径0.44mの楕円形である。底面は, 長径0.50m, 短径0.44mの楕円形で, 主室方向にゆるやかに傾斜し, 確認面からの深さは0.50~0.70mである。

主室 堀と重複しているため平面形は不明である。残存する底面は, 長径1.80m, 短径0.70mの半楕円形で, 平坦である。確認面からの深さは0.72mである。

壁 竪坑の西壁は, 直線的に内傾し, 他は直立する。主室の残存する壁は, 直立する。

覆土 堀と重複しているために本跡のものと確認できた覆土は, 2層だけである。堆積状況は, 不明である。

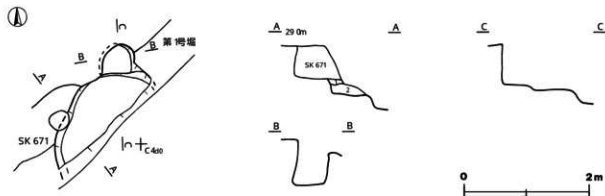
土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量

2 暗褐色 ローム粒子・黒色土中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第 529 図 第 12 号地下式墳実測図

第 13 号地下式墳 (第 530 図)

位置 調査 1 区の東部、C5a4 区。

重複関係 第 10 号溝及び第 679 号土坑に掘り込まれている。

主軸方向 N-69°-E

竪坑 上面は長径 1.02m、短径 0.46m の楕円形である。底面は、確認面からの深さは 0.40~0.56m で、主室方向にゆるやかに傾斜する。

主室 底面は、長径 1.10m、短径 0.76m の楕円形で、長径方向は N-17°-W である。確認面からの深さは、0.74~0.80m で、中央部が皿状に窪む。

壁 竪坑は直立し、主室は外傾する。

覆土 5 層からなる。第 2~5 層はブロック状に堆積していることから天井部が崩落したものと思われる。

土層解説

1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量

4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック少量

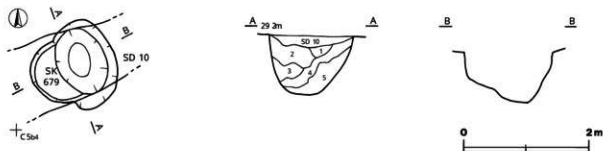
2 明褐色 ローム中ブロック・ローム小ブロック多量

5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量

3 明褐色 ローム大ブロック多量

遺物 出土していない。

所見 時期を判断できる土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第 530 図 第 13 号地下式墳実測図

### 第14号地下式墳 (第531図)

位置 調査4区の北東部, G4a7区。

重複関係 竪坑の上部を第14号溝と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-172°-E

竪坑 上面は長径0.80m, 短径0.54mの楕円形である。底面は, 主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは, 0.54mである。

主室 底面は長軸1.60m, 短軸1.00mの台形で, 長軸方向はN-87°-Eである。天井部の一部が残りに, 底面からの高さは, 0.74~0.94mである。底面は平坦で, 確認面からの深さは1.16mである。

壁 竪坑は, 外傾する。主室は, 内彎気味に外傾する。

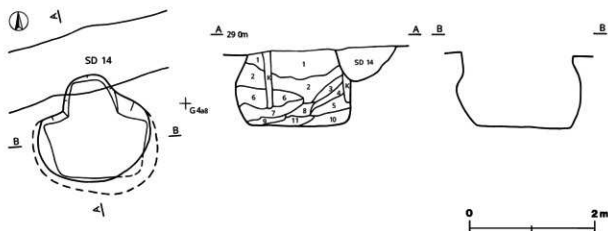
覆土 12層からなり, 第4~12層はブロックに堆積していることから天井部が崩落したものの, 第1~3層は崩落後に自然堆積したものと思われる。

#### 土層解説

- |        |                                      |         |                             |
|--------|--------------------------------------|---------|-----------------------------|
| 1 黒色   | ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量             | 6 黒褐色   | ローム粒子中量                     |
| 2 黒色   | ローム粒子少量, ローム中ブロック・炭土粒子・炭化物           | 7 暗褐色   | ローム粒子多量                     |
| 3 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量 | 8 黒色    | ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量    |
| 4 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量                     | 9 暗褐色   | ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子微量          |
| 5 黒褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子少量                     | 10 極暗褐色 | ローム粒子少量, ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量 |
|        |                                      | 11 黒褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量         |

遺物 出土していない。

所見 土器が出土していないが, 遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第531図 第14号地下式墳実測図

### 第15号地下式墳 (第532図)

位置 調査4区の北東部, F4i9区。

重複関係 第15号溝と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

主軸方向 N-81°-E

竪坑 上面は長径1.04m, 短径0.84mの楕円形である。底面は, 長径1.04m, 短径0.84mの楕円形で, 主室方向にゆるやかに傾斜する。確認面からの深さは1.20~1.30mである。

主室 底面は, 長軸1.34m, 短軸0.94mの長方形で, 長軸方向はN-9°-Wである。確認面からの深さは, 1.36mで, 平坦である。

壁 竪坑は, 外傾する。主室は, 南西部を除いて外傾して立ち上がり, 中位で内傾してオーバーハング状を呈

する。

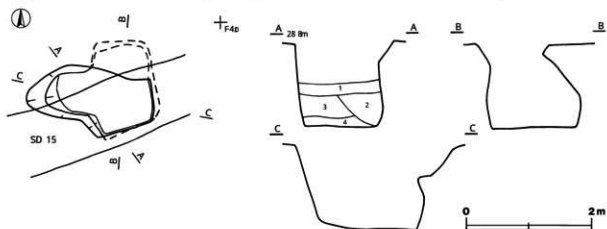
**覆土** 溝の掘り込み中に検出されたので確認できた層は、4層と薄いことから、堆積状況は不明である。

**土層解説**

- |       |                                    |       |                                      |
|-------|------------------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒色  | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量     | 3 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量       |
| 2 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 4 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |

**遺物** 出土していない。

**所見** 土器が出土していないが、遺構の形態などから他の地下式墳と同じ頃と思われる。



第 532 図 第 15 号地下式墳実測図

**第16号地下式墳 (第533図)**

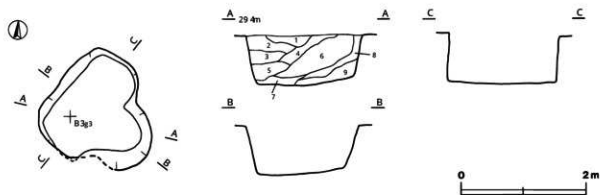
**位置** 調査2区の北部、B3f3区。

**主軸方向** N-49°-W

**竪坑** 上面は、長径1.20m、短径0.75m、底面は、長径0.79m、短径0.51mで、いずれも半円形状である。底面は確認面からの深さは0.73mである。

**主室** 底面は、長軸1.70m、短軸0.91mの隅丸長方形で、長軸方向はN-41°-Eである。確認面からの深さは、0.76mほどで、平坦である。

**壁** 主室の北西壁及び竪坑は外傾して立ち上がる。主室は北西壁を除いて直立する。



第 533 図 第 16 号地下式墳実測図

**覆土** 9層からなる。

**土層解説**

- |       |                    |       |                    |
|-------|--------------------|-------|--------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子微量            | 3 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量 | 4 黒色  | ローム粒子少量            |



- 5 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量  
 6 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 7 暗褐色 ローム小ブロック多量

- 8 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量  
 9 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の形態から中世と考えられる。

#### 第17号地下式墳（第534図）

位置 調査2区の北部，D2a7区。

主軸方向 N-18°-E

竪坑 天井部が崩落しており，上面の形状は不明である。底面は長軸0.56m，短軸0.45mの長方形で，主室に向かってわずかに傾斜している。確認面からの深さは0.84～0.94mである。

主室 底面は，長軸0.97m，短軸0.81mの長方形で，長軸方向はN-12°-Eである。確認面からの深さは0.98mで，平坦である。

壁 竪坑及び主室は，外傾して立ち上がる。

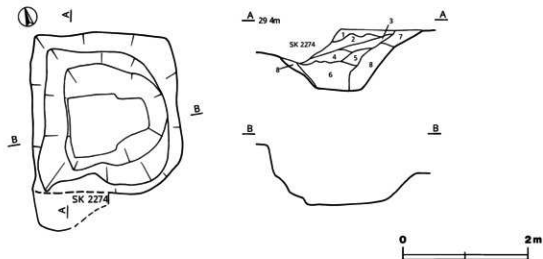
覆土 8層からなる。

##### 土層解説

- |       |                             |       |                             |
|-------|-----------------------------|-------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック微量 | 5 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック微量 | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム大ブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量            | 7 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量            |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量，ローム中ブロック中量 | 8 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量   |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は不明であるが，遺構の形態から中世と考えられる。



第534図 第17号地下式墳実測図

#### 第18号地下式墳（第535図）

位置 調査2区の北部，B3i3区。

主軸方向 N-46°-E

竪坑 上面は，長径0.89m，短径0.62m，底面は，長径0.72m，短径0.54mで，いずれも半円形状である。底面は主室に向かってわずかに傾斜している。確認面からの深さは，0.80～0.88mである。

主室 底面は、長径1.44m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-35°-Wである。確認面からの深さは1.08mで、平坦である。

壁 壁坑は直立する。主室はわずかにオーバーハングする。

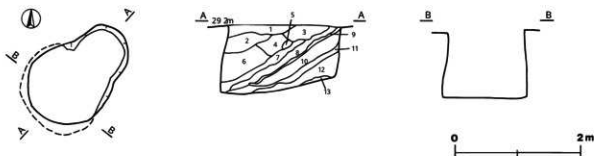
覆土 13層からなる。壁坑から主室へ流れ込むような堆積状況を示している。第5・6層はローム大ブロックが主体となっていることから、天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

- |       |                                       |        |                             |
|-------|---------------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、炭化粒子微量                        | 8 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム粒子中量            |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量                    | 9 黒色   | ローム中ブロック・ローム粒子少量            |
| 3 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭泥<br>パミス粒子少量 | 10 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック微量                    | 11 黒色  | ローム粒子少量、ローム小ブロック微量          |
| 5 黄褐色 | ローム大ブロック多量                            | 12 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック微量 |
| 6 褐色  | ローム大ブロック多量                            | 13 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム大ブロック・炭泥パミス粒子少量  |
| 7 黒色  | ローム中ブロック・ローム粒子少量                      |        |                             |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土していないため時期は不明であるが、遺構の形態から中世と考えられる。



第 535図 第 18号地下式墳実測図

表 9 地下式墳一覧表

遺構番号	位置	長径方向 長軸方向	規模 m						底面	覆土	出土遺物	重複関係 旧 新	備考 旧番号		
			壁 坑			主 室									
長径	短径	深さ	平面形	長径	短径	深さ	平面形								
1	B307	N-71-E	0.84	0.54	0.74	楕円形	2.66	1.80	1.02	長方形	平坦	崩落	土師質土器		SK11
2	A67	N-168-E	0.80	0.62	0.82	隅丸長方形	1.94	1.46	0.98	隅丸長方形	平坦	崩落			SK271
3	B6e1	N-30-E	1.00	0.74	1.58	隅丸長方形	3.48	1.98	1.70	不整形楕円形	平坦	崩・崩	土師質土器		SK321
4	B5a9	N-30-E	0.78	0.70	1.00	楕円形	0.78	0.70	1.16	楕円形	平坦	崩落	陶器		SK326
5	B5f9	N-37-E	1.24	1.06	1.10	隅丸長方形	3.00	2.10	1.30	楕円形	平坦	人為	土師質土器、陶器		SK333
6	B5e3	N-165-E	1.10	0.50	0.90	楕円形	2.00	1.12	1.24	楕円形	緩斜	崩落			SK363
7	B5e2	N-48-E	1.00	0.58	0.90	隅丸長方形	1.50	1.30	0.90	楕円形	平坦	崩落			SK373
8	B5f8	N-148-E	0.68	0.62	0.78	円形	2.46	1.82	1.02	楕円形	平坦	崩落	石製器	SK360 本跡	SK374
9	B5g4	N-153-E	1.00	0.80	1.00	楕円形	2.36	1.68	1.04	不整形楕円形	平坦	崩落	土師質土器、陶器		SK423
10	C5E	N-14-E	0.84	0.60	1.10	楕円形	1.38	1.20	1.34	楕円形	平坦	崩落	陶器		SK592
11	C5a2	N-55-E	0.76	0.54	1.28	楕円形	1.54	1.42	1.50	隅丸方形	平坦	崩・人	第1号墳と重複		SK674
12	C4c9	N-9-E	0.50	0.44	0.70	楕円形	1.80	0.70	0.72	不明	平坦	不明	SK671 本跡、第1号墳と重複		SK748
13	C5a4	N-69-E	1.02	0.46	0.56	楕円形	1.10	0.76	0.80	楕円形	露状	崩落	本跡、第10号墳		SK763
14	C4a7	N-172-E	0.80	0.54	0.54	楕円形	1.60	1.00	0.94	台	平坦	崩・崩	第14号墳と重複		SK4017
15	F4B	N-81-E	1.04	0.94	1.30	楕円形	1.34	0.94	1.36	長方形	平坦	不明	第1号墳と重複		SK4059
16	B3E	N-49-W	1.20	0.75	0.73	半円形	1.70	0.91	0.76	隅丸長方形	平坦	不明			SK2005
17	D2a7	N-18-E	0.56	0.45	0.94	長方形	0.97	0.81	0.98	長方形	平坦	不明			SK2275
18	B3B	N-46-E	0.89	0.62	0.88	半円形	1.44	1.20	1.08	楕円形	平坦	崩落			SK2440

### 3 堀

調査1区の中央部から南部にかけて、平面形が南向きにコの字状を呈する堀が、1条検出された。以下、遺構と遺物について記載する。

#### 第1号堀（第536～538図、付図）

位置 調査1区の中央部以南、C4h5～D7a1区。

重複関係 第25・26・43号住居跡を掘り込み、第11号地下式城に掘り込まれている。また、第10号溝と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 検出できた長さは199.0m、上幅2.55～4.25m、下幅0.75～2.10m、深さ0.78～1.10mである。

1区の南部を東西及び南北方向に走り、平面形がコの字状を呈する。壁は、底面から21～40度の角度で立ち上がる。12～38cm立ち上がった後、角度を45～50度に変えて確認面まで立ち上がる。断面形は箱葉研状である。

方向 検出されたD4a6区から北西方向（N-23° -W）に延び、C4g5区で北東方向（N-49° -E）の向きを変え、再びB6c2区で南東方向（N-150° -E）へと向きを変え、D7c1区の調査区端まで直線的に延びる。

底面 鹿沼層の中・下層まで掘り込んでいる。北側及び東側部分から多数のピットが検出され、凸凹である。しかし、西側部分（D4区付近）には、ピットはほとんど存在せず、平坦である。

ピット 底面・壁面から多数のピットが検出された。そのうち底面から壁が立ち上がる付近の両側に長径30～70cm、短径24～60cmの円形ないし楕円形、深さ5～30cmほどのピットが並行しているところがあるが、間隔は必ずしも一定ではない。

覆土 6～11層からなる。土層断面図中のSPD-D'付近は縄文時代の遺構が多く、そこを掘り込んでいるために、不規則な堆積状況をしている。遺構の重複が少ないところの土層（SPA、SPB、SPC、SPE）は、レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説（SPD-D'）3区

1 暗褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
2 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	7 暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量、鹿沼バミス粒子微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量	8 暗褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス中ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	9 褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック微量	10 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
		11 褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量

#### 土層解説（SPE-E'）11区

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量	6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子微量	7 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量
3 暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量	8 暗褐色	鹿沼バミス小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
4 黒褐色	白色粘土ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量		
5 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量		

#### 土層解説（SPF-F'）17区

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量	4 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量
2 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	5 黄褐色	鹿沼バミス粒子多量
3 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	6 黒褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量

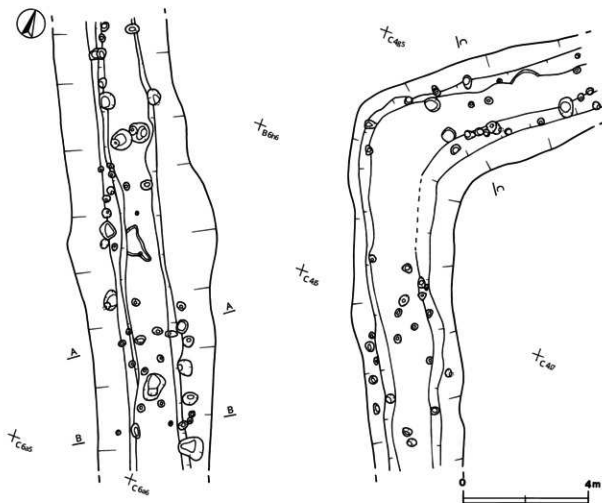
#### 土層解説（SPG-G'）23区

1 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・鹿沼バミス粒子微量	4 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック微量
2 暗褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量
3 褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量	6 暗褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量

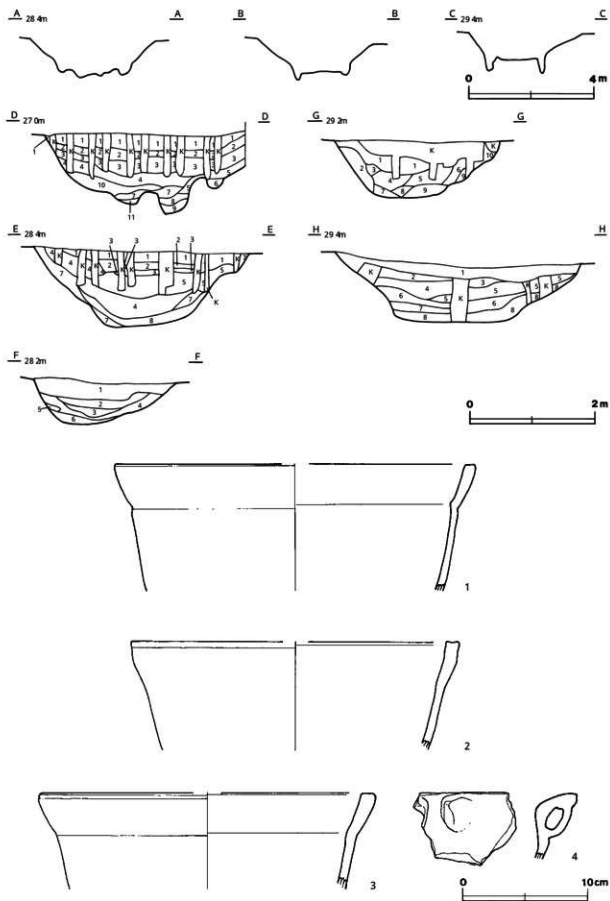
- |                         |   |       |                                     |
|-------------------------|---|-------|-------------------------------------|
| 7 黒褐色                   | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・糞沼バミス粒子少量               | 9 褐色  | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子微量           |
| 8 暗褐色                   | ローム小ブロック・ローム粒子中量、炭化粒子微量                     | 10 褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック微量       |
| <b>土層解説 (SPH-H) 35区</b> |   |       |                                     |
| 1 黒褐色                   | ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量                     | 5 黒褐色 | ローム小ブロック少量、ローム粒子微量                  |
| 2 暗褐色                   | ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量            | 6 黒褐色 | ローム粒子微量                             |
| 3 暗褐色                   | ローム中ブロック中量、ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・糞沼バミス中ブロック微量 | 7 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・糞沼バミス粒子微量   |
| 4 暗褐色                   | ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量                       | 8 暗褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック中量、ローム粒子・糞沼バミス粒子少量 |

**遺物** 東西方向に走る北側堀の東側、南北方向に走る東側堀を中心に、土師質土器80点、陶器片24点等が出土している。細片が多いので、うち土師質土器4点、陶器片4点を抽出・図示した。第537図1～4の土師質土器内耳鍋は、東側堀の覆土から出土している。6の陶器鉢片は、東側堀の覆土中層から出土している。5の陶器甕の口縁部片は、覆土下層から出土している。7の陶器片口鉢は、東側堀の南部の覆土下層から出土している。8の陶器拵鉢は、北側堀の覆土中層から出土している。

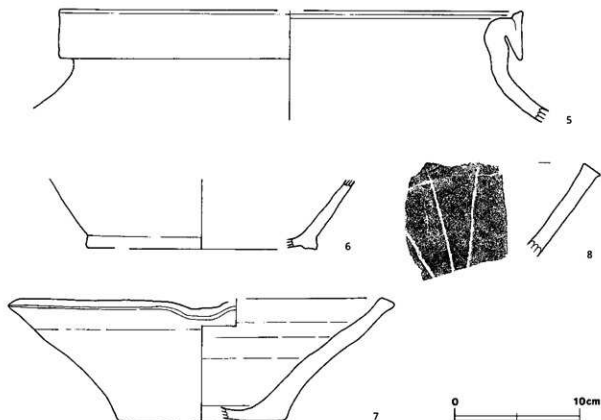
**所見** 本跡は箱葉研状に掘られただけでなく、底面に沿って不規則な並びのピットが検出されていることから槽のようなものを伴っていたことも考えられる。出土遺物の中で5の甕片と6の鉢片は、断面が滑らかになっていることから、砥石に転用されたと思われる。5の甕片は、常滑産で、口縁部の様子から14世紀前半のもの、一方、内耳鍋片は胎土に金雲母を含むことから在産で、15世紀代のもと思われることなどから、14世紀代に掘られ、15世紀代に廃絶されたものと考えられる。また覆土中から硬化面（道路状遺構）が検出されたことから、通路としても利用されたと思われる。



第 536 図 第 1 号堀実測図



第 537 图 第 1 号堀・出土遺物実測図



第 538 図 第 1 号堀出土遺物実測図

第 1 号堀出土遺物観察表

図番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 53 図 1	内耳鍋 土師質土器	A 290	体部から口縁部にかけての破片。 体部は外傾して立ち上がる。口縁 部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物 雲母 明赤褐色，普通	P 3926 10% 体部外面スス付着
		B 100				
2	内耳鍋 土師質土器	A 264	体部から口縁部にかけての破片。体 部は外傾して立ち上がる。 口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部内・外面横ナデ。	長石・針状鉱物・雲 母・赤色粒子 にぶい褐色，普通	P 3927 9%
		B 85				
3	内耳鍋 土師質土器	A 268	体部上部から口縁部にかけての破 片。体部は外傾して立ち上がる。 口縁部は外反し、内側に稜を持つ。	口縁部及び体部内・外面横ナデ。	礫・長石・針状鉱物 赤色粒子 にぶい褐色，普通	P 3928 9%
		B 76				
4	内耳鍋 土師質土器	B 57	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面・外面横ナデ。耳貼り 付け後，ナデ。	礫・長石・石英・雲 母・赤色粒子 褐色，普通	P 3929 9%
		A 370 B 78	口縁部片。口縁部は折り返されて 上下に突出し、口縁部との間に隙 間を持ち、断面N字状を呈する。	口縁部内・外面口ロナデ後，鉄 輪施釉。	礫・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3930 9% PL68 常滑系，断面砥石 転用，外面自然釉
6	鉢 陶器	B 55	高台部から体部にかけての破片。 高台が付く。体部は直線的に外傾 して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。	礫・長石・石英 灰赤色 普通	P 3931 9%
		A 184				
7	鉢 陶器	A 288	底部から口縁部にかけての破片。平 底。体部は外傾して立ち上がり、口 縁部に至る。口縁部は片口を呈する。	口縁部及び体部内・外面口ロナ デ。	礫・長石・石英・赤 色粒子 明褐色，普通	P 3932 20% PL68
		B 98				
		A 130				
8	甕 陶器	B 70	体部上部から口縁部にかけての破 片。体部は直線的に外傾して立ち 上がり口縁部に至る。口縁部 は断面がT字状を呈する。	口縁部及び体部内面張り目施文， 外面指頭痕。	礫・長石 暗褐色 普通	TP3087 9%

#### 4 井戸跡

今回の調査で井戸跡が13基検出され、うち7基を遺構の形態や遺物から中世の井戸跡とした。以下遺構及び遺物について記載する。

##### 第1号井戸跡（第539図）

位置 調査1区の北部，A4g0区。

規模と平面形 長径1.70m，短径1.48mの楕円形である。断面の形状は，下位が狭くなる逆台形状に掘り込まれているが，湧水のために確認面から2.21mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-32°-E

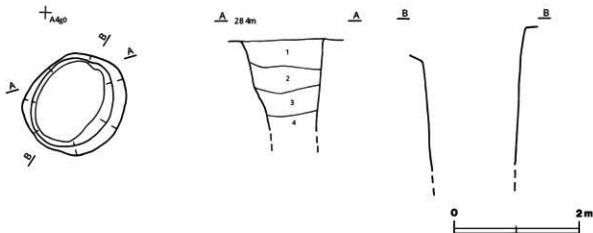
覆土 崩落のために図化できたのは，確認面から1.45mの深さまでである。4層からなり，ブロック状に堆積しているのて人為堆積である。

##### 土層解説

- |       |                            |       |                                      |
|-------|----------------------------|-------|--------------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック少量         | 4 暗褐色 | ローム大ブロック・ローム中ブロック中量，ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 2 黒色  | ローム小ブロック・ローム粒子微量           |       |                                      |
| 3 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・白色粘土中ブロック微量 |       |                                      |

遺物 土師質土器片18点が出土しているが，細片のため抽出・図示できなかった。

所見 本跡は，谷部の先端部にある。谷部は，黒色土除去後，雨天になると水が溜まり，プールの状態を呈し，なかなか抜けにくいことから水量は豊かであったと思われる。抽出・図示はできなかったが，出土した土師質土器（内耳鍋）片は，第3号井戸跡と同様なものであることから，15世紀後半から16世紀前半と思われる。



第539図 第1号井戸跡実測図

##### 第2号井戸跡（第540図）

位置 調査1区の北西部，B4d1区。

規模と平面形 長径1.64m，短径1.41mの楕円形である。断面形の形状は，確認面から0.95mの深さまで漏斗状に，そこから下は径約0.85mの円筒形に，それぞれ掘り込まれている。湧水及び崩落の危険のために確認面から1.77mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-86°-E

覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

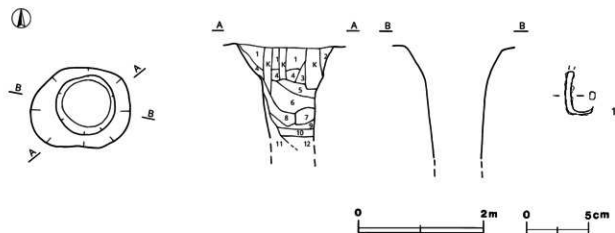
##### 土層解説

- |       |                    |        |                         |
|-------|--------------------|--------|-------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量   | 3 黒褐色  | ローム小ブロック・炭化物微量          |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック微量 | 4 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量 |

- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量  
 6 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼パミス粒子少量  
 7 黒色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量  
 8 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量  
 9 黒色 ローム粒子少量  
 10 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量  
 11 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼パミス粒子少量  
 12 褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック少量

遺物 金属製品1点(釘)が出土している。第540図1の釘は、覆土から出土している。

所見 釘が出土しているが、本跡に伴うものかどうか不明である。その他に遺物は出土していないが、遺構の形態などから近在する第1号井戸跡と同じ頃と思われる。



第540図 第2号井戸跡・出土遺物実測図

#### 第2号井戸跡出土遺物観察表

図面番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第540図1	釘	35	04	05	38	鉄	先端がJ字状に屈曲。	M 3147

#### 第3号井戸跡(第541図)

位置 調査1区の北西部, B3e6区。

規模と平面形 長径1.50m, 短径1.30mの楕円形である。断面形は、確認面から深さ約0.55mまで漏斗状に、そこから底面の粘土層まで径約0.94mの円筒形状に、それぞれ掘り込まれている。東壁の中層から下層にかけてに壺鐘状の掘り込みがある。

長径方向 N-62°-W

覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

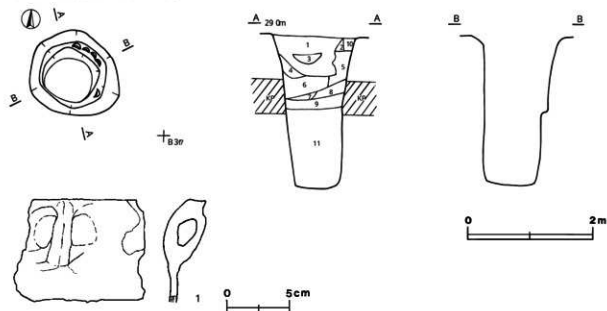
#### 土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量  
 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子少量  
 3 褐色 ローム中ブロック・ローム粒子中量  
 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム中ブロック少量  
 5 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼パミス小ブロック少量  
 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼パミス粒子少量  
 7 暗褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子少量  
 8 褐色 ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量、ローム小ブロック少量  
 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、ローム大ブロック・鹿沼パミス粒子少量  
 10 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、鹿沼パミス粒子少量  
 11 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス粒子少量

遺物 土師質土器片3点, 陶器片5点, 水中より長さ約50cm, 幅約30cmの長方形, 厚さ3~4cmのわらで編まれたものが出土している。うち土師質土器内耳鍋片1点を抽出・図示した。第541図1の土師質土器内耳鍋片は、覆土中から出土している。



所見 わら製のは、井戸の屋根などに用いられていたものと考えられる。時期は、出土土器から15世紀後半から16世紀前半と思われる。



第 541 図 第 3 号井戸跡・出土遺物実測図

### 第 3 号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 54 図 1	内耳 土師質土器	B 82	口縁部片。口縁部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。耳貼り付け後、ナデ。	黄・灰石・石英・雲母に多い褐色、普通	P 3933 5%

### 第 4 号井戸跡 (第 542 図)

位置 調査 1 区の北部、A512 区。

規模と平面形 長径 2.03m, 短径 1.94m の円形である。断面形の形状は、確認面から約 1.30m の深さまで漏斗状に掘り込まれ、この付近に壺鐘状の掘り込みを持つ。それより下位は、逆台形状に開いて掘り込まれているが、湧水のために確認面から 2.22m までしか掘り下げられなかった。

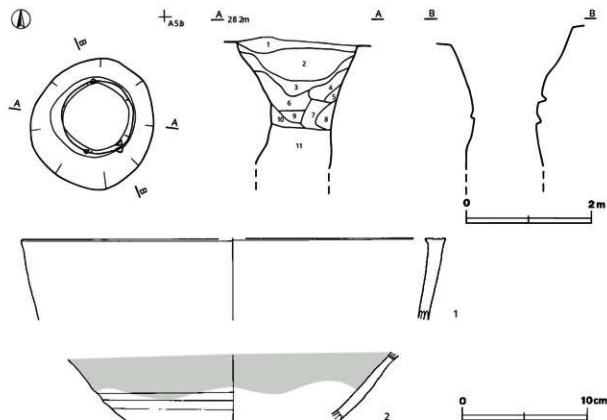
覆土 11 層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量
2 黒色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック微量	8 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム大ブロック・ローム中ブロック微量
3 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量	9 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
4 暗褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量	10 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
5 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、鹿沼バミス粒子少量	11 褐色	ローム小ブロック中量、ローム粒子少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス粒子微量
6 暗褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量、炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量		

遺物 土師質土器片 2 点、陶器片 5 点と出土遺物は少なく、細片である。うち陶器 2 点を抽出・図示した。第 542 図 1 の陶器片口鉢（常滑産）と 2 の陶器深鉢（瀬戸産）は、出土位置は不明であるが、覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から 15 世紀後半と考えられる。



第 542図 第 4号井戸跡・出土遺物実測図

第 4号井戸跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 542図 1	口鉢 陶器	A 344 B 65	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がる。胴部は平坦で断面がT字状を呈する。	口縁部内・外面口コロナデ。	磯・長石・石英明 明赤褐色 普通	P 3934 5%
2	深 陶 器	B 55	体部片。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	体部内面口コロナデ、外面回転ラブリ後、内・外面上半部焼成。	長石 灰黄色 良好	P 3935 5% 種：オリブ黄色

第 5号井戸跡 (第543図)

位置 調査1区の西部、C4c2区。

規模と平面形 径1.18mの円形である。断面形の形状は、確認面から約0.80mの深さまで漏斗状に掘り込まれている。そこから下位は、径約1.00mの円筒形状に掘り込まれているが、湧水のために確認面から約1.37mまでしか掘り下げられなかった。確認面から0.74~1.72m間の壁に、壺造状の掘り込みを持つ。

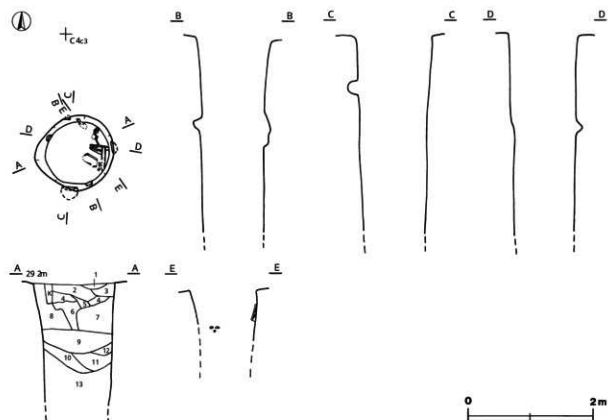
覆土 13層からなる。黒色土中心のあまり締りのない、しかも湿り気のある土層のため崩れやすかったが、湿り気のある覆土のため馬骨の残りが良かった。馬骨が入っていたことなどから人為堆積と思われる。

土層解説

1 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
2 黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・炭化物微量	7 黒褐色	ローム粒子少量、炭化粒子微量
3 黒褐色	ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量	8 黒褐色	ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物微量
4 黒褐色	ローム粒子少量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量	9 黒褐色	ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量
5 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子微量	10 黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・炭化粒子・鹿沼バミス粒子微量
		11 黒褐色	ローム粒子・鹿沼バミス粒子・白色スコリア微量

遺物 陶器片1点と馬骨が出土している。陶器は、細片で図示できなかった。馬骨（頭・足等）は、折り重なるように確認面から0.24～0.72m（第4～8層）の間で出土している。

所見 馬骨を挟む土層がブロック状に堆積していることから、馬骨は、井戸の廃棄時に意図的に埋められたと思われる。時期は、壁に錠状の掘り込みを持つ第4号井戸跡等と同じ頃と思われる。



第 543 図 第 5 号井戸跡実測図

#### 第 6 号井戸跡（第 544 図）

位置 調査 1 区の南東部，C5d0 区。

重複関係 第 1 号粘土貼土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 径1.45mのはぼ円形で，北側付近の壁は，確認面から深さ0.95mまで急な傾斜を持つが，他はほぼ直に垂下する。それから下位は，径0.78～0.94mの円筒形状に，3.55mの底面まで掘り込まれている。底面は，平坦である。

覆土 12層からなる。確認面から深さ0.95mまで攪乱が入り，特にそれが著しい0.45m前後までは，土層を割愛した。1層から11層までは，白色粘土ブロックを中心とした覆土である。壁は，鹿沼層下の褐色系のローム土であることから，人為的に埋め戻されたものと思われる。

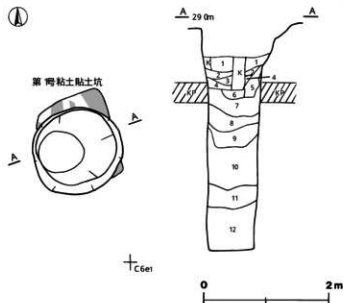
#### 土層解説

- |       |                                       |         |  |
|-------|---------------------------------------|---------|--|
| 1 暗褐色 | ローム粒子・粘土中ブロック少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量       | 5 黄褐色   | 白色粘土粒子多量，鹿沼バミス粒子中量，炭化物・炭化粒子微量                      |
| 2 暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量               | 6 オリーブ色 | 白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量，ローム粒子微量               |
| 3 暗褐色 | ローム小ブロック・白色粘土小ブロック少量，ローム中ブロック・ローム粒子微量 | 7 黄褐色   | ローム粒子中量，白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子・砂粒少量，ローム小ブロック微量 |
| 4 暗褐色 | 白色粘土小ブロック少量，ローム小ブロック・ローム粒子微量          |         |  |

- |    |        |  |    |    |   |
|----|--------|--|----|----|---|
| 8  | オリーブ色  | 白色粘土大ブロック・白色粘土中ブロック多量、ローム粒子・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子・砂粒少量、炭化物・炭化粒子微量   | 11 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、白色粘土中ブロック中量、白色粘土大ブロック少量、ローム中ブロック微量 |
| 9  | 灰オリーブ色 | 白色粘土大ブロック・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量、砂粒中量、ローム粒子少量、炭化物・炭化粒子微量 | 12 | 褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック微量                         |
| 10 | オリーブ黄色 | 白色粘土大ブロック・白色粘土中ブロック・白色粘土小ブロック・白色粘土粒子多量、ローム粒子・炭化粒子微量            |    |    |   |

遺物 陶器片2点が出土しているが、細片のために抽出・図示できなかった。

所見 小支谷を望むゆるやかな斜面上に位置する。小陶器片や遺構の形態などから、15世紀後半～16世紀前半と思われる。



第544図 第6号井戸跡実測図

#### 第8号井戸跡 (第545図)

位置 調査1区の南東部、C5g9区。

重複関係 北西部を第520号土坑に掘り込まれている。

規模と平面形 北西部上部を第520号土坑に掘り込まれているため、長径1.45m、短径1.23mの楕円形と推定される。確認面から深さ1.62mにある底面は、長径1.33m、短径1.08mの楕円形である。断面の形状は、確認面から約1.30mの深さまで漏斗状に掘り込まれ、この付近に壺鐘状の掘り込みを持つ。それより下位は、円筒形を呈するが、湧水のために確認面から2.22mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-66°-E

覆土 8層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積と思われる。

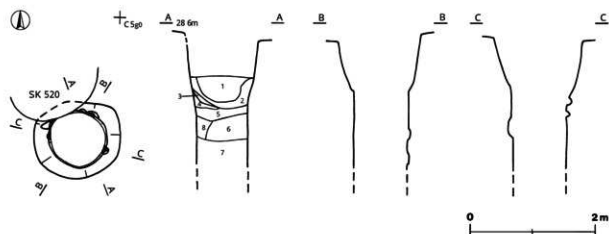
#### 土層解説

- |   |     |   |   |     |  |
|---|-----|---|---|-----|--|
| 1 | 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・粘土小ブロック微量     | 6 | 暗褐色 | ローム小ブロック多量、ローム大ブロック・ローム粒子中量、鹿沼パミス粒子少量、鹿沼パミス大ブロック微量 |
| 2 | 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子多量、鹿沼パミス粒子少量、ローム中ブロック微量   | 7 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、ローム中ブロック・鹿沼パミス粒子少量、ローム大ブロック微量   |
| 3 | 黒褐色 | ローム粒子中量、ローム中ブロック微量                      | 8 | 暗褐色 | 鹿沼パミス粒子多量、ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック少量              |
| 4 | 黒褐色 | ローム小ブロック多量、ローム粒子中量、鹿沼パミス中ブロック・鹿沼パミス粒子少量 |   |     |  |
| 5 | 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼パミス粒子微量              |   |     |  |

遺物 出土していない。

所見 出土遺物は無いが、遺構の形態や第1号堀の内側に位置することなどから他の多くの井戸跡と同じ頃と

思われる。



第 545 図 第 8 号井戸跡実測図

表 10 中世井戸跡一覧表

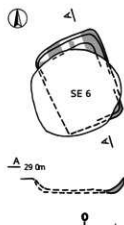
遺構番号	位置	長径方向 短径方向	平面形	規模			断面形	覆土	出土遺物	重複関係 旧新	備考 旧番号
				長径 m	短径 m	深さ cm					
1	A4q0	N-32-E	楕円形	170	148	221	逆台形状	人為	土師質土器		SK51
2	B4d1	N-86-E	楕円形	164	141	177	漏斗状・円筒状	人為	金属製品		SK75
3	B3b6	N-62-W	楕円形	150	130	094	漏斗状・円筒状	人為	土師質土器, 陶器, 自然遺物 釜		SK162
4	A5d2		円形	203	194	222	漏斗状・逆台形状	人為	土師質土器, 陶器		SK211
5	C4c2		円形		118	137	漏斗状・円筒状	人為	陶器, 馬骨		SK248
6	C5d0		円形	145		355	円筒状	人為	陶器	第1号粘土貼土坑 本跡	SK482
8	C5g9	N-66-E	楕円形	145	123	222	漏斗状・円筒状	人為		本跡 SK520	SK601

### 5 粘土貼土坑

1区南部のゆるやかな斜面部に粘土を貼った土坑が、1基検出された。以下、遺構について記載する。

#### 第1号粘土貼土坑 (第546図)

位置 調査1区の南東部, C5d0区。



第 546 図 第 1 号粘土貼土坑実測図

重複関係 大部分を第6号井戸に掘り込まれている。

規模と平面形 第6号井戸に掘り込まれているため正確な規模と平面形は不明であるが、長軸1.43m, 短軸1.10mの隅丸長方形と推定される。

長軸方向 N-17°-Wと推定される。

壁 残存する壁高は25cmほどで、外傾する。4~7cmの厚さに粘土が貼ってある。底 北東コーナー付近が残存し、平坦である。4cm前後の厚さに、粘土が貼ってある。

覆土 耕作による攪乱が多数入っていることや確認面からの深さがあまりないために、図化できなかった。

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がないため明確な時期は不明であるが、15世紀後半から16世紀前半と思われる第6号井戸に掘り込まれていることから、それ以前と考えられる。

## 6 土坑墓

調査1区の北東部から、人骨と古銭を伴う土坑墓1基が検出されているので、その状況及び遺物について記載する。

### 第2号土坑墓（第547図）

位置 調査1区の北東部，B3b4区。

規模と平面形 北壁東側がやや突出しているが、長軸2.01m、短軸1.28mの隅丸長方形で、深さ40～50cmである。

長径方向 N-47°-W

底面 踏み固められていないローム土で、北側がやや高くなっている。

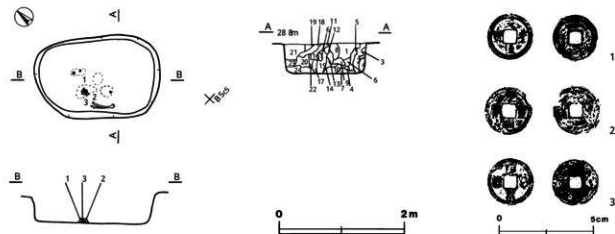
覆土 24層からなる。不規則な堆積状況をしていることから、人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	14	褐色	ローム粒子・炭化物中量、ローム中ブロック微量
2	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子少量	15	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量
3	褐色	ローム粒子中量、炭化物少量、ローム大ブロック微量	16	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子。炭化粒子少量、焼土粒子微量
4	褐色	ローム粒子中量	17	黄褐色	ローム粒子多量、炭化粒子微量
5	褐色	ローム粒子中量、焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量	18	黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子中量
6	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物微量	19	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量
7	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物少量、焼土粒子・炭化粒子微量	20	褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック中量、ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
8	暗褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、炭化粒子少量	21	褐色	ローム粒子多量
9	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量	22	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量
10	褐色	ローム粒子中量、炭化粒子少量	23	ぶい褐色	ローム粒子多量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子微量
11	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック・炭化物中量	24	褐色	ローム大ブロック・ローム粒子多量、ローム中ブロック少量、焼土粒子微量
12	暗褐色	ローム粒子・炭化材多量			
13	褐色	ローム粒子中量、ローム小ブロック微量			

遺物 人骨片5点、古銭3点が出土している。骨は最大で37cmほどの長さをもつが、粒状及び粉状の部分もあり、脆い状態で出土している。また、古銭が3点まとまって、北コーナーよりの頭骨と思われる近くの覆土下層から出土している。

所見 本跡は、人骨と古銭が出土していることや遺構の形態から土坑墓と考えられる。出土している古銭のうち2点は、「元豊通寶（行書体）」と判読できる。「元豊通寶」は、11世紀後半（1078～1086年）に铸造された北宋銭であることから中世の土坑墓と思われる。当遺跡の中世の遺構である堀や地下式墳の時期は、15世紀～16世紀前半と考えられることから、本跡もこの頃のものと思われる。



第547図 第2号土坑墓・出土遺物実測図

## 第2号土壌墓出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径 cm	孔径 cm	厚さ cm	重量 g			
第54図 1	古銭	24	07	02	28	銅	「元豊通寶」初鑄年1078年 北宋銭	M 3148 PL80
2	古銭	25	07	02	28	銅	「元豊通寶」初鑄年1078年 北宋銭	M 3149 PL80
3	古銭	24	07	02	31	銅	「通寶」	M 3150

### 7 道路状遺構

コの字状を呈する第1号堀の内側に道路状遺構1条が検出されている。検出された道路状遺構について記載する。

#### 第1号道路状遺構（第548図・付図）

位置 調査1区の中央部，G4f6～C5a2区。

重複関係 第1号堀の一部が埋まった後，踏み固められている。

規模と平面形 底面から26～40cmほど埋まった覆土上に，幅が0.10～1.14m，長さが34.56mの光沢のある硬化面が検出できた。深さは，堀の確認面から60～70cmほどである。硬化面の北部は厚さ4～8cm（第1層）であるが，南部は踏み固めが弱く，硬化面の幅が狭くなったり途切れたりする。また，硬化面と堀の覆土境が不明瞭である。

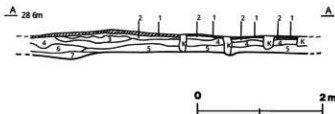
覆土 北東部の硬化面下の土層は，7層からなる。堀の土層の多くは，レンズ状に堆積していることから自然堆積である。

#### 土層解説

- |        |   |       |   |
|--------|---|-------|---|
| 1 黒褐色  | ローム粒子少量，ローム小ブロック・炭化粒子微量   | 6 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量，ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子・龍沼パミス粒子微量                           |
| 2 黒褐色  | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子微量                            | 7 褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・龍沼パミス粒子少量，ローム大ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子・龍沼パミス小ブロック・龍沼パミス中ブロック微量 |
| 3 暗褐色  | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量  |       |   |
| 4 極暗褐色 | ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・炭化物・炭化粒子・龍沼パミス粒子微量            |       |   |
| 5 褐色   | ローム粒子中量，ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子・龍沼パミス中ブロック・龍沼パミス小ブロック・龍沼パミス粒子微量 |       |   |

遺物 出土していない。

所見 本跡は，北東コーナー方向に続いていたと思われる。第1号堀が底面から26～40cmほど埋まった頃に，通路として利用されたため硬化したものである。時期は，出土遺物がなく不明であるが，堀の埋まりが少ないことから，まだ堀が機能していた頃（15世紀代）のものと考えられる。



第548図 第1号道路状遺構実測図

## 第7節 時期不明の遺構と遺物

### 1 竪穴住居跡

調査1区及び4・5区から、遺構の重複がなく、遺構にともなう遺物も出土していないため、時期が明らかでない竪穴住居跡が6軒検出された。以下、これらの遺構について記述する。

#### 第4号住居跡（第549図）

位置 調査1区の西部，B3h0区

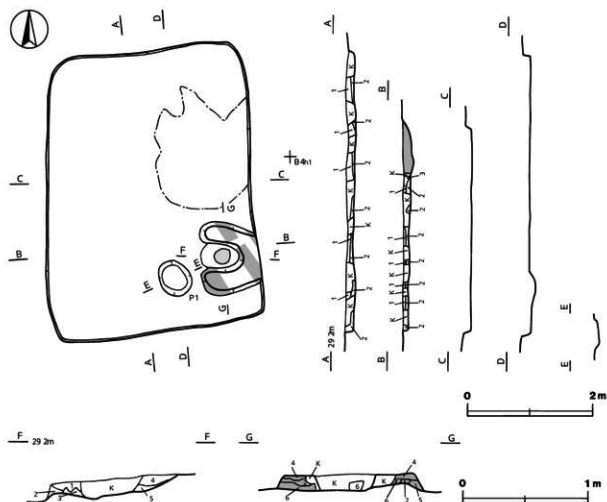
規模と平面形 長軸4.34m，短軸3.42mの長方形である。

主軸方向 N-96°-E

壁 壁高は10～12cmで，ほぼ直立する。

床 はほぼ平坦である。耕作機械による攪乱がひどく，竈左袖部の北側にのみ踏み固められた部分が遺存している。

ピット 1か所。P1は，南壁寄りの竈近くにあり，長径60cm，短径48cmの楕円形，深さ8cmである。性格は不明である。



第549図 第4号住居跡実測図



竈 東壁の南コーナー寄りに、粘土と少量の砂粒を混ぜて構築されている。壁外への掘り込みは、攪乱により確認できなかった。規模は、確認できた北壁から焚口部まで98cm、最大幅118cmである。火床面は床面と同じレベルの平坦面を使用している。攪乱を免れた袖部の内壁及び火床面は火熱を受けてわずかに赤変しているが、あまり硬化していない。

甕土層解説

- |          |                         |      |                                   |
|----------|-------------------------|------|-----------------------------------|
| 1 暗赤褐色   | 焼土粒子中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量   | 5 褐色 | ローム粒子多量、ローム小ブロック中量、焼土粒子微量         |
| 2 褐色     | 焼土粒子・炭化粒子微量             | 6 褐色 | 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 |
| 3 ぶい・赤褐色 | 焼土粒子中量、ローム粒子・焼土小ブロック微量  |      |                                   |
| 4 黄褐色    | 砂質粘土粒子多量、ローム粒子中量、焼土粒子微量 |      |                                   |

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説

- |       |                                       |        |  |
|-------|---------------------------------------|--------|--|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量、ローム中ブロック             | 3 暗赤褐色 | 焼土小ブロック・炭化粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、ローム中ブロック微量 |
| 2 褐色  | ローム粒子中量、ローム中ブロック・ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 |        |  |

遺物 出土量は少なく、竈中及び竈の周りの床面から土師器の細片が6片出土しているだけである。図示できるものはない。

所見 出土土器も少なく、細片であることから、本跡の時期は不明である。

第16号住居跡 (第550図)

位置 調査1区西部、B4j6区。

確認状況 壁や床は残存していないが、炉とピットが確認されたことから住居跡と判断した。

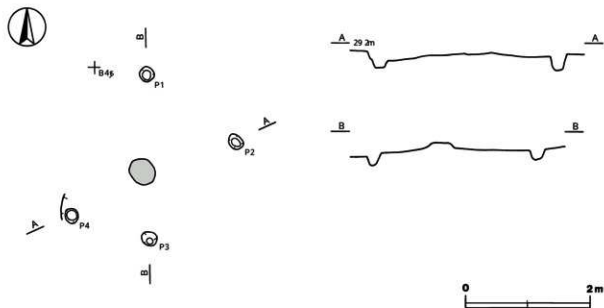
規模と平面形 不明である。

主軸方向 不明である。

壁 確認されなかった。

床 確認されなかった。

ピット 4か所 (P1～P4)。P1は長径24cm、短径22cmの円形、P2～P4は長径25～26cm、短径20～22cmの楕円形で、確認面からの深さは14～29cmである。



第550図 第16号住居跡実測図

炉 長径45cm, 短径38cmで, ほぼ楕円形を呈する地床炉と考えられる。確認面で炉床が検出された。

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 時期は不明である。

#### 第22号住居跡 (第551図)

位置 調査1区南西部, C4d6区。

確認状況 壁や床は残存していないが, 炉とピットが確認されたことから住居跡と判断した。

規模と平面形 不明である。

主軸方向 不明である。

壁 確認されなかった。

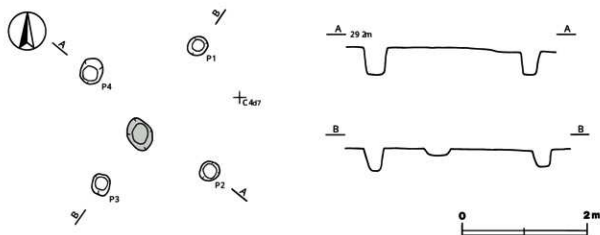
床 確認されなかった。

ピット 4か所 (P1～P4)。P1～P3は長径30～32cm, 短径31～34cmの円形, P4は長径45cm, 短径34cmの楕円形で, 確認面からの深さは29～44cmである。

炉 長径54cm, 短径39cmで, 楕円形を呈する地床炉である。確認面から10cmほど下に炉床が見られる。

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず, 時期は不明である。



第 551 図 第 22 号住居跡実測図

#### 第29号住居跡 (第552図)

位置 調査1区の東部, C6g7区

規模と平面形 床面がほぼ露出した状態で検出され, 壁などが検出できなかったが, 竈の火床部と出入口ピット等から, 長軸2.78m, 短軸2.70mの方形と推定される。

主軸方向 [N - 2° - E]

床 ほぼ平坦である。

ピット 3か所 (P1～P3)。P1は径26cmほどの円形, 深さ31cmで, 竈の火床部の南方向に位置することなどから出入口施設に伴うピットと思われる。P2は径24cmほどの円形, 深さ36cmである。P3は長径38cm, 短径32cmの楕円形, 深さ31cmである。両者の性格は不明である。

竈 北側から火床部と思われる赤変下楕円形の皿状のくぼみと, その周りに袖部の痕跡と思われる薄い粘土の

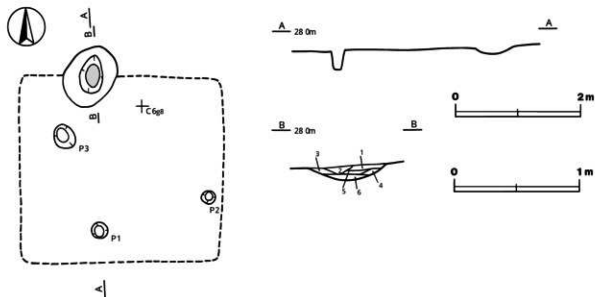
広がりが出された。

電火床部土層解説

- |   |        |                         |   |      |                         |
|---|--------|-------------------------|---|------|-------------------------|
| 1 | にぶい赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量、焼 | 4 | 暗赤褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土小ブロック・ |
|   |        | 土小ブロック微量                |   |      | 焼土粒子微量                  |
| 2 | 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子・焼 | 5 | 暗赤褐色 | 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土中ブロック・焼土 |
|   |        | 土小ブロック微量                |   |      | 小ブロック微量                 |
| 3 | 暗赤褐色   | 焼土粒子少量、ローム小ブロック・ローム粒子微量 | 6 | 暗赤褐色 | ローム粒子・焼土粒子微量            |

遺物 出土していない。

所見 床面しか残存していなかったため、覆土の堆積状況は不明である。また、出土遺物がないことから時期も不明である。



第 552 図 第 29 号住居跡実測図

第90号住居跡（第553図）

位置 調査4区の西部、G4h1区。

重複関係 第13号溝に掘り込まれており、第794号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 段差のある斜面部に位置しているため、南部及び東部は確認できなかった。床面と思われる硬化面が確認できたため、住居跡の可能性を考えた。硬化面の範囲は南北1.32m、東西1.20mである。

主軸方向 硬化面だけの検出のため、不明である。

壁 攪乱及び溝や土坑と重複しているために確認できなかった。

床 検出された部分は、ほぼ平坦で、踏み固められている。

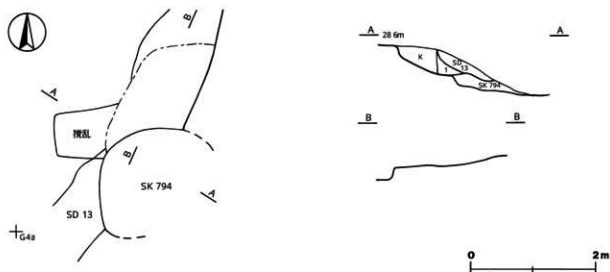
覆土 本跡のものと確認できたのは、1層だけである。堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子・鹿沼バミス少量

遺物 出土していない。

所見 出土遺物がなく、また住居跡の形状が不明なため、時期は不明である。



第 553図 第 90号住居跡実測図

第125号住居跡 (第229図)

位置 調査5区の中央部, G6e4区。

重複関係 第124号住居及び第76・87号ピットに掘り込まれ, 第883号土坑を掘り込んでいる。

規模と平面形 第124号住居跡等に掘り込まれているため, 残存状況は悪い。残存する壁の長さは, 東西3.57m, 南北1.75mである。平面形は不明である。

主軸方向 不明である。

壁 残存する壁高は35~55cmで, 外傾して立ち上がる。

床 はほぼ平坦である。検出された範囲は, 踏み固められている。

遺物 弥生土器や土師器, 須恵器の細片が少量出土しているが, 抽出・図示できるものはなかった。

所見 弥生時代や奈良・平安時代の土器が混じって出土していることや遺構の形態が不明であることなどから, 時期は不明である。

表 11 時期不明住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向 長軸方向	平面形	規模 m		壁高 cm	床面	壁溝	内 部 施 設					覆土	出土遺物	重複関係 旧 新	発掘番号
				長軸	短軸				主軸穴	出入口	ピット	竈・竪	貯蔵穴				
4	B3f0	N・96・E	長方形	434	342	10-12	平壇				1	1		自然	土師器		S24
16	B4f5	不明	不明	不明	不明						4	1		不明			SD19
22	C4h6	不明	不明	不明	不明						4	1		不明			SD26
29	C6g7	[N・2・E]	方形	278	270		平壇			1	2	1		不明			SD29
90	G4h1	不明	長方形	132	120		平壇							不明		本跡 SD 13・S K794	S34010
125	G6e4	不明	不明	357	175	35-55	平壇							不明		SK683 本跡 SD122P76・87	SB032

2 掘立柱建物跡

調査2区の北部に, 遺物が出土しておらず, 時期不明の掘立柱建物跡3棟が検出された。以下, その遺構について解説する。

第51号掘立柱建物跡 (第554図)

位置 調査2区の北部, C2e0区。

重複関係 第146号住居跡と重複しているが, 本跡との新旧関係は不明である。

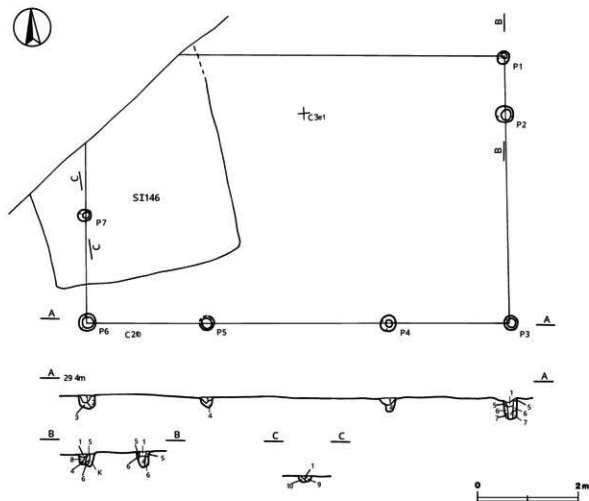
規模 東側柱列の柱穴1ヶ所及び北側柱列は確認されなかったが, 検出された柱穴の覆土及び配列から, 掘立柱建物跡とした。東西棟で, 桁行3間, 梁行3間の側柱建物跡と考えられる。桁行は8.44m, 梁行は5.30mである。桁行は, P4・P5間が3.50mとほかより広く, それ以外の柱間寸法は, 2.45mほどである。また, 梁行は, P5・P6間が1.75mとP1・P7間の2.13mより狭くなっている。柱穴は, 平面形が長径22~35cm, 短径10~24cmの円形及び楕円形で, 深さは12~52cmである。

桁行方向 N-86°-W

覆土 第1・4・8層は柱抜き取り後の覆土である。第5~7層は, 土層断面図上, 柱抜き取り痕をはさんで, はほぼ水平な堆積状況を示す埋土である。その他は不規則な堆積状況を示し中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

土層解説

- |       |                           |        |                            |
|-------|---------------------------|--------|----------------------------|
| 1 黒色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量         | 6 極暗褐色 | ローム粒子少量                    |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・能沼パミス粒子少量, | 7 暗褐色  | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量        |
| 3 黒褐色 | ローム粒子少量, 焼土小ブロック微量        | 8 黒色   | ローム粒子微量                    |
| 4 黒色  | ローム粒子・炭化粒子微量              | 9 極暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量           |
| 5 黒褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量, ローム粒子微量      | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |



第554図 第51号掘立柱建物跡実測図

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。

#### 第52号掘立柱建物跡 (第555図)

位置 調査2区の北部, C3d2区。

重複関係 第55号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 北側柱列は確認されなかったが、検出された柱穴の覆土及び配列から、掘立柱建物跡とした。南側柱列は2間であり、東側及び西側柱列は1間以上で、側柱建物跡と考えられる。南側柱列が3.15m、西側柱列が1.90m、東側柱列が1.53mである。柱間寸法は南側柱列が1.70・1.81mである。柱穴は、平面形が長径35～42cm、短径30～40cmの楕円形及び円形、深さは36～50cmである。

桁行方向 N-19° -W

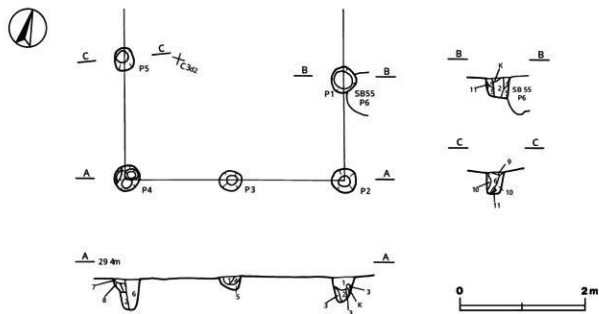
覆土 いずれも不規則な堆積状況を示し、中程度に締まった柱抜き取り後の覆土である。

#### 土層解説

- |                               |                             |
|-------------------------------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量            | 7 暗褐色 ローム粒子中量、焼土粒子・炭化粒子微量   |
| 2 極暗褐色 ローム粒子少量、炭化粒子微量         | 8 褐色 ローム粒子多量                |
| 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量 | 9 褐色 ローム粒子・炭化粒子少量           |
| 4 暗褐色 ローム粒子中量                 | 10 極暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 5 褐色 ローム粒子多量、ローム小ブロック少量       | 11 褐色 ローム粒子多量、ローム中ブロック微量    |
| 6 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量            |                             |

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第 555図 第 52号掘立柱建物跡実測図

#### 第55号掘立柱建物跡 (第556図)

位置 調査2区の北部, C3c3区。

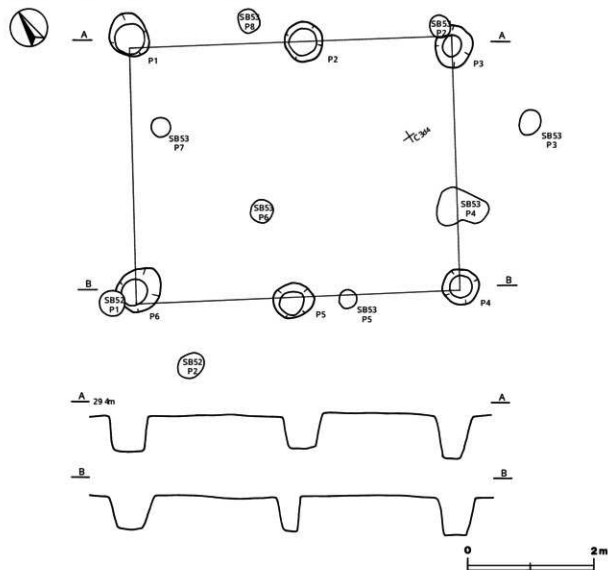
重複関係 第52・53号掘立柱建物跡と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模 桁行2間、梁行1間で東西棟の側柱建物跡である。桁行5.14m、梁行4.04mである。柱間寸法は桁行が2.40～2.75m、梁行が4.03～4.07mである。柱穴は、平面形が長径59～76cm、短径54～64cmの楕円形及び円形で、深さが48～68cmである。

桁行方向 N-57°-W

遺物 出土していない。

所見 遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第 556 図 第 55 号掘立柱建物跡実測図

表 12 時期不明掘立柱建物跡一覧表

掘立柱 建物跡 番号	位置	桁行方向	桁 間	棟 間	規 模 m	構 造	桁行柱間 m	梁行柱間 m	柱 穴 cm			新 旧 関 係 旧 新	発掘番号	
									平 面 形	長径軸	短径軸			深 さ
51	C2d0	N-86°- W	3	2	844 530	東西側・側柱	245	175	楕円形・円形	22-35	10-24	12-52	SI146土層埋	SB 2001
52	C3d2	N-19°- W	1	2	465 335	側柱	170-181	-	楕円形・円形	35-42	30-40	36-50	SB 55土層埋	SB 2002
55	C3c3	N-57°- W	2	1	514 404	東西側・側柱	240-275	403-407	楕円形・円形	59-76	54-64	48-68	SB52・53土層埋	SB 2005

### 3 屋外炉

今回の調査で、壁や床、ピットが確認できず、炉のみを検出した遺構11基を屋外炉とした。そのなかで、時期不明の屋外炉8基について記載する。

#### 第9号屋外炉（第557図）

位置 調査2区の北部、D2a7区。

規模と平面形 長径60cm、短径45cmの楕円形で、確認面からの深さは7cmほどでの地床炉である。

炉壁 底面から緩やかな傾斜をもって立ち上がる。火熱を受けた痕跡は北側から西側の炉壁に顕著で、赤変硬化が認められた。

炉床 皿状である。ロームが凹凸状に硬化しているが、赤変は認められなかった。

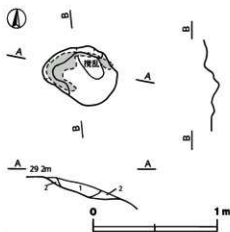
覆土 2層からなる。

##### 土層解説

- 1 黒褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片1点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。



第557図 第9号屋外炉実測図

#### 第11号屋外炉（第558図）

位置 調査2区の北部、C3f4区。

規模と平面形 径80cmの円形を呈し、確認面からの深さは9cmほどの地床炉である。

炉壁 底面から緩やかな傾斜をもって立ち上がる。南西側が火熱を受けて赤変硬化している。

炉床 皿状である。火熱を受けて赤変硬化している。

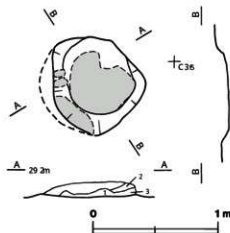
覆土 3層からなる。全体に焼土粒子が含まれ、中程度に締まっている。

##### 土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子中量、ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗赤褐色 焼土粒子少量、炭化粒子微量
- 3 にぶい赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片19点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。



第558図 第11号屋外炉実測図

#### 第12号屋外炉（第559図）

位置 調査2区の北部、C3e5区。

規模と平面形 調査の過程で南側を掘り込んでしまったため全容はつかみかたいが、長径102cm、短径80cmの楕円形を呈する地床炉と推定される。確認面からの深さは20～30cmほどである。



主軸方向 N-52°-W

炉床 火熱を受けて凹凸状に赤変硬化している。

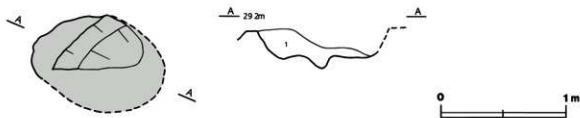
覆土 単一層である。

土層解説

1 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片20点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。



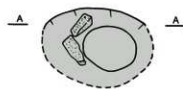
第 559 図 第 12 号屋外炉実測図

第13号屋外炉（第560図）

位置 調査2区の北部、C3j5区。

規模と平面形 長径92cm、短径64cmの楕円形を呈し、確認面からの深さは18cmほどの石囲炉と推定される。炉石は、西側で2点のみ検出され、ともに火熱を受けた痕跡が認められた。

主軸方向 N-58°-E



炉床 凹凸状に赤変硬化している。

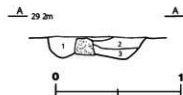
覆土 3層からなる。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

2 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

3 極暗赤褐色 ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量



遺物 覆土中から縄文土器の細片10点、炉石2点が出土している。

所見 特に石囲炉であるということから、縄文時代の住居跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で、かつ、覆土中からの出土であるため、時期は不明である。

第 560 図 第 13 号屋外炉実測図

第14号屋外炉（第561図）

位置 調査2区の中央部、E3d4区。

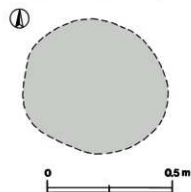
規模と平面形 確認面が炉床であり、全容は不明であるが、残存する焼土範囲から、長径59cm、短径51cmの楕円形と推定される。

主軸方向 N-58°-W

炉床 攪乱により残存状況はよくないが、火熱を受け凹凸状に赤変硬化している部分が一部認められた。

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第 561 図 第 14 号屋外炉実測図

#### 第15号屋外炉（第562図）

位置 調査2区の中央部、E3c5区。

重複関係 第25号溝に掘り込まれている。

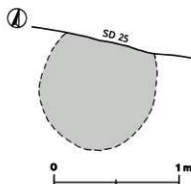
規模と平面形 確認面が炉床であり、また、第25号溝に掘り込まれているため、全容はつかみがたいが、残存する焼土範囲から、長径111cm、短径91cmの楕円形と推定される。

主軸方向 N-18°-E

炉床 わずかに赤変硬化している。

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第 562 図 第 15 号屋外炉実測図

#### 第16号屋外炉（第563図）

位置 調査2区の北部、C3e6区。

規模と平面形 長径88cm、短径58cmの楕円形で、確認面からの深さは23cmほどの地床炉である。

主軸方向 N-12°-E

炉壁 西壁が緩やかに、東壁が外傾して立ち上がる。火熱を受け赤変硬化している。

炉床 火熱を受け赤変硬化している。

覆土 2層からなる。

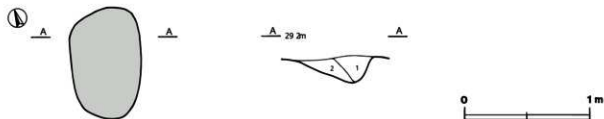
##### 土層解説

1 黒褐色 焼土粒子少量、ローム粒子・炭化粒子微量

2 暗赤褐色 焼土粒子中量、焼土小ブロック少量、ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 住居の炉跡の可能性も考えられるが、壁、床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。遺物が出土しておらず、時期は不明である。



第 563 図 第 16号屋外炉実測図

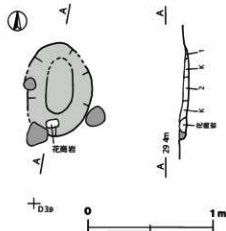
第18号屋外炉（第564図）

位置 調査2区の中央部，D3h9区。

確認状況 確認面において，楕円形の焼土の広がり白色粘土ブロックが認められた。

規模と平面形 長径75cm，短径55cmの楕円形で，確認面からの深さは8cmほどである。

主軸方向 N-6°-E



第 564 図 第 18号屋外炉実測図

炉壁 底面から緩やかな傾斜を持って立ち上がる。火熱を受け赤変している。南壁付近からもろくなった花崗岩及び白色粘土塊が確認されたが，攪乱が激しいため本跡に伴うかどうかは不明である。

炉床 皿状である。火熱を受け凹凸状に硬化している。

覆土 2層からなる。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒子多量
- 2 黒褐色 コーム粒子・焼土粒子・炭化物少量，焼土小ブロック微量

遺物 覆土中から縄文土器の細片6点，花崗岩1点が出土している。

所見 縄文時代の住居の炉跡の可能性も考えられるが，壁，床及びピットが確認できなかったため屋外炉とした。出土土器が細片で，かつ，覆土中からの出土であるため，時期は不明である。

表 13 時期不明屋外炉一覧表

遺構番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規模			出土遺物	遺構関係 旧新	備考 旧番号
				長径 m	短径 m	深さ cm			
9	D2a7	N-82-W	楕円形	60	45	7	縄文土器片		屋外炉2
11	C3f		円形	80		9	縄文土器片		屋外炉4
12	C3e5	N-52-W	楕円形	102	80	20-30	縄文土器片		屋外炉5
13	C3j	N-58-E	楕円形	92	64	18	縄文土器片，炉石		屋外炉6
14	E3d4	N-58-W	楕円形	59	51				屋外炉7
15	E3c5	N-18-E	楕円形	111	91			本跡 SD25	屋外炉8
16	C3e6	N-12-E	楕円形	88	58	23			
18	D3h9	N-6-E	楕円形	75	55	8	縄文土器片，花崗岩		SI2108

4 火葬土坑

2区及び1・5区の斜面部に，焼けた骨片及び炭化物を伴う平面形が長方形や眼鏡状の遺構が5基検出された。それらを火葬土坑とし，以下遺構と遺物について記載する。

### 第1号火葬土坑（第565図）

位置 調査1区の南東部，C5e9区。

規模と平面形 全長1.60mで，平面形は眼鏡状である。燃焼部は長径0.70m，短径0.65mの円形，焚口部は，長径1.06m，短径0.82mの楕円形である。焚口部と燃焼部の間に，長さ20cm，上幅18cm，下幅10cm，深さ15～23cmで，燃焼部方向に傾斜する溝が入る。

長軸方向 N-21°-W

壁 燃焼部の壁高は10cm，焚口部の壁高は20cmほどで，ともに外傾して立ち上がる。

底 小さな凹凸はあるが，ほぼ平坦である。

ピット 1か所。P1は，長径25cm，短径20cmの楕円形，深さ25cmで，燃焼部の西側に位置する。対になると思われるが，攪乱が多いため東側では確認できなかった。

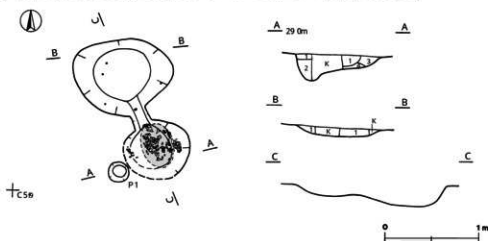
覆土 4層からなる。含有物が類似していることやブロック状に堆積していることから，人為堆積である。

#### 土層解説

- |       |                                 |       |                            |
|-------|---------------------------------|-------|----------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム粒子中量，炭化材・炭化物少量，焼土粒子微量        | 4 黒褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，ローム小ブロック・骨片少量 |
| 2 暗褐色 | ローム粒子・焼土粒子中量，炭化粒子少量             |       |                            |
| 3 暗褐色 | ローム粒子・珪砂・バミス粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・骨片微量 |       |                            |

遺物 最大で3～4cmほどの焼けた骨片と骨粉が出土している。

所見 本跡は，焼けた骨片や炭化物等が出土したことから火葬土坑と思われる。焚口部と燃焼部を結ぶ溝は，燃焼部に空気を入れる通気溝と考えられる。また，ピットは，火葬にする時に遺骸を支えるための支柱の穴と思われる。時期を特定できる遺物等が出土していないことから，時期は不明である。



第565図 第1号火葬土坑実測図



第566図 第2号火葬土坑実測図

### 第2号火葬土坑（第566図）

位置 調査1区の南東部，C5f5区。

規模と平面形 確認面に焼けた骨片及び骨粉が検出された。掘り込みは確認されなかったことから，骨片のある面が底面と思われる。規模及び平面形は不明であるが，骨片及び骨粉は，南北約1.11m，東西約0.57m長方形の広がりを持っている。

長軸方向 骨片及び骨粉の広がり方向は，N-5°-Wである。

壁 なし。

底 あまり締まりがなく，赤化した場所もなかった。南方向に緩やかな傾斜をもつ。

覆土 なし。

遺物 焼けた骨片及び骨粉が出土している。

所見 骨片が焼けていることや大きな骨がないこと、同じ斜面で、南東に約17m離れて第3号火葬土坑が存在することなどから、地形（斜面部）を利用し、遺骸を火葬にした施設と思われる。時期は、特定できるような遺物が出土していないので不明である。

### 第3号火葬土坑（第567図）

位置 調査1区の南東部、C5h8区。

規模と平面形 全長（東西）1.82mで、平面形は、眼鏡状である。燃焼部は、長径0.65m、短径0.55mの楕円形、焚口部は長径1.15m、短径0.65mの楕円形である。燃焼部と焚口部の間に、長さ50cm、上幅25～28cm、下幅13cmほど、深さ13～25cmの溝が入る。

長軸方向 N-83° -W

壁 燃焼部の壁高は10cm、焚口部の壁高は20cm、ともに外傾して立ち上がる。

底 耕作による攪乱がひどく、遺存している部分は少ないが、ほぼ平坦である。東側土坑に径0.40cmの円形、深さ10cmほどのピットを持つ。西側の底面は、少し赤味を帯びている。

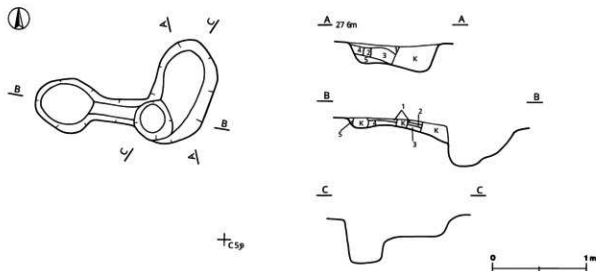
覆土 7層からなる。ブロック状に堆積していること、焼けた骨片や炭化物が含まれることなどから人為堆積と思われる。

#### 土層解説

- |       |                             |      |                      |
|-------|-----------------------------|------|----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化物・炭化粒子微量 | 3 黒色 | 炭化粒子多量、炭化物中量、骨片・骨粉微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子微量                     | 4 黒色 | 炭化粒子中量、ローム粒子・炭化物微量   |
|       |                             | 5 黒色 | ローム粒子・炭化粒子少量、炭化物微量   |

遺物 焼けた骨片と骨粉が、出土している。

所見 燃焼部の底面に火熱による赤化した部分があることや焼けている骨片及び骨粉が出土していることなどから、地形（斜面部）を利用した火葬土坑と考えられる。時期は、特定できような遺物が出土していないことから不明である。



第567図 第3号火葬土坑実測図

### 第4号火葬土坑（第568図）

位置 調査5区の南東部、H7a1区。

規模と平面形 長軸2.20m, 短軸0.95mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-53°-W

壁 壁高は19cmほどで、外傾して立ち上がる。南コーナー壁及び北東壁の南側が、火熱により赤化している。

底 南東方向に緩やかな傾斜を持つ。

ピット 2か所(P1・P2)。P1は長径20cm, 短径17cmの楕円形, 深さ8cmで、壁は北方向にオーバーハングする。P2は径22cmの円形, 深さ9cmで、壁は南方向にオーバーハングする。

P1・P2土層解説

1 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量, 炭化粒子微量 2 褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

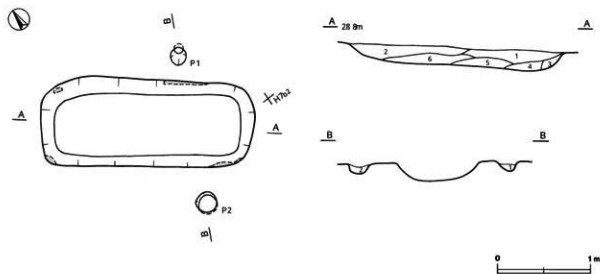
覆土 6層からなる。含有物に焼土粒子や炭化粒子等が混じることや、ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- |   |   |
|---|---|
| 1 黒褐色 炭化粒子多量, ローム粒子・炭化物中量                   | 5 黒色 炭化粒子多量, ローム粒子・炭化物少量, 焼土粒子・ローム小ブロック微量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子微量 | 6 黒褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量        |
| 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子中量, 炭化物少量                   |   |
| 4 黒色 炭化物・炭化粒子多量, ローム小ブロック・ローム粒子少量           |   |

遺物 覆土から土師器片1点, 須恵器片4点, 覆土及び底面から焼けた骨片及び骨粉が出土している。土器片は、細片のため抽出・図示できなかった。

所見 骨片や南側の壁が焼けていることや炭化物類が多く出土していることから、遺骸を火葬にした施設と思われる。ピットは、オーバーハングしているので、支柱を差し込んだものと思われる。覆土から出土した土器は、平安時代のもと思われるが、斜面部に位置することから、本跡が埋まりきらない窪地の状態時に流れ込んだものとも考えられるので、時期は不明である。



第 568 図 第 4 号火葬土坑実測図

第 5 号火葬土坑 (第 569 図)

位置 調査 2 区の中央部, E4c5 区。

重複関係 第 26 号溝を掘り込んでいる。

規模と平面形 焼焼部は長径1.25m, 短径0.56mの長楕円形で, その中央部西側に長軸0.32m, 短軸0.13mの半円形状の焚口部を有している。焼焼部中央に通気溝と考えられる溝が入っている。通気溝は長さ0.69m, 幅0.29mである。

長軸方向 N-24°-W

壁 焼焼部は深さ29cm, 焚口部は深さ21cmで, ともに外傾して立ち上がる。通気溝は深さ35cm, 断面形はU字状である。

底 凹凸である。

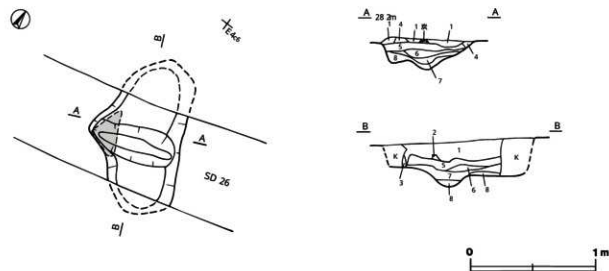
覆土 8層からなる。焼土や炭化物が混じってブロック状に堆積していることから, 人為堆積である。

土層解説

- |       |   |        |  |
|-------|---|--------|--|
| 1 黒褐色 | ローム粒子中量, 炭化物・炭化粒子少量, 焼土粒子・炭化材料微量                  | 6 黒褐色  | 炭化物・炭化粒子中量, ローム小ブロック・焼土小ブロック・焼土粒子・骨片少量 |
| 2 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子多量, 焼土粒子少量                                | 7 暗赤褐色 | 炭化物・炭化粒子多量, 焼土粒子中量, 骨片少量               |
| 3 暗褐色 | ローム粒子中量   | 8 暗褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 赤褐色 | 焼土小ブロック・焼土粒子多量                                    |        |  |
| 5 黒褐色 | 炭化物・炭化粒子多量, 焼土小ブロック中量, ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子・炭化材料少量 |        |  |

遺物 最大で5cmほどの骨片と骨粉が出土している。

所見 本跡は, 骨片や焼土・炭化物等が出土したことから火葬土坑と思われる。時期は, 特定できる遺物等が出土していないことから不明である。



第 569図 第 5号火葬土坑実測図

表 14 火葬土坑一覧表

住居跡番号	位置	主軸方向	平面形	規 模 cm										底面	覆土	出土遺物	層位関係 旧 新	発掘番号			
				焼 焼 部				通 気 溝				焚 口 部									
				長軸	短軸	深さ	壁面	長さ	上幅	下幅	深さ	壁面	長軸						短軸	深さ	壁面
1	C5e9	N 21 W	楕 圓 状	70	65	10	外傾	20	18	10	15-23	外傾	106	82	20	外傾	平埧	人為	骨片, 骨粉		SK568
2	C5f5	N 5 W	不 明	110	57												平埧	不明	骨片, 骨粉		SK603
3	C5f8	N 83 W	楕 圓 状	65	55	10	外傾	50	25-29	13	13-25	外傾	115	65	20	外傾	平埧	人為	骨片, 骨粉		SK731
4	H7a1	N 53 W	隅丸長方形	220	95	19	外傾										平埧	人為	土師器, 須恵器, 骨片, 骨粉		SK5063
5	E4c5	N 24 W	T 字 状	125	56	29	外傾	69	29		21	外傾					凹凸	人為	骨片, 骨粉	SD26 本跡	SK20261

## 5 井戸跡

1区から8基、2区から5基の井戸跡が検出されたが、遺構の形態が違うもの、または遺物が出土していないが、遺構に伴うと思われる遺物が出土していない6基を時期不明とした。その遺構について記載する。

### 第7号井戸跡（第570図）

位置 調査1区の南東部、D6b9区。

規模と平面形 長径1.42m、短径1.37mのはぼ円形、確認面から深さ1.62mの底面は、長径1.33m、短径1.08mの楕円形で、断面形は円筒状である。底面中央部に、平面形が長軸0.90m、短軸0.70mの隅丸長方形、深さ0.46mで、断面形がU字状の掘り込みを持つ。

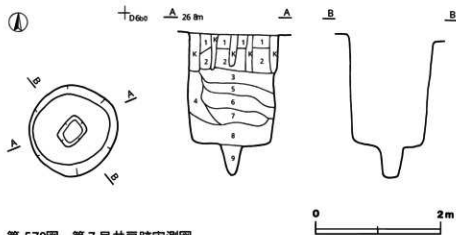
覆土 9層からなる。含有物が類似していることなどから人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐色	ローム小ブロック少量、ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量	6	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・粘土中ブロック・粘土粒子・砂粒少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量
2	黄褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス中ブロック・白色粘土小ブロック微量	7	褐色	ローム小ブロック・粘土中ブロック中量、ローム粒子・粘土粒子・砂粒少量、鹿沼バミス小ブロック微量
3	褐色	粘土中ブロック・粘土粒子中量、ローム粒子少量、ローム小ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量	8	褐色	ローム小ブロック中量、砂粒少量、ローム粒子・粘土中ブロック・粘土小ブロック・粘土粒子微量
4	褐色	ローム小ブロック・ローム粒子少量、粘土粒子・砂粒微量	9	ぶい・黄褐色	砂粒中量、ローム小ブロック・ローム粒子微量
5	褐色	粘土中ブロック・砂質粘土粒子中量、ローム小ブロック・ローム粒子少量、鹿沼バミス粒子微量			

遺物 出土していない。

所見 底面は、灰色の砂質で湿り気を持っている。コの字状の堀の内側にあることから中世のものと考えられるが、中央部に窪みを持つ同様の遺構の形態が他にないことなどから、時期は不明である。



第570図 第7号井戸跡実測図

### 第9号井戸跡（第571図）

位置 調査2区の北部、C2e5区。

規模と平面形 長径1.94m、短径1.82mの円形である。断面の形状は、漏斗状であるが、崩落の危険があるために確認面から2.06mまでしか掘り下げられなかった。

覆土 12層からなり、ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1	褐色	ローム小ブロック多量、ローム大ブロック中量、鹿沼バミス小ブロック少量	3	褐色	ローム粒子多量、ローム小ブロック少量
2	黒褐色	ローム小ブロック少量、ローム中ブロック・鹿沼バミス小ブロック微量	4	黒色	ローム小ブロック少量、ローム大ブロック微量
			5	黒色	ローム大ブロック・ローム小ブロック少量
			6	暗褐色	ローム粒子多量、ローム中ブロック中量

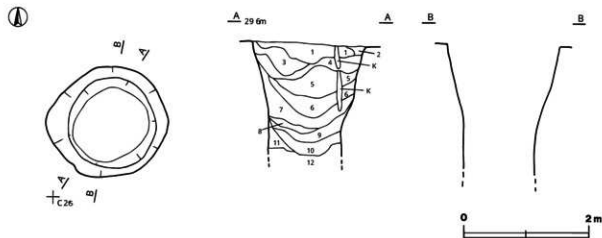


- 7 褐色 ローム中ブロック多量、ローム大ブロック中量  
 8 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 9 黒色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

- 10 黒褐色 ローム中ブロック・ローム粒子多量  
 11 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量  
 12 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子多量

遺物 出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、遺物が出土していないため、時期は不明である。



第 571図 第 9号井戸跡実測図

第10号井戸跡 (第572図)

位置 調査2区の北部, C3i3区。

規模と平面形 長径0.94m, 短径0.86mの円形である。断面形の形状は、漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.38mまでしか掘り下げられなかった。

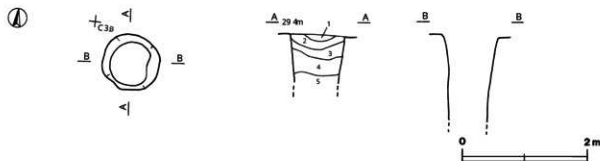
覆土 5層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 鹿沼バミス粒子微量  
 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼バミス小ブロック  
 3 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼バミス小ブロック・鹿沼バミス粒子微量  
 4 黒色 ローム粒子・鹿沼バミス粒子少量  
 5 黒色 ローム粒子多量, ローム小ブロック少量

遺物 出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから、中世の可能性も考えられるが、遺物が出土していないため、時期は不明である。



第 572図 第 10号井戸跡実測図

第11号井戸跡 (第573図)

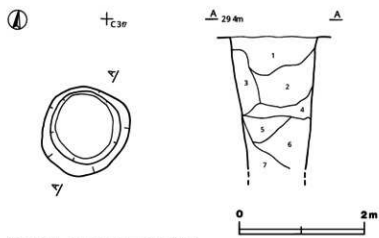
位置 調査2区の北部, C3f6区。

規模と平面形 長径1.48m, 短径1.36mの円形である。円筒状に掘り込まれている。崩落の危険のために確認面から2.10mまでしか掘り下げられなかった。

覆土 7層からなる。不規則な堆積状況から人為堆積である。

土層解説

- |      |                        |
|------|------------------------|
| 1 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量      |
| 2 黒色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量       |
| 3 黒色 | ローム粒子・砂質粘土粒子・鹿沼バミス粒子微量 |
| 4 黒色 | ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量     |
| 5 黒色 | ローム粒子微量                |
| 6 黒色 | ローム粒子・粘土粒子微量           |
| 7 黒色 | ローム小ブロック・粘土小ブロック微量     |



第573図 第11号井戸跡実測図

遺物 縄文土器片31点, 土師器片・須恵器片各1点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから, 中世の可能性も考えられるが, 伴う遺物が出土していないため, 時期は不明である。

第12号井戸跡 (第574図)

位置 調査2区の南部, F36区。

規模と平面形 長径2.32m, 短径2.00mの楕円形である。断面形の形状は, 漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.42mまでしか掘り下げられなかった。

長径方向 N-7°-E

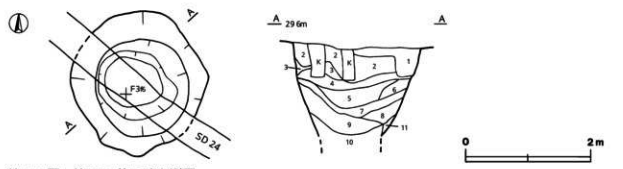
覆土 11層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

土層解説

- |       |                                |        |                             |
|-------|--------------------------------|--------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・ローム粒子微量   | 6 黒褐色  | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子微量   |
| 2 黒褐色 | ローム中ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子微量 | 7 黒褐色  | ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量            |
| 3 黒褐色 | ローム大ブロック・ローム小ブロック・ローム粒子少量      | 8 黒褐色  | ローム粒子・鹿沼バミス粒子微量             |
| 4 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量               | 9 黒褐色  | ローム粒子・鹿沼バミス小ブロック微量          |
| 5 黒褐色 | ローム粒子微量                        | 10 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子微量            |
|       |                                | 11 暗褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 鹿沼バミス粒子少量 |

遺物 縄文土器片136点, 土師器片1点, 須恵器片7点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから, 中世の可能性も考えられるが, 伴う遺物が出土していないため, 時期は不明である。



第574図 第12号井戸跡実測図

### 第13号井戸跡（第575図）

位置 調査2区の中央部，E3c3区。

規模と平面形 長径2.10m，短径1.95mの円形である。断面形の形状は，漏斗状である。崩落の危険のために確認面から1.85mまでしか掘り下げられなかった。

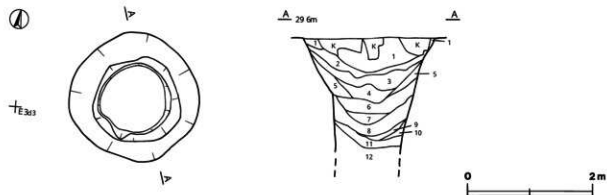
覆土 12層からなる。ブロック状に堆積していることから人為堆積である。

#### 土層解説

1	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量	7	黒褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム大ブロック・ローム中ブロック少量
2	黒褐色	ローム粒子少量，ローム小ブロック・焼土粒子少量	8	黒褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック・ローム粒子中量，ローム大ブロック少量
3	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子・鹿沼パミス粒子少量，焼土小ブロック・炭化粒子微量	9	黒褐色	ローム小ブロック・ローム粒子中量，鹿沼パミス粒子少量
4	黒褐色	ローム粒子中量，ローム小ブロック少量，鹿沼パミス粒子少量	10	暗褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量
5	黒褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量	11	黒褐色	ローム小ブロック多量，ローム中ブロック中量，鹿沼パミス粒子・礫少量
6	黒褐色	ローム小ブロック多量，ローム粒子中量，ローム中ブロック少量，ローム大ブロック・礫微量	12	黒褐色	ローム小ブロック多量，鹿沼パミス粒子少量，ローム大ブロック・鹿沼パミス中ブロック微量

遺物 縄文土器片118点，土師器片15点，須恵器片16点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ，本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 調査1区から検出された中世の井戸跡と形態が類似していることから，中世の可能性も考えられるが，伴う遺物が出土していないため，時期は不明である。



第 575図 第 13号井戸跡実測図

表 15 時期不明井戸跡一覧表

遺構番号	位置	長径方向 短径方向	平面形	規 模			断面形	覆土	出土遺物	重 複 関 係 旧 新	発掘番号
				長径 m	短径 m	深さ cm					
7 D 6 b9			円 形	142	137	162	逆台形状	人為			SK556
9 C 2 e5			円 形	194	198	206	漏斗状	人為			SE2001
10 C 3 d2			円 形	094	086	138	漏斗状	人為			SE2002
11 C 3 b5			円 形	148	136	210	円筒形状	人為	縄文土器・土師器・須恵器		SE2003
12 F 3 e6	N・7・E		楕 円形	232	200	142	漏斗状	人為	縄文土器・土師器・須恵器		SE2004
13 E 3 c3			円 形	210	195	185	漏斗状	人為	縄文土器・土師器・須恵器		SE2005

#### 6 溝

調査1区から10条，2区から5条，3区から2条，4区から4条，5区から5条の計26条の溝が確認された。第1・5・13・19号溝のように最近の地籍図の筆境と位置がほぼ一致し，土地の区画・根切り等に利用されたものと考えられるものもある。しかし，多くは時期を特定できる出土遺物が少ないために性格や時期は不明である。ここでは11条の溝について記述し，その他は一覧表に記載する。

### 第8号溝 (第576図・付図)

位置 調査1区南部, C5g1~C5j3区。

重複関係 第9号溝と重複しているが、耕作による攪乱のため新旧関係は不明である。

形状と規模 斜面部に位置するために南部は検出できなかった。検出できた長さは14.52m, 上幅1.08~1.24cm, 下幅0.24~0.54cm, 深さ17~28cmである。断面形はゆるやかなU字形である。

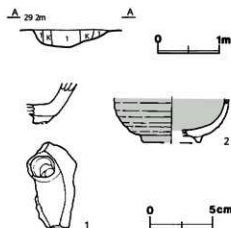
方向 南部は検出できなかったが、南方向(N-151°-E)に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説 (SPA-A') 4区

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量

遺物 瓦質土器1点, 土師質土器片1点, 陶器片6点が出土している。うち瓦質土器1点, 陶器1点を抽出・図示した。1の瓦質土器香炉と2の陶器碗は、ともに覆土中から出土している。



第576図 第8号溝・出土遺物実測図

### 第8号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第576図 1	香炉 瓦質土器	B 32 E 07	底部から体部にかけての破片。平底。断面が逆台形の支脚が付く。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面・外面ナデ。支脚貼り付け。	礫・長石・雲母 灰色 普通	P 3936 10%
2	碗 陶器	B 35 D 46 E 06	底部から体部にかけての破片。平底。断面逆台形の高台が付く。体部は内傾しながら外傾して立ち上がる。	体部内面・外面口クロナデ。底部調整不明。内面灰釉, 外面鉄釉施釉。	長石 内 灰白色, 外黒褐色, 良好	P 3937 5% 瀬戸・美濃系

所見 中世(瓦質土器香炉)や近世(瀬戸・美濃系陶器)と時期幅がある遺物が出土していること、本跡南部が検出されていないことなどから、時期及び性格は不明である。

### 第9号溝 (第577図・付図)

位置 調査1区の南部, C4g7~C5j2区。

重複関係 第36・46号住居跡を掘り込んでいる。第8号溝と重複しているが、耕作による攪乱のため新旧関係は不明である。

形状と規模 平面形は南を向くU字状で、南北方向に走る東側は斜面部のために南部は検出できなかったが、東西とも調査区域外に延びると思われる。検出できた長さは61.96m, 上幅0.60~1.45cm, 下幅0.10~0.60cm, 深さ35~66cmである。断面形はU字状ないし箱葉研状である。

方向 1区南部から北西方向(N-37°-W)に向かい, C4e9区で北東方向(N-24°-E)に屈曲する。さらに, C4e9区で南東方向(N-124°-E)に屈曲する。

覆土 2~3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

土層解説 (SPA-A') 4区

1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック  
微量

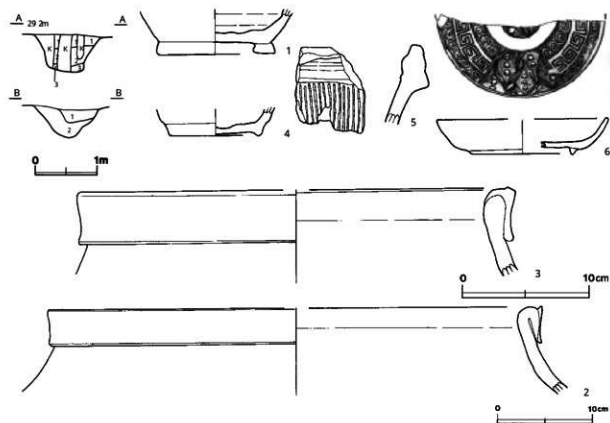
2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量  
3 緑褐色 ローム粒子中量, 鹿沼パミス粒子微量

土層解説 (SPB-B') 2区南側

1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量  
2 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子・炭化粒子微量

遺物 灰釉陶器1点，土師質土器18点，陶磁器23点が出土している。うち灰釉陶器1点，陶器4点，磁器1点を抽出・図示した。1の灰釉陶器壺片，2～6の陶磁器片は，覆土中から出土している。

所見 古代から近現代までの時期幅がある遺物が出土している。「天王様」と呼ばれる祠の周囲をU字状に廻ることから，それに関連する区画溝と思われるが，時期は不明である。



第 577 図 第 9 号溝・出土遺物実測図

第 9 号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 577 図 1	壺 灰釉陶器	B 36 D 95 E 09	底部片。断面台形の高台が付く。体部は外傾して立ち上がる。	底部回転糸切り後，高台貼り付け。	磯・砂粒・長石 灰白色 普通	P 3939 5% 三河・遠江産力 底部内面釉
2	磁器	A 506 B 91	口縁部片。頸部は内傾する。折返し口縁で，頸部外面はつまみ上げられている。	口縁部上部は折り返されている。外面鉄釉。	磯・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3940 5% PL68 常清系
3	磁器	A 340 B 71	口縁部片。幅の広い粘土紐が通る。	口縁部内面口ロナデ，外面幅広の粘土紐貼り付け。内・外面鉄釉。	磯・長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 3941 5% 断面砥石転用 常清系
4	鉢 陶器	B 22 D 72 E 04	高台部片。高台は断面が逆台形の呈する。体部は外傾して立ち上がる。	体部内面口ロナデ，外面へう削り。削り出し高台。	長石 淡黄色 良好	P 3943 10% 瀬戸・美濃系
5	擂 陶器	B 09	口縁部片。口縁部は外傾して立ち上がり，上部に隆帯が貼られる。	口縁部上部に隆帯貼り付け。内面腐り目施文。	磯・長石 にぶい赤褐色 普通	P 3942 5% 堺・府石系力
6	皿 磁器	A 138 B 28 D 82 E 04	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は内傾しながら外傾して開き，口縁部に至る。	口縁部及び体部口ロナ成。削りだし高台。紐付け。透明釉。	- 灰白色 普通	P 3938 40%

### 第11号溝 (第578図・付図)

位置 調査3区の中央部及び4区の西北部, G2i3~G3b8区

重複関係 第62・73・74号住居跡を掘り込んでいる。また、第786号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

形状と規模 3区中央部の西端から直線的に東端に向かい、調査区域外の町道部分を越え、4区に11.5mほど延びる。検出できた長さは約43.5m, 上幅0.50~1.28cm, 下幅0.30~0.64cm, 深さ12~50cmである。断面形はU字状である。

方向 東方向(N-76°-E)に直線的に延びる。

覆土 3層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説 (SPA-A') 2区

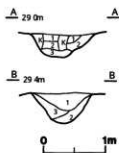
- 1 暗褐色 ローム粒子・炭化物・炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック・ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック・焼土粒子・炭化物微量

#### 土層解説 (SPB-B') 9区

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, ローム中ブロック・炭化粒子微量

遺物 土師器や須恵器片が出土している。住居跡と重複する付近の覆土上層から出土していることから、住居跡を掘り込んでいることによるものと思われる。

所見 本跡に伴うと思われる遺物が出土していないために、時期は不明である。本跡は4区まで延びて途切れるが、途切れた所から東側に90cmほど離れて、第15号溝は、東方向に延びている。本跡と第15号溝は、3区の西端から4区の東端にかけて、一直線に延びていることから関連する溝と思われる。



第578図 第11号溝 実測図

### 第15号溝 (第579図・付図)

位置 調査4区の北部, G3b9~F5h1区

重複関係 第88号住居跡及び第817号土坑を掘り込んでいる。また、第15号地下式墳及び第16号溝と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

形状と規模 4区の東端で調査区域外に延びる。検出された長さは、50.32m, 上幅0.70~1.80cm, 下幅0.26~0.70cm, 深さ52~60cmである。断面形はU字状である。

方向 東方向(N-76°-E)に直線的に延びる。

覆土 2~5層からなる。レンズ状に堆積していることから自然堆積と思われる。

#### 土層解説 (SPA-A') 5区

- |       |  |       |                             |
|-------|--|-------|-----------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, 焼土粒子・炭化粒子微量          | 4 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム中ブロック・焼土粒子微量    |
| 3 黒褐色 | ローム粒子中量, ローム小ブロック少量, 焼土粒子・炭化粒子・礫微量     |       |                             |

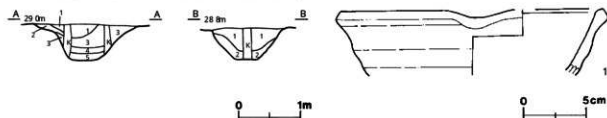
#### 土層解説 (SPB-B') 3区

- |       |                          |       |                              |
|-------|--------------------------|-------|------------------------------|
| 1 黒褐色 | ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子微量 | 2 暗褐色 | ローム粒子多量, ローム大ブロック・ローム小ブロック微量 |
|-------|--------------------------|-------|------------------------------|

遺物 土師器片や須恵器片が出土しているが、住居跡を掘り込んでいることによるものと思われる。他に陶器片1点(片口鉢)が出土している。

所見 1の片口鉢片は常滑産で、13世紀代に位置づけられるものであるが、この時期の土器が1点しか出土していないことや第15号地下式墳との重複関係も不明なため時期不明とした。また、5区の第18号溝は断面形が

類似していることや、これら3条の溝（第11・15・18号）を結ぶと4区の谷部をL字状に囲むようになることなどから関連性も考えられるが、性格は不明である。



第 579図 第 15号溝・出土遺物実測図

第 15号溝出土遺物観察表

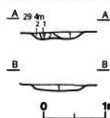
図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 579図 1	片口陶器	A 210 E 52	体部上部から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。口縁端部は肥厚する。	口縁部及び体部内・外面口口ロナズ後、施釉。	長石 淡黄色 良好	P 3944 10% PL68 瀬戸・美濃系

第22号溝（第580図）

位置 調査2区北部，C2a9～B3h1区。

形状と規模 長さは17.0mで、上幅26～62cm，下幅12～47cm，深さ11cmである。断面は皿状である。

方向 C2a9区から北東方向（N-141°-W）に直線的に延びる。



覆土 2層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量

遺物 縄文土器片16点が覆土中から出土している。いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

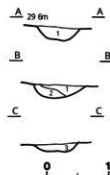
第 580図 第 22号溝  
実測図

所見 時期及び性格は不明である。

第24号溝（第581図）

位置 調査2区南部，F3c3～F3h9区。

重複関係 第12号井戸，第204号住居跡，第58号掘立柱建物跡と重複しているが、新旧関係は不明である。



形状と規模 南東方向が調査区域外に延びるため、検出できた長さは29.2mで、上幅36～64cm，下幅22～50cm，深さ20～22cmである。断面はゆるやかなU字形である。

方向 F3c3区から南東方向（N-130°-E）に直線的に延びるとと思われる。

覆土 3層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 褐色 ローム粒子多量，ローム中ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子微量

遺物 縄文土器片62点，土師器片2点，須恵器片1点，陶器片1点が覆土中から出土しているが、いずれも流れ込みと考えられ、本跡に伴う遺物は出土していない。

第 581図 第 24号溝  
実測図

所見 時期及び性格は不明である。

#### 第25号溝 (第582図)

位置 調査2区中央部, E3b2~E3d0区。

形状と規模 西方向が調査区域外に延びるものと思われるが, 検出できた長さは31.85mで, 上幅84~102cm, 下幅34~68cm, 深さ5~14cmである。断面は皿状である。

方向 E3d0区から西方向(N-80°-W)に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

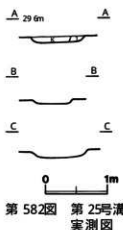
##### 土層解説

1 褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, ローム中ブロック・焼土小ブロック・炭化物微量

遺物 縄文土器片370点, 土師器片2点, 須恵器片6点が覆土中から出土している。

いずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第582図 第25号溝  
実測図

#### 第26号溝 (第583図)

位置 調査2区中央部, E4c3~E4c6区。

重複関係 第5号火葬土坑を掘り込んでいる。

形状と規模 東方向が調査区域外に延びるものと思われ, 検出できた長さは13.2mで, 上幅58~84cm, 下幅30~54cm, 深さ15cmである。断面は皿状である。

方向 E4c3から北東方向(N-75°-E)に直線的に延びると思われる。

覆土 単一層である。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

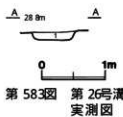
##### 土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム大ブロック・ローム中ブロック・ローム粒子微量

遺物 縄文土器片80点, 土師器片2点, 須恵器片10点が覆土中から出土している。い

ずれも流れ込みと考えられ, 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第583図 第26号溝  
実測図

#### 第27号溝 (第584図)

位置 調査2区北部, D2c6~D2e8区。

形状と規模 北西方向が調査区域外に延びるものと思われ, 検出できた長さは11.5mで, 上幅112~162cm, 下幅58~90cm, 深さ14cmである。断面は皿状である。

方向 D2e8区から北西方向(N-30°-W)に直線的に延びると思われる。

覆土 3層からなる。覆土が薄いことから堆積状況は不明である。

##### 土層解説

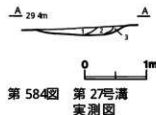
1 黒褐色 ローム粒子少量, ローム中ブロック微量

2 黒色 ローム粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 出土していない。

所見 時期及び性格は不明である。



第584図 第27号溝  
実測図



表 16 時期不明溝一覧表

溝番号	位置	方向	形状	規格				断面	底面	覆土	出土遺物	規格関係 旧 新	発掘番号
				縦断長	上幅	下幅	深さ						
1	A5h6-A5e0	南西-北東	直線状	2400	086-144	032-074	017-028	U字形	皿状	不明			SD1
2	A5b9-A5e0	南西-北東	直線状	742	048-066	012-044	100-140	U字形	皿状	不明			SD2
3	A5b9-A5e0	南西-北東	直線状	518	032-048	012-022	010-014	U字形	皿状	不明			SD3
4	B5c5-B5e4	西-東	直線状	3832	048-146	066-088	017-036	U字形	皿状	自然			SD5
5	B6b9-C6e4	東-西	U字状	1396	024-036	015-034	014-024	U字形	平坦	自然			SD7
		南-北											
6	B5b9-B6e2	西-東	直線状	1682	124-172	038-128	024-048	U字形	皿状	自然		SD1と直線	SD8
7	B5D-C6g1	北西-南東	直線状	3658	110-280	044-112	018-045	U字形	平坦	自然		SD1, 38, SK440 515 583, 第 9号穴状遺構と直線	SD9
8	C5g1-C5j9	北西-南東	直線状	1452	108-124	024-054	017-028	U字形	皿状	不明	瓦葺土器, 土師製土器, 陶器	SD8-11と直線	SD10
9	C4g7-C5j9	南東-北西	コの字	6196	060-145	010-060	035-066	U字形	平坦	自然	灰地陶器, 土師製土器, 陶器	SD6 本跡, SD1と直線	SD11
		南西-北東	状										
10	H2e6-H2d9	西-東	直線状	1276	114-150	072-102	017-023	U字形	平坦	不明			SD3001
11	G2b9-G3b8	西-東	直線状	4350	050-128	030-064	012-050	U字形	平坦	自然	土師器, 須恵器	SB1-72, 73 本跡, SK7 362と直線	SD3002
13	G3j9-G5h2	南西-東	直線状	6458	066-222	008-150	010-033	U字形	平坦	自然		SB9-90, SK772-782, 783-794, 798と直線	SD4001
14	G3g9-G5a1	南西-東	直線状	6316	019-096	010-044	016-044	U字形	皿状	自然		第14号地下式竈と直線	SD4002
15	G3e9-F9h1	西-東	直線状	5032	070-180	026-070	052-060	U字形	皿状	自然	土師器, 須恵器, 陶器	SD7, SK617 本跡, 第15号地下式竈, SD1と直線	SD4003
16	F4j9-G4a2	北西-南東	直線状	1217	052-072	018-036				不明		SB6, SK62と直線	SD4004
17	F6g3-F6f5	西-東	直線状	985	114-130	094-112				不明		SB4-6, SK840-855と直線	SD5001
18	G5b8-H6b2	北西-南	直線状	5016	118-182	022-046	023-068	U字形	皿状	自然		SD128 133 135, SB12 24 25 30 42 43, SK882 936, P223-228-243, 946と直線	SD5002
19	G5c4-G5b5	北-南	直線状	2934	046-112	014-072	045-055	U字形	皿状	自然		SD137, SK92と直線	SD5003
20	G5e2-G5f5	南-北	U字状	2154	024-074	068-034	013-015	U字形	平坦	不明		P3-4と直線	SD5004
		東-西											
21	G5d3-G5h8	北-南	直線状	758	042-078	012-048	012-017	U字形	平坦	不明			SD5005
22	C2e9-B3h1	南西-北東	直線状	17	026-062	012-047	011	皿状	平坦	不明	縄文土器片		SD2001
24	F3c3-F3e9	南東-北西	直線状	292	036-064	022-050	020-022	U字形	平坦	不明	縄文土器, 土師器, 須恵器, 陶器	SB58, SD04, SE1と直線	SD2003
25	E3b 2-E3a0	東-西	直線状	3185	084-102	034-068	005-014	皿状	平坦	不明	縄文土器, 土師器, 須恵器	第 9号火葬土坑 本跡	SD2004
26	E4c3-E4c5	東-西	直線状	132	058-084	030-054	015	皿状	平坦	不明			SD2005

## 7 土坑・土坑墓

今回の調査で、時期不明の366基の土坑が検出された。そのうち、人骨及び遺物を伴い土坑墓と考えられる2基について記載し、その他は一覧表で報告する。

## 第3号土坑墓(第585図)

位置 調査1区の北東部, B3e6区。

規模と平面形 長径1.41m, 短径0.82mの楕円形で、確認面からの深さは13cmである。

長径方向 N-8°-W

壁 ならだかに立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 2層からなる。堆積状況は不明である。

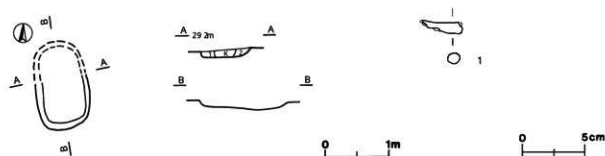
土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量

2 褐色 ローム粒子多量

遺物 人骨1点及び骨粉、煙管の雁首が出土している。骨は西壁際、骨粉は南壁際の底面から、煙管の雁首は覆土中から出土している。

所見 人骨及び煙管の雁首が出土していること、遺構の規模や形態などから土坑墓と考えられる。正確な時期は不明であるが、煙管の雁首が出土していることから、近世以降と考えられる。



第585図 第3号土坑墓・出土遺物実測図

第3号土坑墓出土遺物観察表

図録番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第585図 1	煙管	33	09	-	20	銅	雁首の一部。断面形が円形。	M 2506

第5号土坑墓 (SK743) (第586図)

位置 調査1区の中央部、C5a2区。

重複関係 第1号堀に掘り込まれている。第661号土坑と重複しているが、本跡との新旧関係は不明である。

規模と平面形 北西部の下部が残存しているのみで、正確な規模及び平面形は不明である。

長径方向 不明である。

壁 北西壁が残存しており、なだらかに立ち上がる。

底面 平坦である。

覆土 3層からなり、不規則な堆積状況を示していることから人為堆積である。

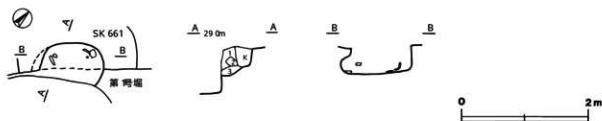
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子微量

3 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック・ローム中ブロック・

ローム小ブロック微量



第586図 第5号土坑墓実測図

遺物 人骨4点及び骨粉が出土している。うち、1点は一部歯の残る頭骨で、北西際から出土している。

所見 人骨が出土していること及び覆土が人為堆積であることから、土坑墓の可能性が考えられる。人骨以外に出土遺物がなく、時期は不明である。

表 17 時期不明土坑墓・土坑・ピット一覧表

土坑 番号	位置	長短方向 長軸方向	平面形	規 模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	墓 種 別 係		発掘番号
				長径	短径 m					深さ cm	旧	
第3号 土坑墓	B36	N-8-W	楕円形	141	082	13	緩斜	平埴	人為			SK141
第4号 土坑墓	C5a2	-	-	-	-	-	緩斜	平埴	人為	本跡	第7号墳, SK66止置棺	SK743
218	B36	N-10-E	楕円形	225	115	50	直立	平埴	自然	SK207	本跡	SK236
302	B5c0	N-29-W	長方形	143	113	42	外傾	平埴	不明			SK327
343	B5c9	N-18-W	楕円長方形	206	106	46	外傾	平埴	不明			SK369
344	B5b9	N-23-W	長方形	183	074	67	直立	平埴	不明			SK370
360	B5f	-	円形	148		114	直立	平埴	不明	第7号地下式墳と置棺		SK388
376	C4f	N-35-W	台形	214	148	13	外傾	平埴	不明			SK405
406	C6h2	N-75-E	長方形	213	168	25-27	直立	平埴	人為			SK436
407	C5b0	N-16-W	楕円長方形	193	177	38	外傾	平埴	不明			SK438
411	C5j	N-16-W	楕円形	150	103	17	緩斜	平埴	不明			SK442
413	C6a3	N-17-W	楕円長方形	194	123	26	緩斜	平埴	人為			SK444
416	B5h0	N-67-E	楕円長方形	177	108	15-30	緩斜	平埴	人為	本跡	第1号竪穴状遺構	SK447
425	B6f4	-	不整形円形	145	138	12	緩斜	皿状	不明			SK457
428	C5d0	-	不整形円形	116	114	18	緩斜	皿状	不明			SK462
430	C6c2	-	楕円形	183	071	30	緩斜	平埴	不明			SK465
432	C6b3	-	円形	057		34	緩斜	平埴	不明			SK467
433	C6b2	N-26-W	楕円長方形	265	125	18-20	外傾	平埴	人為			SK468
438	C6c2	N-12-E	楕円長方形	252	136	23-32	外傾	平埴	人為			SK473
439	B5h8	N-65-E	楕円長方形	203	110	10-15	外傾	平埴	人為	第1号竪穴状遺構	本跡	SK474
440	C5c0	N-0	楕円形	132	120	48	外傾	平埴	人為			SK475
442	C6a3	N-24-W	楕円形	168	105	29	緩斜	平埴	自然			SK477
451	C6a5	N-77-E	楕円長方形	248	150	32-40	外傾	平埴	人為	SK43止置棺		SK489
452	C6b5	N-20-W	楕円形	160	147	22	緩斜	皿状	不明			SK490
453	C6b5	N-70-E	楕円長方形	243	134	35-40	直立	平埴	不明			SK491
454	C6d5	-	不整形円形	135		62	外傾	平埴	人為			SK492
455	C4g5	N-37-W	楕円形	107	067	37	外傾	平埴	不明			SK494
466	C6f6	N-15-W	楕円形	120	100	28	外傾	平埴	不明			SK505
468	C6h2	N-68-E	楕円形	120	100	8	外傾	平埴	不明			SK507
469	C6f6	-	楕円長方形	197	196	11	緩斜	平埴	自然			SK509
470	C6h2	-	円形	140	136	39	外傾	平埴	不明			SK511
471	C6h3	N-25-W	楕円形	149	128	53	直立	平埴	人為			SK512
472	C6f4	N-0	楕円形	152	132	22	緩斜	平埴	不明			SK513
473	C6f	N-0	不整形円形	142	103	34	緩斜	凹凸	不明			SK514
476	D6d0	N-22-W	楕円形	147	120	37	外傾	平埴	不明			SK517
477	C6j	N-0	楕円形	150	128	33	外傾	平埴	不明			SK518
478	C6h7	N-10-W	楕円形	153	094	10	緩斜	平埴	人為			SK519
479	C6j	N-33-W	楕円形	150	107	42	直立	平埴	不明			SK520
480	D6a8	-	円形	146	140	37	外傾	平埴	人為			SK521
481	C6j	N-16-W	楕円形	183	114	46	外傾	平埴	不明			SK522

土坑 编号	位置	長徑方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	層 階 附 添 旧 新	発掘番号
				長径 短径 m	深さ cm						
482	C6β	N-25-E	不整形円形	165	120	23	外傾	平坦	不明		SK523
483	D6α0	-	円形	132	130	47	外傾	平坦	不明		SK524
484	D6c9	-	円形	172	053	33	外傾	平坦	不明		SK526
485	D6c0	N-22-W	楕円形	163	037	38	外傾	平坦	人為		SK527
486	D6a8	N-18-W	楕円形	132	124	38	外傾	平坦	不明		SK528
487	D6c9	N-27-W	楕円形	167	073	56	罐斜	平坦	不明	SK490 本跡	SK529
488	D6b8	-	円形	133	132	32	外傾	平坦	不明		SK530
489	D6b9	-	円形	133	092	37	外傾	平坦	不明		SK531
490	D6b9	N-32-E	楕円形	113	116	53	罐斜	平坦	不明		SK532
491	D6a7	-	円形	133	132	44	直立	平坦	不明		SK533
492	C6γ	-	円形	132	130	31	外傾	平坦	不明		SK534
493	C6δ	-	円形	124	114	65	外傾	平坦	自然	弥生土器片, 須磨器片	SK535
494	C6β	-	円形	120	110	17	罐斜	平坦	不明		SK536
495	C6β	N-7-E	楕円形	135	057	47	罐斜	平坦	不明		SK537
496	C6δ	-	円形	135	128	44	直立	平坦	人為		SK538
497	C6δ	N-10-E	楕円形	148	112	52	外傾	平坦	不明		SK539
498	C6β	N-43-E	楕円形	160	138	43	外傾	平坦	人為		SK540
499	C6β	-	円形	141	130	48	外傾	平坦	不明		SK541
500	C6β	-	円形	132	50	罐斜	皿状	不明			SK542
501	C6δ	N-5-E	楕円形	167	148	47	外傾	平坦	人為		SK543
502	C6α4	-	円形	150	094	53	外傾	平坦	不明		SK544
503	C6β	N-9-W	楕円形	160	144	45	罐斜	平坦	不明		SK545
504	C6δ	N-34-W	楕円形	168	150	38	外傾	平坦	不明		SK546
505	C6δ	-	円形	132	32	外傾	平坦	不明			SK547
506	C6β	-	円形	141	140	48	直立	平坦	不明		SK548
507	D6b9	-	円形	143	142	41	外傾	平坦	不明		SK549
508	C6δ	N-55-W	楕円形	174	137	8	罐斜	平坦	不明		SK550
514	C6β	N-59-E	楕円形	210	181	37	外傾	平坦	不明		SK557
515	C6δ	N-20-W	楕円形	100	084			平坦	不明	第 鴨 堀・SK511 本跡	SK558
520	C5g9	N-66-E	楕円形	150	138	25	外傾	平坦	不明		SK565
521	C5d0	N-10-E	楕円形	134	100	22	罐斜	皿状	不明		SK566
522	C5a9	N-16-W	隅丸長方形	150	078	20	外傾	平坦	不明		SK567
524	C5d9	N-24-E	楕円形	240	176	38	外傾	平坦	不明		SK570
525	C5d8	N-24-E	隅丸長方形	227	211	34	外傾	皿状	人為		SK571
526	C5d9	N-0	楕円形	217	194	19	外傾	皿状	不明		SK572
527	C5d6	N-69-W	隅丸長方形	235	138	32-37	直立	平坦	不明		SK574
529	C5d6	-	円形	144	135	34	外傾	平坦	不明		SK577
531	C5e7	-	円形	148	147	41	罐斜	平坦	不明		SK580
535	C5c5	-	不整形円形	162	14	罐斜	平坦	不明			SK583
536	C5e5	N-13-W	楕円形	110	078	19	罐斜	皿状	不明		SK584
537	C5e5	-	円形	137	135	40-50	外傾	凹凸	自然		SK585
538	C5δ	N-18-W	隅丸長方形	265	175	10-30	外傾	凹凸	人為		SK586
539	C5g7	-	不整形円形	150	146	21	罐斜	平坦	不明		SK588
540	C5g6	N-35-W	楕円形	182	093	18	罐斜	皿状	不明		SK589
541	C5g6	N-17-W	楕円形	105	088	15	罐斜	平坦	不明		SK590
543	C5g6	N-18-W	楕円形	132	120	24	罐斜	皿状	不明		SK593

土坑 编号	位置	长径方向 长轴方向	平面形	规格		壁面	底面	覆土	主要出土器物	墓葬期别 旧 新	简报编号
				长径 短径 m	深± cm						
544	C5I2	N-30-E	不定形	117	067	37	外倾	皿状	不明		SK594
545	C5g4	N-18-W	椭圆形	082	168	50	外倾	皿状	不明		SK595
546	C5g4	-	圆形	164	150	17	倾斜	皿状	不明		SK596
548	C5e2	N-28-W	椭圆形方形	175	157	80	外倾	平埧	不明		SK598
549	C5g2	-	圆形	210	198	15	外倾	平埧	自然		SK599
551	C5g5	-	圆形	112	108	43	外倾	平埧	不明		SK604
555	C5B	N-41-W	椭圆形	105	085	14-20	直立	平埧	自然	石	SK608
556	D6c9	-	-	-	-	-	-	-	-		SK407定 墓槽
562	C5c1	-	圆形	145	130	18	外倾	平埧	不明		SK616
566	D4a9	-	圆形	171	161	54	外倾	平埧	不明		SK623
567	D4g8	-	圆形	146	135	50	外倾	平埧	不明		SK624
573	C4f8	N-28-W	椭圆形	088	075	38	外倾	皿状	不明		SK630
579	C6e1	N-18-W	椭圆形	192	133	30	直立	平埧	人为		SK636
580	C5c2	-	圆形	086	30	外倾	皿状	不明			SK637
581	D4a9	-	圆形	170	157	50	外倾	平埧	不明		SK639
583	B5f8	N-27-E	椭圆形	103	093	60	直立	平埧	人为		SK641
584	C4f7	N-4-W	椭圆形方形	180	100	15	倾斜	平埧	人为		SK642
586	C4I2	N-80-E	椭圆形	210	164	20	外倾	平埧	自然		SK644
587	C5b7	N-17-W	椭圆形方形	255	140	15-18	外倾	平埧	不明		SK645
588	C5c7	-	圆形	063	055	67	外倾	平埧	人为		SK646
589	C5c6	N-19-W	长方形	285	137	20	直立	平埧	不明		SK647
593	C5c8	N-10-E	椭圆形	216	192	35	外倾	平埧	不明		SK654
594	C5c8	N-24-W	椭圆形	105	092	65	直立	凸凹	自然		SK655
595	C5d7	N-44-E	椭圆形方形	177	177	32	外倾	平埧	人为		SK658
596	C5e7	N-16-W	椭圆形	190	168	22	外倾	平埧	人为		SK659
597	C5a7	-	圆形	087	083	16	倾斜	皿状	自然		SK660
598	C5b7	N-20-W	不定形	124	082	43	外倾	皿状	自然		第 7 号 墓槽
599	C5e6	-	圆形	140	128	44	直立	平埧	不明		SK662
603	C5f8	-	圆形	117	115	24	外倾	皿状	自然		SK667
604	C5f8	N-0	椭圆形	114	075	23	外倾	皿状	不明		本册 SK605
605	C5f8	-	圆形	134	124	57	倾斜	平埧	不明		SK604 本册
623	C5c8	N-0	椭圆形	154	123	19	外倾	平埧	不明		SK689
626	C4E	-	圆形	138	132	17	外倾	平埧	不明		SK692
627	C4B	N-37-E	椭圆形	156	130	23	倾斜	平埧	不明		SK694
628	C4B	N-33-E	不定形	267	174	15	外倾	平埧	自然		SK695
635	B5B	N-16-E	椭圆形	107	076	10	倾斜	平埧	不明		SK703
653	C5B	N-23-E	不规则方形	167	094	23	倾斜	平埧	不明		SK729
654	C5f8	N-10-E	椭圆形方形	247	083	8	倾斜	皿状	不明		SK730
655	C5I2	N-14-E	椭圆形	100	082	17	倾斜	皿状	不明		SK732
657	C4E	N-13-E	椭圆形	164	090	12	外倾	平埧	不明		SK736
660	C5f8	N-84-E	椭圆形方形	284	180	10-25	外倾	平埧	不明	直立土器片, 土制陶片, 漆器残片, 石	SK739
661	C5a2	N-58-E	椭圆形方形	188	085	20	外倾	平埧	不明	直立土器片, 石	SK656- 第 7 号 墓槽 本册
671	C4c9	-	不 明	150	066	55	直立	平埧	不明		SK753
677	C4e0	N-31-W	长方形	150	070	25	直立	平埧	不明		SK759
680	C4b0	N-92-E	椭圆形	176	155	28-30	外倾	平埧	不明		第 7 号 墓槽
681	C4b0	N-38-E	椭圆形	127	090	42	外倾	凸凹	不明		第 7 号 墓槽

土坑 番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	層 相 関 係 旧 新	発掘番号
				長径 短径 m	深さ cm						
683	H2c6	N-10-W	楕円形	177 148	23	罐胴	皿状	自然			SK3001
684	H2c7	N-43-W	不定形	195 145	26	罐胴	平壇	自然			SK3002
685	H2b6	N-6-E	楕円形	109 087	20	罐胴	平壇	不明			SK3004
686	H2b6	N-40-W	楕円形	170 135	16	罐胴	皿状	人為			SK3005
687	H2a4	N-33-W	楕円形	166 143	35	罐胴	皿状	不明			SK3006
688	H1f8	N-18-W	楕円形	173 130	33	罐胴	皿状	不明			SK3007
689	H1f8	N-20-W	楕円形	135 110	21	罐胴	平壇	不明			SK3008
690	G2f9	-	円形	215 157	22	罐胴	平壇	人為			SK3011
691	F3f2	N-23-W	楕円形	257 245	14	罐胴	平壇	自然			SK3012
692	F3f8	N-20-W	隅丸長方形	130 082	27	罐胴	平壇	自然			SK3013
693	F3h1	N-5-E	楕円形	198 140	33	直立	平壇	人為			SK3014
694	F2h0	N-18-W	楕円形	114 095	38	罐胴	平壇	人為			SK3015
695	F2g0	N-2-E	楕円形	148 125	60	外縁	平壇	自然			SK3016
697	F3j1	-	円形	183 175	56	罐胴	平壇	自然			SK3018
699	F2j1	N-40-W	楕円形	178 142	66	罐胴	皿状	自然			SK3020
700	F2j1	N-17-W	不定形	137 136	50	罐胴	皿状	自然			SK3021
701	F2j1	N-18-W	不定形	260 175	57	罐胴	平壇	不明			SK3022
703	G2a6	N-20-W	楕円形	182 114	17	罐胴	平壇	不明			SK3024
704	G2a8	N-58-W	不整形円形	267 162	20	罐胴	平壇	自然			SK3025
705	G2f7	N-23-W	不整形長方形	297 164	35	罐胴	皿状	人為			SK3026
707	G2a6	N-25-W	楕円形	168 150	24	罐胴	平壇	不明			SK3028
708	G2b5	N-20-W	不定形	310 248	118	外縁	平壇	自然			SK3029
709	G2a6	N-73-E	不整形長方形	400 115	56	罐胴	平壇	人為			SK3030
710	G2b3	N-2-W	楕円形	140 093	37	罐胴	平壇	不明			SK3031
711	G2b4	N-5-W	楕円形	203 145	30	罐胴	平壇	自然			SK3032
712	G2c4	-	円形	133 124	54	罐胴	平壇	自然			SK3033
713	G2c2	N-16-W	楕円形	193 155	32	罐胴	平壇	自然			SK3034
714	G2c3	N-41-E	不整形円形	219 137	36	罐胴	平壇	不明			SK3035
715	G2b3	N-18-W	楕円形	226 127	38	罐胴	平壇	自然			SK3036
716	G2f5	N-0	楕円形	119 104	46	外縁	平壇	自然			SK3037
717	G3c4	N-6-E	隅丸長方形	192 100	65	外縁	皿状	不明			SK3038
718	F3f8	-	円形	119 111	70	外縁	平壇	自然			SK3039
722	F3h3	N-51-W	楕円形	190 137	43	外縁	平壇	自然			SK3043
723	F2h4	-	円形	167 166	28	罐胴	平壇	自然			SK3044
725	F2f5	N-3-W	楕円形	083 074	112	外縁	平壇	人為			SK3046
727	F2g8	-	円形	146 137	33	罐胴	平壇	自然			SK3048
729	F2g6	N-20-W	楕円形	121 100	22	外縁	平壇	不明			SK3050
730	F2h9	N-30-W	楕円形	167 144	60	罐胴	平壇	人為			SK3051
733	F2g2	N-14-E	不定形	158 122	17	罐胴	平壇	自然			SK3054
735	F2f2	N-40-E	不整形円形	134 100	30	罐胴	平壇	自然			SK3056
736	F3h2	N-60-E	不定形	148 136	34	外縁	平壇	自然			SK3057
737	F3f2	-	円形	080 076	16	罐胴	平壇	不明			SK3058
740	F3g2	N-14-W	不定形	134 132	22	罐胴	平壇	不明			SK3061
741	G2g7	N-70-E	隅丸長方形	134 094	24	罐胴	平壇	自然			SK3063
742	G2b8	N-25-W	不整形長方形	148 138	30	罐胴	平壇	自然			SK3064
743	G2f8	N-65-E	隅丸長方形	122 118	24	罐胴	平壇	自然			SK3065

土坑 编号	位置	长径方向 短径方向	平面形	规格			壁面	底面	覆土	主要出土器物	墓 葬 形 式 旧 新	序号
				长径	短径 m	深± cm						
744	G217	N- 25 - W	橢 円 形	180	150	36	罐斜	皿状	自然			SK3066
745	G2a8	-	円 形	106	102	50	外傾	平壇	人為			SK3067
746	G2a6	N- 70 - W	不 定 形	196	140	48	外傾	皿状	不明			SK3069
747	G2a9	N- 11 - W	不整長方形	102	080	40	外傾	皿状	不明			SK3070
748	G2a0	N- 22 - W	橢 円 形	060	050	38	外傾	平壇	不明			SK3071
749	F213	-	円 形	054	052	42	罐斜	皿状	不明			SK3073
751	F205	N- 28 - W	円 形	084	080	138	外傾	平壇	人為			SK3077
752	F2a5	N- 28 - W	橢 円 形	118	094	110	外傾	平壇	人為			SK3078
754	F2c6	-	円 形	114	106	24	外傾	平壇	不明			SK3080
755	G2b7	N- 7 - W	不整橢円形	164	138	26	外傾	平壇	不明			SK3068
757	F2b0	N- 16 - W	橢 円 形	138	124	46	外傾	平壇	人為			SK3082
758	F2b0	N- 29 - W	不 定 形	230	158	34	罐斜	凹凸	人為			SK3083
760	G3E	N- 83 - W	橢 円 長 方 形	258	146	20	罐斜	平壇	人為			SK3085
762	H2b0	-	円 形	126	122	28	外傾	平壇	不明			SK3087
764	G3g2	N- 68 - E	長 方 形	170	096	18	外傾	平壇	不明			SK3089
766	F2F	N- 15 - W	橢 円 形	148	125	50	外傾	平壇	人為			SK3092
767	F2f7	N- 48 - E	橢 円 形	106	076	42	外傾	平壇	人為			SK3093
768	G3E	N- 11 - W	橢 円 形	166	146	118	外傾	平壇	人為			SK3094
769	H4c2	-	円 形	128	120	28	外傾	平壇	不明			SK4001
770	H3j1	-	円 形	146	142	44	外傾	平壇	不明			SK4002
771	G4j	N- 48 - W	橢 円 形	126	114	48	外傾	平壇	自然			SK4003
772	G3F	N- 25 - W	橢 円 形	142	102	35	外傾	平壇	不明			SK4004
773	G4f	N- 38 - W	不 定 形	475	375	50	罐斜	凹凸	不明			SK4005
774	G4g3	-	円 形	124	123	70	罐斜	皿状	自然			SK4008
775	G4g3	-	円 形	124	116	32	罐斜	平壇	不明			SK4009
776	G4f	-	円 形	114	110	28	外傾	平壇	不明			SK4010
777	G4f	N- 27 - W	橢 円 形	120	107	56	外傾	皿状	自然			SK4011
778	G4f5	-	円 形	103		52	外傾	皿状	不明			SK4012
779	G4f5	N- 32 - W	橢 円 形	111	098	48	罐斜	皿状	不明			SK4013
780	G4b6	N- 19 - W	長 方 形	207	076	40	外傾	平壇	人為			SK4014
781	G4e6	N- 22 - W	長 方 形	189	082	61	外傾	平壇	人為			SK4015
782	G4b5	N- 18 - W	橢 円 長 方 形	164	103	93	直立	平壇	人為			SK4016
783	G4c3	N- 16 - W	橢 円 長 方 形	194	100	90	直立	平壇	人為			SK4018
784	G3e8	N- 40 - W	橢 円 形	126	114	21	罐斜	皿状	自然			SK4019
785	G3e7	N- 38 - W	橢 円 形	153	138	24	罐斜	平壇	自然			SK4020
786	G3c7	N- 5 - W	橢 円 形	174	143	52	罐斜	平壇	自然			SK4021
787	G3b6	-	円 形	104	098	57	外傾	平壇	不明			SK4022
788	G3b6	N- 26 - E	橢 円 形	097	080	52	外傾	平壇	人為			SK4023
789	G3c5	N- - W	円 形	124	122	50	外傾	平壇	自然			SK4024
790	F3j5	N- 4 - W	橢 円 形	164	142	20	外傾	平壇	自然			SK4025
791	F3j7	N- 36 - E	橢 円 形	184	144	23	罐斜	皿状	不明			SK4026
792	F3f9	N- 0	長 方 形	164	103	34	外傾	平壇	不明			SK4027
793	F9h0	N- 7 - W	橢 円 長 方 形	133	086	50	外傾	平壇	不明			SK4028
794	G4h1	N- 79 - E	橢 円 形	20	164	20	罐斜	平壇	不明			SK4031
795	F3j5	N- 17 - W	橢 円 形	121	105	22	外傾	平壇	不明			SK4032
796	H4c2	-	円 形	133	123	33	外傾	平壇	人為			SK4034

土坑 番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	層 相 關 係 旧 新	発掘番号
				長径 短径 m	深さ cm						
797	H4a1	-	不整円形	1.25	1.21	25	罐胴	凹凸	不明		SK4035
798	G3D	N-15-W	楕円形	1.26	0.92	33	罐胴	皿状	不明		SK4036
799	G4a0	N-0	隅丸長方形	1.58	0.88	74	外楕	平壇	不明		SK4037
800	G4a0	N-8-W	長方形	2.08	0.88	55	外楕	平壇	不明		SK4038
801	G4c1	N-40-E	楕円形	1.10	0.98	9	罐胴	皿状	不明		SK4039
802	G4a0	N-13-W	長方形	1.66	0.86	26	外楕	平壇	不明		SK4040
803	F4h3	-	円形	1.47	1.38	14	外楕	平壇	不明		SK4043
804	F4E	-	不整円形	1.74	1.64	12	外楕	皿状	不明		SK4044
805	F4E	-	円形	1.48	1.47	14	罐胴	平壇	不明		SK4045
806	F4h5	N-35-W	不整楕円形	1.76	0.80	28	罐胴	皿状	自然		SK4046
807	F4h6	-	円形	0.84	0.80	17	罐胴	凹凸	自然		SK4047
808	F4E	N-8-W	隅丸長方形	1.36	0.86	46	罐胴	平壇	人為		SK4048
809	G4a6	N-4-W	楕円形	1.94	1.57	17	罐胴	平壇	自然		SK4049
810	F4E	N-8-W	隅丸長方形	1.10	0.46	28	罐胴	平壇	不明		SK4050
811	F4B	-	円形	1.93	1.87	31	罐胴	平壇	自然		SK4051
812	H4a1	N-44-W	不整楕円形	1.14	0.33	37	罐胴	平壇	人為		SK4052
813	H4b1	-	円形	1.24	1.02	55	外楕	皿状	人為		SK4053
814	H4a1	-	不整円形	1.36	1.29	20	外楕	平壇	不明		SK4054
815	H4b2	-	円形	1.35	1.25	28	外楕	平壇	不明		SK4055
816	H4b1	N-20-W	楕円形	1.41	0.82	20	外楕	平壇	不明		SK4056
818	F5D	N-10-W	楕円形	1.09	0.86	10	罐胴	皿状	不明		SK4060
819	F5E	N-4-W	楕円形	0.83	0.71	31	外楕	皿状	自然		SK4061
820	F3B	N-0	楕円形	1.57	1.02	17	罐胴	凹凸	人為		SK4062
821	H3a8	-	円形	1.28	1.20	37	罐胴	平壇	不明		SK4063
822	C4B	N-42-E	不整楕円形	2.62	1.29	37	罐胴	凹凸	不明		SK4064
828	F6a8	-	円形	0.97	0.93	40	外楕	平壇	不明		SK5006
830	F6a0	N-33-E	楕円形	1.45	1.30	30	外楕	平壇	不明		SK5008
831	F6a9	-	円形	1.28	1.26	52	外楕	平壇	不明		SK5009
832	F6a0	-	円形	1.25	1.20	62	外楕	凹凸	不明		SK5010
833	F7d1	N-49-W	楕円形	1.04	0.92	14	罐胴	平壇	不明		SK5011
838	G7a4	N-77-W	楕円形	1.07	0.85	52	外楕	皿状	不明		SK5016
839	G7a7	N-13-E	不定形	2.22	1.27	92	外楕	平壇	不明		SK5017
840	G7a4	N-63-W	不定形	1.15	0.95	65	外楕	凹凸	不明		SK5019
842	G7B	N-27-E	楕円形	1.00	0.90	24	外楕	平壇	不明		SK5022
843	G7g4	N-41-W	楕円形	1.30	1.15	45	外楕	平壇	不明		SK5023
844	G7g4	-	円形	1.48	1.37	20	罐胴	平壇	不明		SK5024
845	F7E	N-21-E	楕円形	1.10	0.90	50	外楕	平壇	不明		SK5025
846	F7a4	N-9-E	楕円形	1.85	1.20	45	罐胴	皿状	不明		SK5026
847	G7g4	N-30-W	楕円形	1.49	1.25	32	外楕	平壇	不明		SK5027
848	F6E	N-46-E	楕円形	0.90	0.70	42	外楕	平壇	不明		SK5032
849	F6g3	N-31-W	楕円形	1.35	1.20	34	罐胴	皿状	不明		SK5034
850	H7a4	N-4-E	不整楕円形	1.40	1.26	25	罐胴	皿状	不明		SK5035
855	H6e7	N-14-E	楕円形	1.70	1.37	50	外楕	平壇	不明		SK5041
856	H6e6	-	円形	1.68	1.67	47	外楕	凹凸	不明		SK5042
859	G7c3	N-54-E	楕円形	1.20	1.09	14	罐胴	平壇	不明		SK5047
860	G6c9	N-67-W	楕円形	2.20	1.60	23	罐胴	平壇	不明		SK5049



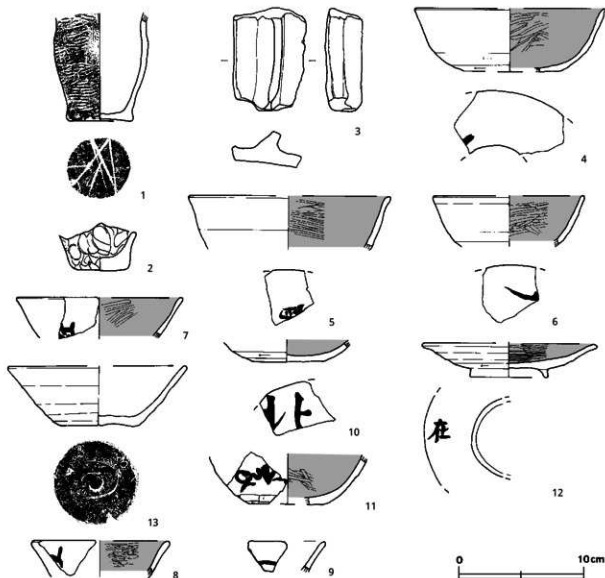
土坑 番号	位置	長短方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	層 相 関 係 旧 新	発掘番号
				長径 短径 m	深さ cm						
861	F6h3	N-0	橢円形	1.35	1.11	64	罐胴	平坦	不明		SK5050
862	G6h0	N-45-W	橢円形	0.80	0.66	20	罐胴	平坦	人為	ST19c遺構	SK5053
863	F7j1	-	円形	0.80	0.79	22	外縁	皿状	不明		SK5054
864	F7j5	-	円形	0.60	0.58	41	外縁	平坦	不明		SK5055
865	G7h5	N-29-W	橢円形	0.83	0.64	25	外縁	平坦	不明		SK5056
866	G6c0	-	円形	1.23	1.20	26	外縁	平坦	不明		SK5057
867	G6g9	N-90-W	橢円形	1.15	0.84	35	罐胴	凹凸	不明		SK5058
868	G6g0	N-70-W	橢円形	2.03	1.16	20	外縁	平坦	不明		SK5059
869	H6a7	N-56-E	不整形円形	2.00	1.75	25	外縁	平坦	不明		SK5060
870	H6e5	-	円形	1.25	0.93	93	外縁	凹凸	不明		SK5061
871	G6g8	N-53-E	不整形円形	1.60	1.45	25	外縁	平坦	不明		SK5062
872	G6f7	N-0	橢円形	1.40	1.20	33	罐胴	皿状	不明		SK5064
873	G6g8	N-70-E	橢円形	1.50	1.15	24	外縁	平坦	不明		SK5067
874	G6g7	N-38-E	橢円形	1.06	0.89	43	罐胴	平坦	不明		SK5098
875	G6b9	N-80-W	橢円形	1.67	1.04	10	罐胴	平坦	不明		SK5069
880	G6g7	-	円形	1.15	1.10	60	外縁	平坦	不明		SK5075
882	G6e1	-	円形	1.78	1.77	52	外縁	平坦	不明		SK5077
885	F6h4	N-64-W	橢円形	1.84	1.40	100	罐胴	皿状	不明		SK5081
887	F7b1	N-56-E	橢円形	0.88	0.69	36	罐胴	皿状	不明		SK5084
889	G6c4	-	円形	1.55	1.45	60	外縁	平坦	不明		SK5086
890	G6d6	-	円形	2.80	2.68	19	外縁	平坦	不明		SK5087
892	G6f1	N-40-E	橢円形	1.52	1.32	36	外縁	平坦	不明		SK5089
894	G6g1	-	円形	1.12	0.76	16	罐胴	皿状	不明		SK5092
895	G6d5	N-81-E	橢円形	1.10	0.92	36	外縁	平坦	不明		SK5093
896	G6d5	N-46-W	橢円形	1.10	0.94	43	外縁	平坦	不明		SK5094
897	G6d5	N-42-W	不整形円形	1.56	1.10	41	罐胴	皿状	不明		SK5095
899	H6c7	N-28-W	不整形円形	1.29	1.10	57	外縁	平坦	不明		SK5097
900	H6b7	N-3-W	橢円形	1.29	0.98	28	罐胴	平坦	不明		SK5098
901	H6c7	N-34-W	橢円形	0.97	0.84	32	罐胴	平坦	不明		SK5099
902	H5d8	N-18-W	橢円形	1.95	1.70	50	外縁	平坦	不明		SK5100
905	G9h4	N-8-W	橢円形	1.26	1.11	13	罐胴	平坦	不明		SK5108
906	G3b6	-	円形	1.27	1.22	40	罐胴	皿状	不明		SK5109
907	G6d4	-	円形	1.25	1.14	25	外縁	平坦	不明		SK5111
908	G6c4	N-90-W	橢円形	1.87	1.10	29	外縁	平坦	不明		SK5112
909	G6E5	N-57-E	不定形	1.69	1.64	65	罐胴	皿状	不明		SK5113
910	G5g6	-	円形	1.41	1.33	40	外縁	平坦	不明		SK5114
912	G3h5	-	円形	1.36	1.10	19	罐胴	平坦	不明		SK5116
914	G6c2	-	円形	1.24	1.18	47	外縁	平坦	不明		SK5118
915	G6e4	-	円形	1.11	1.10	18	外縁	平坦	不明		SK5119
916	G6e3	N-40-E	橢円形	1.31	1.16	22	外縁	凹凸	不明		SK5120
917	G6d3	-	円形	1.22	1.21	36	外縁	平坦	不明		SK5121
918	G6d3	N-50-E	橢円形	1.10	1.05	14	罐胴	平坦	不明		SK5122
919	G5c7	N-0	不定形	1.36	0.80	20	罐胴	平坦	不明		SK5123
921	H7a4	-	円形	1.04	1.00	57	外縁	平坦	不明		SK5125
922	H7a4	N-25-W	橢円形	1.60	1.25	73	外縁	凹凸	不明		SK5126
923	H6b7	N-61-W	橢円形	1.00	0.75	20	罐胴	皿状	不明		SK5127

土坑 番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	層 相 関 係 旧 新	発掘番号
				長径 m	短径 m						
924	H6b7	N-63-E	楕円形	060	050	11	緩斜	早埴	不明		SK5128
925	H6b7	N-84-E	楕円形	115	061	29	外傾	早埴	不明		SK5129
926	G6d2	-	円形	223	220	68	外傾	早埴	不明		SK5130
927	G5e5	-	円形	120	115	60	外傾	早埴	不明		SK5131
928	G5d5	-	円形	192	176	98	緩斜	血状	不明		SK5139
930	G5g3	N-20-W	楕円形	110	095	45	外傾	早埴	不明		SK5145
931	G5g3	-	円形	080	076	15	緩斜	血状	不明		SK5146
932	G6h4	-	円形	155	141	47	外傾	早埴	不明		SK5152
933	G6e1	-	円形	170	157	50	外傾	早埴	不明		SK5160
934	G6e1	-	円形	131	129	24	外傾	早埴	不明		SK5161
935	H6a1	N-26-W	楕円形	122	110	31	外傾	早埴	不明		SK5162
936	H6a2	-	円形	131	110	33	緩斜	早埴	不明		SK5163
937	G3h9	-	円形	201	195	43	外傾	早埴	不明		SK5165
939	G6B	N-37-W	楕円形	170	154	3	外傾	早埴	不明		SK5180
942	G5g6	-	円形	142	130	64	外傾	血状	不明		SK5188
944	G5E	N-65-E	楕円形	118	106	40	緩斜	早埴	不明		SK5221
946	G6h2	-	円形	141	141	25	緩斜	早埴	不明		SK5316
947	G6g2	-	円形	156	150	50	外傾	早埴	不明	SI134七層埋	SK5331
948	G5c7	N-26-E	楕円形	052	043	76	外傾	早埴	不明		SK5332
949	G3f2	N-20-W	楕円長方形	204	112	27	外傾	早埴	不明	SI82七層埋	SK3074
950	G3f2	N-20-W	楕円長方形	216	102	44	外傾	早埴	不明		SK3075
951	G3g3	N-71-W	楕円形	098	078	22	外傾	早埴	不明	SI58七層埋	SK3090
952	F2e5	N-16-E	楕円形	126	086	12	緩斜	早埴	不明	本跡 SI77	
1014	C2f	N-42-W	長方形	177	070	49	直立	早埴	不明		SK2087
1194	D2a6	N-27-W	楕円長方形	164	080	20	緩斜	早埴	不明	SD 23七層埋	SK2265
1203	D2a7	N-14-E	不定形	177	122	50	緩斜	早埴	不明		SK2274
2023	D3g5	N-31-E	楕円形	115	078	18	外傾	早埴	不明		SK2023
1630	D3j	N-19-W	長方形	185	104	72	直立	凸凹	不明		SK2926
1631	E3a3	N-22-W	長方形	185	104	70	直立	凸凹	不明		SK2927
1722	E3a9	N-50-E	楕円形	224	064	15	外傾	早埴	不明		SK20020
1726	F3a5	N-68-E	楕円長方形	232	186	28	外傾	早埴	不明		SK20024
1731	E4B	N-37-E	楕円長方形	310	270	36	外傾	早埴	自然		SK20029
1784	E3a5	N-40-W	長方形	213	101	11	外傾	早埴	不明		SK20085
P326	B4e5	N-21-E	楕円形	064	050	100	直立	早埴	不明	SK 220 本跡	SK301
P327	C4b6	N-23-W	楕円形	078	055	56	直立	早埴	不明		SK394
P328	B4B	N-21-E	楕円形	102	052	135	直立	凸凹	不明		SK408
P329	B5j	N-67-E	楕円形	042	033	50	直立	早埴	不明		SK452
P330	C6d2	N-18-W	楕円形	090	068	-	直立	早埴	不明		SK464
P331	C5h1	N-43-E	楕円形	053	043	52	直立	早埴	人為		SK617
P332	C4c8	-	不整形円形	113	070	-	直立	跡	不明	縄文土器片	SK649
P333	C4c9	N-57-E	楕円形	077	067	94	直立	早埴	人為	縄文土器片	SK675
P334	C4B	N-38-W	楕円形	057	048	94	直立	早埴	不明		SK721
P335	C4B	-	円形	037	-	110	直立	早埴	不明		SK723
P336	C4c8	-	円形	05	-	125	直立	早埴	不明		SK727
P337	C4f7	-	楕円形	048	040	122	直立	早埴	不明		SK754
P338	C5b1	N-75-E	楕円形	058	033	53	直立	早埴	自然	第 7 層七層埋	SK760

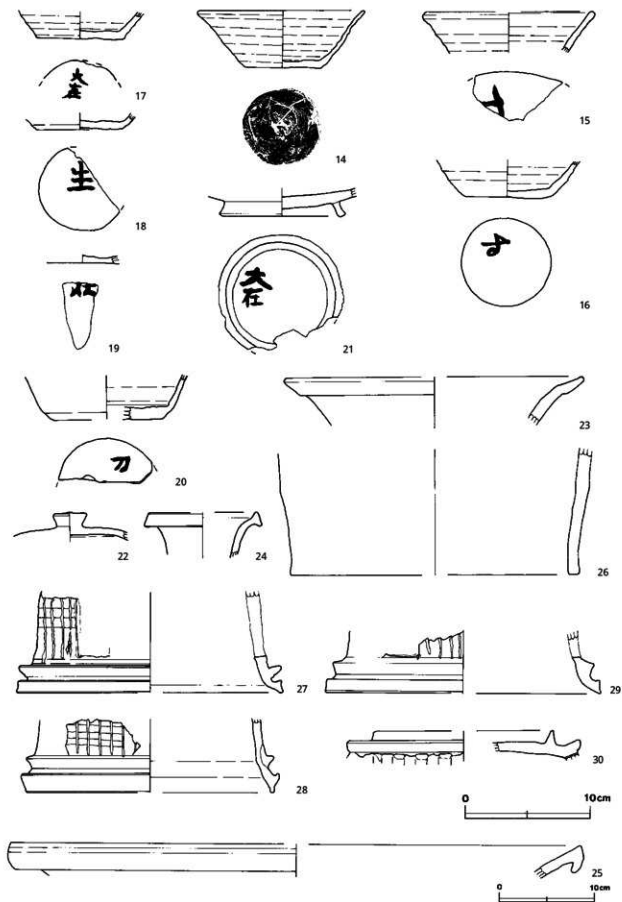
土坑 番号	位置	長径方向 長軸方向	平面形	規 模			壁面	底面	覆土	主な出土遺物	層 積 関 係 旧 新	発掘番号
				長径	短径 m	深さ cm						
P339	C460	N-40-E	楕円形	0.42	0.38	23	外傾	平坦	不明		SK682 第 7 層	SK766
P340	B46	-	円形	0.36	0.33	60	直立	平坦	不明		SI2c 層	
P341	B48	-	円形	0.37	0.27	105	直立	平坦	不明		SI18- 第 4 号竪穴状遺構と層	
P342	B48	-	円形	0.22	0.18	不明	直立	平坦	不明		SI18- 第 4 号竪穴状遺構と層	
P343	B48	-	円形	0.43	0.40	82	直立	平坦	不明		SI18- 第 4 号竪穴状遺構と層	
P344	C466	N-20-W	不整形円形	0.35	0.30	100	直立	平坦	不明		SI2- 23と層	
P345	C467	-	円形	0.38	0.35	不明	直立	平坦	不明		SI2- 23と層	
P346	C467	-	円形	0.28	0.26	30	直立	平坦	不明		SI2c 層	
P347	B52	-	円形	0.35	0.34	177	直立	平坦	不明		SI2c 層	
P348	B52	-	円形	0.35		145	直立	平坦	不明		SI2c 層	
P349	B53	-	円形	0.37	0.34	174	直立	平坦	不明		SI2c 層	

## 第 8 節 遺構外出土遺物

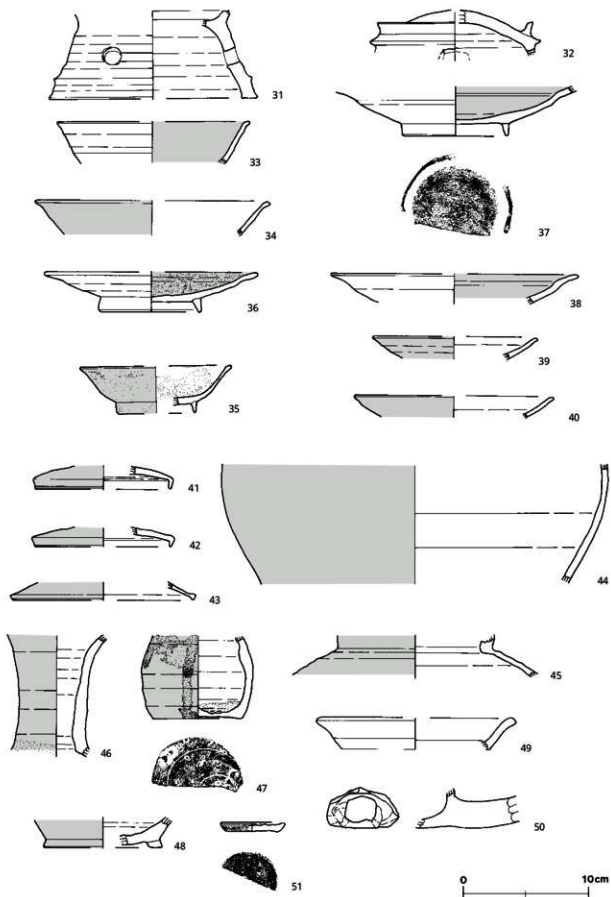
今回の調査では、遺構に伴わない遺物が多数出土している。ここではそれらの遺物のうち、弥生時代から中・近世の遺物で特徴のあるものについて図示・解説する（第587～590図）。



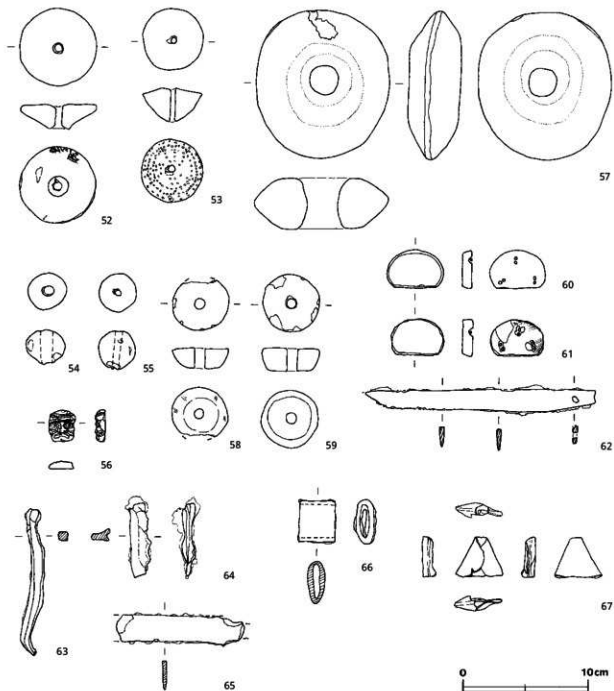
第 587 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 588 图 遺構外出土遺物実測図(2)



第 589 図 遺構外出土遺物実測図 ( 3 )



第 590 図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値 cm	器形及び文様の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 58 図 1	小形広口壺 弥生土器	B 85 C 52	胴部から底部にかけての破片。平底。胴部は内帯気味に外傾して立ち上がる。胴部には、附加糸二種 附加 1 条の縄文が施され、羽状構成をとる。底部は木炭痕。	長石・石英にぶい黄褐色 普通	P 2679 70%
第 58 図 2	手捏土器 土師器	A 60 B 38 C 44	口縁部及び体部一部欠損。肉厚の平底。体部は直線的に外傾して立ち上がる。	胎土・色調・焼成 長石・石英にぶい褐色 普通	P 2680 70%

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 3	重カマド 土師器	B 81	笑口部片。笑口部は直立する。底が付く。	笑口部内面ナデ。外面へら削り後、ナデ。	長石・石英・針状鉱物 褐色，普通	P 2689 5 %
4	環 土師器	A 157 B 50 C 70	底部から口縁部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へら磨き，外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へら削り。内面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P 2683 25% PL74 体部外面磨書 「J」
5	環 土師器	A 158 B 42	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり，口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内面へら磨き，外面口ロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい赤褐色 普通	P 2684 10% PL74 体部外面磨書 「前」力
6	環 土師器	A 119 B 40	体部から口縁部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へら磨き，外面口ロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 2726 5 % 体部外面磨書 「J」
7	環 土師器	A 132 B 31	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら，外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へら磨き，外面口ロナデ。内面黒色処理。	石英 にぶい褐色 普通	P 2687 5 % PL72 体部外面磨書 「在」力
8	環 土師器	A 107 B 29	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内面へら磨き，外面口ロナデ。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 2682 5 % PL72 体部外面磨書 「J」
9	環 土師器	B 24	口縁部片。口縁部は外傾する。	口縁部内面へら磨き，外面口ロナデ。内面黒色処理。	長石 にぶい黄褐色 普通	P 2681 5 % 体部外面磨書 「J」
10	環 土師器	B 18 C 54	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へら磨き，外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へら削り。内面黒色処理。	長石・石英 褐色 普通	P 2685 5 % PL74 底部磨書 「北」
11	環 土師器	B 40 C 58	底部から体部片。平底。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。	体部内面へら磨き，外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へら削り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい褐色 普通	P 2688 10% PL73 体部外面磨書 「家」
12	高台付皿 土師器	A 136 B 27 D 62 E 07	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状に開く。体部は内彎しながら外傾して開き，口縁部に至る，口縁部はわずかに外反する。	体部内面へら磨き，外面口ロナデ。体部下端及び底部回転へら削り。内面黒色処理。	長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P 2686 60% PL72 体部外面磨書 「在」
13	環 須恵器	A 140 B 48 C 63	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後，ナデ。	長石・石英 灰オリーブ色 普通	P 2691 70% 底部へら記号
第58図 14	環 須恵器	A 131 B 46 C 58	体部及び口縁部一部欠損。平底。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後，ナデ。	長石・石英 灰白色 普通	P 2690 70% 底部へら記号
15	環 須恵器	A 132 B 32	体部から口縁部片。体部は外傾して立ち上がり，口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。	長石 浅黄色 普通	P 2694 5 % PL72 体部外面磨書 「J」
16	環 須恵器	B 30 C 70	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り。	長石・針状鉱物 灰白色 普通	P 2621 65% PL74 底部磨書 「寸」村力
17	環 須恵器	B 21 C 68	底部から体部片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。底部回転へら切り後，ナデ。	長石・石英・針状鉱物 灰オリーブ色 普通	P 2728 10% PL70 底部磨書 「大在」
18	環 須恵器	B 13 C 68	底部片。平底。	底部回転へら切り。	長石・石英 灰白色 普通	P 2692 10% PL74 底部磨書 「生」
19	環 須恵器	B 06	底部片。平底。	底部外面調整不明。	長石・石英 灰色 普通	P 2727 5 % 底部磨書 「在」力
20	環 須恵器	B 35 C 84	底部から体部にかけての破片。平底。体部は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口ロナデ。体部下端ナデ。底部回転へら切り後，手持ちへら削り。	礫・長石 灰色 普通	P 7179 25% 底部磨書 「万」
21	高台付環 須恵器	B 22 D 94 E 12	底部片。やや丸味のある平底。高台は八の字状に開く。	底部回転へら切り後，高台貼り付け。	長石・石英 稀灰色 普通	P 2695 20% 底部磨書 「大在」

図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第58図 22	甕 須恵器	B 23 F 28 G 11	天井部片。鑿宝珠状のつまみが付く。	天井部内面口ロナデ、外面回転ヘラ削り。	長石 褐灰色 普通	P 2697 30%
23	甕 須恵器	A 236 B 38	口縁部片。口縁部は外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2698 5%
24	長頸瓶 須恵器	A 86 B 36	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英 灰色 普通	P 2701 5%
25	甕 須恵器	A 592 B 34	口縁部片。口縁部は外反し、端部が突出する。	口縁部内・外面口ロナデ。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2699 5%
26	甕 須恵器	B 100 C 230	底部から体部下端にかけての破片。体部はわずかに外傾して立ち上がる。	体部外面口ロナデ、内面ヘラナデ。	長石・針状鉱物 灰黄色 普通	P 2700 10%
27	円面碗 須恵器	B 80 D 209	脚部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に隆帯が走る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石・石英 褐灰色 普通	P 2706 5%
28	円面碗 須恵器	B 58 D 196	脚台部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が走る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 褐灰色 普通	P 2707 5%
29	円面碗 須恵器	B 49 D 216	脚台部片。脚台部は透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が走る。	脚台部内面ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石 灰色 普通	P 2703 5%
30	円面碗 須恵器	A 181 B 23	破片。外縁の内側にU字状の溝が走る。破片と脚台部との境に透かし窓の痕跡を残す。	外縁及びU字状海部ナデ。	長石 外面灰黄色 内面淡黄色 普通	P 2702 10% 破片内面自然釉
第58図 31	円面碗 須恵器	B 70 D 165	脚台部片。脚台部は円形の透かし窓を有し、下位に断面三角形の隆帯が走る。	脚台部内面ナデ。	長石 灰色 普通	P 2704 5%
32	円面碗 須恵器	A 122 B 36	破片。破片と脚台部との境に透かし窓の痕跡を残す。	破片内面及び外縁ナデ。透かし窓ヘラ切り。	長石・石英 灰色 普通	P 2705 5%
33	椀 灰輪陶器	A 152 B 33	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。口縁部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2716 5% 黒笹 9時窯式期
34	椀 灰輪陶器	A 184 B 27	体部から口縁部片。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。口縁部内・外面施釉。	長石、内面灰黄色、 外面灰白色 良好	P 2717 5% 黒笹 9時窯式期
35	椀 灰輪陶器	A 119 B 37 D 61 E 09	高台部から口縁部にかけての破片。断面三日月状の高台が付く。体部はわずかに内彎しながら外傾して立ち上がる。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。高台内・外面口ロナデ。施釉。	長石 灰白色 良好	P 7185 49% PL68 見込み重ね焼き 黒笹 9時窯式段階
36	段 灰輪陶器	A 168 B 32 D 80 E 12	底部から口縁部片。平底。高台は八の字状開く。体部は直線的に開き、体部と口縁部の境に段をなす。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2710 50% PL68 黒笹 14時窯式期
37	段 灰輪陶器	B 38 D 82 E 10	底部から口縁部片。平底。高台は腰下する。体部は直線的に開き、体部と口縁部の境に段をなす。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。底部回転ヘラ削り後、高台貼り付け。周縁ナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石、内面オリブ 黄色、外面灰白色、 良好	P 2711 30% 黒笹 14時窯式期
38	段 灰輪陶器	A 194 B 18	体部から口縁部片。体部は直線的に開き、口縁部の境に段をなす。口縁部はわずかに外反する。	口縁部及び体部内・外面口ロナデ。口縁部及び体部内面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2712 5% 黒笹 14時窯式期
39	皿 灰輪陶器	A 130 B 18	口縁部片。口縁部はわずかに内彎しながら開く。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。口縁部内・外面施釉。	緑長石 灰白色 良好	P 2709 10% 黒笹 14時窯式期
40	皿 灰輪陶器	A 155 B 17	口縁部片。口縁部はわずかに内彎しながら開く。口縁端部はわずかに外反する。	口縁部内・外面口ロナデ。口縁部内・外面施釉。	長石 灰オリブ色 良好	P 2708 5% 黒笹 14時窯式期



図版番号	器種	計測値 cm	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第 58 図 41	蓋 灰輪陶器	A 106 B 18	天井部から口縁部片。天井部はなだらかな丸味を持って口縁部に至る。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部ナデ。口縁部及び天井部外面施釉。	長石、内面灰オリーブ色、外面灰黄色、良好	P 2713 25% 黒笹 14-90 時窯式期
42	蓋 灰輪陶器	A 107 B 16	天井部から口縁部片。天井部はなだらかな口縁部に至る。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部及び天井部ナデ。口縁部及び天井部施釉。	長石、内面灰オリーブ色、外面灰黄色、良好	P 2715 10% 黒笹 14-90 時窯式期
43	蓋 灰輪陶器	A 144 B 14	口縁部ナデ。口縁部は屈曲し、短く垂下する。	口縁部ナデ。口縁部外面施釉。	長石、内面灰オリーブ色、外面にふい黄色、良好	P 2714 10% 黒笹 14 時窯式期
44	壺 力 灰輪陶器	B 93	体部片。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口コロナデ。体部外面施釉。	長石、内面灰白色、外面灰黄色、良好	P 2721 10% 黒笹 14-90 時窯式期
45	短頸壺 灰輪陶器	B 34	体部上位から口縁部片。体部上位は内彎して立ち上がり、口縁部は直立する。	口縁部及び体部内・外面口コロナデ。口縁部内・外面及び体部外面施釉。	長石、内面にふい黄色、外面灰オリーブ色、良好	P 2723 5% 井ヶ谷 7 時窯式期
46	長頸瓶 灰輪陶器	B 96	頸部片。頸部は反反して立ち上がる。	頸部内・外面口コロナデ。頸部下縁外面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2722 15% 黒笹 9 時窯式期
47	小瓶 灰輪陶器	B 65 C 71	底部から口縁部片。平底。体部は内彎して立ち上がる。	体部内・外面口コロナデ。底部糸切り。体部外面施釉。	長石、内面灰黄色、外面オリーブ色、良好	P 2718 5% PL 6 8 黒笹 14-90 時窯式期
48	長頸瓶 力 灰輪陶器	B 24 C 94	底部から体部下端の破片。平底。高台はハの字状に開く。体部下端は外傾して立ち上がる。	体部内・外面口コロナデ。底部調整不明。高台貼り付け後、ナデ。体部外面施釉。	長石 灰白色 良好	P 2720 10% 黒笹 9 時窯式期
49	血力 陶器	A 150 B 25	口縁部片。口縁部下端で屈曲し、外傾する。口縁部は反反する。	口縁部内・外面口コロナデ。	長石、内面灰黄色、外面オリーブ色、良好	P 2724 5%
50	培 力 土師質土器	B 28	体部から把手部片。体部は内彎しながら外傾して立ち上がる。断面楕円形で中実の把手を持つ。	体部及び把手部ナデ。	長石・石英・雲母 褐色 普通	P 2725 10%
51	小血 土師質土器	A 50 B 07 C 40	底部から口縁部にかけての破片。平底。体部は短く外傾して立ち上がり口縁部に至る。	口縁部及び体部内・外面口コロナデ。底部糸切り離し。	白色粒子 褐色 普通	P 7186 50%

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		径 cm	厚さ cm	孔径 cm	重量 g			
第 59 図 52	紡錘車	61	20	06	552	土製	断面三角形。	DP2501 PL76
53	紡錘車	50	27	04-06	471	土製	断面三角形。	DP2502 PL76
54	土玉	31	27	10	215	土製	断面形は球状。	DP2503
55	土玉	30	30	04-06	224	土製	断面形は球状。	DP2504

図版番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 59 図 56	泥面子	26	21	07	35	土製	扁平。人面描出。	DP2505

図版番号	器種	計測値				石質	特徴	備考
		長さ cm	幅・径 cm	厚さ cm	重量 g			
第 59 図 57	環状石片	118	105	42	6135	砂岩	楕円形 中央部に断面 X 字状になる厚孔有り。	Q2501 PL78
58	紡錘車	-	44	16	455	泥岩	一部欠損 中央部に 0.8cm の孔が空く。	Q2502
59	紡錘車	-	45	18	641	黒色。中央部に 0.8cm の孔が空く。	Q2503 PL77	
60	磨帯具	30	45	07	190	花崗岩質岩石 丸形。オリーブ灰色に白色が混じる。3ヶ所に磨り穴。	Q2504 PL77	
61	磨帯具	29	42	07	197	粘板岩 丸形。黒色。3ヶ所に磨り穴。	Q2505 PL77	

図録番号	器種	計測値				材質	特徴	備考
		長さ cm	幅 cm	厚さ cm	重量 g			
第 59 図 62	小 刀	181	18	03	403	鉄	茎一部欠損。径 0.4cm の目釘穴 1ヶ所。	M 2504 PL80
63	釘	116	13	08	263	鉄	頭部欠損。断面が方形。	M 7015
64	鏃	63	17	05~10	156	鉄	断面が Y 字状。	M 7016
65	小 刀	102	22	03	365	鉄	刀身の剥片。平直。	M 7017
66	鏃	44	06	06	205	鉄	完形。断面が長楕円形。	M 7018
67	不 明	32	37	12	82	銅	平面が三角形。	M 7019 PL80

## 第 9 節 ま と め

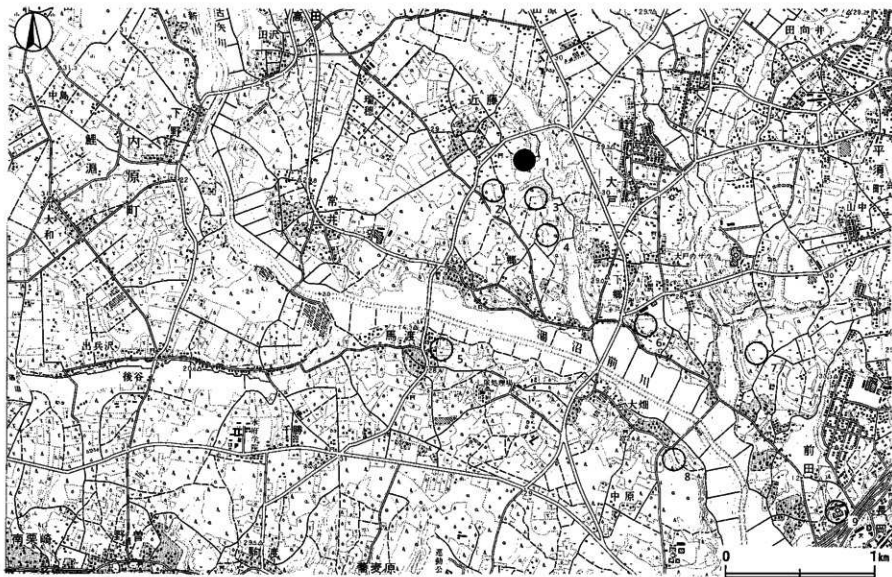
宮後遺跡は、縄文時代から中・近世にわたる複合遺跡であることが明らかになり、特に縄文時代中期中葉から後葉、弥生時代後期後半から古墳時代前期、さらに奈良時代から平安時代にかけて大きな集落が形成されたことが確認された。本書が取り扱った時代は、このうち弥生時代から中・近世までである。ここでは、弥生時代から古墳時代、奈良・平安時代及び中・近世の調査成果を概観し、まとめとする。

### 1 弥生時代～古墳時代

当遺跡からは、弥生土器だけが出土した住居跡 1 軒、弥生土器と古墳時代前期の土師器と一緒に出土した住居跡が 4 軒、古墳時代前期の土師器が出土した住居跡 8 軒、古墳時代後期の土師器が出土した住居跡 2 軒が検出されたが、検出数が少ないので、当遺跡が位置する潤沼前川沿いの遺跡から考えてみたい。潤沼前川沿いには、大畑遺跡、矢倉遺跡、桜の郷遺跡群（石原遺跡・綱山遺跡・大塚遺跡）等の弥生時代後期後半の遺跡が多く分布し、県北部から中央部にかけてを中心に分布する十王台式土器が出土している。各遺跡を概観してみると、大畑遺跡や矢倉遺跡では弥生土器（十王台式）と土師器との共存事例はなかったが、上流に位置する石原遺跡や当遺跡ではその事例が見られた。海老澤稔氏の十王台式編年をもとに弥生時代後期後半と弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭とに分け、その出土土器の特徴及び文様に焦点を当てて述べることとする。

#### (1) 弥生時代後期後半

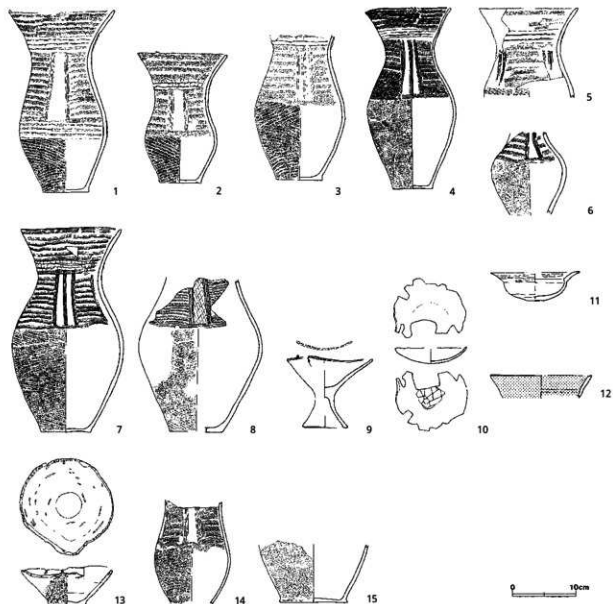
当該期の遺構は、第 126 号住居跡の 1 軒である。小支谷を挟んで綱山遺跡（石原遺跡と隣接）と対する標高 28～29m の 5 区の平坦部に構築されている。石原遺跡では、10 数軒（第 2・4・12 号住居跡等）が検出され、中央に広場をもつ 4・5 軒の小グループに分けられるようであると記述されていることから、奈良・平安時代に住居や掘立柱建物等の建設で掘り込まなければ、当遺跡の小支谷を見下ろす台地の平坦部にも小さなまとまりをもった住居群の存在が確認されたのではないかと考えられる。土器の編年から当遺跡より先行すると思われる大畑遺跡や矢倉遺跡は潤沼前川に面した台地の縁辺部に立地しているが、石原遺跡や本跡は潤沼前川に流れ込む支流（小橋川）沿いに立地している。このことは人口の増加などにより土地を求めて川沿いに遡ったことによるもの（第 591 図「宮後遺跡及び周辺遺跡」参照）と考えられる。遺物は広口壺・片口鉢・埴石・環状石芥などが出土している。片口鉢（第 592 図 13）は、色調が橙色を帯び、胎土に針状鉱物を含んでいることなど広口壺片との違いが見られる。また、口唇部付近に孔が 2 つ空けられており、木製か革製の蓋を留める穴と思われる。石原遺跡でも 2 個体出土しているが、全体的に出土数が少ないことから貴重なものを入れていたことも考えられる。また、この期の広口壺（第 592 図 14・15）は、2 点しか出土していないが、14 の広口壺の頸部文様は、挿描文が密に胴部の最大径の近くまで施文されていることから矢倉遺跡の第 14・23 号住居跡（第



第 591 図 宮後遺跡及び周辺遺跡 1 宮後遺跡 2 大塚遺跡 3 畑山遺跡 4 石原遺跡 5 東畑遺跡  
6 大戸下郷遺跡 7 矢倉遺跡 8 大畑遺跡 9 長岡遺跡

592図1～3), 石原遺跡の第5号住居跡(第592図4～6)出土の土器と同時期のものと思われる。住居の規模と平面形は、矢倉遺跡の第14号住居跡が長軸6.1m, 短軸5.4mの隅丸方形, 第23号住居跡が長軸3.8m, 短軸3.5mの隅丸方形, 石原遺跡の第5号住居跡が長軸5.58m, 短軸4.55mの隅丸長方形で、当遺跡の第125号住居跡は長軸3.74m, 短軸3.70mの隅丸方形である。このようにこの時期は、隅丸方形と隅丸長方形が併存することが窺われる。

特筆する遺物として環状石斧があげられる。5区の遺構外から出土したものはあるが、完形品は本県で初出である。



第 592図 矢倉遺跡・石原遺跡・宮後遺跡出土弥生土器・土師器

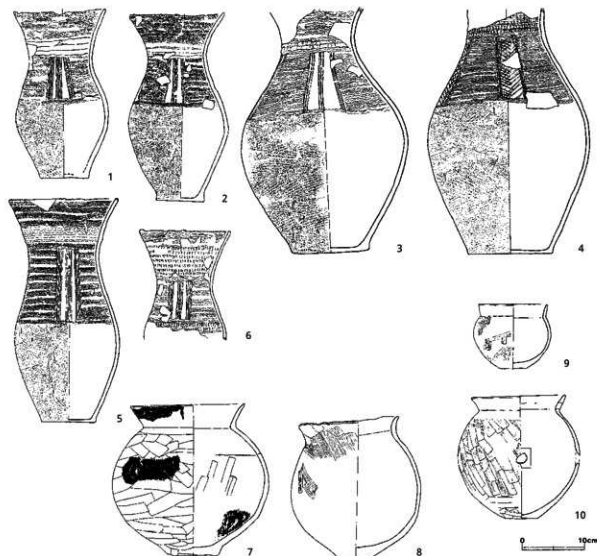
1: 矢倉遺跡第 14号住 7～12: 石原遺跡第 23号住

2・3: 矢倉遺跡第 23号住 13～15: 宮後遺跡第 125住

4～6: 石原遺跡第 5号住

(2) 弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭

次に、弥生土器と古墳時代前期の土師器と一緒に出土した住居は、第101・103・110・121号住居跡の4軒である。弥生時代後期後半の住居跡と同様に、当遺跡の南部（5区）の平坦部の中央に位置し、南北に弧状に並んでいた。平面形は、不明1軒を除き、隅丸長方形である。石原遺跡でも共伴事例が第23号住居跡（第592図7～12）などに見られる。第592図7の広口壺は口縁部の幅が広く、頸部境の隆帯がほとんど隆起していない。また、頸部の櫛歯文が胴部の最大径近くまで施文されている。当遺跡の広口壺（第593図1・2・5・6）も石原遺跡と同様な文様構成をもち、特に第593図5の広口壺の頸部と胴部の境の隆帯が半截竹管状の工具で刺突された爪形文に変化している。ひたちなか市武田石高遺跡の第41号住居跡でも爪形文をもつ土器が出土し、土師器を伴っている。また、第593図3・4のような器高のある広口壺も、石原遺跡の第23号住居跡（第592図8）等から出土しており、頸部の文様構成が類似しており、この点からも二つの住居跡が同時期といえる。ところで、広口壺の用途を考えてみると、器高が30cm前後より以下のもの多くに、二次焼成痕があったり、炭化物・ススが付着していたりすることが見られ、第592図3・4のような50cm以上の大形のものにはその痕跡



第593図 宮後遺跡出土弥生土器・土師器  
 1～4・6～8：宮後遺跡第110号住  
 5・9・10：宮後遺跡第103号住

は見受けられなかった。このことから中形・小形のものは煮炊き具として、大形のものとはそれ以外の用途として、というように機能が分かれていたことが窺える。

土師器と一緒に出土した弥生土器の全体的な特徴は、①口唇部に小突起がつくものが多く見受けられる。②頸部文様帯の縦区画が3本のものが多い。③頸部と胴部境との区画は、横走波状文がほとんどである。④底部は布目痕が多いことなどが挙げられる。この傾向は矢倉遺跡や石原遺跡でも言え、久慈川流域出土の弥生土器と様相を異にしていることから洞沼前川流域の弥生時代後期後半の弥生土器に共通する特徴と思われる。

ところで、当遺跡と同様に弥生土器と土師器が共存した遺跡には、石原遺跡以外に石岡市外山遺跡、大洗町長峰遺跡、水戸市大鋸町遺跡、ひたちなか市麓ノ鼻遺跡、平成11年度に調査された大塚遺跡や綱山遺跡などがある。弥生土器は、前述したように十王台式土器の終わりの様相を呈している。一方の土師器は、第593図の8～10のようにハケ目を持つものが多いが、第593図7のように見受けられないものもある。第593図8の甕は胴部の下位に最大径を持ち、口唇部は小波状を呈するのが特徴的である。口唇部が小波状を呈する土器は、石原遺跡からも出土しており、さらに波状が強くなった土器が、当遺跡から南西に3.4kmほど離れた古墳時代前期の集落である南小割遺跡から数多く出土している。南小割遺跡出土の強く波状を呈する土師器は、弥生土器を伴っていないことなどから当遺跡より後の時期とも考えられ、関連性が注目される。第110号住居跡の弥生土器と共存した土師器は、外山遺跡の第5号住居跡から弥生土器と一緒に出土した土師器の様相と類似していることも記しておきたい。

### (3) 古墳時代前期

次に、土師器だけが出土した住居は、古墳時代前期(4世紀代)の炉をもつ堅穴住居跡9軒である。調査区北部(1区)に5軒、南部(5区)に4軒である。小橋川や小支谷を望む台地の縁辺部に沿って立地し、南北に二つのグループに分かれる。住居の平面形は、(隅丸)方形が5軒(第1・37・38・104・129号)、(隅丸)長方形が3軒(第31・41・102号)、不明が1軒で、南北での形状の違いは見られない。規模は、長軸が長くても5m代であるが、第101号住居跡は、長軸8.14m、短軸7.34mと大きく、遺物として手捏土器(10個体以上)及び土玉(4個)が出土していることが注目される。祭祀的なことや洞沼前川や小橋川に挟まれたこの地で、漁労が行われていたことが想定できる。出土土器の様相からみて、弥生時代後期後半～古墳時代前期初頭から継続して、集落が営まれたことが窺える。

4世紀末には2度目の集落の終わりを迎え、古墳時代中期(5世紀代)から後期(6世紀代)の遺構は検出されない。しかし、石原遺跡では中期(5世紀代)の住居跡が、綱山遺跡や大塚遺跡では後期(6世紀代)の住居跡がそれぞれ検出されており、集落の移動を小橋川と洞沼前川に挟まれた地域で考える必要がある。

### (4) 古墳時代後期

途絶えて後の古墳時代後期(7世紀代)になってからの遺構としては、調査1区の西部から住居跡1軒(第3号住居跡)と、2区の南部から1軒(第143号住居跡)が検出された。遺物としては土師器杯や長胴の甕が出土している。

## 2 奈良・平安時代

奈良・平安時代の主な遺構は、堅穴住居跡117軒・堅穴状遺構1基・掘立柱建物跡63棟・土坑25基・溝1条・粘土採掘坑5基である。この時代は大きな集落が形成された時期で、多くの土器が出土している。住居跡から出土した土器をI～M期の6期に区分し、その変遷を把握し、各時期の様相を述べていくことにする。

### (1) 奈良・平安時代の土器の変遷

ここでは当時代の土器を、この時代のほぼ全体にわたってみられる須恵器杯の変化を中心に分類し、その変遷をみていくことにする。

なお、杯については形態や調整技法によって以下のように分類した。

- 土師器杯A類 丸底で半球形状を呈するもので、口縁部が内傾、外傾、直立するものがある。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
- B類 平底で体部が内傾気味に立ち上がるもので、口縁部が外傾、外反するものがある。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
- C類 丸底もしくは扁平な丸底で、底部と口縁部の境に稜を持つもの。体部外面に手持ちヘラ削りを施すものである。
- D類 平底で体部が内傾気味に立ち上がるもので、口縁部が外傾、外反するものがある。ロクロ成形のものである。
- 須恵器杯A類 丸底で口径と底径の差が小さく、底部外周に段があり、いわゆる二次底部面を有するもの。
- B類 平底で口径と底径の差が小さく、底部外周に段があり、いわゆる二次底部面を有するもの。
- C類 B類以外で平底のもの。

### I期（8世紀前葉）

食膳具は、土師器が目立つ段階である。

須恵器杯は丸底のA類、平底のB類、C類がみられる。

A類及びB類の底部及び外周部には、回転ヘラ削りが施されている。

C類は、いずれも底部に回転ヘラ削りが施されている。

A類・B類の杯は、大・中・小が確認され、大形が口径約14cm、中形が約口径12cm、小形が口径約10cmである。

土師器杯は丸底で半球形状を呈するA類（1～4）、平底で体部が内傾気味に立ち上がるB類（5～8）、丸底で口縁部との境に稜を持つC類（9～12）がみられる。いずれの杯も体部外面もしくは底部には手持ちヘラ削りが、口縁部には横ナデが施されている。A類のなかには黒色処理のされているもの（3）、B類のなかには底部に木葉痕を残すもの（5）がみられる。

須恵器蓋は、須恵器杯の大形と中形のものの口径と合うものが出土しており、それぞれの杯とセットになるものと思われる。口縁部にかえりが付くものと、口縁端部がわずかに垂下するものが認められる。形態的にかえりが付くものから、端部がわずかに垂下するものへと移行すると思われるが、当遺跡では両者が共存するため明確に時期差として区別できないため、当該期に含めた。いずれの蓋も扁平なつまみが付き、天井部からなだらかに口縁部に至るもの、直線的に口縁部に至るもの、全体的に低く扁平なものがみられる。

須恵器高台付杯は、低い高台が底部の外側に付いており、高台径が大きい。当該期で1点認められる（34）。

煮沸具・貯蔵具は須恵器より土師器の占める割合が非常に多い。

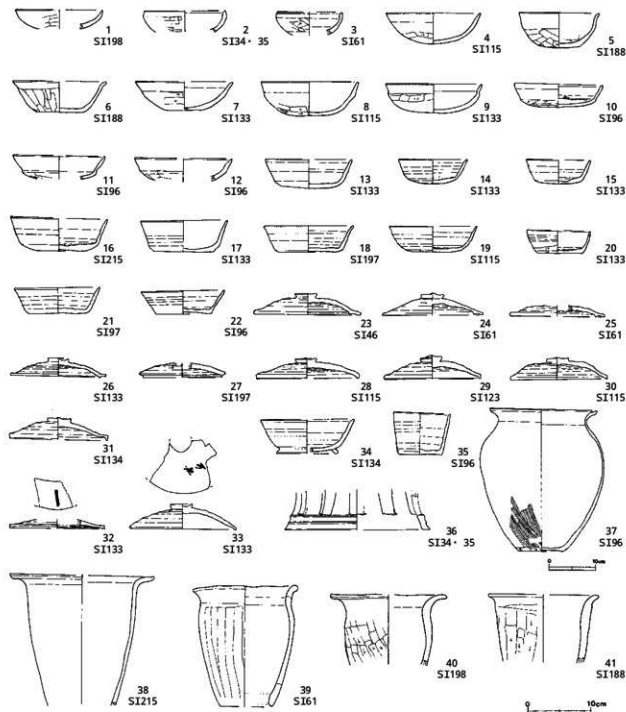
土師器甕は体部が内傾気味に、または、直線的に立ち上がり、口縁部が外反するものである。口縁部は外反度合いの弱いもの（39・41）と強いもの（38・40）がある。底部が確認できるものは1点のみであり、無底式である。調整は、口縁部が横ナデ、体部が横ナデまたは縦位のヘラ削りである。

土師器甕は、体部上位に最大径を持ち肩に張りのあるもので、口縁部のつまみ上げは明瞭でない。胴部下半

に縦位のへら磨きが、胴部下端に手持ちへら削りが施されている (37)。

須恵器甕は、破片であり、全容は不明である。縦位の平行叩きが施された体部片のほか、口縁上部に断面三角形の隆帯を持ち、体部外面に同心円叩きが施されたものもみられる。

その他に、須恵器円面硯 (36)、同小形鉢 (35) が出土している。



第 594 図 宮後遺跡 期の土器群

Ⅱ期 (8世紀中葉)

食膳具は、土師器が少なくなり須恵器が大部分を占めるようになる。

須恵器甕は平底のB類 (5~7)・C類 (8~10) がみられる。前段階と同様に大 (5・8)・中 (6・9)・小 (7・10) に分けられ、大形が口径約14cm、中形が約口径12cm、小形が口径約10cmである。いわゆる二次底

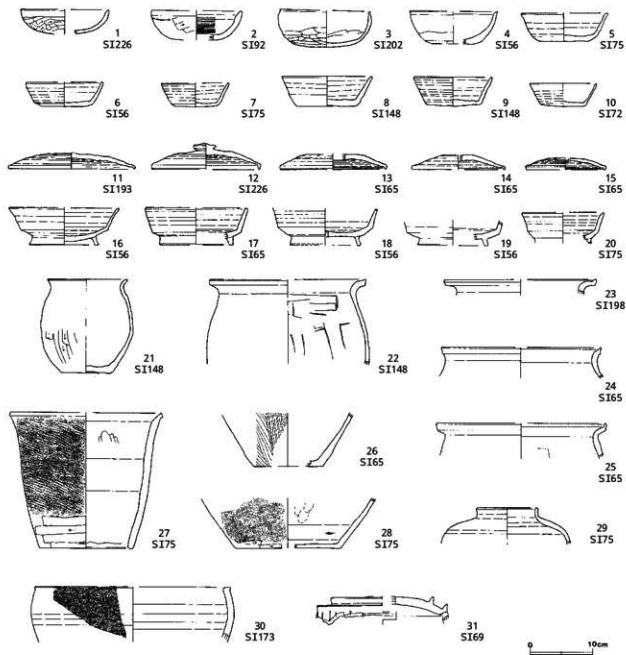


部面を有するB類の底部周縁は、回転ヘラ削りを施したものがみられる。B類及びC類の底部は、回転ヘラ削りを施したものが多く、ほかに回転ヘラ切り後、ナデまたはヘラナデを施したものとみられる。

土師器杯は丸底のA類（1～3）・平底のB類（4）がみられる。いずれも体部外面または底部にヘラ削りが、口縁部には横ナデが施されている。A類にはヘラ磨きが施され内面黒色処理されたもの（2）もみられる。

須恵器高台付杯は、当該期から増加する。高台は前段階のものより高くなり、より底部の内側につけられる。口縁部は、外傾するもの（17）と、外反するもの（16）がみられる。高台付杯は、大（16）・中（17）・小（20）に分けられ、大形が口径約19cm、中形が約口径16cm、小形が口径約13～14cmである。

須恵器蓋は、天井部はやや扁平であり、口縁端部は短く垂下している。つまみを確認できるものは1点で、扁平な擬宝珠状である。口径は、約20cmのもの、約16cmのもの、約14cmのもの、約12cmのものに分けられ、口径が約16cmのものは須恵器高台付杯とセットになるものと思われる。



第 595 図 宮後遺跡 期の土器群

煮沸具・貯蔵具は前段階に比べて、須恵器の占める割合が若干多くなっていく。須恵器甕(27)、鉢(30)、短頸壺(29)が新たに確認される。

土師器甕は、破片であり全容は不明であるが、体部下半に縦位のヘラ磨きが施されているもの(26)が確認されている。口縁部のつまみ上げは、前段階より明瞭になっていく(22~25)。また、当該期から体部下半に縦位のヘラ削りが施されている小形甕がみられる(21)。

須恵器甕も、破片であり全容は不明であるが、前段階と同様に外面に同心円叩きが施されたものも認められる(28)。

須恵器甕は、外面に横位の平行叩き、下端にヘラ削りが施された無底式のものである。

### Ⅲ期(8世紀後葉)

食膳具は、当該期において、須恵器の占める割合が非常に多くなり、器種も豊富になる。

須恵器杯はC類が中心となり、当該期において、前段階の浅身の杯に加えて、深身のものがみられるようになる(3~6)。計測値は、口径13~14cmのものがほとんどであり、なかに、口径約12cmとやや小振りのものもみられる。底部は、ヘラ切りもの、ヘラ切り後にナデを施したものが多く、回転ヘラ削りものもみられる。

土師器杯は、A類にヘラ磨きが施され、内面黒色処理のもの(1)が前段階に引き続いてみられる。当該期のものは、薄手で、口縁部内面に稜を持っている。体部外面にはヘラ削り後にナデが、口縁部には横ナデが施されている。

当該期から土師器高台付皿(2)が加わる。体部内・外面にはクロコナデが施され、底部は回転ヘラ切り後、高台を貼り付けている。

須恵器高台付杯は、前段階の一番大形のものがみられなくなり、口径が約16cmのもの(14)と口径約14cmのもの(15)がみられ、新たに口径約10cmのもの(16)がみられるようになる。口縁部は外反するものが多い。底部の調整は、いずれも回転ヘラ削りである。

須恵器蓋は、擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が短く垂下する(7~13)。口径約16cmのものが確認され、須恵器高台付杯の口径の合うものとセットになると思われる。また、新たに擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が長く垂下するもの(26・27)がみられ、それは短頸壺(28)の口径の合うものとセットになると思われる。計測値は、口径が約17cmのもの、口径が約13cmのものがある。

須恵器の器種で、当該期から新たに加わるものとして、盤(20・21)と高盤(17~19)がある。

須恵器盤は、口径約20cmのもの、口径約17cmのもの、大・小が確認される。底部は丸底気味で、体部と口縁部の境にはっきりとした稜をもっている。底部の調整は回転ヘラ削りである。

須恵器高盤は、裾が大きく開き、透かしを持つもの(17・19)と、持たないもの(18)がある。杯部の径が、約22cmと大形のもの(17)のほかに、脚部片からみて、中形と小形のものもあるようである。

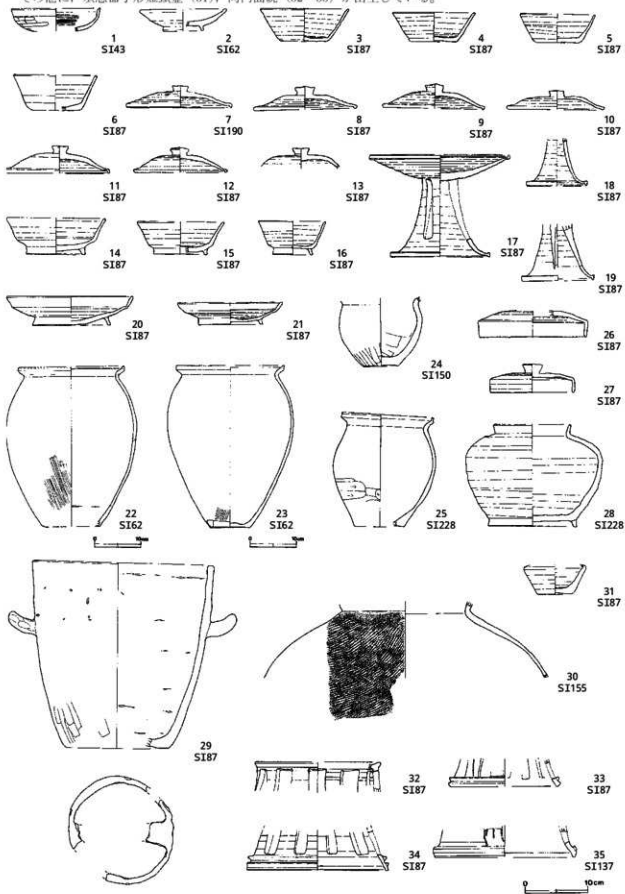
煮沸具・貯蔵具は、須恵器の割合は多くなるものの、依然として土師器が多い。

土師器甕は、口縁部をつまみ上げ、体部下半に縦位のヘラ磨きが施された常総型甕(22・23)が引き続いてみられる。

須恵器甕は、破片であり、全容は不明であるが、櫛歯状工具による波状文を施した口縁部片、斜位の平行叩きを施したもの(30)がみられる。

須恵器甕は、体部外面にクロコナデが、下端にヘラ削りが施され、把手の付く2孔式のもの(29)が新たにみられる。

その他に、須恵器小形短頸壺 (31)、同門面硯 (32~35) が出土している。



第 596 図 宮後遺跡 期の土器群

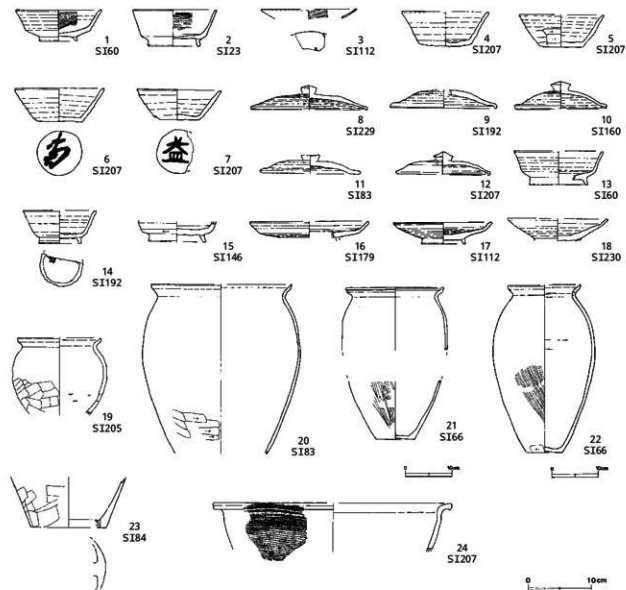
N期（9世紀前葉）

須恵器杯は、当期以降C類のみになる。前段階と同様に、深身で、口径が13~14cmであるが、前段階のものよりも口径と底径との差が若干大きくなる（4~7）。底部の調整は、回転ヘラ削りのものが多く、ほかに、ヘラ削り後ナデのものと同方向の手持ちヘラ削りのものがみられる。

土師器杯は、当期において確認できず、食膳具では、土師器高台付杯が少量みられるだけになる。土師器高台付杯は、体部下端に稜を持つもの（1・2）であり、須恵器高台付杯を模倣したものと思われる。調整は、ヘラ磨きで内面に黒色処理が施されている。

須恵器高台付杯は、体部下端の稜が前段階のものよりも弱くなるもの（13~15）がみられる。計測値は、口径約14cmのもの（13）と、口径約11cmのもの（14）が確認される。

須恵器蓋は、口縁部の屈曲が弱くなるもの（16~18）がみられる。



第 597図 宮後遺跡 期の土器群

須恵器蓋は、前段階と同様に、擬宝珠状のつまみを持ち、口縁端部が短く垂下するもの（8~10・12）がほとんどであるが、ほかに、天井部が扁平で、口縁部が水平になり端部を丸く収めているもの（11）も1点確認

されている。口径14~15cmのものと、口径17~18cmのものがある。

煮沸具・貯蔵具は、前段階よりさらに須恵器の割合が増える。土師器の甕はみられなくなり、破片であり全容は不明であるが、須恵器の甕(23)のみとなる。

土師器甕は、大形のもので体部下半にヘラ磨きを施したもの(21・22)に加え、横位のヘラ削りを施したものの(20)がみられ、調整がヘラ削りのものは大(20)と小(19)に分けられる。長胴であり、口縁部は明瞭につまみ上げられている(22)。

須恵器甕は、破片であり全容は不明であるが、口縁部片は、前段階と同様に、波状文を施したものに、無文のものが確認される。

その他、須恵器高盤、同長頸甕の破片が出土している。

#### V期(9世紀中葉)

食膳具は、前段階から一転して、土師器の占める割合が増え、器種も豊富になる。

須恵器杯は、前段階のものより口径と底径の差がさらに大きくなり、体部は直線的に大きく開くもの(13~15)がみられる。計測値は、口径が13~14cmである。調整は体部下端に回転ヘラ削りのものが極少量みられる。底部は、①回転ヘラ切り後のもの、②回転ヘラ切り後、ヘラナデ及びナデのもの、③回転ヘラ切り後、手持ちヘラ削り及びヘラ削りのものがみられ、①と②のものが多い。

土師器杯は、ロクロ成形のD類がみられるようになる。口径と底径の差が大きいもの(3・4)と小さいもの(1・2)がみられ、それぞれ浅身のものと深身のものがある。なかに口縁部が外反するものがみられる。計測値は、口径が約15cmでやや大形のもの、口径13~14cmのものがあり、後者が大部分を占める。

土師器鉢は、大形の杯ともいえるような浅身のもの(5)と、深身のもの(6)が極少量みられる。

土師器碗は、高台が低いもの(9・10)と、高いもの(7・8)があり、なかに口縁部が外反するものがある。計測値は、前者が口径約13cm前後、後者が口径約16cmである。

土師器高台付皿は、体部が直線的に立ち上がり口縁部に至るもの(11)と、内彎気味に立ち上がり口縁部が外反するもの(12)がある。口径が約15cmの大形のもの、口径が12~13cmの小形ものがみられる。

上記の土師器の調整は、ヘラ磨きでいずれも内面黒色処理が施され、体部下端及び底部は回転ヘラ削りである。

須恵器高台付皿は、当期から新たに加わる(21・22)。計測値は、口径14~15cmである。

須恵器盤(20)及び高台付杯(16~19)は、わずかにみられる程度になる。

煮沸具・貯蔵具は、依然として須恵器の占める割合が多い。

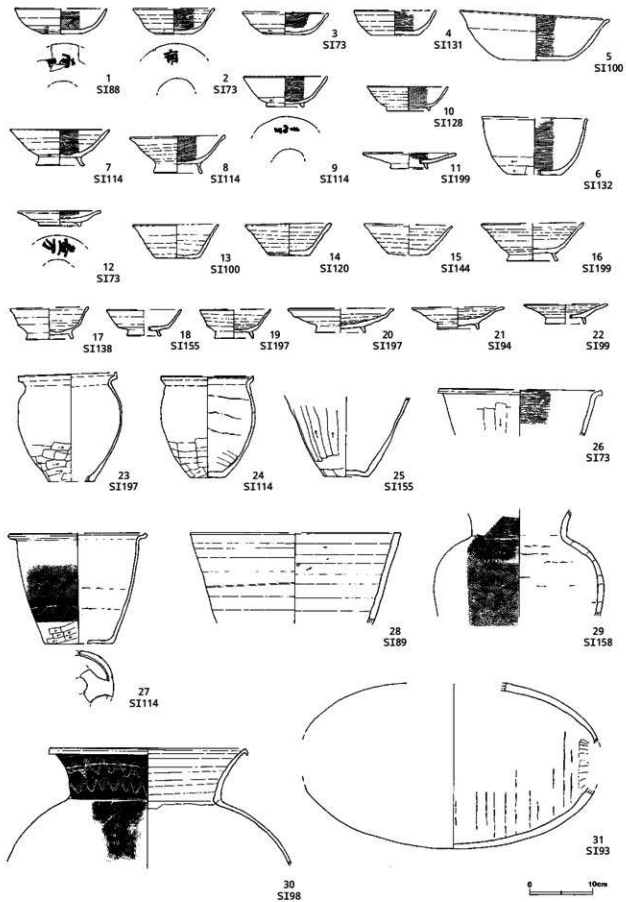
当期から、土師器の鉢形の甕が新たに加わる(26)。調整は、外面が縦位のヘラ削り、内面がヘラ磨きで、内面に黒色処理が施されている。

土師器の甕は、大形のもの全容は不明であるが、小形のもの(23・24)は体部が前段階よりもやや長胴化し、また、体部の最大径が口径とほぼ同じになる。体部下半には横位のヘラ削りが施されている。

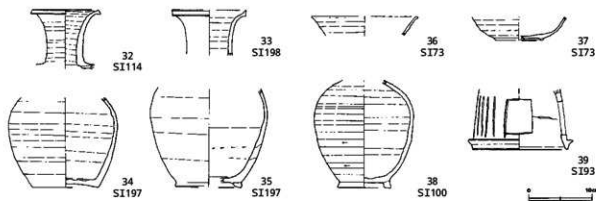
須恵器甕は、口縁端部が下方に突出し、肩の張りが弱くなる(30)。

須恵器甕は、直線的に外傾し、内・外面にロクロナデが施されたもの(28)がみられる。また、外面に格子目叩きが施されたもの(27)もみられる。

その他に、須恵器長頸甕(32~35)、同横甕(31)、同円面甕(39)、灰軸陶器碗(36・37)、同長頸甕(38)が出土している。



第 598図 宮後遺跡 期の土器群(1)



第 599 図 宮後遺跡 期の土器群 ( 2 )

#### Ⅵ期 ( 9 世紀後葉 )

食膳具は、ほとんどが土師器で占められるようになり、須恵器は坏のみが少量みられる程度になる。

須恵器坏は、前段階より底径がわずかに拡大し、体部が内燗気味に立ち上がるもの ( 17・18 ) のみになる。

土師器坏は、D 類のものであり、前段階のものと同様に、口径と底径の差が大きいものと小さいもの、浅身のものと深身のものがみられる。なかに口縁部が外反するものがある。計測値は、やはり口径 13~14cm のものがほとんどであり、新たに口径約 18cm の大形のもの ( 7 ) もみられる。

土師器高台付皿は、前段階のものとは比べ大きな変化はみられないが、なかに高台の高いもの ( 10 ) もみられるようになる。

土師器碗は、高台の低めのものがみられなくなる。また、体部が直線的に開く足高台碗が 1 点認められる ( 13 )。

土師器鉢は、前段階と比べ大きな変化はみられないが、より大形のもの ( 15・16 ) が加わる。上記の土師器の調整は、坏に底部へラ磨きのものが 1 点、鉢に体部下端に手持ちへラ削りのものが 1 点みられるほかは、いずれもへラ磨きで内面黒色処理が施され、体部下端及び底部には回転へラ削りが施されている。

煮沸具・貯蔵具も、土師器の占める割合が多くなる。

土師器甕は、口縁部をつまみ上げたものほかに、口縁端部を丸く取めたもの ( 22 ) もみられるようになる。前者は破片であり、その全容は不明であるが、後者は縦位のへラ削りが施されている。

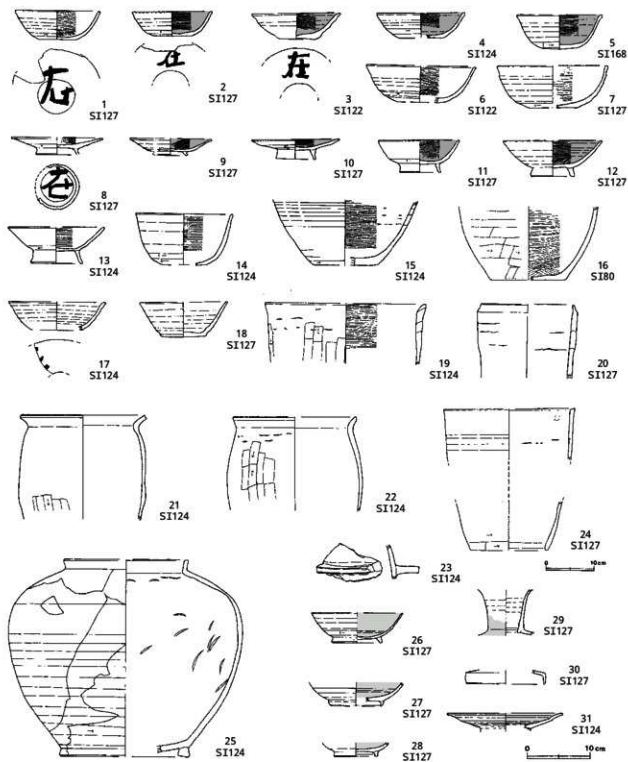
土師器甕も、口縁端部を丸く取めたもの ( 19 ) が認められる。調整は、内面がへラ磨き、外面が縦位のへラ削りで、内面に黒色処理が施されている。

土師器鉢は、筒状のもの ( 20 ) がみられる。また、当該期から、新たに土師器羽釜が加わる ( 23 )。

須恵器甕は、ロクロナデが施されたもの ( 24 ) のみになる。

その他に、灰釉陶器碗 ( 26~28 )、同段皿 ( 31 )、同蓋 ( 30 )、同短頸壺 ( 25 )、同長頸瓶 ( 29 ) が出土している。

以上のように、当遺跡の奈良・平安時代の土器は、6 期にわたる変遷が認められる。各期の年代的な位置づけは、須恵器の多くが木葉下窯産の製品であることから、木葉下産須恵器の編年による年代観などを参考に、次のように考えておく。Ⅰ期は 8 世紀前葉、Ⅱ期は 8 世紀中葉、Ⅲ期は 8 世紀後葉、Ⅳ期は 9 世紀前葉、Ⅴ期は 9 世紀中葉、Ⅵ期は 9 世紀後葉である。



第 600 図 宮後遺跡 期の土器群

(2) 奈良・平安時代の集落変遷

ここでは、6期にわたる土器の変遷をもとに、住居跡及び主な出土遺物について各期の様相を述べる。



①



第 601 図 宮後遺跡 期の遺構群



第 602図 宮後遺跡 期の遺構群



第 603 図 宮後遺跡 期の遺構群



第 604 図 宮後遺跡 期の遺構群

①



第 605 図 宮後遺跡 期の遺構群



第 606 図 宮後遺跡 期の遺構群

### I期（8世紀前葉）

この時期の住居跡は14軒で、調査1区に3軒、2区に4軒、3区に1軒、5区に6軒と遺跡の南部及び西部に集中している。この期は小支谷を挟んで立地する綱山遺跡や大塚遺跡との関連が強いと思われる。遺物は、第61・96・115・116・133・134号住居跡から刀子・鎌・鋤先・鉸具等の金属製品が出土している。中でも役人が使用する腰帯具（鉸具）が2軒の住居跡から1個ずつ出土していることが特筆され、第133号住居跡からは円面硯と墨書土器（「万益」カ）と金属製品（刀子・鎌・鉸具）が一緒に出土しており、宮後遺跡の中心的な家であったことや、土器に書かれた墨書からは、開墾や農作業を行うにあたって豊作を祈ったことが窺える。また、建て替えがあったと考えられる第34・35号住居跡からは、静岡県産の湖西窯産の須恵器の甕の口縁部片が出土していることも特筆される。また、第44号掘立柱建物の確認できたことから、この時期に5区には、竪穴住居以外に掘立柱建物が造られ始めたと考えられる。

### II期（8世紀中葉）

この時期の住居跡は10軒で、住居数の変化はあまり見られない。調査2区に5軒、3区に4軒、5区に1軒と遺跡の西部に集中しており、隣接する大塚遺跡との関連が考えられる。遺物は、第56・65・75号住居跡から金属製品（鎌・刀子）、紡錘車が出土している。

### III期（8世紀後葉）

この時期の住居跡は13軒で、調査1区に2軒、2区に5軒、3区に3軒、4区に1軒、5区に2軒と、どちらかといえば西部に集中しているが、遺跡全体に広がりを見せる。遺物は、第62・69・87・118・137号住居跡から刀子・鉄斧・鋤先の金属製品が、また、円面硯及び紡錘車が出土している。第87号住居跡からは、円面硯及び刀子と併せて「益」「万」等と墨書された土器が出土していることも注目される。文字は楷書体で書かれている。

### N期（9世紀前葉）

この時期の住居跡は21軒で、前時期より倍近くに増え、人口の増加が窺われる。調査1区に1軒、2区に9軒、3区に3軒、4区に4軒、5区に4軒と遺跡の北部から中央部及び南部にまよまっている。今まで住居がなかった4区の小支谷の先端にも住居が構築されるようになる。遺物は、第66・84・86号住居跡から刀子・鎌等の金属製品が、第105号住居跡から緑釉陶器が出土している。緑釉陶器は、胎土が精選され、畿内周辺で作られたと考えられるものである。物質の集散地と考えられている奥谷遺跡に近いとは言え、貴重な物を入手できる基盤があったことが窺える。

### V期（9世紀中葉）

この時期の住居跡は43軒と前時期よりさらに増えて当遺跡での最大規模となる。掘立柱建物も住居同様に、この時期多く建てられたようである。調査1区に4軒、2区に8軒、3区に5軒、4区に6軒、5区に10軒で、やはり遺跡の南部にまよまっている。遺構数の増加は、人口の増加等が考えられる。遺物は、第55・57・88・93・94・95号住居跡から刀子・鎌・馬具等の金属製品が、第58・73・85・93・94・97・98・100号住居跡から円面硯や灰釉陶器がそれぞれ出土している。また、4区の住居跡の1軒をのぞき金属製品や灰釉陶器が出土しており、この時期の中心的な家が集まっていたと思われる。中でも第93号住居跡は、馬具の一部が出土していることから馬を飼っていたこと、灰釉陶器の出土から財力的基盤があったことも窺える。第88号住居跡からは、刀子が6本も出土し、また「南主」と書かれた墨書が出土していることが注目される。墨書土器は、33軒の住居跡中16軒から出土している。

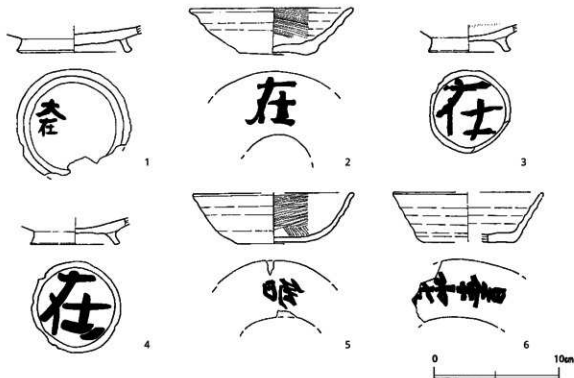
#### Ⅳ期（9世紀後葉）

この時期の住居跡は10軒と前時期の約3分の1に減る。調査1区に3軒、3区に3軒、5区に4軒で、やはり遺跡の南部にまとまっている。住居の数は減るものの、5区では大型の第127号住居跡を中心にして、掘立柱建物がまわりに巡るように建てられていたことが考えられ、また、その第127号住居跡の出土遺物からも経済的に豊かな人々の存在が想像される。遺物は、第80・122・127号住居跡から刀子・鎌・鍬・火打金・鍵等の金属製品が、第122・124・127号住居跡から円面硯や灰軸陶器や腰帯具がそれぞれ出土している。第124号住居跡から出土した灰軸陶器は大形の短頸壺で、黒笹90号窯式段階のものと思われる。なお、掘立柱建物跡は短期間に建て替えが行われていたようである。5区の西部の第127号住居跡からは、大量の焼土等が検出され、その中から竹のようなものの炭化物や鍵などが出土している。焼土は、近くの掘立柱建物跡の柱穴からも出土しており、覆土の堆積状況から住居や掘立柱建物などが焼けた後、埋められたと思われる。焼土は住居等の壁材と思われ、近くの粘土採掘坑の粘土等を使用しているかどうか分析してみたが、成分が違うという結果が出た。

当期以後の住居跡は確認できず、この時期をもって集落としての終焉を迎えると思われる。

このほかに出土遺物から判断して平安時代と考えられる住居跡が13軒ある。

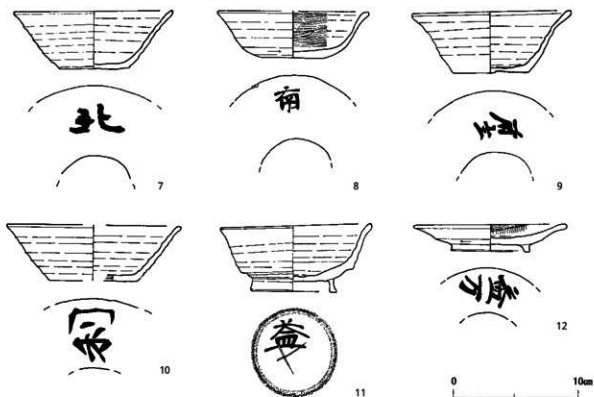
当遺跡の奈良・平安時代を特徴づけるものとして墨書土器がある。表18から、8世紀中葉から出現し、9世紀中頃にピークを迎え、9世紀の終わりに終焉したことが分かる。墨書土器の出土点数は119点あり、その内推定した文字を含めて判読できるものは108点ある。器種では土師器が全体の約70%を占め、須恵器は8世紀代に多い傾向があることが分かる。主な文字を挙げてみると、①名字（他田・日奉部：第594図5・6）、②吉祥的な文字（利・益万・万益・益：第594図10・11・12）、③方位を表すような文字（北・南・南主：第594図7・8・9）、④家がつく文字（子家・畠家・多了家・家）、⑤地域ないし集団を表すと思われる文字（大在・



第 607 図 宮後遺跡出土墨書土器（1）

1：遺構外 2：第122号住 3・4：第127号住 5：第105号住 6：第62号住





第 608 図 宮後遺跡出土墨書土器 ( 2 )

7: 第 13 号住 8・11: 第 7 号住 9: 第 49 号住 10: 第 55 号住 12: 第 62 号住

在: 第 594 図 1 ~ 4), ⑥その他 (中上・村・生) 等である。まず①の「日奉部」は、鹿の子 C 遺跡の漆紙文書にみられ、墨書土器としては県内で初めての出土である。墨書された須恵器杯の時期が、住居の時期と合わないことから、それらは投棄されたものと思われるが、石原遺跡では 8 世紀前半の第 16 号住居跡から出土している。宮後遺跡の近くにも「他田日奉部」を名乗る一族がいたことが想像できる。次に、8 世紀中葉から出現し、9 世紀後葉に多く出土する「在」という文字は、墨書全体の約 40% を、5 区で出土した文字の約 64% を占めることから当集落の中心的な文字と言える。また、「在」という文字 (第 594 図 2・3・4) に筆跡の違いが見られ、文字の書ける人が、複数いたことが窺える。

当遺跡から小橋川沿いに遡った台地の大山原地区からは「前家□□」と墨書された須恵器杯が出土していること、当遺跡と隣接した大塚遺跡、綱山遺跡、石原遺跡の立地等から小橋川を挟んだ兩岸の台地上には、平安時代の大きな集落が存在したことが考えられる。

最後に紡錘車 (石製や土製) の出土数は、4 点と少ない。金属製のものは、出土していない。つまり、織物は宮後集落の特産物ではなかったと考えられ、鎌・鋤先などの農具の出土からこの集落は農業を基盤としていたと考えられる。

表 18 宮後遺跡墨書土器一覽

混入

時期	調査区			1 - 4 区			5 区		
	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺 構	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺 構	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺 構
8 C 前葉				万益力 益力 在力	須・蓋・外・横 須・蓋・外 須・环・底 須・高台付环・外			須・环・底 須・环・底 須・环・底	SI133 ↓
8 C 中葉				在力	土・环・底 土・环・体・正			土・环・底 土・环・体・正	SI136 2点 ↓
8 C 後葉	益 上 簡書 日華部古力 益 益 万 益	須・盤・底 須・环・底 須・高台付环・底 須・环・体・横 石原遺跡 SI095 磁土 須・高台付环・底 須・高台付环・底 須・环・底 須・环・底 須・环・底 須・高台付环・底	SI36 SI150 SI74 SI62 ↓ SI87 ↓	在	須・环・底 須・环・底			須・环・底 須・环・底	SI137 ↓
9 C 前葉	万 万 益 益 南	須・环・底 須・高台付环・底 土・高台付环・底 須・环・底 須・环・底 須・环・底	SI192 ↓ SI205 ↓	信田 在	土・环・体・横 土・高台付皿・体 須・环・体 土・环・体・正 土・高台付皿・底			土・环・体・横 土・高台付皿・体 須・环・体 土・环・体・正 土・高台付皿・底	SI105 SI112 ↓ SI130 ↓
9 C 中葉	利 益万 南 在力 家力 南主 子家 家力 在 益 南主 益 在力	土・环・体 須・环・体・横 土・高台付皿・体・横 土・环・体・正 土・环・体・横 土・环・体・横 須・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・底 土・环・体・横 土・环・体 土・高台付皿・体 土・高台付皿・体 須・环・体・横 土・环・底 土・环・底 土・环・体・横 土・环・体・正 須・环・体 須・环・体	SI55 ↓ SI73 ↓ 3点 SI93 ↓ SI88 ↓ SI94 ↓ SI189 SI197 ↓	中上力 在 鳥家 家 家力 鳥家 簡書 多了家 在力 在 在 在 北 万 在 十万 在力	土・环・体・正 須・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・横 土・高台付皿・体・横 土・高台付皿・体・横 須・环・底 土・环・体・横 土・环・体 土・环・底 土・高台付环・体・横 土・高台付环・底 土・高台付环・底 須・环・底 土・高台付环・底 土・高台付环・底 須・环・体・正 須・高台付环・底 土・环・底 土・环・底 土・环・体	鳥家 鳥家 鳥家 鳥家 簡書 多了家 在力 在 在 在 北 万 在 十万 在力	土・环・体・正 須・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・横 土・高台付皿・体・横 土・高台付皿・体・横 須・环・底 土・环・体・横 土・环・体 土・环・底 土・高台付环・体・横 土・高台付环・底 土・高台付环・底 須・环・底 土・高台付环・底 土・高台付环・底 須・环・体・正 須・高台付环・底 土・环・底 土・环・底 土・环・体	SI98 SI99 2点 SI100 ↓ SI114 ↓ SI128 SI131 ↓ SI132 ↓ SK824 ↓ SK943 ↓	
9 C 後葉	在	土・环・体・横 土・环・底	SI47 SI67	大鳥 家力 在 在 在力 在力 在力 在力 在力 在力 在力	土・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・正 土・环・体・正 土・环・体 土・环・底 土・环・底 土・环・体 土・环・体・横 須・环・体・横 須・环・体・横 土・环・体・正 土・环・体・正 土・环・体・正		土・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・横 土・环・体・正 土・环・体・正 土・环・体 土・环・底 土・环・底 土・环・体 土・环・体・横 須・环・体・横 須・环・体・横 土・环・体・正 土・环・体・正 土・环・体・正	SI122  4点 4点 2点 ↓ SI124 2点 2点	

調査区 時期	1 - 4 区			5 区		
	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺構	文字	器種・器形・部位・墨書方向	遺構
					土 坏 体 土 坏 体 正 土 坏 底 土 坏 底 土 高 环 底 土 高 环 底 土 高 环 底 土 高 血 底 土 高 血 底 須 坏 底	SI127 3点 2点 4点 3点 2点 3点
時期不明 遺構外	北 在力 万	土 坏 体 土 坏 底 須 坏 体 須 坏 底	遺構外 ↓	大在 在力 大 在 在 益万力 南 在 在 在 在力 家 生 在力 寸=村力 大在 大在 前力	須 坏 底 土 坏 体 正 須 坏 体 横 土 高 环 底 土 坏 底 土 高 血 底 須 坏 底 土 高 血 体 横 土 坏 体 土 柄 体 横 土 柄 体 横 土 坏 体 須 坏 底 須 坏 底 須 坏 底 須 坏 底 須 坏 底 須 坏 底 土 坏 体	SB19 SB23 SB28 P38 P63 P76 P264 遺構外 2点

表 19 宮後遺跡の主な金属製品・灰釉陶器・円面硯等一覧

丸数字は出土点数

調査区 時期	1 - 4 区		5 区	
	遺物	住居跡	遺物	住居跡
期 8世紀前半	円面硯 刀子	SI34・35 SI 61	刀子 鉄 鎌 鉄 鎌 紡錘車 鎌 先 絞 具 硯 刀子 円面硯 刀子 鎌 絞 具 硯 鉄 鎌	SI 96 ↓ SI 97 SI 115 ↓ SI 133 ↓ SI 134
期 8世紀中葉	鉄 鎌 刀子 紡錘車 鉄 鎌 刀子	SI 56 SI 65 ↓ SI 75 ↓	灰釉陶器	SI 136
期 8世紀後半	円面硯 鉄 斧 刀子 円面硯 紡錘車	SI 69 SI 62 SI 87 ↓	鎌 先 円面硯	SI 118 SI 137

調査区 時期	1 ~ 4 区		5 区	
	遺 物	住 居 跡	遺 物	住 居 跡
期 9世紀前半	刀子 刀子 刀子 鉄 鍔	SI 66 SI 84 SI 86 ↓	緑釉陶器	SI 105
期 9世紀中葉	灰釉陶器 刀子 鎌 灰釉陶器 灰釉陶器 灰釉陶器 刀子 鎌 馬 具 円面硯 灰釉陶器 刀子 刀子 鎌 刀子 鎌 灰釉陶器	SI 197 SI 55 SI 57 SI 58 SI 73 SI 85 SI 93 ↓ SI 95 SI 88 ↓ SI 94 ↓	灰釉陶器 灰釉陶器 紡錘車	SI 98 SI 100 SI 128
期 9世紀後半	鎌	SI 80	鉄 鍔 円面硯 灰釉陶器 灰釉陶器 腰帶具 刀子 鎌 鉄 鍔 火打金 鍔 円面硯 灰釉陶器	SI 122 ↓ SI 124 ↓ SI 127 ↓

### 3 中・近世

中世の遺構として堀1条，地下式墳18基，竪穴状遺構11基，粘土貼土坑1基，土坑墓1基，井戸跡7基，道路状遺構1条が検出された。平安時代（9世紀後半）に集落としての機能がなくなってから，しばらく間において14世紀にコの字状の堀が掘られた。当時は，大戸氏がこの一帯を治めていたと思われるが，居城の所在地は不明である。当遺跡付近に城館が存在した記述がないため，堀等の遺構の性格は不明である。第1号竪穴状遺構は，長軸5.59m，短軸2.88mの長方形で，柱穴が2か所並び，東壁側にスロープを持っている。その形態から倉庫と思われる，堀の内側の中央部付近にあることから堀に伴うものと思われる。堀は15世紀に廃絶され，踏み固めの状況から，埋没する過程で通路として利用されたと考えられる。

15世紀後半から地下式墳（第1号）が造られ始めた。第3号地下式墳は，15世紀後半から16世紀前半に位置づけられることや堀の内外に存在することから，1世紀ほどの間に地下式墳は造られたと思われる。また，地下式墳や遺構外から茶臼が，それぞれ出土している。当時，お茶は武士や上流階級しか嗜まなかったようであることから，有力な人がいたと考えられる。また，第4号井戸跡は断面形がラッパ状で，鍔状の掘り込みを持っている。ここから常滑産と瀬戸産の15世紀後半から16世紀前半に位置づけられる陶器が出土している。同じ鍔状の掘り込みを持つ第5号井戸跡からは，馬の骨が出土している。これらの状況から廃棄時に祭祀的なことが行われたことが考えられる。

その後、当遺跡のある近藤地区は、16世紀後半に佐竹氏の所領に、さらに江戸時代には旗本領となり、「今藤」という名が文書に登場した。

以上のことから、当遺跡は、縄文時代から中・近世まで人々の生活の舞台となった複合遺跡であることが明らかになった。

#### 註

- 1) 川又清明 「澗沼前川流域における弥生時代後期の遺跡の分布状況」『研究ノート』第9号 茨城県教育財団 2000年6月
- 2) 海老澤稔 『東日本弥生時代後期の土器編年』(第2分冊)茨城県・東日本埋蔵文化財研究会福島県実行委員会 2000年1月
- 3) 茨城県教育財団「やさしさのまち「桜の郷」整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 石原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第163集 2000年3月
- 4) 山本静男 「外山遺跡5号住居跡についての一考察」『年報』3 茨城県教育財団 1984年3月

#### 参考文献

- ・飯島一生 「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 矢倉遺跡・後口原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第135集 1998年3月
- ・長谷川聡 「北関東自動車(友部～水戸)建設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 大作遺跡・大畑遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第136集 1998年3月
- ・中村敦治・江崎良夫 「茨城中央工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 南小割遺跡・権現堂遺跡・親塚遺跡・後原遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第129集 1998年3月
- ・茨城県考古学協会 『茨城県における弥生時代研究の到達点～弥生時代後期の集落構成から～』 1999年11月
- ・黒沢彰哉 「茨城県における古式土器の問題」『婆良岐考古』第3号 婆良岐考古同人会 1981年3月
- ・海老澤稔 「十王台式と伴出する土器群の考察」『婆良岐考古』第9号 婆良岐考古同人会 1987年5月
- ・佐藤次男 「茨城における弥生時代終末期の様相～とくに十王台式土器と五領式土器の共存関係について」『考古学叢考』下巻 吉川弘文館 1988年10月

## 付 章

### 宮後遺跡第110・115号住居跡出土土器及び 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について

茨城県工業技術センター窯業指導所

#### 1. 目的

茨城町宮後遺跡から出土した土器片と第4号粘土採掘坑から採取した粘土2種の元素組成及び鉱物組成分析を行い、これらから当該粘土が土器片の原料か否かの推定を行った。

#### 2. 調査対象試料

茨城町大字近藤222-3 茨城町宮後遺跡：第110・115号住居跡及び第4号粘土採掘坑

- 試料① 土器片：IS-1 / SI-115 / 1区
- 試料② 土器片：IS-1 / SI-115 / 3区 上層
- 試料③ 土器片：IS-1 / SI-115 / 1区 中層
- 試料④ 土器片：IS-1 / SI-110 / 3区 上層
- 試料⑤ 白粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑
- 試料⑥ 粘 土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

#### 3. 測定項目及び測定方法

##### (1) 元素組成

試料を100℃で乾燥させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉砕し、蛍光X線分析に供した。

蛍光X線分析はガラスビード法（四ほう酸リチウム：試料=10：1希釈）により前処理後、蛍光X線分析装置を用い、周期律表でNa以上の元素の測定を行った。

##### (2) 鉱物組成

試料を風乾させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉砕し、分析に供した。鉱物組成は、X線回折（粉末法）により測定した。

#### 4. 測定結果

##### (1) 元素組成分析結果

元素組成分析結果を表1に示す。各試料の主構成元素は表1に示した10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。

表 1 元素組成分析結果

試料名	SiO <sub>2</sub>	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	TiO <sub>2</sub>	MnO	CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>
試料 IS-1/SI115/1区	6700	2373	405	108	000	103	047	126	129	009
試料 IS-1/SI115/3区上層	7046	2214	357	011	000	041	040	129	097	065
試料 IS-1/SI115/1区中層	6978	2263	353	109	000	042	031	124	096	004
試料 IS-1/SI110/3区上層	6604	2419	591	090	000	036	037	129	085	010
試料 IS-1第4号粘土採掘坑白粘土	5550	3288	466	088	000	253	157	071	116	011
試料 IS-1/第4号粘土採掘坑粘土	6594	2235	711	148	011	080	062	099	060	000

(2) 鉱物組成分析結果

鉱物組成分析結果を図1-1～図1-6及び表2に示す。

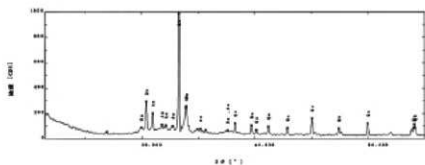


図1-1 X線回析試験結果 試料 土器片：IS-1 SI 115 1区

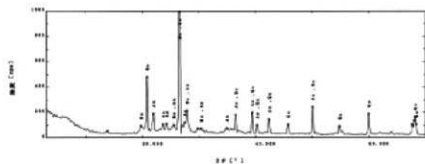


図1-2 X線回析試験結果 試料 土器片：IS-1 SI 115 3区上層

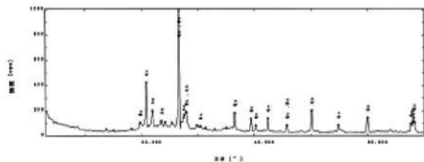


图 1 - 3 X 線回析試験結果 試料 土器片：IS-1 SI 115 1 区 中層

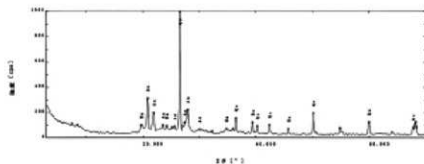


图 1 - 4 X 線回析試験結果 試料 土器片：IS-1 SI 110 3 区 上層

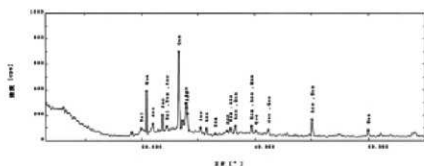


图 1 - 5 X 線回析試験結果 試料 白粘土：IS-1 第 4 号粘土探掘坑

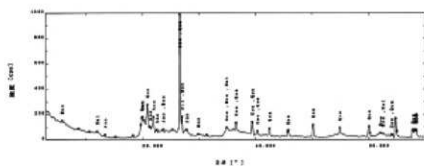


图 1 - 6 X 線回析試験結果 試料 粘土：IS-1 第 4 号粘土探掘坑

凡例 Qu: 石英 (SD2) An: アノナイト (長石類) Mu: ムサノナイト (雲母類) Ha: ハロゲン (粘土類)  
Mo: モロトナイト (粘土類) A1: アルシノ (粘土類) He: ヘライト (酸化鉄)



各土器片の鉱物組成は図1-1~1-4及び表2から、試料②、③は石英/長石/雲母系のほぼ同様の組成であり、試料①及び④は石英/長石/粘土系の組成であった。しかし、第4号粘土探掘坑の粘土2種とは大きく組成が異なり、特に石英の含有割合が大きく異なっている。

表2 宮後遺跡出土土器片の鉱物組成 同定した鉱物及び簡易定量値

鉱物種	鉱物名	5IS 1/ SI115/ 1区	3IS 1/ SI115/ 3区 上層	5IS 1/ SI115/ 1区 中層	3IS 1/ SI110/ 3区 上層	粘土探掘坑 白粘土	粘土探掘坑 粘土
石英	33 1161 Quartz	82%	87%	87%	81%	63%	68%
長石類	09 0465 Anorthite sodian orderd	13%		9%	11%		
	18 1202 Anorthite sodian intermediat					26%	
	20 0528 Anorthite sodian orderd		10%				7%
雲母類	25 0649 Muscovite 2 m# 2 calcian		3%	4%			
	34 0175 Muscovite 2 m# 2						2%
粘土類	29 1487 Halloysite 7 A	5%			8%	8%	7%
	09 0451 Halloysite 10 A						1%
	13 0259 Montmorillonite 14 A						
	38 0449 Aliphane						8%
その他	33 0664 Hematite syn					2%	
	29 0713 Goethite						

#### 5. 考察：元素組成および鉱物組成分析結果に基づく出土品に関する考察

元素組成分析結果をIg.lossを除いた珪酸分(SiO<sub>2</sub>)、アルミナ分(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)アルカリ土類成分(CaO+MgO)、アルカリ成分(Na<sub>2</sub>O+K<sub>2</sub>O)および鉄分(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)のグループにまとめ、土器片4種を図2に示す。

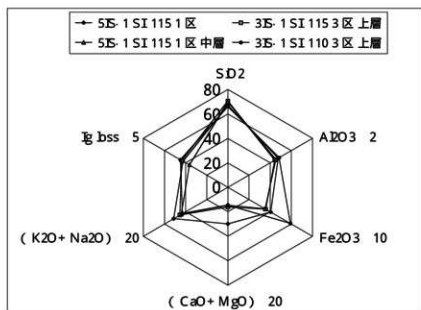


図2 元素組成比較：宮後遺跡出土土器片

図2から試料② 3IS-1/SI-115/3区上層と試料③：5IS-1/SI-115/1区中層はほぼ同じ元素組成

であった。また、試料①：5 IS - 1 / SI - 115 / 1 はFe2O3（鉄分）がやや多く含まれるほかは前者とほぼ同じ組成であった。

次に、第4号粘土採掘坑採取粘土2種と各土器片の元素組成比較を図3-1～3-4に示す。

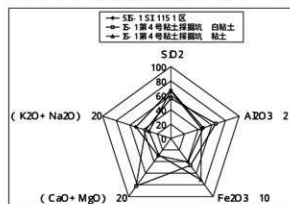


図3-1 元素組成比較：5IS-1 SI-115 1区と粘土

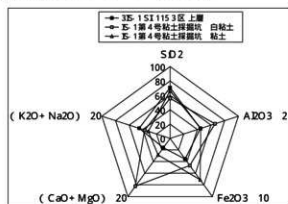


図3-2 元素組成比較：3IS-1 SI-115 3区上層と粘土

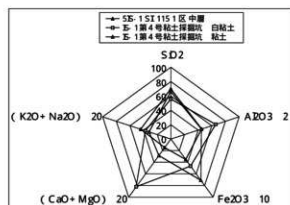


図3-3 元素組成比較：5IS-1 SI-115 1区中層と粘土

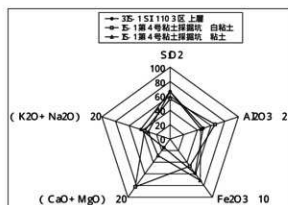


図3-4 元素組成比較：3IS-1 SI-110 3区上層と粘土

図3-1から試料①の元素組成は第4号粘土採掘坑採取粘土2種と異なり、2種の粘土の混合とも考えられない。試料②、試料③及び試料④も図3-2、図3-3及び図3-4から、同様に異なる材質であると考えられる。

鉱物組成についても試料②、③が石英/長石/雲母系、試料①・④が石英/長石/粘土系と土器片の鉱物組成には差異があるが、両者との石英の含有割合が第4号粘土採掘坑の粘土2種と比較し高い割合であることが判明した。

以上のことから各土器片は、粘土採掘坑から掘り出された粘土だけで製作されたのではない推察できる。

## 6. まとめ

- ・ 蛍光X線分析による各試料の主構成元素は通常土壌等に含有される10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。
- ・ X線回折の結果から試料②③が石英/長石/雲母系、試料①④が石英/長石/粘土系の鉱物組成であり、第4号粘土採掘坑採取粘土よりも高い石英の含有量であった。
- ・ 各土器片の原料は、第4号粘土採掘坑の粘土が原料と仮定しても、これらの材料だけで作られたものとは考えられない。

## 宮後遺跡第127号住居跡覆土及び

## 第4号粘土採掘坑採取粘土の元素組成及び鉱物組成等について

茨城県工業技術センター産業指導所

### 1. 目的

茨城町宮後遺跡から出土した壁材と思われる焼土と焼土を埋めていたと考えられる土（埋め土）が同じまたは異なるものかの判定を行うために、元素組成及び鉱物組成分析を行った。また、壁材としたと思われる当遺跡の第4号粘土採掘坑から採取した粘土2種について同様の測定を行い、材質的な見から当該粘土が第127号住居跡の壁材か否かの判定を行った。

### 2. 調査対象試料

茨城町大字近藤222-3 茨城町宮後遺跡：第127号住居跡及び第4号粘土採掘坑

試料① 焼土：IS-1 / SI-127

試料② 埋め土：IS-1 / SI-127

試料③ 白粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

試料④ 粘土：IS-1 / 第4号粘土採掘坑

### 3. 測定項目及び測定方法

#### (1) 元素組成

試料①, ②, ③, ④について行った。

試料を100℃で乾燥させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉砕し、蛍光X線分析に供した。

蛍光X線分析はガラスビート法（四ほう酸リチウム：試料=10：1希釈）により前処理後、蛍光X線分析装置を用い、周期律表でNa以上の元素の測定を行った。

#### (2) 鉱物組成

元素組成と同様に試料①, ②, ③, ④について行った。

試料を風乾させた後、タングステンカーバイド製振動ミルにより粉砕し、分析に供した。鉱物組成は、X線回折（粉末法）により測定した。

### 4. 測定結果

#### (1) 元素組成分析結果

元素組成分析結果を表1に示す。各資料の主構成要素は表に示した12成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。

表1 元素組成分析結果

試料名	lg loss	Sb2	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	T.D.	MnO	CaO	MgO	K <sub>2</sub> O	Na <sub>2</sub> O	P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	total
試料 S1/SI127 焼土	805	4786	2642	904	119	016	065	138	104	059	019	9657
試料 S1/SI127 埋め土	1226	5259	1962	717	100	020	112	129	098	077	025	9725
試料 第4号粘土探掘 坑白粘土	1522	4608	2730	387	073	000	210	130	059	096	009	9824
試料 第4号粘土探掘 坑粘土	959	5832	1977	629	131	010	071	055	088	053	000	9805

(2) 鉱物組成分析結果

鉱物組成分析結果を図1-1～図1-4及び表2に示す。

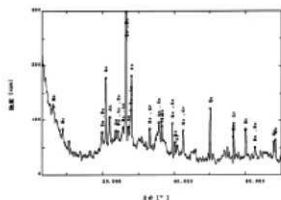


図1-1 X線回折測定結果：試料 焼土

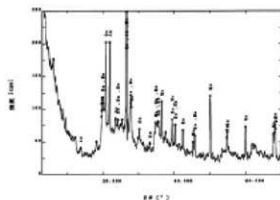


図1-2 X線回折測定結果：試料 埋め土

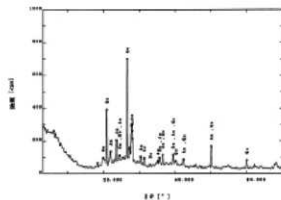


図1-3 X線回折測定結果：試料 白粘土

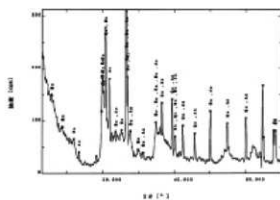


図1-4 X線回折測定結果：試料 粘土

凡例 Qu: 石英 (SD2) An: 7ノ9付 (長石類) Mu: 2カハ付 (雲母類) Ha: 40付 (粘土類)  
Mo: 5カ付 (粘土類) Al: 70付 (粘土類) He: 47付 (酸化鉄)

表 2 鉱物組成分析結果

	鉱物名	試料	試料	試料	試料
		SI 127 焼土	SI 127 埋め土	粘採坑白粘土	粘採坑 粘土
石英	33 1161 Quartz	66%	71%	63%	68%
長石類	09 0465 A northite sodian orderd	12%	9%		
	18 1202 A northite sodian intermediat			26%	
	20 0528 A northite sodian orderd				7%
雲母類	25 0649 Muscovite 2 m# 2 caltin	2%	4%		
	34 0175 Muscovite 2 m# 2				2%
粘土類	09 0453 Halbystie 7A		3%		
	29 1487 Halbystie 7A			8%	7%
	09 0451 Halbystie 10A				1%
	29 1498 Montmorillonite 15A	11%	10%		
その他	38 0449 Albphane				8%
	33 0664 Hematite syn	1%	3%	2%	
	03 0801 Grossular hydroxylian	8%			

各試料から石英、アノーサイト（長石）を同定した。試料①、②、④からマスコバイト（白雲母）、試料②、③、④からハロサイト、試料①、②からモンモリロナイトを試料①、②、③からヘマタイト（酸化第二鉄）を同定した。試料①焼土からGrossular, hydroxylian (CaAl<sub>2</sub>(SiO<sub>4</sub>, Co<sub>3</sub>, OH)) を、試料④からアロフェンを同定した。これらの鉱物は他試料からは同定できなかった。なお、試料①、②から同定したモンモリロナイトの存在を確定するにはさらに確認作業が必要である。

5. 考察：元素組成及び鉱物組成分析結果に基づく出土品に関する考察

元素組成分析結果をIg.lossを除いた珪酸分(SiO<sub>2</sub>)、アルミナ分(Al<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)アルカリ土類成分(CaO+MgO)、アルカリ成分(Na<sub>2</sub>O+K<sub>2</sub>O)および鉄分(Fe<sub>2</sub>O<sub>3</sub>)のグループにまとめ、焼土と埋め土を図2に、焼土と4号粘土採掘跡粘土2種を図3に示す。

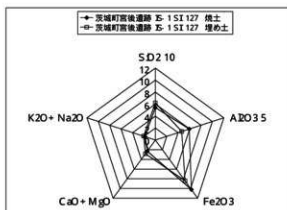


図 2 宮後遺跡 Ⅱ- 1 SI 127: 焼土及び埋め土の元素組成

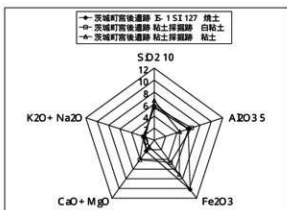


図 3 宮後遺跡 Ⅱ- 1 SI 127: 焼土と粘土採掘跡土の元素組成

図2から、試料①及び試料②の元素組成は、アルミナ分及び鉄分に差異が認められ、異なる材質であると考えられる。

図3から、試料①に対し試料③及び試料④は、鉄分、アルミナ分及びアルカリ土類成分に差異が認められ、異なる材質と思われる。

また、鉱物組成についてもX線回折の結果(図1-1~1-4及び表2)から、元素組成分析の結果と同様に、試料①、②、③及び④は異なる材質であると考えられる。

これらのことから、焼土は埋め土とは別のものであると考えられる。また、焼土の材料は、第4号粘土採掘坑で採取された材料だけで作られたものとは考えられず、今回の調査対象外の材料が用いられているか、調査対象の材料に加えて他の場所から採取した材料を使用しているとも考えられる。

## 6. まとめ

- ・ 蛍光X線分析による各試料の主構成元素は通常土壌等に含有される10成分であり、他の元素はほとんど検出されなかった。
- ・ X線回折の結果から、各試料とも、通常土壌等に含有される石英、長石、雲母、ハロイサイト、モンモリロナイトなどを同定した。
- ・ 試料①焼土からは、他の試料にはないGrossular, hydroxylite ( $\text{CaAl}_2(\text{SiO}_4, \text{CO}_3, \text{OH})$ )を同定した。
- ・ 元素組成及び鉱物組成から、試料①焼土と試料②埋め土は、異なる材質であると考えられる。同様に試料①焼土と試料③第4号粘土採掘坑白粘土及び試料④第4号粘土採掘坑粘土は、異なる材質と思われる。
- ・ 焼土の材料は、第4号粘土採掘坑で採取された材料だけで作られたものとは考えられず、今回の調査対象外の材料が用いられているか、または調査対象の材料に加えて他の場所から採取した材料を使用しているとも考えられる。

写 真 图 版



平成 10年度調査区全景（北から）



平成 11年度調査区全景（東から）





第1号住居跡  
遺物出土狀況

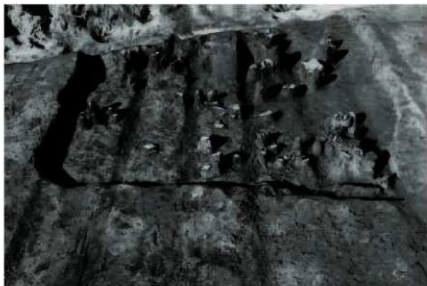


第3号住居跡  
完掘狀況



第8号住居跡  
遺物出土狀況

第 26 号 住居 跡  
遺物 出土 狀況



第 32 号 住居 跡  
遺物 出土 狀況



第 36 号 住居 跡  
完 掘 状 況





第 3 6 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況



第 5 6 号 住 居 跡  
完 掘 状 況



第 5 6 号 住 居 跡  
遺 物 出 土 状 況

第58号住居跡  
完掘状況

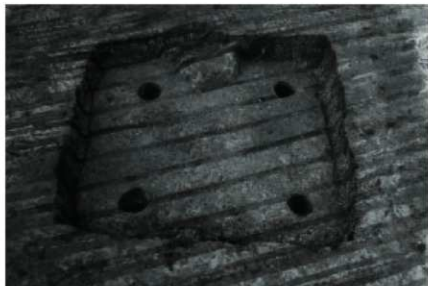


第62号住居跡  
遺物出土状況



第67号住居跡  
遺物出土状況





第69号住居跡  
完掘状況



第72号住居跡  
遺物出土状況



第75号住居跡  
遺物出土状況

第 85号住居跡  
遺物出土狀況



第 87号住居跡  
遺物出土狀況

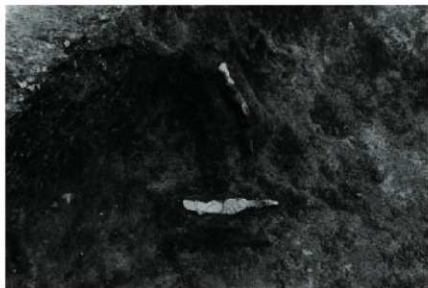


第 87号住居跡  
遺物出土狀況





第 88号住居跡  
遺物出土狀況



第 95号住居跡  
遺物出土狀況



第 97号住居跡  
完掘狀況

第97号住居跡  
遺物出土状況



第99号住居跡  
竈遺物出土状況



第100号住居跡  
遺物出土状況







第 101号住居跡  
遺物出土状況



第 102号住居跡  
遺物出土状況



第 103号住居跡  
遺物出土状況

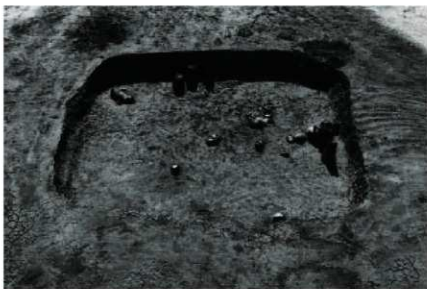
第 104号住居跡  
完 掘 状 況



第 110号住居跡  
完 掘 状 況



第 110号住居跡  
遺物出土狀況





第 111号住居跡  
完 掘 状 況



第 112号住居跡  
完 掘 状 況



第 117号住居跡  
遺物出土狀況

第 118号住居跡  
遺物出土狀況

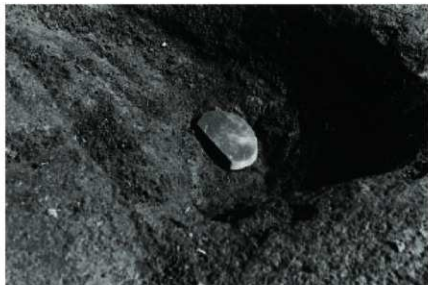


第 122号住居跡  
遺物出土狀況



第 123 124号住居跡  
遺物出土狀況





第 124号住居跡  
遺物出土状況



第 126号住居跡  
完掘状況



第 127 130 131号住居跡  
遺物出土状況

第 129号住居跡  
完 掘 状 況

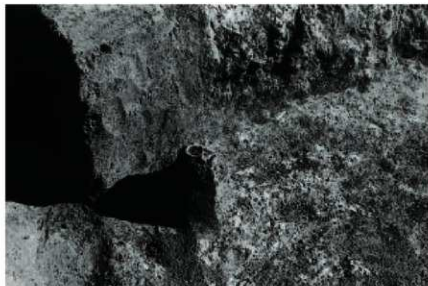


第 133号住居跡  
完 掘 状 況



第 133号住居跡  
遺 物 出 土 状 況





第 133号住居跡  
遺物出土状況



第 133号住居跡  
遺物出土状況



第 143号住居跡  
完掘状況

第 143号住居跡  
遺物出土状況



第 144号住居跡  
遺物出土状況



第 146号住居跡  
完掘状況







第 148号住居跡  
完 掘 状 況



第 148号住居跡  
遺物出土狀況



第 148号住居跡  
遺物出土狀況

第 150号住居跡  
完 掘 状 況



第 150号住居跡  
遺物出土狀況



第 150号住居跡  
遺物出土狀況

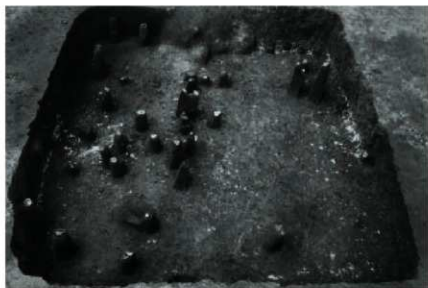




第 150号住居跡  
遺物出土状況



第 155号住居跡  
完掘状況

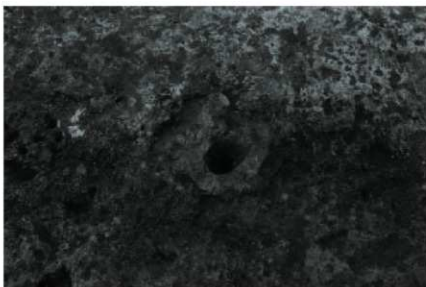


第 155号住居跡  
遺物出土状況

第 158号住居跡  
完 掘 状 況



第 158号住居跡  
炉 完 掘 状 況



第 161号住居跡  
完 掘 状 況

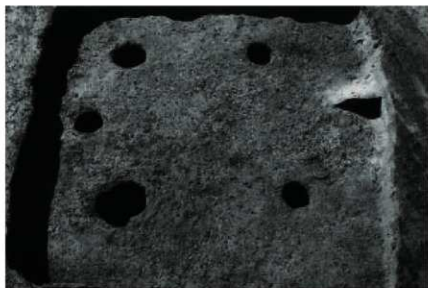




第 161号住居跡  
遺物出土状況



第 171号住居跡  
完掘状況



第 173号住居跡  
完掘状況

第 173号住居跡  
遺物出土状況



第 178 179号住居跡  
完掘状況



第 179号住居跡  
遺物出土状況





第 183号住居跡  
完 掘 状 況



第 185号住居跡  
完 掘 状 況



第 187号住居跡  
完 掘 状 況

第 187号住居跡  
完 掘 状 況



第 187号住居跡  
遺物出土狀況



第 188号住居跡  
完 掘 状 況







第 188号住居跡  
遺物出土状況



第 189号住居跡  
完掘状況



第 189号住居跡  
遺物出土状況

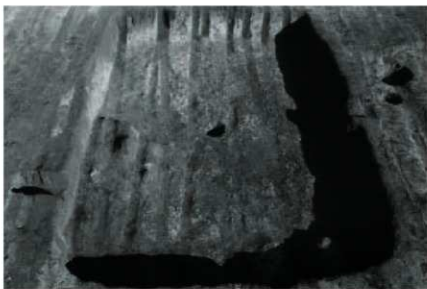
第 190号住居跡  
完 掘 状 況



第 190号住居跡  
遺物出土狀況



第 192号住居跡  
完 掘 状 況

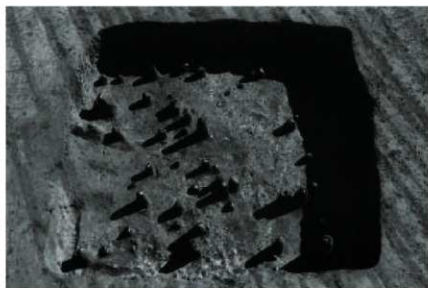




第 192号住居跡  
遺物出土狀況



第 197号住居跡  
完 掘 状 況



第 197号住居跡  
遺物出土狀況

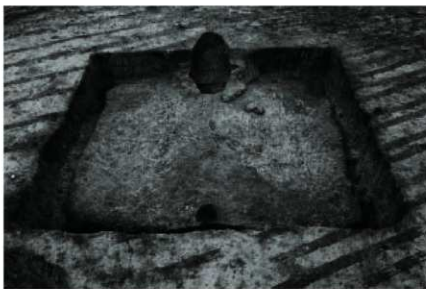
第 197号住居跡  
竈遺物出土状況



第 205号住居跡  
遺物出土状況



第 207号住居跡  
完掘状況





第 207号住居跡  
遺物出土状況



第 213 231号住居跡  
完掘状況



第 215号住居跡  
完掘状況



第 215号住居跡  
遺物出土状況



第 220号住居跡  
遺物出土状況



第 221号住居跡  
完掘状況



第 223号住居跡  
完 掘 状 況



第 223号住居跡  
遺物出土狀況



第 223号住居跡  
遺物出土狀況

第 225号住居跡  
完 掘 状 況



第 225号住居跡  
遺物出土狀況



第 226号住居跡  
遺物出土狀況







第 227 232号住居跡  
完 掘 状 況



第 227 232号住居跡  
遺物出土状況



第 228号住居跡  
遺物出土状況

第 229号住居跡  
完 掘 状 況



第 230号住居跡  
完 掘 状 況



第 230号住居跡  
遺 物 出 土 状 況





第 237号住居跡  
完 掘 状 況



第 2号掘立柱建物跡  
確 認 状 況



第 3号掘立柱建物跡  
確 認 状 況

第4号掘立柱建物跡  
確認 状 況



第6号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第38号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況





第7号掘立柱建物跡  
完掘狀況



第12号掘立柱建物跡  
完掘狀況



第36号掘立柱建物跡  
完掘狀況

第 18号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 41号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況

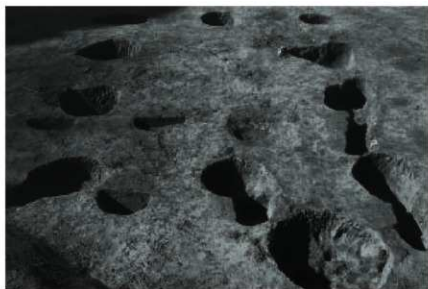


第 19号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況





第 20号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 31号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 29号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況

第 33号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 25号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 49号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況







第 53号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 54号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況

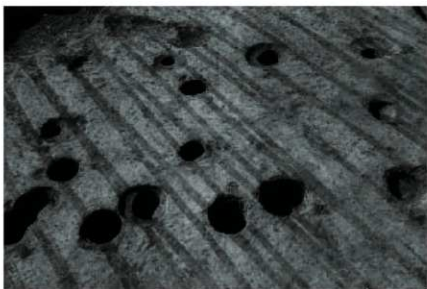


第 54号掘立柱建物跡  
遺 物 出 土 状 況

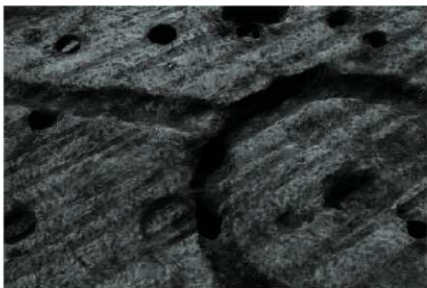
第 56号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況

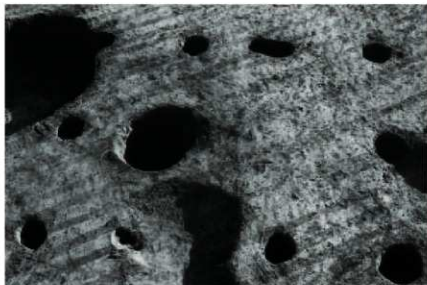


第 57号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況

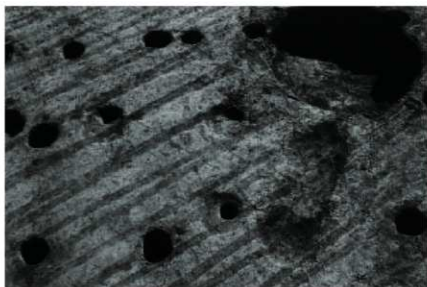


第 58号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況





第 59 号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 60 号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 61 号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況

第 62号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 63号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 64号 掘立柱建物跡  
完 掘 状 況





第 65 号掘立柱建物跡  
完 掘 状 況



第 2 3 号 溝  
完 掘 状 況



第 7 7 3 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 況

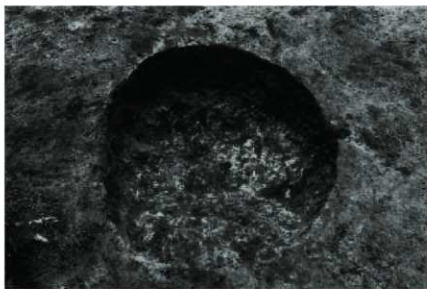
第 8 2 4 号 土 坑  
完 掘 状 况

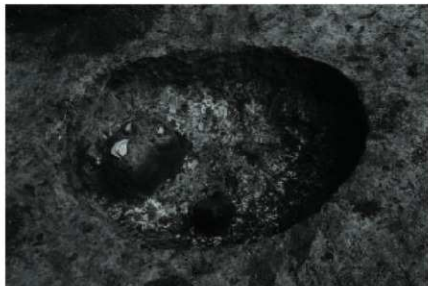


第 8 5 1 号 土 坑  
遗 物 出 土 状 况

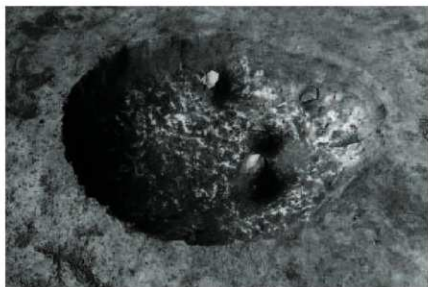


第 8 5 2 号 土 坑  
完 掘 状 况

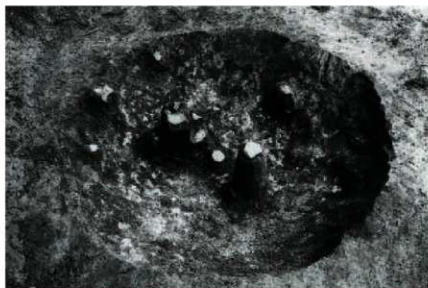




第 8 5 2 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 8 5 3 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况



第 8 5 7 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况

第 893 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 940 号 土 坑  
完 掘 状 况



第 943 号 土 坑  
遺 物 出 土 状 况







第1号ビット群  
完掘状況

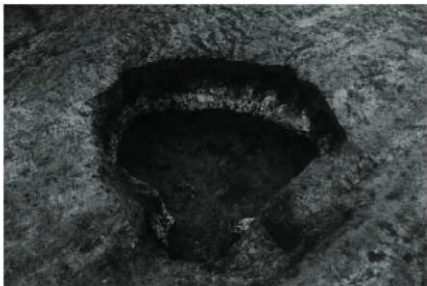


第1号地下式墳  
完掘状況

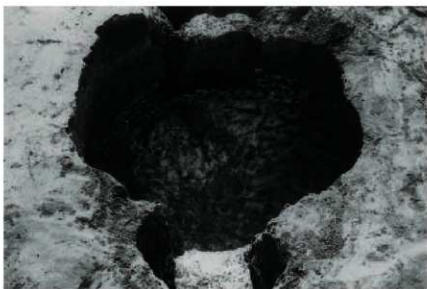


第2号地下式墳  
完掘状況

第 4 号地下式墳  
完 掘 状 况

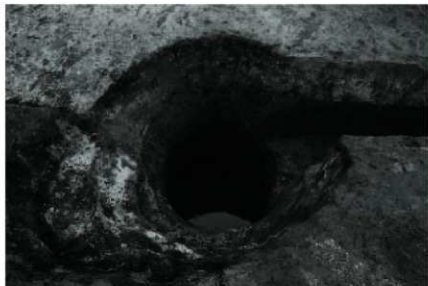


第 9 号地下式墳  
完 掘 状 况



第 18号地下式墳  
完 掘 状 况

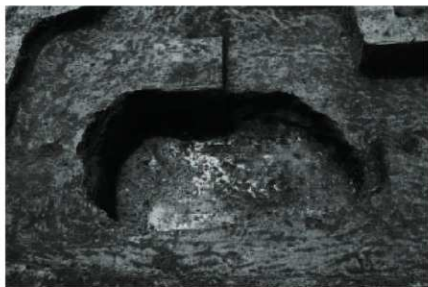




第 4 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



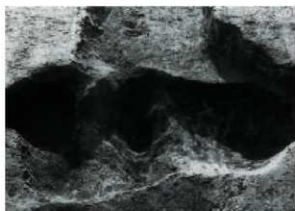
第 9 号 井 戸 跡  
完 掘 状 況



第 2 号 土 坑 墓  
完 掘 状 況



第1号道路状遺構完掘状況



第5号火葬土坑完掘状況



第1012号土坑完掘状況



調査2区南部完掘状況



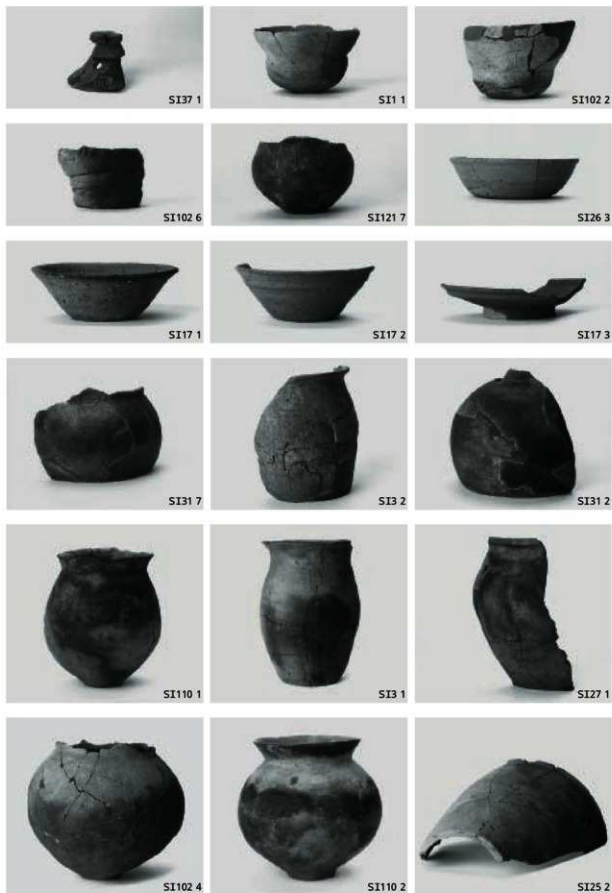
第1号堀完掘状況



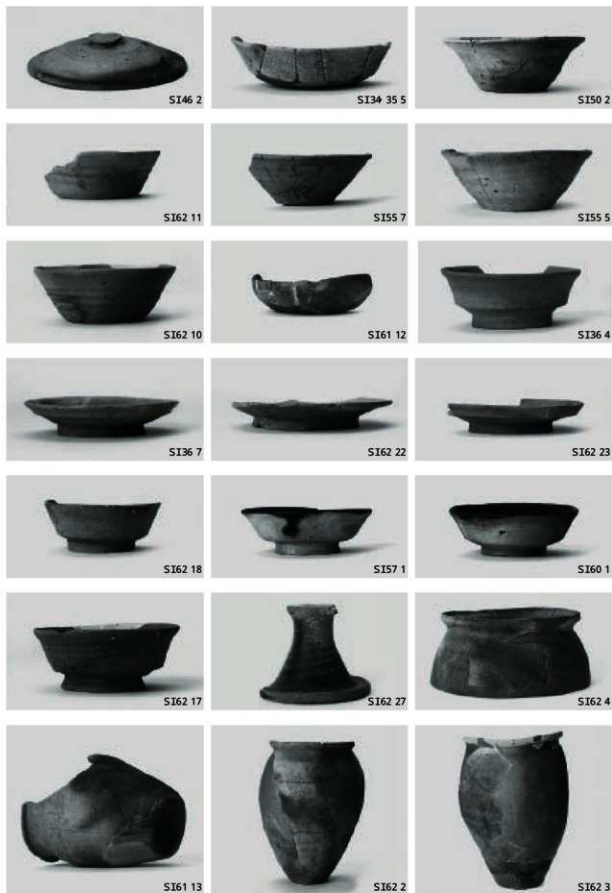
第2号遺物包含層遺物出土状況



第 101・103・110・126号住居跡出土遺物



第1・3・17・25～27・31・37・102・110・121号住居跡出土遺物

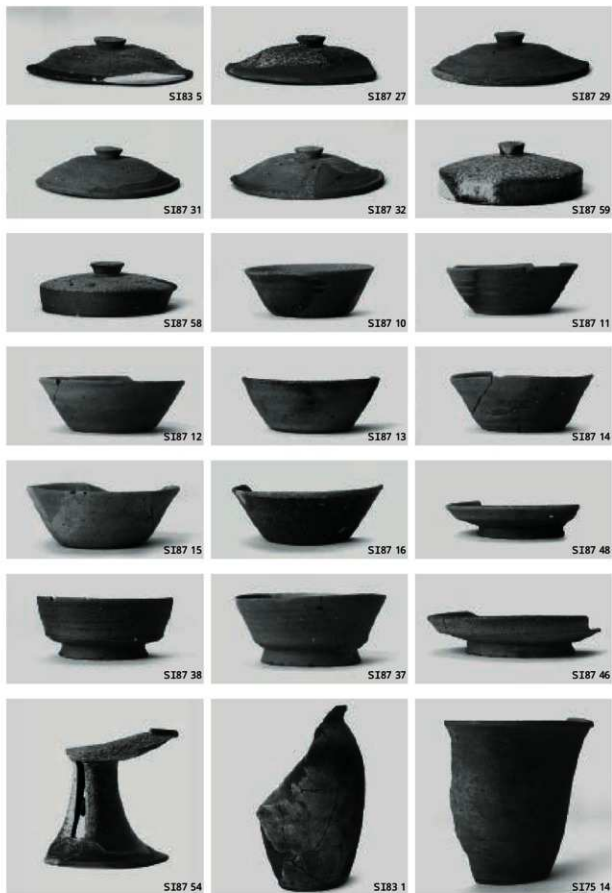


第 34・35・36・46・50・55・57・60～62号住居跡出土遺物

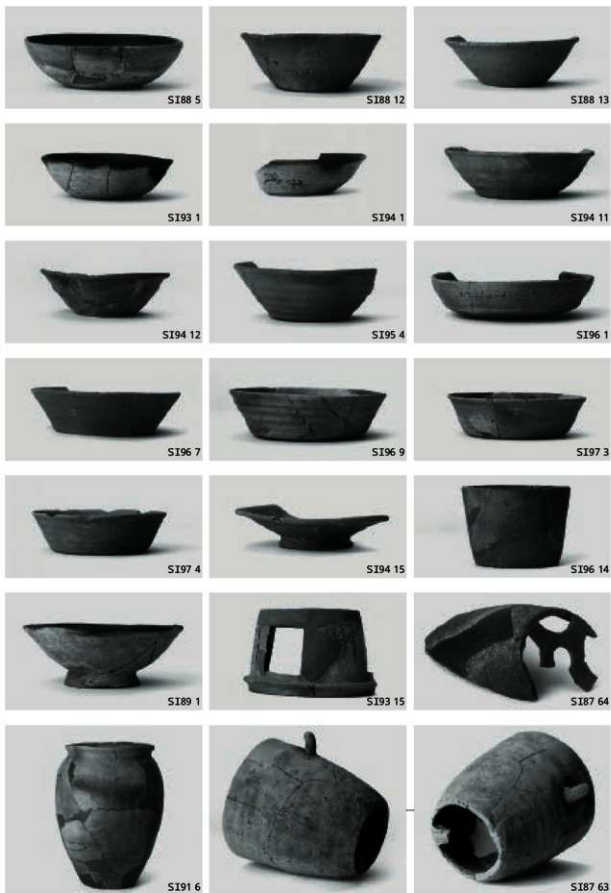


第 64・66～69・71～75号住居跡出土遺物

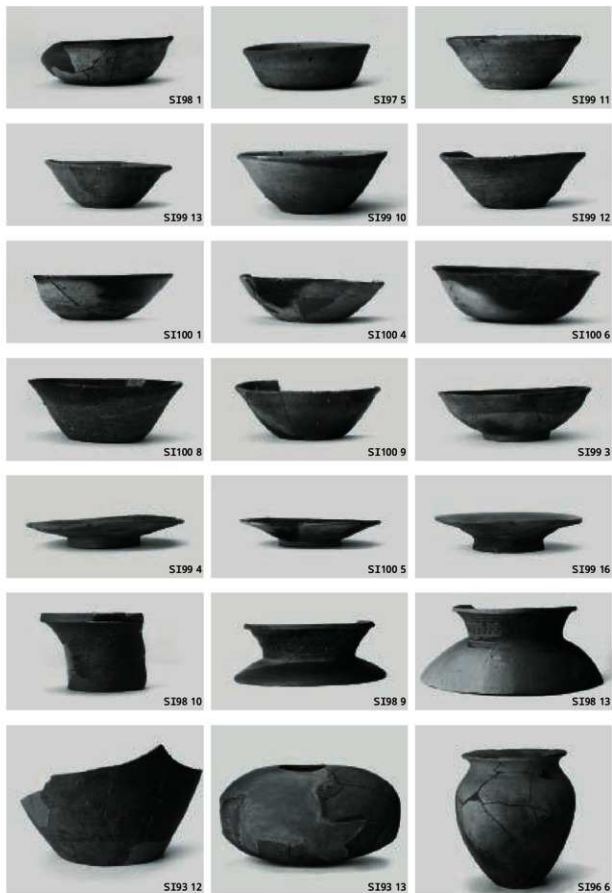




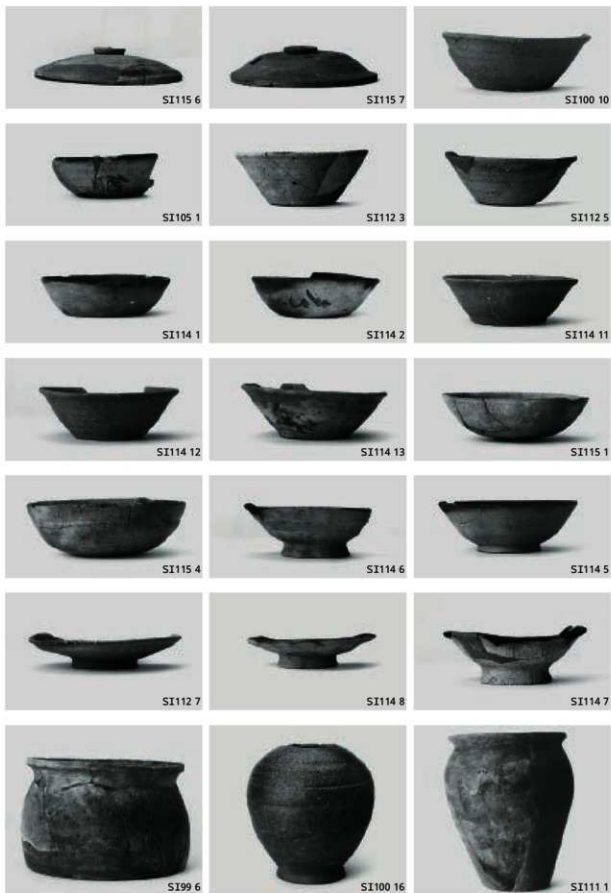
第 75・83・87号住居跡出土遺物



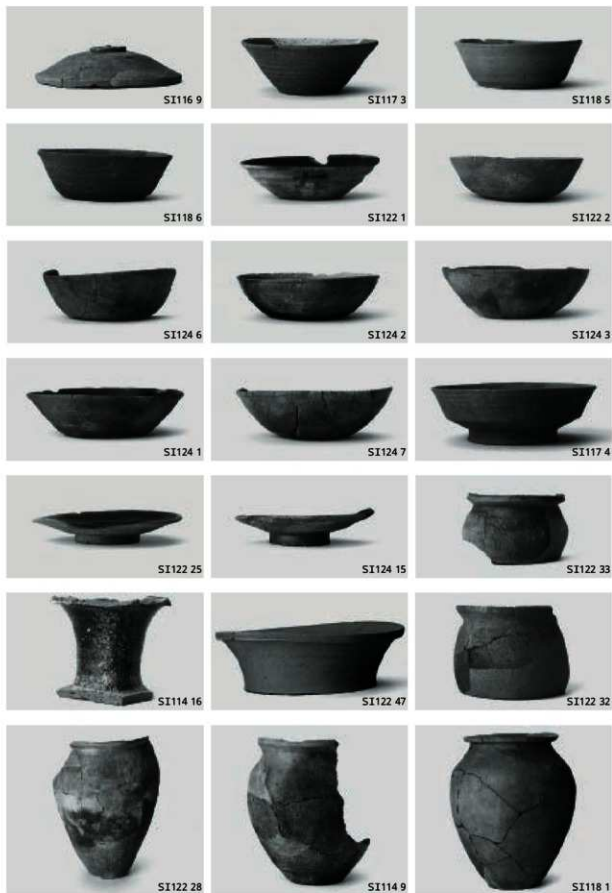
第 87～89・91・93～97号住居跡出土遺物



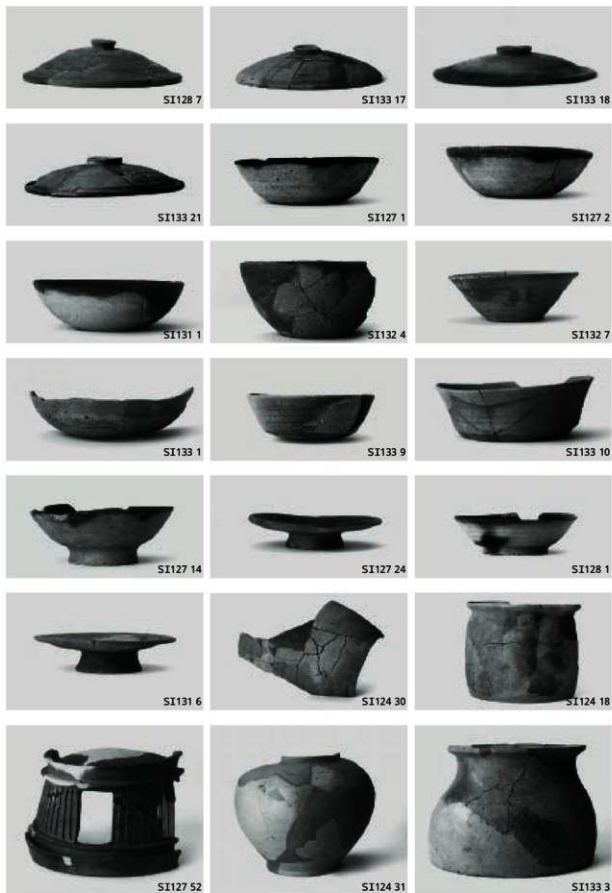
第 93・96～100号住居跡出土遺物



第 99・100・105・111・112・114・115号住居跡出土遺物



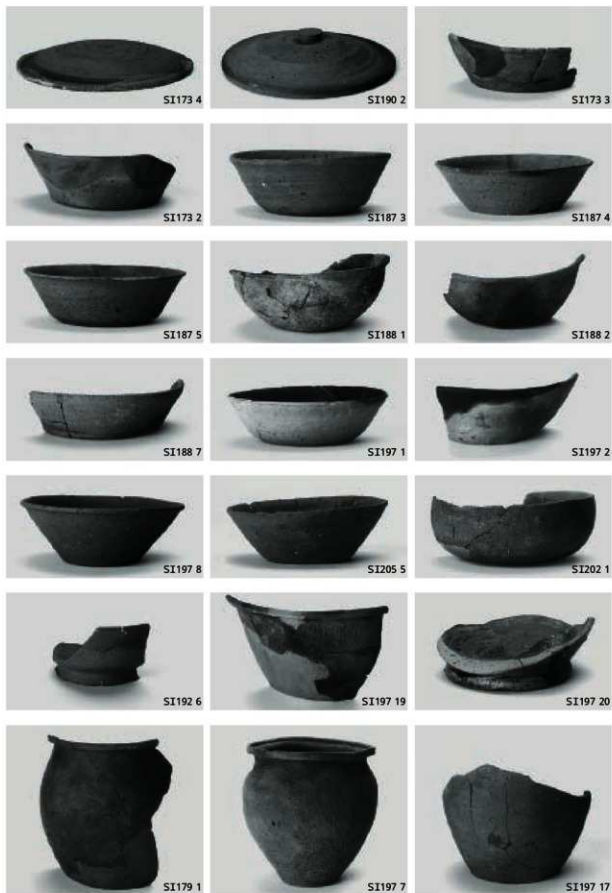
第 114・116～118・122・124号住居跡出土遺物



第 124・127・128・131～133号住居跡出土遺物

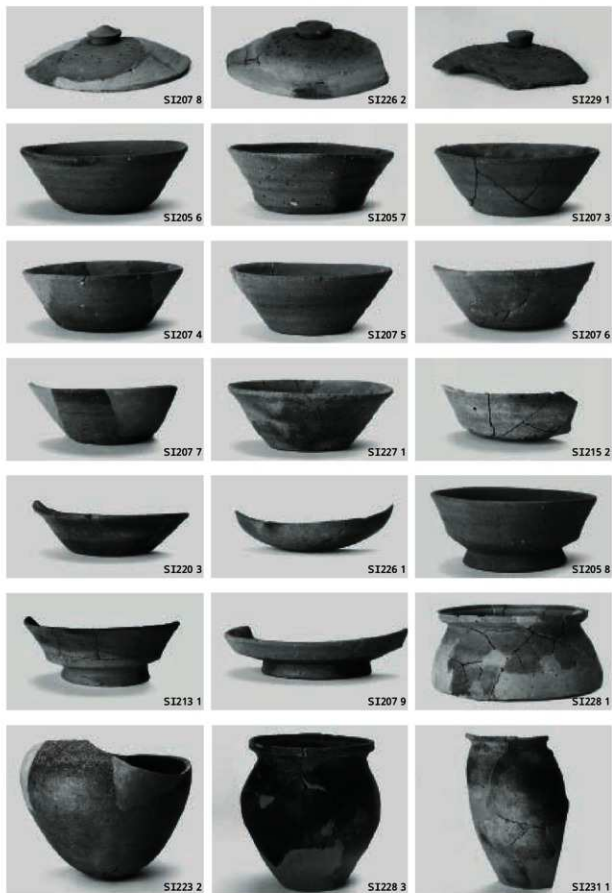


第 133・134・136・138・144・146・148・150・155・158号住居跡出土遺物



第 173· 179· 187· 188· 190· 192· 197· 202· 205号住居跡出土遺物

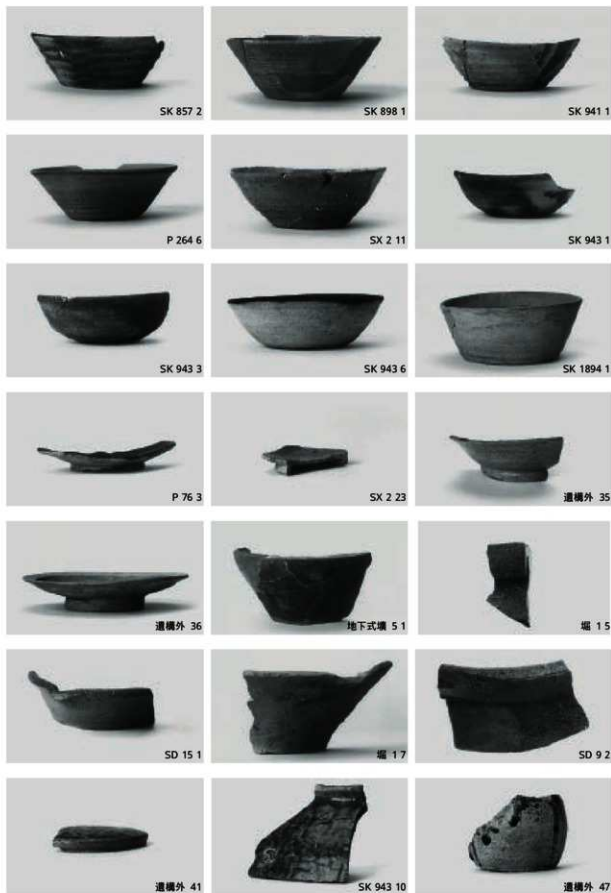




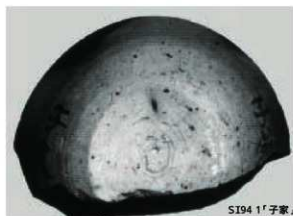
第 205・207・213・215・220・223・226～229・231号住居跡出土遺物



第 230·228 号住居跡，第 54·56 号掘立柱建物跡，第 773·823·824·943 号土坑，第 3 号豎穴狀遺構出土遺物



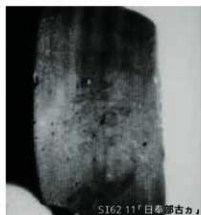
第 857・898・941・943・1894号土坑，第 1号ピット群，第 2号遺物包含層，第 5号地下式墳，  
第 1号堀，第 9・15号溝，遺構外出土遺物



SI194 1「子家」



SI105 1「他田」



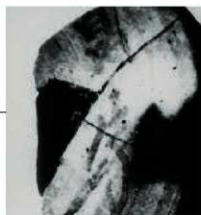
SI62 11「日島部古カ」



SI114 2「子家」



SI100 1「島家」



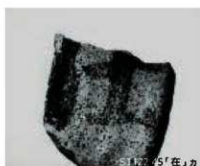
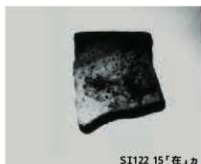
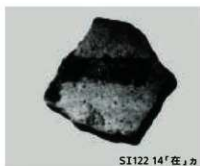
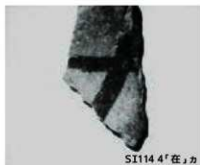
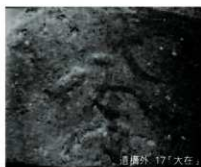
SI173 6「益万」

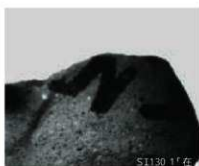
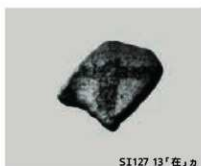
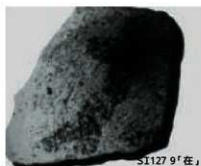


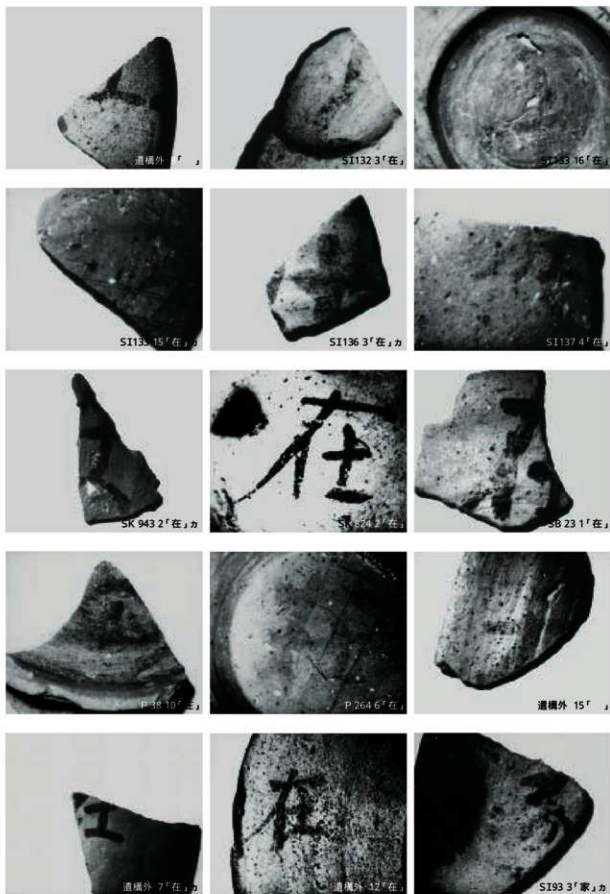
SI200 1「島家」



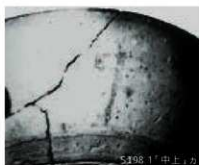
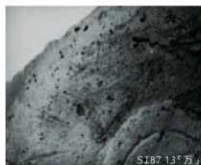
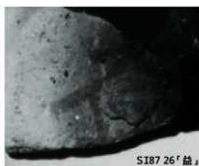
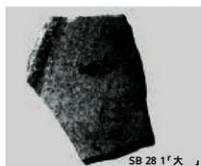
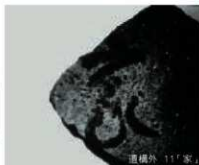
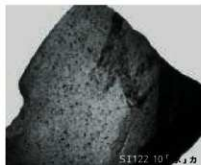
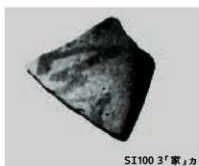
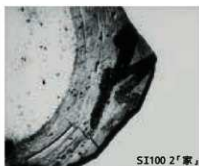
SI188 5「明玉」



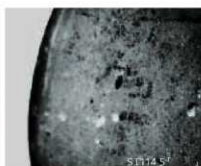
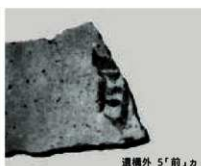
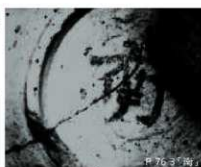
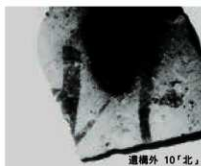
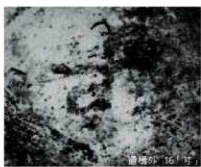
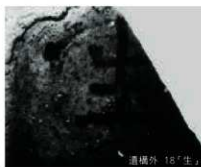


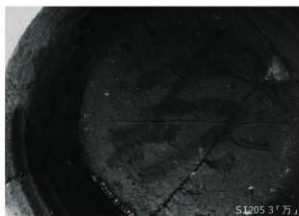
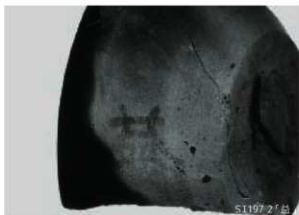
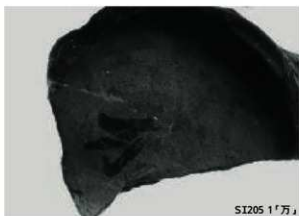
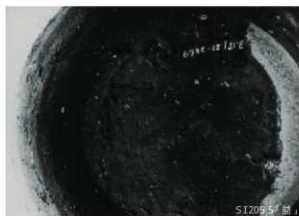


墨書土器 (4)

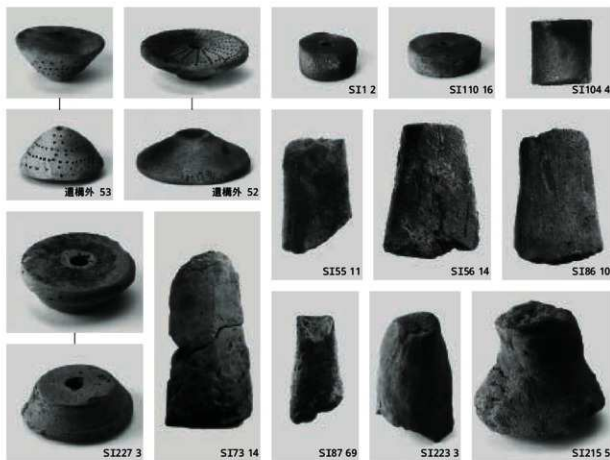
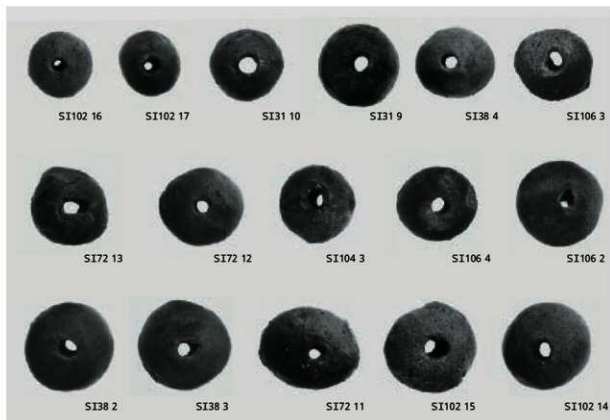




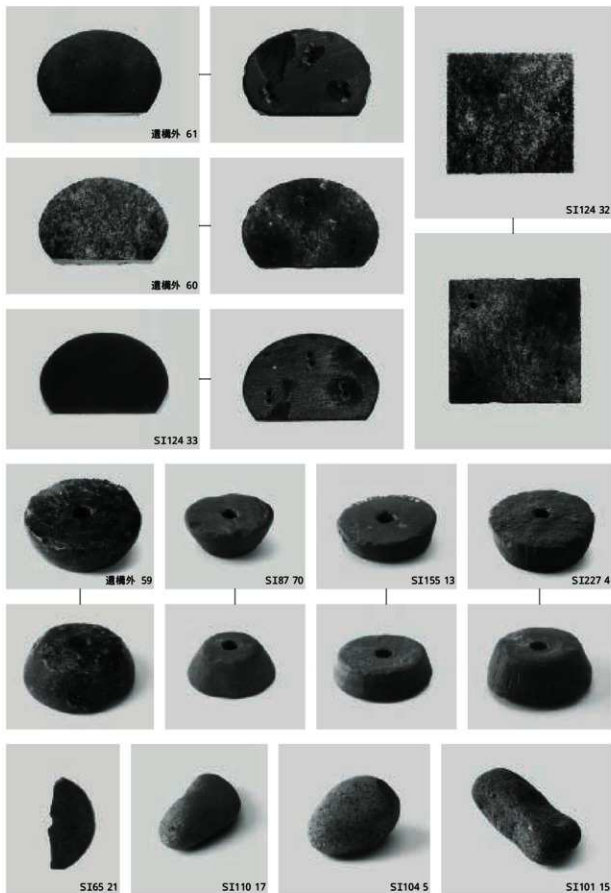




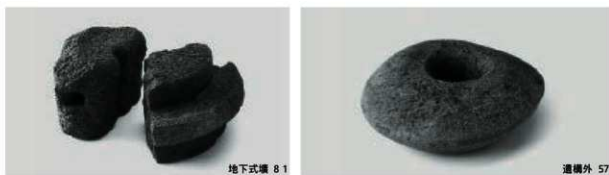
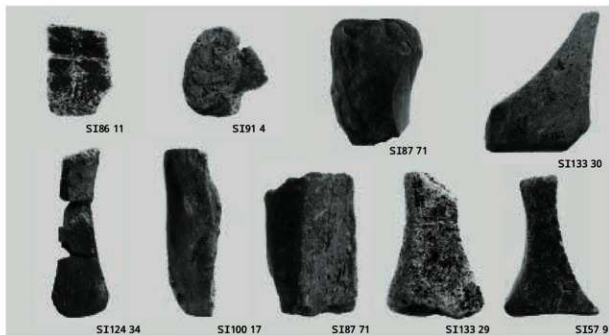
墨書土器 (7)



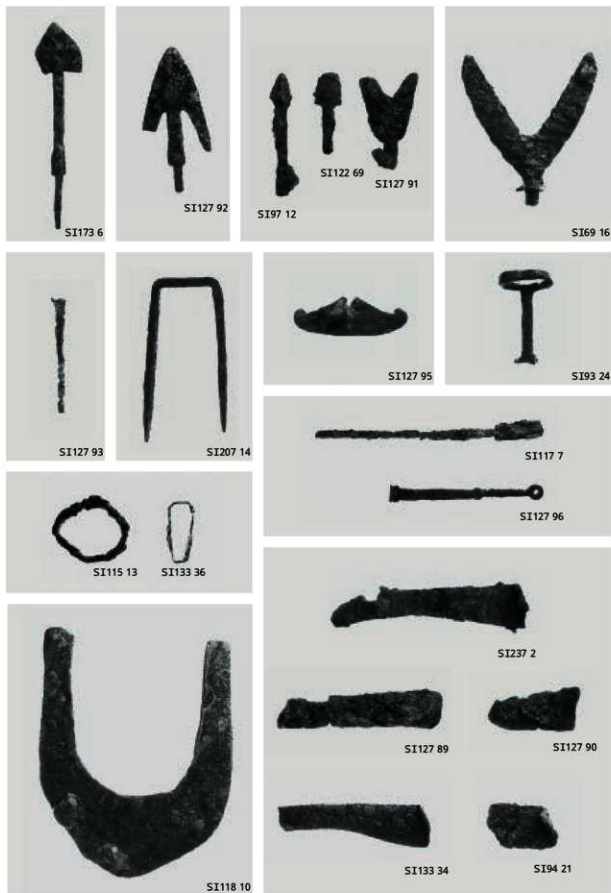
出土土製品（土玉・紡錘車・管状土錘・支脚）



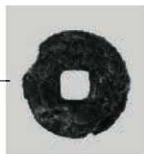
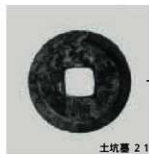
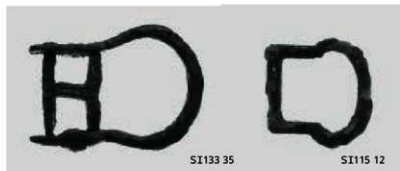
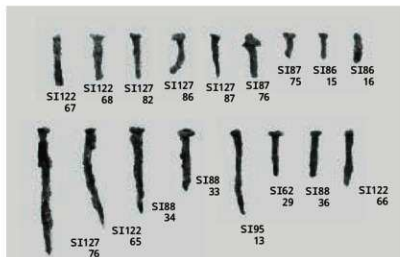
出土石製品（丸鞆・巡方・紡錘車・敲石・炉石）



出土金属製品（鉄斧），出土石器・石製品（砥石・石皿・石臼・環状石斧）



出土金屬製品（鐵・鋌・鏃・鋤先・火打金・馬銜・鍵・鎌・不明）



出土金属製品 (刀子・小刀・釘・鉸具・古銭・不明)

茨城県教育財団文化財調査報告第241集

### 宮 後 遺 跡 3

やさしさのまち「桜の郷」整備事業  
に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

#### 下 巻

平成17(2005)年3月22日 印刷  
平成17(2005)年3月25日 発行

発行 財団法人 茨城県教育財団  
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2  
茨城県水戸生涯学習センター分館内  
TEL 029-225-6587

印刷 (株)平電子印刷所  
〒970-8024 いわき市平北白土字西ノ内13  
TEL 0246-23-9051